

疥癬

クレオリン	七〇・〇	稀酒精	三〇〇・〇	木タール	
右混和爲擦劑		右混和爲擦劑		硫黃華	
ナフトール	各五・〇	硫黃華	各四〇・〇	亞鉛華	各一〇・〇
酒精	一〇〇・〇	樟タール油		豚脂	三〇・〇
ワゼリン		カリ石鹼		右混和爲軟膏塗擦用	
右爲軟膏塗擦用		豚脂	各八〇・〇		
バチロール	三〇・〇	白堊	一〇〇・〇		
綠石鹼		右混和爲軟膏塗擦料トシテ用フ			

牛ノ疥癬

療法 療法ハ略馬ノ疥癬ニ同シ即チ皮膚ヲ清潔ニシ被毛ヲ剔去シ次ノ藥品ヲ液狀ト爲シ全身四分ノ一ニ塗擦スヘシ、五%「クレオリン」・「リゾール」又ハ「リソフオルム」液・「ナフトリン」軟膏(一・一・一)「クレオソート」一分・酒精十分或ハ水十五分若ハ「クレオソート」一分・油類十五分・五%煙草煎汁・硫黃軟膏(硫黃華一分・脂肪四乃至五分)・但水銀軟膏及亞砒酸劑ハ禁忌トス「デルマトファガス」癬ニハ「クレオリン」又ハ「タール」軟膏ヲ用フベシ

クレオソート	二五・〇	油	二五〇・〇	酒精	一五〇〇・〇
酒精	二五〇・〇	右混和塗擦		石油	二五〇・〇
水	五〇〇・〇	クレオソート	二〇〇・〇	クレオリン	六〇〇・〇
右爲溶液用フ		豚脂	二〇〇・〇		
クレオソート	二〇〇・〇	右混和爲擦劑			

羊ノ疥癬

療法 「デルマトコプロテス」疥癬ハ適切ナル治療ヲ施セハ容易ニ治癒スト雖實際上群羊ノ治療ハ頗ル繁雜ナリ通常塗擦療法及藥浴療法ヲ行フモ前者ハ姑息法ニ過キス後者ハ最良ノ法ナルモ冬季ハ感冒ノ虞アルヲ以テ實施シ難ク獨リ溫暖ノ季節ニ應用シ得ルノミ

(甲)塗擦療法 通常硫肝軟膏其他ノ擦劑若ハ油劑ヲ應用ス一〇%石炭酸擦劑若ハ「クレオソート」油・「クレオリン」・「リゾール」又ハ「バチロール」擦劑・石油・「テレピン」油・煙草煎汁・灰白水銀軟膏等有効ナリ

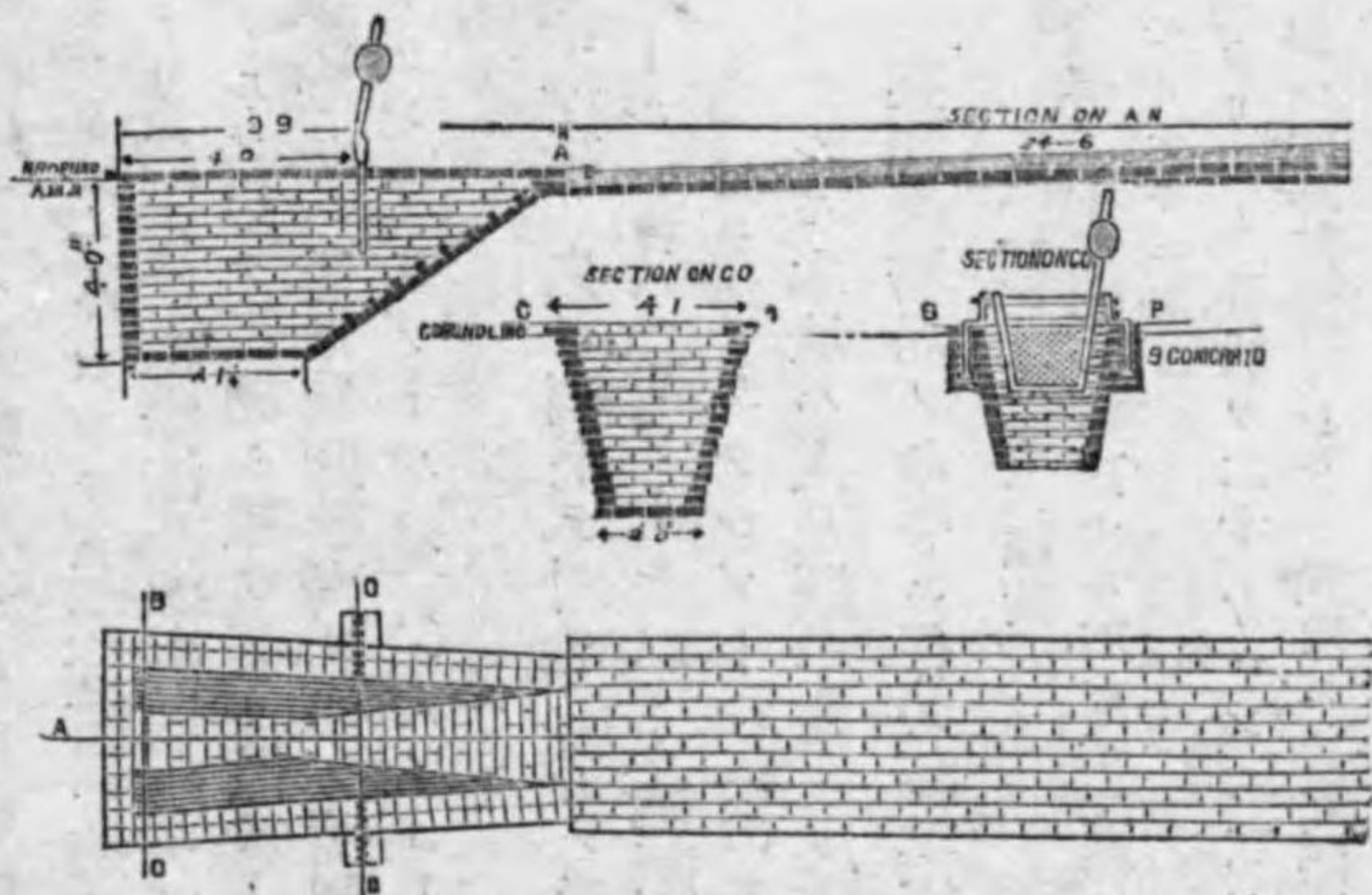
(乙)藥浴療法 先ツ細毛ヲ刈リ溫浴ヲ行ハシメ或ハ微溫石鹼水ニテ痂皮ヲ洗去シ或ハ「クレオリン」・「バチロール」若ハ「リゾール」等ノ擦劑ヲ塗擦シ翌日ニ至リ木刀ニテ之ヲ刮去シ或ハ石鹼水ニテ洗除ス尋テ三・四日ヲ經テ「クレゾール」浴ヲ行ヒ八日乃至十四日ヲ經テ亞砒酸浴(二・三分間)ヲ行ヘハ一回ニテ可ナルモ本法ハ人及綿羊共ニ皮膚ニ損傷アレハ中毒ノ虞アリ

英國農務局ノ命令ニ係ル綿羊疥癬療法(勝島博士新美學士著) 家畜內科學ニ據ル

(一) 石灰及硫黃
 硫黃華二十五磅ニ善長ナル石灰十二磅半ヲ混シ水ヲ加ヘテ搗碎シ粘滑ナル「クリーム」狀ト爲シ團塊ノ殘存スルモノナキニ至ル

右「クリーム」狀物ヲ二十「ガロン」(一「ガロン」ハ我ニ升五合二勺ニ當ル)入ノ釜ニ移シ二十「ガロン」マテノ水ヲ加ヘ半時間攪拌シツツ煮沸ス其煮熟液ハ暗赤色トナル若シ黃色ナレハ暗赤色トナル迄煮沸スヘシ冷却ノ後此液ヲ他器ニ移シ少量ノ不溶解沈渣ヲ除キ去リ水ヲ加ヘテ容積百「ガロン」ト爲ス

圖一第



面平及面斷ノ池浴
(圖原氏兩美新島勝)

本法ハ獨リ英國ノミナラス米國・濠洲・阿弗利加・南米等
牧羊ノ盛ナル地方ニ於テ行ハル

(一) 石炭酸及軟石鹼

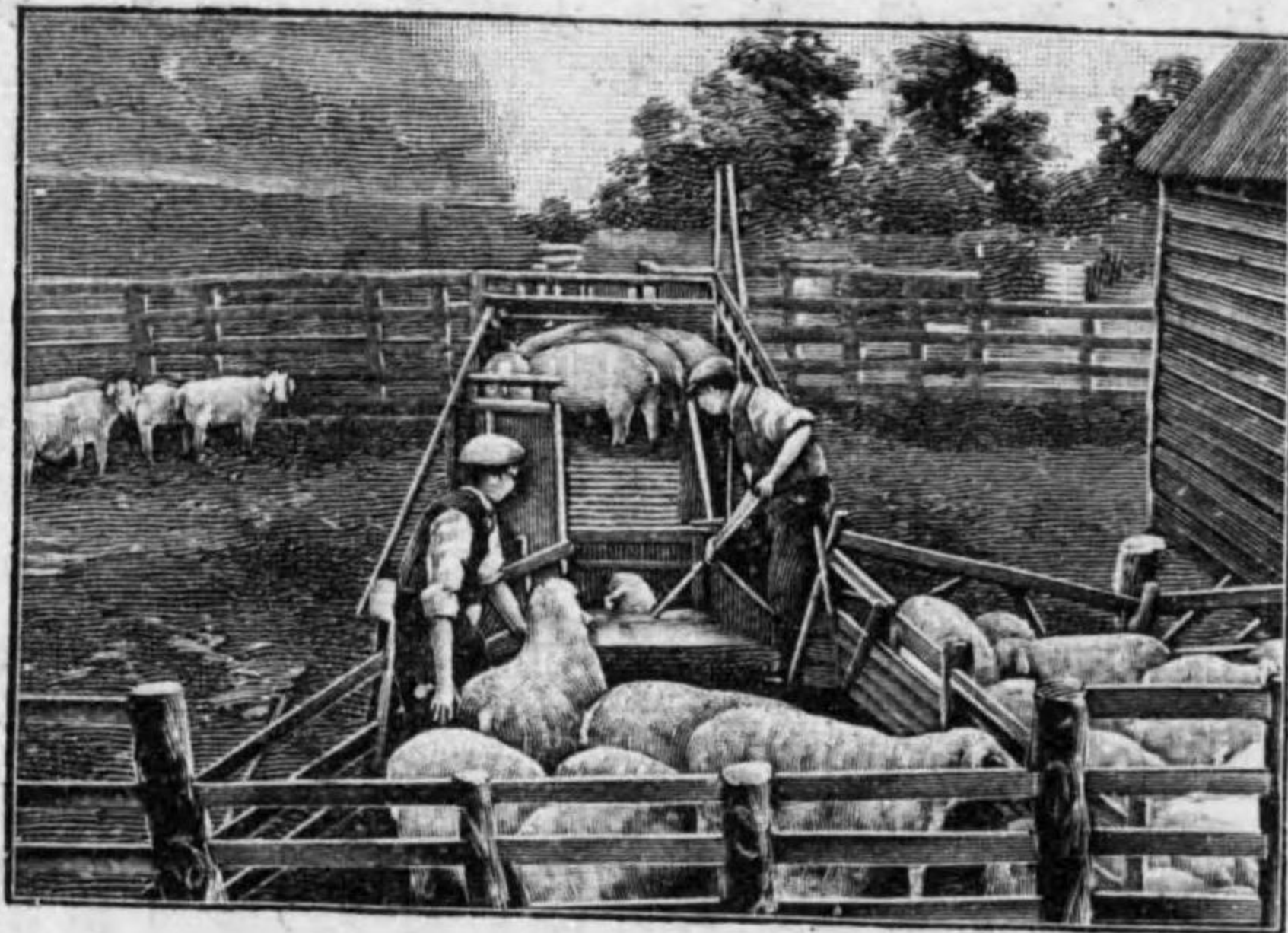
軟石鹼五磅ヲ微ニ暖メテ流動石炭酸三「クワルト」(一「ク
ワルト」ハ我六合三勻ニ當ル)中ニ溶解セシメ之ニ水ヲ
加ヘ百「ガロン」ト爲ス但石炭酸ハ九七%ノ「タール」酸ヲ
含ムヲ要ス

(二) 煙草及硫黃

細末ノ煙草(煙草屑)三十五磅ヲ水二十一「ガロン」中ニ四
日間浸漬シ其液ヲ濾過シ殘渣ノ煙草ヲ壓搾シ其越幾斯ノ
最後ノ一分ヲ除キ去ル
全越幾斯ヲ混和シ之ニ硫黃華十磅ヲ加ヘ十分能ク攪拌シ
水ヲ加ヘテ全液ヲ百「ガロン」ト爲ス藥浴ニ病羊ヲ浸ス時
間ハ半分以下ヲ下ルヘカラス

注意 藥浴ハ乾燥裝置アルニアラサレハ春夏溫暖若ハ炎
暑ノ候ノ外施スヲ得ス雨天・曇天又ハ寒風ノ日ハ見合ス
ヘシ溫暖ノ候ハ日光ニ晒シ寒冷ノ候ハ蒸氣又ハ溫室ニテ
乾燥セシム
藥浴療法ハ成ルヘク午前ニ始メ豫メ飼料及水ヲ與ヘ浴中
ハ頭部ヲ藥液上ニ出サシメ決シテ藥液ヲ飲マシムヘカラ

圖二第



羊ノ中池浴
(圖原氏兩美新島勝)

又ニ三分以上ハ入浴セシムヘカラス浴盤ハ病羊少數
ナレハ半切リ又ハ人ノ行水浴盤ヲ利用シ多數ナレハ特別
ノ裝置ヲ用フ浴了ルノ後ハ竹筥ニテ羊毛ニ附着セシ藥液
ヲ擦去シ日當リ好キ場所ニ出シ乾燥セシメ感冒ニ罹ラサ
ル様注意スヘシ

煙草煎汁 三〇〇〇・〇

・六〇リートル

ポツタース 二五〇〇・〇

石灰 一三〇〇・〇

醋 二五〇〇・〇

右羊百頭疥癬浴

ポツタース 一三〇〇・〇

石灰 二五〇〇・〇

クロール石灰 一〇〇〇・〇

鹿角油 一〇〇〇・〇

タール 七〇〇・〇

硫黃末 五〇〇・〇

水 三〇〇リートル

右同

石炭酸・酒精 各二五〇〇・〇

炭酸ナトリウム 三〇〇〇・〇

煙草煎汁 一〇〇・〇

〇リートル

右同

粗製石炭酸 一五〇〇・〇

苛性石灰 一〇〇〇・〇

洗濯曹達 三〇〇〇・〇

煙草葉煎 五―一五庇

五〇リートル

右同

砒石 二五〇〇・〇

明礬 二五〇〇・〇

一六三

羊ノ疥癬

水	六〇〇リットル
三十分煮沸スヘシ、右同	
クレオリン	六・五リットル
水	二五〇リットル
羊百頭疥癬浴、浴後三分間刷毛ヲ以テ擦入シ再ヒ浴セシム	
砒石	一五〇〇〇
硫酸鐵	一〇〇〇〇
水	三五〇リットル
右三分二容量迄煎シ詰メ之ニ	
テレピン油	一〇〇〇〇
礫砂精	五〇〇〇
ヲ加フ(右同)	
煙草煎汁	一〇〇リットル
石炭酸	二五〇〇〇
酒精	二五〇〇〇
食鹽	三〇〇〇〇
右羊百頭ノ疥癬浴	
煙草煎	五〇〇〇・七五〇〇〇
石炭酸	一〇〇〇〇〇

粗製苛性石灰	一〇〇〇〇
右混和水ヲ加ヘ溶液二五〇リットルトナス、右同	
クレオソート	一〇〇〇
カリ石鹼	二〇〇〇
木タール	二〇〇〇
右混和爲塗擦料	
クレゾール水	二〇〇〇
酒精	一〇〇〇
綠石鹼	一〇〇〇
右混和爲塗擦料トス(グリニン氏處方)	
粗製クレゾール	五〇〇
綠石鹼	八五〇
グリセリン	一〇〇
右混和爲塗擦料	
粗製クレゾール	一五〇〇
粗製石灰	一〇〇〇
粗製炭酸ナトリウム	三〇〇〇
綠石鹼	三〇〇〇

水	二六〇リットル
右混和爲溶液浴料トス(羊百頭分、本處方ノ水ノ代リニ二%ノ煙草煎汁ヲ用フレハ更ニ有效ナリ)	
クレオリン	各一〇〇〇
酒精	各一〇〇〇
カリ石鹼	八〇〇〇
右混和爲塗擦料	
石腦油	一〇〇〇
菜油	三〇〇〇
右混和爲塗擦料	
石腦油	各一〇〇〇
テレピン油	各一〇〇〇
エーテル	各一〇〇〇
右同	
硫黃華	二〇〇〇
粗製石灰	一〇〇〇
熱湯	一〇〇〇
右混和爲塗擦料	

一六四

バチロール	各一〇〇
稀酒精	各一〇〇
カリ石鹼	六〇〇
右爲擦劑用フ	
炭酸カリウム	二〇〇
假性石灰	一〇〇

水	五〇〇〇
右混和劑トシテ用フ	
亞砒酸	五〇〇
炭酸カリウム	一〇〇〇
水及醋	各一〇〇リットル
右爲溶液浴料トナス	

山羊ノ疥癬

療法 「ザルコブテス」疥癬ハ顔面殊ニ唇・鼻翼及耳ニ初發シ重症ニ於テハ軀幹・下腹・乳房及四肢ニ蔓延ス痒痒劇甚ニシテ直ニ營養衰へ斃死スルモノ尠カラス(死亡率五十%)療法トシテ殺蟲軟膏ヲ應用ス處法ハ羊疥癬參照

犬ノ疥癬

療法 患部ノ毛ヲ剪リ綠石鹼ヲ塗擦シ一・二時間ヲ經テ溫湯及刷毛ヲ以テ軟化シタル痂皮ヲ除去シ翌日ニ至リ木病ノ治療ヲ施スヘシ凡テ疥癬藥ノ應用ニ當テハ日々體ノ四分ノ一乃至三分ノ一塗擦シ四乃至五日ヲ經テ擦劑ヲ石鹼水ニテ洗除シ〇・五—一%硫肝浴ヲ行フヲ可トス此方法ヲ三・四回反覆シ皮膚ニ新シキ痂皮ナク痒痒全ク消失スルニ至ル迄連用ス

殺蟲劑ニ種々アリ「タール」(「タール」・綠石鹼各一分・酒精一—五分)・「クレオリン」・「リゾール」及「イヒチオール」ハ凡テ擦劑トシテ用フ「クレオソート」(一〇%ノ油劑又ハ綠石鹼及酒精各五%ト混合)・銳敏ナル犬竝眼又鼻ノ周圍ニ於テハ「ペルーバルサム」及蘇合香(純粹若ハ酒精)・「グリセリン」又ハ油

羊ノ疥癬 山羊ノ疥癬 犬ノ疥癬

ヲ混ス)亦有効ナリ輕症ニ於テハ「クレゾール」擦劑(「クレゾール」水二分・綠石鹼及酒精各一分)亦効アリ

豫防法

豫防上犬舎・被覆物ノ消毒・病犬ノ隔離ヲ嚴重ニスヘシ

- 加里石鹼 各四〇〇
- クレオリン 二〇〇
- 酒精 右毎日一回塗布
- 蘇合香 各三〇〇
- 藥油 右毎日一回塗布(犬・猫)
- 蘇合香 一〇〇
- 酒精 右同
- 亞砒酸 一〇
- 明礬 各一〇〇
- 水 右同
- 石炭酸 五〇
- 酒精 五〇

- 昇汞 三〇
- 食鹽 九〇
- 水 三〇〇
- 右毎日其半乃至一「リートル」ヲ塗布シ八日ニシテ止ム
- 石油ベンジン 二五〇
- 藥油 二五〇
- 液狀蘇合香 右毎日一回塗布
- 酒精 二五〇
- 右一日二回刷毛ニテ塗布(犬・猫)
- タール 五〇
- グリセリン 四〇
- 右一日中ニ塗布シ三日ヲ經テ石鹼水ニテ痂皮ヲ洗滌シ再ヒ同藥

- ヲ塗布シ三・四回反覆ス(犬・猫)
- イヒチオール 一〇一五
- 餵水 一〇〇
- 右塗布用(犬・猫)
- 炭酸カリ 四〇
- 芫菁末 二〇
- 軟石鹼 六〇
- 右頑症ニ塗用
- サリチール酸 一〇
- オレーフ油 四〇
- 右温メテ日々屢々塗布(犬・猫)
- タール 各一五
- 軟石鹼 三〇
- 酒精 一〇一五
- クレオソート 右塗擦用

犬ノ疥癬

- 芫菁末 五〇
- テレピン油 一〇
- 亞麻仁油 二〇
- 右頑症ニ用フ
- 木タール 各一〇〇
- カリ石鹼 五〇
- 酒精 右混和爲擦劑與フ
- 木タール 各五八〇
- 硫黃華 各五六〇
- カリ石鹼 一四〇
- 酒精 右混和爲擦劑變法「ウキナー、
- 白堊 各五六〇
- 右混和爲擦劑トシテ感受鋭敏ノ
- 皮膚面ニ用フ
- 木タール 各五〇
- 硫黃華 各五〇
- カリ石鹼 各一〇〇
- 酒精

- 右混和爲擦劑「ウキナー、タール」擦劑トシテ與フ、但體ノ各三區分ノ一宛順次三日間刷子ヲ用ヒテ塗擦シ二―四日ヲ經テ洗滌シ反覆ス
- クレゾール水 五〇
- カリ石鹼 各二五
- 酒精 右混和爲塗擦劑毎日體ノ半分ニ塗擦ス但三回塗擦後二日間放置其後洗滌
- ナフトール 五〇
- 豚脂 五〇
- 右爲軟膏塗擦料トス
- キノゾール 一〇
- 水ニ溶シ更ニ「グリセリン」七
- 〇ヲ加ヘ塗擦料トナス
- ヨード 一五
- グリセリン 一五
- 右混和爲擦劑

- 流動蘇合香 七五
- 菜油 二〇
- 右混和外用
- ベルーバルサム 各五〇
- 蘇合香 一〇
- カリ石鹼 二〇
- 酒精 右混和爲擦劑
- ベルーバルサム 各五〇
- グリセリン 右同
- ベルーバルサム 各一〇
- カリ石鹼 一〇
- 酒精 右同
- ベルーバルサム 各二〇
- ナフトール 各二〇
- 硫黃華 各二〇
- 白堊 各二〇
- 豚脂

猫ノ疥癬

カリ石鹼 各五〇・〇
 オレーフ油 各五〇・〇
 右混和爲擦劑感受鋭敏ノ動物ニ
 與フ
 ナフタリン 一五・〇
 ワゼリン 七五・〇
 チミアン油 各八滴
 ラヘンデル油 各八滴
 右混和爲塗擦劑
 ベルーバルサム
 バチロール 各二・〇
 カリ石鹼 一〇〇・〇
 酒精 一〇〇・〇
 右混和爲塗擦劑
 ベルーバルサム 五・〇

猫ノ疥癬

ナフアラシ 二〇・〇
 豚脂 二五・〇
 右混和爲軟膏塗擦用
 ゲラチン 一〇・〇
 グリセリン 六〇・〇
 ベルーバルサム 五・〇
 水 二五・〇
 右爲溶液塗擦用
 エビカリン 各五〇・〇
 蓖麻子油 五〇・〇
 酒精 五〇・〇
 右爲塗擦劑但五日ノ間隔ヲ設ケ
 三回塗擦毎塗擦前洗滌
 硫黃華 二〇・〇
 炭酸カリウム 一〇・〇

一六八

豚脂 一〇〇・〇
 右爲軟膏塗擦用
 イヒチオール 一〇〇・〇
 酒精 四〇〇・〇
 エーテル 三〇〇・〇
 右混和爲塗擦劑
 ベトロズルフォール 各一〇〇・〇
 クロロフォルム 各一〇〇・〇
 グリセリン 四〇〇・〇
 酒精 五〇〇・〇
 右同

療法 療法ハ略ホ犬ノ疥癬ニ同シ「デルマトファアীগス」疥癬モ亦犬ノ疥癬ニ類スヘルメリヒ
 (Hemerich)氏硫黃軟膏(硫黃華一五・〇・炭酸カリ八・〇・豚脂六〇・〇)ハ猫ノ疥癬ニ卓効アリ

マシデン

二〇・〇 一 亞麻仁油

六〇・〇 一

右塗擦用

硫黃華 一五・〇
 炭酸カリ 八・〇
 ワゼリン 六〇・〇
 右同
 ベルーバルサム 一・五
 精製硫黃 一・〇
 安息香酸脂 一〇・〇

家禽ノ疥癬

右爲軟膏塗擦用
 精製硫黃 五・〇
 炭酸カリ 二・〇
 ワゼリン 二・〇
 右同
 硫黃華 一五・〇
 炭酸カリ 七・〇

豚脂 六〇・〇
 右爲軟膏塗擦用
 ナフアラシ 二〇・〇
 硫黃華 五・〇
 豚脂 二五・〇
 右爲軟膏塗擦用

療法 家禽ノ疥癬ハ硫黃浴ヲ賞用ス尙局所藥トシ左ノ療法ヲ試ムヘシ

結晶石炭酸 二・〇
 ワゼリン 二〇・〇
 右毎日二三回塗布
 クレオソート 一・〇
 フルメント酒 三〇・〇
 右塗布用
 ベルーバルサム 二〇・〇
 右塗布用
 アニース油 一・〇
 オレーフ油 二〇・〇
 猫ノ疥癬 家禽ノ疥癬

右塗布用
 クレオソート 一・〇
 豚脂 二〇・〇
 右塗擦用
 ベンジン 二・〇
 雲霧油 二〇・〇
 右塗布用
 蘇合香 一〇・〇
 酒精 三〇・〇
 右羽毛ノ間ニ塗布ス

ベルーバルサム 一〇〇・〇
 酒精 三〇・〇
 右同
 粗製クレゾール 一〇〇・〇
 バラフィン軟膏 一〇〇・〇
 右爲軟膏塗擦用
 粗製クレゾール 一〇〇・〇
 豚脂 一〇〇・〇
 右同
 クレゾール水 二〇・〇

疥癬様濕疹

綠石鹼
酒精

右混和爲塗擦用但二三日反覆シ
六日ノ經テ溫浴洗滌スヘシ
各一〇〇〇

一七〇

疥癬様濕疹

Chronische grindartige Ekzem. (獨)

療法 馬ニ發ス其療法ハ皮膚濕潤面ノ乾燥清潔ヲ主トスヘシ此目的ヲ達スル爲先ツ紛錯ノ毛ハ其根ヨリ剪去シ「タール」若ハ「クレオリン」ノ擦劑ヲ塗布シ或ハ收斂乾燥ノ撒布劑ヲ施ス例之「ヨード」
「ホルム」・「檫皮末」若ハ「タンニン」・「サリチール酸」・「木炭末」ノ合劑(一・二・二・三)ノ如シ硝酸銀ノ溶液(六%)亦妙ナリ又「サリチール」酸酒精溶液(二%)或ハ臭性没食子酸水溶液ヲ賞用スル者アリ之ニ屬スルモノハ馬ノ鬚癬(Neck menge 英)・尾癬(Schweifgrind 獨)・鱗癬(Plica 羅)・鼠尾癬(Rattenschweif 獨)アリ

昇汞	〇・五	毎日二回塗布	ワゼリン	二〇〇・〇
酒精	五〇・〇	木タール	右混和爲軟膏塗擦	
右爲溶液塗擦用トス		酒精	ヨードフォルム	二〇〇
硝酸銀	五・〇	右混和爲タール酒精每二日塗布	クロロフォルム	一〇〇・〇
餉水	一〇〇・〇	加實奴謨油	オレーフ油	三〇〇・〇
右同		亞麻仁油	右爲塗擦劑知覺脫失、鎮痒性劑トシテ用フ	
木タール	各四〇〇・〇	右混和塗布用	ヨードフォルム	二〇〇
カリ石鹼	二〇〇・〇	沈降硫黃	炭酸マグネシウム	三〇〇
酒精	二〇〇・〇	水銀	檫皮末	二〇〇・〇
右混和「タール」擦劑トシテ與ヘ		カンタリス		

右混和爲撒布劑
サリチール酸
炭酸マグネシウム
右同

デルマトール
タンニン酸
右混和收斂劑トシテ撒布ス
クレオリン

軟石鹼
酒精
右混和塗擦用

各二五〇
一〇〇

顆粒性皮炎

ひびし(火虫)

Dermatitis granulosa. (羅)

療法 創面ヲ切除シ烙鐵ヲ以テ燒烙シ或ハ硝酸銀・硫酸・硝酸・硫酸銅・砒石・昇汞等ヲ以テ創傷ノ破潰ヲ試ム其實驗家ハ過「マンガン」酸加里二%溶液ヲ創傷部ニ於テ所々ニ注射シ良効ヲ見タリト云フ本邦實驗家ノ說ニ依レハ祖先傳來ノ秘法トシテ「ヒムシ」ハ鐵ヲ忌ムカ故ニ切除ニハ竹刀ヲ用ヒ燒烙ニハ石・瓦ヲ使用スレハ卓効アリト云フ要スルニ根治療法ハ外科的手術ヲ以テ顆粒ヲ呈スル創傷ノ深部ヨリ病的塊ヲ截除シテ病毒ノ巢窟ヲ一掃スルニアリ

下顎骨瘤

Exostosis of the lower jaw. (英)

療法 骨瘤ハ鑿ヲ以テ切斷ス先ツ皮膚ヲ通過シテ骨膜ヲ圓形ニ切り鑿或ハ鋸ヲ以テ切除スヘシ平坦ナル瘤ハ手術ヲ施スニ及ハス

咯血

Haemoptoe. (羅)

療法 冷涼ニシテ換氣善良ナル厩舎ニ容レテ刺戟ヲ避ク、肺充血及急性肺炎ニ原因スルトキハ刺戟ヲ要スルモ他ノ場合ニハ却テ有害トス胸部ノ冷濕・冷水ノ飲用・止血藥蒸氣ノ吸入例之五〇%ノ醋溶疥癬様濕疹 顆粒性皮炎 下顎骨瘤 咯血

一七一

液〇・五%「クロール」鐵液ヲ用フ蒸氣ノ溫度ハ血溫ヨリ高カルヘカラス内服ニハ收斂藥特ニ血管ノ收縮ヲ促ス藥品例之硫酸・明礬・硝酸銀・「タンニン」酸・麥角(馬一五—二〇〇羊五—一〇〇家二—五〇〇一日數回反覆)麥角越幾斯(牛馬五—一〇〇羊二—五〇〇家〇・五—二〇〇犬〇・二—一〇〇)ヲ用フ

硫酸	一〇〇〇	麥角越幾斯	五〇〇〇
酒精	三〇〇〇	餉水	各一〇〇〇
右一食匙量宛一瓶ノ水ニ混シテ		右二回ニ皮下注射(馬)	アルテア根末
與フ(馬)		テレピン油	右爲丸劑四個必要ニ應シ一丸宛
			與フ(牛・馬)

滑液膜炎

關節膜炎

Synovitis arthromeningitis. (羅)

膝軟腫

Distention of the knee joint. (英)

球節軟腫

Fetlock galls. (英)

飛節軟腫

Bog spavin. (英)

療法 急性漿液性滑液膜炎ハ先ツ關節ノ運動ヲ制止シ關節ニ繃帶ヲ施シテ患部ヲ冷湯ス急性症候去レハ關節内ノ滲出液ヲ吸收スル爲メ濕溫・壓迫及按摩法ヲ用フ按摩ハ日々數回使用スルハ有効ナルモ動物ニハ施シ難シブリースニツツ氏卷法ヲ便トス患部ニ水ヲ浸シタル繃帶ヲ施シ四五時間毎ニ交換ス或ハ皮膚ニ刺戟誘導劑ヲ塗布ス、慢性炎ニハ強刺戟藥例之烙鐵(線狀)或ハ軟膏(完善「コロヂウム」昇汞「コロヂウム」)ヲ用フ。慢性關節軟腫ニハ按摩及器械的壓迫ヲ用ヒ時トシテハ之ニ兼ヌルニ關節ノ運動ヲ要ス之ニ依リ滲出液ノ吸收ヲ促シ關節周圍ニ組織ノ新生ヲ防ク、手術的療法トシテ套

管針ヲ以テ關節ノ穿刺ヲ行ヒ滲出液ヲ排除ス但嚴密ノ消毒ヲ要ス先ツ局部ノ被毛ヲ剔去シ石鹼ニテ洗滌シ五%石炭酸或ハ千倍ノ昇汞水ニテ洗滌シ套管鍼ハ食鹽水或ハ一%ノ曹達水中ニテ五乃至十分間煮沸ス或ハ套管鍼ノ代ニ有溝針ヲ刺入シテ液ヲ排出ス排出後ハ可成新調セル「ヨード」ヨードカリ」液一〇・三〇二〇)ヲ注入シ關節周圍ヲ輕打シテ滑液膜ノ全面ニ藥液ノ達スルヲ要ス藥液ハ再ヒ創口ヨリ流出セシム、其効果ハ區々ニシテ時々良効ヲ奏ス或ハ三%石炭酸或ハ千倍ノ昇汞水注入ヲ試ム要旨ハ内溶液ヲ排除シタル後壓迫繃帶ヲ纏ヒ特ニ護謨繃帶ヲ用ヒ液ノ再溜ヲ豫防スルニアリ若シ繃帶ヲ用フル能ハサルトキハ刺戟擦劑トシテ昇汞(一〇・一〇)ヲ用フ、壓迫繃帶ヲ施シ能ハサルトキハ關節腔ニ再ヒ液ノ停溜ヲ見ル縱令「ヨード」液ノ注射ヲ以テスルモ之ヲ防ク能ハス然ルトキハ四乃至六週ノ後再ヒ穿刺排液シ三四回反覆スレハ癒ユルコトアリ又烙鐵ヲ以テ關節ヲ穿刺スル法アリ即チ尖銳烙鐵ヲ關節腔ニ刺入スレハ溜液ハ流出シ次テ起ル炎症性腫脹ハ創口ヲ閉チ無菌創ニテ癒ユ此法ハ刀ヲ用フルヨリ安全ナリ或ハ刺戟藥ノ塗布ニヨリ關節ヲ開クコトアリ

化膿性關節炎ニ在テハ豫防ヲ必要トス、關節創傷及ヒ其ノ周圍ノ創傷ハ消毒ヲ嚴密ニス若シ化膿性關節炎發起スレハ大動物ニ在リテハ治療困難ナリ輕症ニハ濕溫・壓迫繃帶ニ依リ吸收ヲ促ス濕巴布之ニ適ス三四日間ニシテ奏効ナケレハ刺戟擦劑ヲ試用ス重症蔓延性化膿性關節炎ニアリテハ外科原則ニ依リ治療シ大動物ハ屠殺ス經過良好ナルモ關節肥厚・癒着等ヲ起シ用ニ耐ヘス小動物ニ在リテハ關節切除術ヲ行フ關節ニ開創口アレハ消毒液ノ連續灌漑ヲナス

癩麻質斯性關節炎ニ在テハ感冒ヲ防キ濕厩舍ニ容レ小動物ハ溫室ニ置キ患部ハ溫包シ「ヨード」丁幾或ハ「ヨード」ト水銀軟膏ノ合劑ヲ塗布ス近時「イヒチオール」ヲ用フ内用ハ「サリチール」酸・「アンチ

ピリン等ヲ用フ
 畸形性關節炎ニ在テハ唯關節癒著ニヨリ自由運動ヲ制限スルモ動物ノ作用ヲ阻止セサル場合ニ於テ
 ノミ治療ヲ行フ特ニ飛節ノ小部分即チ飛節内腫ニ於テ行フ長時日(四―六週)ノ永續休養ヲ命シ關節
 ノ周圍ニ急性炎ヲ誘發シ殊ニ結締織及骨膜ニ炎症ヲ發シ關節癒著ノ形成ヲ助ク之カ爲皮膚刺戟藥(刺
 戟軟膏塗擦・烙鐵等)或ハ手術例之骨膜切斷術等ハ活潑ナル骨瘤形成ヲ促進シ骨ノ固著ヲシテ善良ナ
 ラシム尙患關節ノ運動過止ニ由リテ疼痛消滅ス之ニ依リテ病ハ治セサルモ跛行ハ消散ス冠關節ニ於
 テハ環骨ニ原因スル跛行ハ切神術ヲ行ヘハ之ヲ除去スルコトヲ得ルモ膝節ニ於テハ之ヲ用フルコト
 能ハス

ヨードフォルム	一〇〇〇	クロロフォルム	各三〇〇	オイフォルビウム	二〇〇
アラビアゴム	各二〇〇	亞麻仁油	各三〇〇	テレピン油	八〇〇
グリセリン	四〇〇	右混和爲塗擦料		右混和爲軟膏刺戟性解凝劑トシ テ與フ(牛)	
白陶土	四〇〇	ヨード丁幾	各二五〇	重クローム酸カリウム	二〇〇
右混和爲泥膏「ヨードフォルム」		クロロフォルム	各二五〇	ワソーゲン	二〇〇
泥膏トシテ與フ		右混和爲塗擦料		右混和爲強刺戟軟膏與フ	
オレーフ油	一〇〇	灰白水銀軟膏	各二〇〇	樟腦	一五〇
綠石鹼	五〇	ヒヨス油	各二〇〇	テレピン油	六〇〇
灰白水銀軟膏	三〇〇	樟腦	五〇	アムモニア水	三〇〇
右混和爲軟膏毎日一回塗擦(解 凝劑トシテ)		右混和爲軟膏塗擦料トス	二〇〇	酒精	七二〇

右混和關節部ニ塗布ス	四〇〇	亞麻仁	六四〇	赤複ヨード汞	二〇〇
芫菁末	三〇〇	テレピン油	一〇〇	豚脂	二四〇
龍骨木ゴム	三〇〇	右混和爲擦劑慢性症ニ用フ		右混和爲軟膏塗布ス	

滑 齒 Smooth mouth. (英)

療法 姑息療法トシテ柔軟細挫セル飼料・粉粥・練飼・麩汁等ヲ與ヘ咀嚼ヲ容易ナラシムルニ過キス

加奈陀馬痘 Canadian hors-pox. (英)

傳染性膿疱皮炎參照

化 膿 Pyogenia, Pyosis. (羅)

療法 化膿ノ豫防法トシテ炎症創傷アレハ其防腐ヲ嚴ニシ醗菌ノ侵入ヲ防キ一度其侵襲ヲ受ク
 レハ(一)原因療法トシテ細菌ヲ滅殺スル爲メ防腐藥ヲ用フ即チ石炭酸・昇汞・「クレオリン」等ノ溶液
 ニテ洗滌シ乾燥藥ヲ撒布スヘシ(二)膿ノ分泌多量ナルトキハ收斂藥ヲ用フ收斂藥ハ滲出セル膿液ト
 直接親和シテ之ヲ凝固スルノミナラス血管ヲ縮小シ白血球ノ遊出ヲ制限シ且刺戟性醗菌ヲ滅殺ス
 「タンニン」木炭末ノ合劑之ニ適ス「タンニン」五〇・蘆薈末五〇・木炭末三〇〇(三)深部ニ化膿ヲ發
 スレハ可成迅速ニ其ノ成熟及破開ヲ促進シ病期ヲ短縮スヘシ然ラサレハ膿汁沈降及膿包裏ヲ起スカ
 故ニ患部ノ状態ヲ察シ熱痛アレハ微温湯ヲ蒸湯法或ハ粘滑緩和劑ノ琶布ヲ施シ熱痛既ニ去リ周圍硬
 固トナリタルトキハ稍々刺戟性ノ藥物即チ打膿藥ヲ用フ普通供用スルモノハ芥子・「テレピン」膏・芫
 菁軟膏等ナリ例之「テレピン」膏「テレピン」油四分豚脂又ハ脂油三十分ノ混合劑・芥子膏(芥子末一分・
 滑齒 加奈陀馬痘 化膿

豚脂四分)ノ如シ(四)膿瘍既ニ熟シ指端ヲ以テ瘍ヲ壓シ其ノ面波動顯著トナレハ内容物ヲ排除ス即チ披針或ハ外科刀ニテ膿瘍ヲ切開スルカ或ハ套管針ヲ挿入シテ内容ヲ排除吸収ス瘍ヲ切開スルニハ皮膚菲薄ニシテ排膿ニ便ナル處ニ於テスヘシ淺存スルモノハ披針ヲ用ヒ深存スルモノハ外科刀ヲ用フ若シ脉管多キ部ニ深存スルトキハ套管針ヲ用フルヲ要ス(五)排膿後膿瘍腔ニハ嚴密ニ消毒シタル探子手指ヲ挿入シテ探診シ變性若ハ壞死セル組織ヲ悉ク除去シ瘍腔ハ微溫制腐液ニテ充分洗滌シ制腐粉末或ハ制腐藥ヲ含有スル栓塞子ヲ挿入シ置クヘシ此目的ニハ「ヨードフォルム」ヲ最良トシ或ハ其ノ粉末ヲ入レ或ハ之ヲ綿紗ニ含マシメ(「ヨードフォルム」綿紗)腔内ニ填塞スレハ化膿ヲ制止スルヲ得ヘシ排膿後ト雖瘍ノ周圍硬固ニシテ腫起シ赤色疼痛尙未タ去ラサルトキハ粘滑緩劑(亞麻仁ノ如シ)ノ琶布ヲ施シ若シ周圍大ニ硬結シ溫痛微ニシテ瘍底蒼白ヲ呈スルトキハ刺戟性ノモノ即チ琶布ト刺戟軟膏トヲ兼用スヘシ

化膿創 *Vulnera suppurativa.* (羅)

療法 創傷ニハ充分ニ制腐法ヲ施ス大動物ハ創傷ヲ咬擦シ肉食獸ハ舐嘗スルノ癖アリテ之カ爲メ釀膿菌ヲ創傷ニ移植スルカ故ニ之ヲ防クヘシ且連續ノ舐嘗ハ癒創機特ニ結皮ヲ障碍ス此目的ニハ大動物ハ二個ノ支柱ノ中間ニ繫留シ或ハ特別ノ裝置ヲ用ヒテ頭ノ運動ヲ制限ス、又舐嘗或ハ咬擦ハ主トシテ創傷ノ結皮スル間ニ發スル痒覺ノ爲メ或ハ時トシテハ深部ノ化膿ニ由リテ生スルモノナリ創傷化膿スレハ膿ノ排泄ヲ流利シ其沈降ヲ防キ既ニ膿瘍ヲ生スレハ膿汁停留囊ヲ切開シテ排膿シ或ハ反對孔ヲ設ケ或ハ串線若ハ排膿管ヲ挿入シテ膿ノ排泄ヲ流利ス創傷ノ位置ニ由リ是等ノ排膿法ヲ行フ能ハサルトキハ可及的屢々創傷ヲ洗滌シ或ハ制腐液ノ連續灌漑ヲ行フヘシ

化膿創ニハ縫合及繃帶ヲ施サス是レ創傷分泌液及膿汁ノ排泄ヲ障碍スルノミナラス創傷内ノ腐敗ヲ惹起スレハナリ故ニ主トシテ開放療法ヲ用フ唯特別ノ場合例之爾後ノ負傷ニ對スル防禦(防禦繃帶)創傷部ノ安保或ハ寒熱ノ遮止等ヲ要スル際ニ於テノ繃帶ヲ用フ創傷分泌液及膿汁ノ排泄流下ニヨリ創傷下部ノ皮膚ニ輕度ノ炎症ヲ起シ裁毛脱落スルコトアルカ故ニ當該部ニ脂肪或ハ「ワゼリン」ヲ塗布シテ炎症ヲ豫防スヘシ其他癒創機ニ障碍ヲ及スヘキ肉芽發生異常及創傷結皮異常ニ對スル療法ヲ施スヘシ

角壁腫 *Keratoma.* (羅)

療法 手術ニヨリテ除去スマイエル氏ハ局部ノ角壁ヲ鑢削シ刀及鑷子ヲ以テ除去スフレナー及ギンター氏ハ柳葉刀ヲ以テ角壁腫ヲ周圍角壁ト共ニ除去ス術後化膿部ニハ「ヨードフォルム」エーテ「ル」ヲ塗擦シ消毒繃帶ヲ施ストキハ治スルト雖再發シ易シトス蹄鐵ハ負縁ノ完全ナルモノニアリテハ尋常鐵ヲ裝シ負縁缺損ヲ有スルトキハ連尾蹄鐵ヲ用ヒ患部ニ相當スヘキ鐵面ニハ十分ノ斜面ヲ設ケ鐵上ニ間隙ヲ置クヘシ

角膜瘻 *Fistula corneae.* (羅)

療法 角膜ニ深サ前房ニ達スル小孔アリテ眼房液不絶溢出スルノ症ニシテ「アトロピン」ノ連用十四日一シテ白點ヲ殘シテ癒セリトノ例アリ一度治癒スルモ再發シ易シ

角膜膨出 *Keratocoele.* (羅)

療法 「タンニン」酸及明礬ノ如キ收斂藥ヲ用ヒテ洗滌シ緩下劑ヲ投シ「アトロピン」及「エゼリン」

角壁腫 角膜瘻 角膜膨出

ヲ反覆應用スヘシ

角膜潰瘍

Ulcus corneae. (羅)

療法 洗眼用トシテ「クロール」水ノ純液或ハ同液ノ二―三倍ノ水ヲ以テ稀釋セルモノ・千倍ノ昇汞或ハ二―四%ノ硼酸水ヲ用フ又硼酸水(三―四%)ノ溫濯法ヲ施シ通常一日二回之ヲ行フ角膜穿孔セハ更ニ頻々行フ角膜若シ穿孔セントスル危虞アルトキハ「アトロピン」及「エゼリン」ノ應用ヲ利トス「エゼリン」(一―二%)液ヲ一日二三回點眼ス「アトロピン」ハ某氏ハ用フルヲ非難ス前房ニ膿蓄積スレハ角膜穿孔術ヲ行フ患者ヲ安靜ニシ光線ヲ遮斷シ下劑内用

- 昇汞 〇・二
- 右爲溶液洗眼料トス 二〇〇・〇
- クレオリン 〇・二
- 右爲溶液洗眼料トス 二〇〇・〇
- 硼酸 五・〇
- 右爲溶液洗眼料トス 二〇〇・〇
- ビオクタニン 〇・二
- 右爲溶液洗眼料トス 六〇〇・〇
- フルオレツシン 〇・二
- 炭酸ナトリウム 〇・三五
- 右混和角膜缺損部ノ診斷料トシテ眼瞼囊内ニ點眼ス(缺損青色着色) 二・〇
- 銅鉛 一五・〇
- 茴香水 二〇〇・〇
- 右混和收斂性洗眼料トス 二・〇
- 鹽酸キニーネ 二〇〇・〇
- 右爲溶液點眼料トス 〇・五
- イヒチオール 五・〇
- グリセリン 二五・〇
- 右混和毎日二回数滴點眼 二・〇
- イヒチオール 一〇〇・〇
- 右混和毎日二回點眼(犬) 〇・三
- 白降汞 各一〇・〇
- バラフィン軟膏 各一〇・〇
- 白色ワゼリン 各一〇・〇
- 右混和爲眼軟膏朝夕亞麻仁大ノ

- 小塊トナシ眼瞼囊内ニ輕ク擦入ス 硫酸アトロピン 〇・二
- ヨード蛋白 〇・五 右爲溶液毎日三回點眼 一〇・〇
- バラフィン軟膏 一・二 硫酸エゼリン 一・〇
- 右混和毎日一回塗布ス 右混和 一〇〇・〇
- 右點眼用 五〇・〇
- クロール水 右二三倍ノ水ニ混シ洗眼用

角膜葡萄腫

Staphylococci corneae. (羅)

療法 外觀ヲ裝スルニ止マリ視覺ヲ挽回スル能ハス角膜ノ前面ニ突出セルモノハ剪刀ヲ以テ切除シ腐蝕藥等ニテ其再生ヲ防止スヘシ又膨出部ノ基根ニ結紮(獸腸線)ヲ加ヘ剪刀ヲ以テ切除スルモ可ナリ豫防トシテ角膜ノ創傷・炎症・潰瘍等ヲ治療スルニ際シ注意ヲ加ヘ葡萄腫ノ發生ヲ防止スヘシ

硝酸銀

〇・一―〇・二 餉水

一〇〇・〇―

以上爲溶液日々點眼

角膜淡翳

濃翳

白翳

Nubeula, Macula, Leucoma corneae. (羅)

療法 血行及吸收促進ノ爲メ濕器法ヲ行フ甘汞粉末ヲ吹入レ赤降汞・黃降汞軟膏(「バラフィン」一・一〇)ハ効アリ又「ヨード」加里軟膏ヲ用フ最モ有効ナルハ按摩法ニシテ軟膏ヲ上眼瞼内ニ擦入シ二指ヲ上瞼上ニ抵シ輕壓ヲ加ヘテ環狀ニ動搖シ以テ瞼上ヨリ潤濁部ヲ撫擦ス、無機物(鉛等)ノ沈澱ニ由ルモノハ其位置表面ニアル時ハ截除法ヲ行フ又割刺法ヲ行ヒ翳ヲ黑色ニス即チ二%ノ「コカイン」ニテ脱覺シ縫針尖ニテ角膜ノ上皮層ヲ連刺シ〇・〇五%昇汞水ニテ摺レル支那墨濃汁ヲ該部ニ注ギ指頭ヲ以テ輕擦シ角膜ヲ水洗シ點斑ノ成否ヲ檢シ一回ニシテ尙盡ササレハ同法ヲ反覆ス

角膜葡萄腫 角膜翳

角膜炎

- 赤色酸化汞 〇・二
- バラフィン軟膏 二〇・〇
- 右混和爲軟膏眼軟膏トシテ與フ
- 黄色酸化汞 〇・三
- バラフィン軟膏 一〇・〇
- 右混和爲軟膏與フ 〇・三
- 白降汞 〇・三
- バラフィン軟膏 各一〇・〇
- 白色ワゼリン 各一〇・〇
- 右混和爲軟膏朝夕亞麻仁大ノ小塊ヲ眼瞼囊内ニ輕ク擦入ス 二〇・〇
- 乳酸 二〇・〇
- 右眼温巻法用 二〇・〇
- 白降汞 二〇・〇
- ワゼリン 一六・〇
- 右爲軟膏一日二・三回眼塗布 〇・一—〇・一五
- 赤降汞 〇・一—〇・一五
- ワゼリン 五・〇
- 右爲軟膏一日二・三回豌豆大眼塗布

角膜炎

Keratitis. (羅)

角膜表層炎

Keratitis superficialis. (羅)

療法 暗厩ニ容レ通氣ヲ善良ニシ原因ヲ除キ結膜炎ヨリ繼發セルモノハ硫酸亞鉛・明礬・硼酸・硝酸等ヲ用ヒ異物アレハ之ヲ除去シ眼瞼内瞼症ニ由ルモノハ外科手術ニヨリテ之レヲ治スレハ角膜ノ炎症ハ自然ニ消散ス又温巻法・甘汞(粉末)或ハ赤降汞一分「バラフィン」十分ノ軟膏ヲ用フ羞明甚シケレハ點眼水ニ亞片或ハ「コカイン」ヲ加フ濕巻法ハ最モ有効ニシテ之ニ「アルカリ」鹽(〇・五%)或ハ昇汞(二千倍)ノ稀釋溶液ヲ用フ膿瘍外方ニ破裂スレハ防腐液ノ洗眼ヲナス水疱性角膜炎ノ小水疱ハ自ラ消散スルモ經久スルモノハ切開ス「バンヌス」ヲ發スレハ輕症ハ甘汞粉・黃降汞軟膏ヲ用フ慢性ニハ「タンニン」酸・硝酸銀水ヲ用ヒ頑固症ハ外科手術ニヨリテ除去ス、下劑ヲ内服セシム

昇汞 〇・二
 白降汞 一〇〇・〇
 硼酸 二〇
 右爲溶液洗眼用トス 一〇〇・〇

白降汞

〇・三

バラフィン軟膏

各一〇・〇

右混和爲眼軟膏朝夕一回亞麻仁大乃至豌豆大ノ小塊ヲ結膜囊内ニ輕ク擦入ス但豫メ囊内ハ消毒液(例之ニ%硼酸水)ヲ以テ洗滌シ置クヘシ

黃降汞

〇・三

白色ワゼリン

右混和爲軟膏(用法注意等同前)

黃降汞

〇・六

バラフィン軟膏

右混和爲軟膏豌豆大ノ小塊ヲ病眼ニ塗擦ス

黄色酸化汞

各一〇

ヒヨス越幾斯

バラフィン軟膏 三〇・〇

右混和爲軟膏每日朝夕一回豌豆大ノ小塊ヲ塗擦ス

角膜炎

甘汞

各五・〇

右混和爲散劑刷毛ヲ用ヒテ角膜面ニ撒布ス(馬)

甘汞

三・〇

バラフィン軟膏

右混和爲軟膏豌豆大ノ小塊ヲ病眼ニ擦入ス

白糖

一〇・〇

右混和爲細末散劑病眼ニ吹入ス

昇汞

〇・〇五

白色ワゼリン

右混和爲軟膏硝子棒ヲ用ヒテ結膜囊内ニ送入シ眼球ニ輕ク塗擦ス

クロール水

二〇

右混和黑色瓶ニ容レ點眼料トシテ與フ

硼酸

二〇

右爲溶液洗眼用トス

減菌水

一〇〇

右爲溶液其〇・四乃至〇・五宛結膜下ニ注入ス

硫酸亞鉛

一〇〇

右爲溶液點眼料

硝酸銀 一〇〇

右爲液溶黑色瓶ニ容レ點眼料

イヒトフォルム 〇・五

バラフィン軟膏 五・〇

右混和爲眼軟膏

ヨードフォルム 各一〇

タンニン酸 五〇

硼酸 右混和爲吹入劑病眼ニ吹入セシム

桂酸ナトリウム(ヘトール) 〇・一

減菌水 一〇〇

右爲溶液其〇・四乃至〇・五宛結膜下ニ注入ス

角膜實質炎 Keratitis parenchymatosa. (羅)

療法 原因即チ異物・刺戟物ヲ除去シ硼酸溶液(二%)ノ溫卷法・甘汞・赤降汞・黃降汞軟膏ヲ用ヒ羞明・疼痛ナケレハ按摩法ヲ賞用ス(フオーゲル氏)「アトロピン」ノ點眼・暗室ニ容レ刺戟ヲ避ケ内服ニ下劑ヲ投ス芒硝ヲ賞用ス(處方ハ角膜表層炎參照)

角膜深層炎 Keratitis profunda. (羅)

角膜實質炎參照

創傷性角膜炎 Keratitis traumatica (羅)

療法 原因タル異物ヲ除去シ防腐液ヲ以テ洗滌シ後「アトロピン」點眼・疼痛甚シケレハ「コカイン」點眼・冷卷法・刺創アレハ壓迫繃帶ヲ施シ靜養ス

硼酸

五〇〇— 餵水

二五〇〇— 右爲溶液眼洗滌用(犬ニ用フ)

傳染性角膜炎 Keratitis acuta infectiosa. (羅)

療法 傳染ヲ豫防ス療法ハ消毒法ノ一途ニシテ五千倍ノ昇汞・百倍ノ石炭酸水・百倍ノ「クレオリ」水及二—四%硼酸水或ハ硝酸銀水(一—二%)ニテ洗眼ス結膜囊ノ消毒ニ注意シ唧筒ヲ以テ藥液ヲ注射ス治療術者ハ其手ヲ消毒シ他ノ傳染ヲ豫防シ又交通遮斷隔離法ヲ行フ

クロール石灰

三〇〇—

右爲溶液毎日二回點眼ス(牛ノ)

餵水

四〇〇〇—

傳染性角膜炎)

顎竇炎 Inflammation of maxillary sinus. (英)

上顎竇加答兒參照

過 削

療法 出血アレハ蹄ヲ洗滌消毒シテ出血ノ止ム迄消毒液脚浴ヲナシ次テ木「タール」ヲ塗布シテ冷鐵ヲ裝シ毀傷甚シケレハ囊底繃帶ヲ施シ裝蹄ス

蝦蟇腫 Ranula. (羅)

療法 蝦蟇腫ハ手術ニ依テ之ヲ除去スルヲ最良トス即チ長ク切開シテ囊腫壁ヲ解剖分離シ硝酸銀ヲ以テ腐蝕シ或ハバクラン氏烙白金ヲ以テ燒灼スヘシ小切開或ハ單純穿刺法ノ効果ハ一時的ニシテ囊腫ハ忽チ再ヒ充滿ス反之穿刺後「ヨード」「丁幾又ハ一〇%「クロール」亞鉛液ヲ注入スレハ多クハ良効アリ眞ノ蝦蟇腫ト口腔底ニ於ケル「フレダモーネ」及膿瘍即チ所謂炎性蝦蟇腫トハ臨床上明確ニ區別スルヲ要ス

鷺口瘡 Stomatitis oidica. (羅)

療法 美食ヲ給シ胃病ヲ治シ以テ身體ヲ強壯ナラシメ屢々口内ヲ洗滌シテ清淨ナラシメ口腔ノ沈着物ヲ除去シ千倍ノ昇汞水ヲ塗布スヘシ

サリチール酸

〇・五— 水

一〇〇〇—

鹽酸

二・五

硼酸

一〇〇—

右爲溶液洗滌料トス

餵水

五〇〇〇

顎竇炎 過削 蝦蟇腫

一八三

鷺口瘡 家禽「スピロヘータ」症 家禽虎列拉

- | | | | |
|----------------|-------|----------|------|
| 右腐蝕劑トシテ潰瘍面ニ用フ | 五・〇 | アンチニオルミン | 各五・〇 |
| 過マンガン酸カリウム | 四・〇 | 蜂蜜 | 二〇・〇 |
| 硼砂 | 二〇〇・〇 | 薔薇水 | 一〇・〇 |
| 右爲溶液口内塗布料(積・鷄) | 二〇〇・〇 | 右混和塗布料トス | |
| 鷺水 | | | |
| 右爲溶液口内洗滌料トス | | | |

家禽「スピロヘータ」症 Spirochaetosis avium. (羅)

療法 鷄ニハ「アトキシール」〇・〇五宛三回皮下注射シ〇・一宛二回内服セシムレハ恢復シ寄生物ハ血中ヨリ消失シ且鷄ハ之ニ由テ免疫性トナル輕症ニテハ一回筋肉内ニ〇・〇五ヲ注入スレハ足レリ「アトキシール」酸水銀ノ筋肉内注入ハ更ニ有効ナリ「サルヴアルサン」亦効アリ〇・〇〇二五ニテ一時輕快シ〇・〇七ヲ與フレハ二ヶ月間免疫スト云フ

豫防法 家禽舎ヲ清潔ニシ蝨蟲ヲ驅除スヘシ健鷄ノ皮下ニ病鷄ノ血液ヲ注射スレハ免疫性ヲ生ス

家禽虎列拉 Cholera gallinarum. (羅)

療法 病ノ初期ニ可成早ク免疫血清一〇—一五・〇ヲ皮下ニ注射スヘシ恢復ノ徵ナクハ二十四時間後同量ヲ反覆スヘシ從來慣用セラルル防腐收斂藥ハ硫酸鐵・「サリチール」酸・「タンニン」酸(〇・五—一%)・硫酸又ハ鹽酸(二・一〇〇〇)一匙乃至一茶匙ヲ與フ、又是等ノ藥液ヲ豫防ノ目的ヲ以テ健禽ニ與フ

豫防法 本病ハ家禽ノ購入ニ由リテ病毒ヲ齎スヲ以テ新ニ購入シタル家禽ハ一週間隔離シテ視察シタル後ニ非サレハ健禽ノ群ニ混入スヘカラス、一朝禽群ニ發病スレハ寸刻モ躊躇ナク健禽ヲ清潔ナ

ル場所ニ移シ患禽又ハ其感染ノ疑アルモノハ直ニ屠殺スルカ或ハ治療ノ爲隔離ス、屍體ハ埋却スルカ或ハ燒棄ス病禽ノ排泄物モ燒棄又ハ埋却シ禽舎ノ壁牀及一切ノ器具ハ沸湯又ハ熱瀾汁ヲ以テ洗滌シ昇汞(千倍)・石炭酸又ハ「クレオリン」溶液(三%)ヲ注クヘシ禽舎ハ數日間空氣ヲ通シテ乾燥セシメ患禽竝ニ健禽ノ排泄物ハ集メテ毎日燒棄スヘシ、本病豫防接種ノ方法左ノ如シ

一、バストール氏法 バストール氏ハ家禽虎列拉菌ノ「ブイヨン」培養ヲ數ヶ月間氣中ニ放置スルトキハ其毒力自然ニ減弱スルヲ以テ其放置日數ヲ加減シテ強弱二種ノ接種苗ヲ造リ先ツ弱毒苗ヲ一側ノ翼ニ、十二日ヲ經テ弱毒苗ヲ反對側ノ翼ニ皮下注射スルニアリ、此法ハ屢感染ヲ起シ危險ノ結果ヲ見ルコトアリ

二、免疫血清注射法 強毒菌培養ヲ以テ馬ヲ高度ニ免疫シ其血清ヲ鷄ノ胸部皮下ニ注射ス其量獸疫

- | | | | |
|----------------|------|----------------|----------------|
| 次沒食子酸蒼鉛 | 五・〇 | 右混和爲散劑毎日數回一小刀尖 | 右混和爲散劑毎日數回一小刀尖 |
| タンナルビン | 一〇・〇 | 量宛與フ | タンノフォルム |
| 桂皮末 | 三〇・〇 | バチロール | 一・〇 |
| 白糖 | 五・〇 | 鷺水 | |
| 右混和每三時一小刀尖量宛與フ | | グリセリン | 各五〇・〇 |
| デルマトール | 各五・〇 | 右爲溶液毎日一茶匙量宛内用 | |
| 粗製明礬 | 一五・〇 | 阿片末 | 各一・〇 |
| 桂皮 | 一五・〇 | 次サリチール酸 | 二・五 |
| 乳糖 | 五・〇 | カールム油糖 | 二・五 |
| | | 鷺水 | |
| | | 石炭酸 | 二・〇 |
| | | 與フ | 五〇・〇 |
| | | アルテア根末及杜松子蒸 | 適量 |
| | | 右混和爲丸劑三十個毎日四個宛 | |

鷺口瘡 家禽「スピロヘータ」症 家禽虎列拉

家禽實扶的里及鷄痘

右爲溶液每日二乃至三回二・〇
乃至三・〇宛皮下注射

三・〇

硫酸鐵

右混和其一茶匙量宛ヲ少量ノ

「アラビヤゴム」ト共ニ「リ」

二五・〇

トル」ノ水ニ和シテ與フ

一八六

家禽實扶的里及鷄痘

Diphtheria et Epithelioma contagiosum avium. (羅)

療法 疾患皮膚ニ局限スルトキハ治療容易ナリ、皮上ノ結節ハ油類・軟膏又ハ曹達液ヲ以テ軟和セシメ粘膜ノ義膜ハ錒子ニ綿ヲ挟ミテ擦去ス露出面ニハ一日一・二回一％硝酸銀液注射・一％ノ昇汞(曹達液ニテ洗後)乳酸・「レモン」液・二％「クレオリン」又ハ「リゾール」液・「ヨード」丁幾ヲ塗布シ又皮膚ニハ「ヨード」グリセリン」ヲ塗布ス眼分泌液ハ微温湯ヲ以テ洗除シタル後二％硼酸水又ハ「タンニン」水若ハ「クレオリン」水ヲ用フ頭實ノ腫瘍ハ切開シ其内容ヲ除キ過「クローール」鐵液ヲ浸セル綿栓ヲ填入スヘシ、呼吸困難ニハ「テレピン」又ハ「タール」蒸氣吸入ヲ行ヒ腸「カタール」ニハ硫酸鐵(一％溶液トナシ服用セシム)・赤葡萄酒(一匙)・收斂藥ヲ用フ局所療法ハ皮膚又ハ粘膜面ノ結節又ハ義膜ノ生セサル迄持續スヘシ

豫防法 新ニ購入シタル家禽ハ別所ニ隔離シ久シク視察スヘシ凡テ鼻涕・流淚等疑ハシキ病徵アレハ精密ニ検査スヘシ病禽ト健禽トハ全ク隔離シ鷄舎ハ清潔ニシ時々石炭酸・昇汞・「クレオリン」・「リゾール」・熱瀘汁等ヲ以テ消毒シ斃禽竝之ニ觸レタル物品ハ凡テ燒棄スヘシ

クレオリン 二・〇
グリセリン 各五〇・〇
餾水

右混和口内塗布料トス 五・〇
流動石炭酸 五・〇
グリセリン

餾水 各九〇・〇
右混和塗布料トス
クローール酸カリウム 七・五

サリチール酸 一・五
グリセリン 一五・〇
水 一三〇・〇
右混和爲溶液嘴及咽頭拭料トス
クローール酸カリウム 五・〇
グリセリン 一〇〇・〇
右混和一匙量宛與フ(體內消毒用トナス)
硼酸 〇・五
硼砂 二・〇
水 一〇〇・〇
右爲溶液點眼水トシテ與フ
パチロール 五・〇
複方キナ丁幾 二五・〇
グリセリン 五〇・〇
右混和毎日二乃至三回一茶匙量宛與フ
パチロール 一・〇
餾水

グリセリン 各五〇・〇
右混和毎日一茶匙量宛與フ
クレゾール水 一・五
餾水 五〇・〇
グリセリン 五・〇
右混和眼塗擦料トス(眼症ノ場合)
クレオソート 二・〇
肝油 五〇〇・〇
右混和毎日一食匙量宛與フ
粗製明礬 各二・〇
硫酸鐵 適量
アルテア根末及水 適量
右混和爲丸劑二百個毎日一乃至二回二個宛與フ(鷄)鳩ニハ一個宛、鶯ニハ四個宛與フ
硫酸鐵 四・〇
小麥粉 各五・〇
甘草根 適量
水

右混和爲丸劑三百個毎日一回乃至二回二個宛與フ(鷄)鳩ニハ一個宛鶯ニハ三乃至四個宛與フ
タンニン酸 一〇〇・〇
餾水 一〇〇・〇
右爲溶液其十乃至二十滴與フ(鷄)鳩ニハ五乃至十滴宛與フハ二十乃至四十滴宛與フ
白陶土 一二五・〇
水 一五〇・〇
右混和每五分ニ一茶匙量宛與フ
サリチール酸 〇・五
酒精 一五・〇
右混和一匙量宛與フ
キノゾール 〇〇・一五
餾水 一〇〇・〇
右爲溶液一匙量宛與フ
アクトール 〇〇・三
餾水 一〇〇・〇
右爲溶液一匙量宛與フ
一八七

家禽實扶的里及鷄痘

家禽實扶的里及鷄痘

胡桃葉煎(水一「リットル」ニ對シ 一五〇〇〇
六〇〇)
グリセリン 二〇〇〇
タロール酸カリウム 五〇〇
サリチール酸 〇・五
強アルコール 一五〇
右混和爲溶液一日一―二回一茶匙雞鴨ニ與フ鳩ニハ四分ノ一若

火傷 Combustio. (羅)

ハ二分ノ一茶匙ヲ投ス局所ニモ 日二三回之ヲ塗布ス
クレオリン 二〇〇
グリセリン 各五〇〇
酒精 右混和爲液溶口内洗滌料トス 六〇分
酒精 トルオール 三六分

過クロール鐵液 一八八
右混和局所ニ塗布ス 四分
薄荷 トルオール 三六〇〇
右混和溶解シ之ニ 六〇〇
酒精 過クロール鐵液 四〇〇
右混和シ局所ニ塗布ス

療法 第一度ノ火傷ニハ先ツ冷水灌注・冷水卷法・氷裏・鉛糖水若ハ醋酸礬土水(一%)ノ卷法ヲ施シ次デ亞鉛華「バスタ」若ハヘブラ氏軟膏ヲ塗布シ其上ニ澱粉・亞鉛華澱粉・「デルマトール」等ヲ撒布シ被覆繃帶ヲ施スカ如キ專ラ疼痛ノ緩解ニ努メ感覺銳敏ナルモノニハ「モルヒネ」ノ皮下注射ヲ行フ、第二度ノ火傷ニ於テハ先ツ水疱ヲ破ラサル様注意シツツ制腐液例之硼酸水・醋酸礬土水・一%「レゾルチン」水・〇・五%「ピクリン」酸等ニテ洗淨シ切開シテ其表皮ヲ剝離セサル様内容ヲ漏シ其上ニ亞鉛華・次硝酸蒼鉛・「アイロール」・「デルマトール」・「ヨードフォルム」・滑石又ハ澱粉・「アリストール」等ノ粉末ヲ撒布シ「ガーゼ」及綿花ヲ貼シ被覆繃帶ヲ施ス、第三度ノ火傷ニ於テモ亦上記ノ乾燥末ト吸收性被覆繃帶トヲ施シテ腐敗性分解ヲ防キ且分泌及化膿ヲ制限シ壞死部脫落後ハ適當ナル軟膏繃帶ヲ施スヘシ、虛脫ニ陥リ又ハ其虞アルトキハ體ヲ温包シ強心劑ノ内服及皮下注射ヲ命シ發汗・利尿劑ヲ處シ

生理的食鹽水ノ注入法ヲ行フヘシ

硝酸銀 二〇〇
パラフィン軟膏 二〇〇
右爲軟膏外用
石灰水 各一〇〇〇
亞麻仁 右爲溶液振盪シテ用フ
粗製明礬 五〇〇
醋酸鉛 一〇〇〇
常水 五〇〇〇
右混和爲溶液ブロー氏液トシテ與フ
クロール石灰 五〇〇
餾水 九九〇〇
右爲溶液濾過シ更ニ樟腦精ヲ加ヘ巻包料トナス 五〇
豚脂 各二〇〇
鉛水 三〇〇
ラ・リン

火傷

右混和冷湯軟膏トシテ與フ 三〇〇
硼酸 一〇〇
醋酸アルミニウム液 四〇〇
石灰水 五〇〇
流動ワセノール 右爲擦劑 二〇〇
醋酸アルミニウム液 常水 五〇〇
右冷湯繃帶料トシテ與フ 餾水 一〇〇
ブロータルゴール 右火傷消毒料トシテ與フ 二〇
ザロール 一〇〇
ヲノリン 右混和外用 〇・一五
過マンガン酸カリ 水 三〇〇
右爲溶液亞麻布壓抵巾ニ浸シ繃帶料トス(屢々交換スヘシ)

ピクリン酸 餾水 一〇〇
右爲溶液繃帶料トナス但毎日交換スヘシ 一〇〇
ピクリン酸 二〇
ワゼリン 右爲軟膏外用 一〇〇
ピクリン酸 五〇
酒精 餾水 一〇〇
右爲溶液繃帶料 白陶土 各一五〇
オレーフ油 一〇〇
次醋酸蒼鉛 五〇
ヨードフォルム 右爲軟膏外用(第二度ノ火傷) 三〇
硝酸銀 一〇〇
亞麻仁油 一〇〇
餾水 一〇〇

火傷 假性白血病

右混和爲擦劑	五・〇	鹽酸オイカイ	三・〇	バラフィン軟膏	一九〇
硝酸銀	適量	バラフィン軟膏	二五・〇	右爲軟膏外用	一〇〇・〇
硝酸銀ヲ全ク溶解シ更ニ		右爲軟膏外用(疼痛アル場合)	五・〇—一〇・〇	メントール	各一・〇
亞麻油ヲ加ヘ全量一五〇・〇トナ		アネステジン	一〇〇・〇	ヨードフォルム	一〇〇・〇
シ外用トス		右混和爲軟膏外用(右同)	二〇・〇	グリセリン	一〇〇・〇
硼酸	五・〇	イヒチオール	二・〇	右混和外用(疼痛アル場合)	五・〇
酸化亞鉛	一〇・〇	滑石	三〇・〇	オレーフ油	二〇・〇
豚脂	三〇・〇	炭酸マグネシウム	二〇・〇	右混和外用	七五・〇
右混和爲軟膏外用(第一度ノ火傷)		右爲撒布劑	一・〇	オレチン	一〇〇・〇
次硝酸蒼鉛	六・〇	イヒチオール	一・〇	オレーフ油	二〇〇—四〇〇
硼酸	三・〇	酸化亞鉛	二〇・〇	右同	
ラノリン	三〇・〇	炭酸マグネシウム	八〇・〇		
オレーフ油	一五・〇	右同(第一度ノ火傷)	五・〇		
右混和爲軟膏外用(第一度ノ火傷)		イヒトフォルム	五・〇		

假性白血病 Pseudo-leukemia. (羅)

療法 鐵・「ヨード」・砒素劑ヲ用フルモ効ヲ奏セサルコト多シ

假性皮疽

流行性淋巴管炎、馬ノ分芽黴病、馬瘡

Lymphangitis epizootica. (羅)

療法 初期結節其他ノ病的組織ヲ割去シ烙鐵ヲ施スヘシ膿瘍ハ切開シテ膿ヲ排シ而シテ燒烙シ較、硬キ病竈ニハ昇汞糊劑ヲ挿入シ索腫ニハ灰白水銀軟膏(昇汞ヲ加ヘタルモノ)ヲ塗抹シ潰爛面モ亦燒烙シ或ハ乾燥末(昇汞一分木炭末百分)ヲ撒布シ浮腫部ニハ灰白水銀軟膏ト「オリーブ」油ノ合劑ヲ施ス貴重ノ馬ニハ「ヨードカリウム」ノ内用ヲ試ムヘシ實驗ニ依レハ「ヨードカリウム」ハ外科的療法ヲ助ケ癒合ヲ促スルモノノ如シ本病ノ鼻腔・鞏丸ニ轉位セルモノハ概ネ不治ニ屬ス

豫防法

本病ハ瘴氣性ニシテ土地ヨリ病毒ヲ染著スルモノナルヲ以テ從來本病ヲ發シタル地方ニ於テハ獸醫警察法ヲ厲行シ以テ傳染ヲ防クヘシ注意スヘキ緊要ノ點ハ左ノ如シ (一) 獸醫警察法ノ厲行 (二) 診斷・類症鑑別・豫後等ハ學識アル獸醫ヲシテ判斷セシメ撲滅スヘキヤ將タ治療ヲ施スヤヲ決スヘシ (三) 病馬ノ屍體・發病ノ部位・臟器・病的產物・毒藥等ハ必ス燒棄スヘシ、染毒ノ土壤・隔板・遮木・厩舎ノ器具等廉價ノモノハ可成の燒却スヘシ厩舎ノ殘部及他ノ器具ハ「クロール」石灰・石灰乳・粗製石炭酸・昇汞等ヲ以テ消毒スヘシ但醗酵黴ハ抵抗力ニ富ムヲ以テ消毒ハ努メテ完全ヲ期セサルヘカラス (四) 輕症ハ治療ヲ許スモ嚴ニ隔離シ警察監督ヲ受ケシムヘシ

獸醫・馬産家竝馬ノ所有者ハ又次ノ要件ヲ服膺スヘシ (一) 衛生上厩舎内堆肥ノ舊慣ヲ廢スヘシ爲シ得ヘクンハ厩牀ヲ改築シ空氣ノ流通ヲ改良スヘシ (二) 皮膚及蹄ノ管理ハ豫防法ノ大要點ナリ之ニ依テ皮膚ノ罹病素因ヲ減シ且速ニ發病ヲ發見スルノ便アリ農民ハ馬ヲ厩舎ニ幽閉シ皮膚ノ管理ヲ怠ル者

假性皮疽

多シ故ニ此點ニ向テ特ニ注意セシムヘシ(三)本病流行地ニ於テハ可成の外傷ヲ避クヘシ蠅・虻其他ノ體外寄生蟲モ努メテ防禦スヘシ(五)皮膚ノ挫傷ヲ起シ易キ不適ノ鞍・馬具等ハ之ヲ改良シ且日日消毒スヘシ(五)厩舎並其附屬器具モ亦清潔消毒ヲ要ス(六)皮膚ノ創傷ハ直ニ洗滌消毒シ腐蝕藥又ハ烙鐵ヲ施スヘシ(七)鞍・馬具等ノ當ル部位其他發病シ易キ處ハ屢々石鹼・石炭酸・昇汞水等ヲ以テ洗滌スヘシ

夏癬 Sommerläuse. (羅)

暑疹參照

體跛行 Hip-joint lameness. (英)

療法 新鮮ニシテ患部ニ炎症症候ヲ帶ルモノハ休憩及冷湯ヲ行フ運動中跛行消失シ間歇性經過ヲ取リ且特ニ器械的原因ヲ認メ難キ時ハ痲瘋質斯性ト見做シ揮發刺戟擦劑例之「テレピン」油樟腦精「アムモニア」擦劑ノ合劑ヲ塗シ之ト共ニブリースニツツ民器法ヲ行フ筋肉ノ疾患ニアリテハ按摩ヲ施シ其營養作用ヲ助ケ變性萎縮ヲ防クヘシ八乃至十四日ヲ經ルモ改善ノ徵ナクハ發泡藥例之純「テレピン」油・昇汞酒精溶液(一・八)或ハ赤複沃度汞軟膏(一・八)ヲ用ヒ尙効ナクハ串線法・「ヴェラトリ」又ハ一〇%ノ食鹽溶液ノ皮下注射ヲ行フ或ハ烙鐵ヲ施ス

アムモニア水 七〇・〇 硫酸エーテル 五〇・〇
樟腦精 一〇〇・〇 右混和爲溶液毎日二回塗擦

肝包蟲 Echinococcosis hepatis. (羅)

療法 適當ノ療法ナシ故ニ略ホ本病ト推定シ得ルトキハ高度ノ瘦削ヲ來ササル前ニ屠殺スヘシ豫防法トシテハ狗條蟲ノ卵ヲ含有スル犬糞ニ汚レタル飲食品ヲ採ラサル様注意スルヲ要ス此目的ニハ「エヒノコツクス」ヲ含有スル臟器ハ全部棄却シ決シテ之ヲ犬ニ喰ハシメサルニアリ

肝臟破裂 Ruptura hepatis. (羅)

療法 肝臟出血ノ虞アルトキハ全然休養セシムルヲ治療ノ要旨トス「エルゴチン」・「ヒドラストイス」越幾斯・「アドレナリン」ヲ用フ「アドレナリン」ノ用量ハ馬ニハ體重百斤ニ付千倍溶液一―五・〇〇大ニハ〇・五ノ皮下注射ヲ行フ、便秘ニ對シテハ灌腸ヲ行ヒ心臟衰弱ノ徵アレハ樟腦及「カフエイン」ヲ用フ

肝臟炎 Hepatitis. (羅)

肝臟實質炎 Hepatitis parenchymatosa. (羅)

療法 攝生ニ注意シ清潔換氣善ナル厩舎ニ容レ決シテ濕氣多キ厩舎ニ容ルルヘカラス是レ門脈鬱血ヲ起セハナリ蒸熱ノ天候ニハ特ニ攝生ヲ怠ラス清涼ノ飲水ヲ與ヘ易消化飼料・青草・馬鈴薯粉粥・犬ニハ粘液肉汁等ヲ與フ藥物ハ中性鹽類人工「カルルス」泉鹽及下劑ヲ投シ胸腹壁ニブリースニツツ氏器法ヲ行フ本症若シ肺氣腫・慢性腸加答兒・胸腹水ニ由リ發シタル場合ニハ不治トス

甘汞 五・〇 アルテア根末 適量 食鹽 二五〇・〇
蘆薈末 三五・〇 右爲丸劑與フ(馬) 龍膽末 一〇〇・〇
軟石鹼 一五・〇 芒硝 五〇〇・〇 右爲散劑每食一―二食匙宛混與

肝臟破裂 肝臟炎

肝臟炎 肝蛭

(馬)
 人工カルルス泉鹽 二五〇〇
 甘草末 一五〇〇〇
 右爲散劑每食一―二食匙宛混與
 (牛・馬)
 人工カルルス泉鹽 一五〇〇
 薄荷油 二五〇〇〇
 右日々屢々一匙宛與フ(犬)
 白糖 各〇〇五
 甘汞 各〇〇五
 右混和爲散劑一包其四包ヲ作り

肝臟間質炎

肝硬化症

Hepatitis interstitialis chronica. Cirrhosis hepatis. (羅)

毎日數回一包宛與フ(犬)
 人工カルルス泉鹽 二五〇〇〇
 茴香末 八〇〇〇
 右混和爲散劑每日一手掌量宛飼
 料ニ混與(馬)
 大黃根末 五〇〇
 蘆薈越幾斯 二・五
 人工カルルス泉鹽 二五〇〇
 右混和爲散劑每日二回一小刀尖
 量宛與フ(犬)
 酒石酸カリウム 一五〇〇

クロールナトリウム 一〇〇〇
 大黃越幾斯 一・五
 アニス浸 一八〇〇〇
 右混和毎日二回一匙量宛與フ
 (犬)
 ボドファイリン 〇・一
 アニス油糖 〇・五
 右混和一回ニ與フ(犬)黃疸ノ
 場合)
 黃疸ノ條下處方參照

療法 原因ヲ除去シ食物ニ注意シ酸味又ハ刺激性飼料ヲ禁シ且爲シ得ヘクンハ飼料ノ變換ヲ行フ
 藥物ハ人工「カルルス」泉鹽ヲ用ヒ腹水ハ穿腹術ニ依リテ反覆之ヲ排除スルーゴール氏液ノ氣管内注
 射ヲ賞用スル者アルモ其効確實ナラス黃疸竝實質性肝臟炎ノ條下參照

肝 蛭

Distomatosis. (羅)

療法

本病ニ對スル適當ノ驅虫藥ナシ要ハ患畜ニ滋養食(良乾草・穀物・麩・油餅等)ヲ給シ其體質ヲ

強壯ナラシムルニアリ藥物ハ食鹽・煨性石灰・硫酸鐵・磷酸石灰・龍膽末・槲皮・杜松子其他臭性獸油・
 「クレオソート」・「ベンヂン」・「ピクリン」酸・「フェナセチン」・「テレピン」油・炭酸加里・酸化鐵等ヲ自
 由砥劑又ハ散劑トナシ食物ニ混與ス家禽ニハ蓖麻子油二食匙或ハ甘汞(〇・〇六―〇・二)ノ丸劑或ハ臭
 性獸油一茶匙ヲ與フ、患畜貧血ヲ呈シ又浮腫ヲ發スレハ可成早ク屠殺シテ肉ヲ利用スヘシ

精製硫酸鐵 六〇〇〇
 泥菖根末(或ハ薑末) 五〇〇〇〇
 挽割大麥(或ハ細碎燕麥) 二封度
 水 適量
 右爲砥劑百頭ノ羊ニ與フ
 精製硫酸鐵 三〇〇〇
 龍膽根末・吐松子末 各五〇〇〇
 挽割大麥(或ハ細碎燕麥) 二封度
 水 適量
 右爲砥劑五十頭ノ羊ニ與フ
 薯草 二五〇〇〇
 吐松子末 七五〇〇〇
 食鹽 一〇〇〇〇〇
 右爲散劑百頭ノ羊ニ與フ
 粗製硫酸鐵 七五〇〇

肝臟炎 肝蛭

杜松子 五〇〇〇〇
 龍膽末・カルビー實 各一〇〇〇〇
 右爲粉末食物ニ混シ五十一百頭
 ノ羊ニ與フ
 アブシント草末
 泥菖根末 各一〇〇〇〇
 食鹽 五〇〇〇
 テレピン油 一〇〇〇〇
 小麥粉 七五〇〇〇
 右混和羊十頭分トシテ與フ
 綿馬越幾斯 三〇〇〇
 右毎日一回五〇宛與フ(羊)
 綿馬越幾斯 五〇〇〇
 右一日量トシ四乃至五日間連用
 (牛)

アブシント草末 各二〇〇〇
 泥菖根末 各二〇〇〇
 光澤煤烟 各六〇〇〇
 食鹽 一五〇〇
 テレピン油 各六〇〇〇
 右混和羊十頭分トシテ與フ
 硫酸鐵 七五〇〇
 杜松實 五〇〇〇〇
 ゲンチアナ根 各一〇〇〇〇
 カールム實 各一〇〇〇〇
 右混和爲散劑羊五十乃至百頭分
 トシテ與フ

肝澱粉變性 肝腫瘍 肝充血 眼窩損傷 眼窩腫瘍

肝澱粉變性 Degenerative amyloidea hepatitis. (羅)

療法 療法ハ無効須カラク原病ニ治ヲ加フヘシ

肝腫瘍 Tumors of the liver. (英)

適當ノ療法ナシ

肝充血 Hyperaemia hepatitis. (羅)

療法 食餌運動ニ注意シ緩下劑ヲ投ス就中人工「カルルス」泉鹽ハ最モ適セリ

眼窩損傷 Injuries of the orbit. (英)

療法 創傷新鮮ナレハ消毒ヲ主トシ之ヲ清潔ナラシメン爲メ努メテ死滅セル組織ヲ省除シ「クロール」亞鉛液(十%)ヲ以テ洗滌スヘシ若シ眼球ヲ維持シ得ル望アレハ硼酸水(二—四%)或ハ昇汞水(〇・五%)ヲ之ニ灌漑スヘク第一期癒合ノ望ナクハ創傷ヲ屢次洗滌スヘク若シ望アラハ鄭重ニ消毒ヲ施シ後創ヲ縫合シ大動物ニアリテハ密封繃帶ヲ行フヘシ創傷重ク軟部ノ挫傷或ハ毀損甚タシク到底第一期癒合ヲ期スルヲ得サレハ消毒液點滴法ヲ持續スヘシ此法常ニ偉功アリト雖若シ之カ實行ヲ許ササレハ屢次消毒液ヲ以テ創傷ヲ灌漑スヘシ但之ニ用フヘキ藥物ハ濃厚ナルヘカラス其之ニ撰用スヘキモノハ硼酸(二—四%)・クレオリン(1%)・明礬(1%)ノ類トス

眼窩腫瘍 Tumors in the orbit. (英)

療法 眼球及贅生物ノ摘出ハ時ニヨリ奏効ナキニシモアラスト雖性質不良ナル腫瘍ニアリテハ之カ再發ヲ防遏スルニ困難ヲ感スヘシ

眼瞼外反 Ectropion. (羅)

療法 先ツ結膜炎ヲ治療ス結膜ノ炎症去ルモ眼瞼猶正位ニ復セサレハ癬痕組織ニヨリ治療スルノ法ニ依ルヘシ其法ハ下瞼ノ外半部ニ於テ幅〇・五—一仙迷ナル尖頭穹窿形ニシテ殆ト三角形ヲナシ其眼ニモ亦對等ノ縫合ヲナスコトアリト雖如此ハ敢テ必要ナラス

眼瞼内反 Entropion. (羅)

療法 經久セサルモノハ結膜炎ノ消散ニヨリ自カラ治癒スト雖經久症ニアリテハ手術ヲ行フ、手術ハ剪刀ヲ以テ翻轉セル眼瞼ヲ截除スルニアリト雖容姿ヲ損ス他ノ一法ハ通常鑷子ヲ以テ眼瞼ノ皮膚ヲ撮起シテ幅〇・五—一仙迷ナル皺襞ヲ作り反轉セル眼瞼ノ復位スルヲ度トシ眼瞼ヲ距ルコト〇・五仙迷ノ所ニ於テ剪刀ヲ以テ之ヲ切除スルニアリ術後ハ創緣ヲ縫合スルノ要ナシベルリン氏ハ犬ノ外眥ノ下方ニ方テ眼ヲ距ル七密迷ノ部分ニ鼠齒鑷子及外科刀ヲ加ヘテ橢圓形ノ皮膚切開ヲナス而シテ其創孔患犬ノ體積及内反ノ程度ニ由リテ大小一ナラスト雖中等大ノ犬ニアリテハ橫徑約三五密迷縱徑一六—一八密迷ナルヘク刀ヲ下スニ先チ剃刀又ハ剪刀ヲ以テ毛ヲ刈除ス豫メ切除部ノ位置大小及形狀ヲ正シク期定スルヲ要ス創口ノ縫合ハ營ニ要ナキノミナラス行ハサルヲ以テ却テ良効ヲ得ヘシ

眼瞼炎 Blepharitis. (羅)

眼瞼外反 眼瞼内反 眼瞼炎

療法 原因ニ由リテ處置ス即チ他ノ重症ノ爲メ久シク動物ヲ横臥セシムルトキハ屢々位置ヲ變換シテ瘡瘡ヲ豫防スヘシ頭絡ノ摩擦ニ由ルモノハ頭絡ノ釘着緊急ニ失シタルカ爲メ馬ノ之ヲ免レントスル結果ニ由ル次テ之カ豫防ニハ約掌大ノ硬革ヲ項革ニ結着シ頤革ヲ二重ニ裝着スルヲ可トス眼瞼ノ挫傷ニアリテハ適當ノ冷卷法ヲ施スヲ以テ足レリトス外皮ノ剝脫セルモノニアリテハ撒布藥「タンニンヨード」フオルム」及澱粉ノ撒布或ハ緩和ノ脂肪・鉛糖又ハ皓礬ヲ用ヒ濕疹及其他ノ皮膚病ニアリテハ各々適應ノ療法ヲ施スヘク膿瘍ニアリテハ速ニ切開スヘク皮膚壞疽ニアリテハ一般ノ壞疽療法ニ從フヘシ

鹽酸コカイン

〇・二一 豚脂

一〇・〇一

右混和爲軟膏眼軟膏トシテ與フ

眼瞼癒着

Atresia parpebrarum. (羅)

療法 剪刀ヲ以テ上下眼瞼ヲ切離シ再癒着ヲ豫防スル爲メ熔製硝酸銀ヲ以テ創縁ヲ燒烙シ脂肪若ハ「ワゼリン」ヲ塗布シ爾後日々洗滌ス

眼瞼腫瘍

Tumors of the eye-lids. (羅)

療法 具頸贅疣ハ剪刀ヲ以テ截除スヘク無頸腫瘍ハ外科刀ヲ以テスヘシ但其際深ク意ヲ再發ノ豫防ニ用ヒサルヘカラス藥劑ハ「クローム」酸強溶液克ク之ニ應ス

眼眶炎

Blepharitis marginalis. (羅)

眼瞼炎參照

眼眶癒着

Ancyloblepharon. (羅)

療法 鈹ヲ以テ癒着眼瞼ヲ切離ス(眼眶成形術)

眼球脫

Prolapsus oculi. Exophthalmos. (羅)

療法 咬傷或ハ暴壓ニ由ルモノノ如キ脫位ノ新鮮ナル場合ニアリテハ可成速ニ整復ヲ計ルヘシ脫位愈々久シキヲ經ハ復位愈々困難トナリ眼ノ危害愈々加ハル是レ患部ハ時ヲ經ルニ從ヒ血液及炎性滲出物漸ク加ハルカ故ナリ、整復法ハ先ツ微温湯ヲ以テ眼球ヲ洗滌シ上下ノ眼瞼ヲ緊張シテ角膜ヲ覆ヒ兩手ノ拇指ヲ以テ之ニ壓迫ヲ加ヘツツ眼球ヲ窩内ニ復納スルコトニ努ムヘシ手術困難ナルハ脫出ノ眼球ニ少許ノ油劑ヲ加フヘシ如斯スルモ復位ヲ得サレハ球頭剪刀ヲ以テ三―五密迷間外皆ニ切開チ行フテ瞼裂ヲ擴大スヘシ眼球復位後ハ再脫ヲ豫防スル爲ニ截開部ノ縫合ヲ要ス脫出後多ク時日ヲ經過セス窩内ニ於テ軟部未タ腫脹ヲ生セサル間ハ此方法ニ依ル復位常ニ容易ナルノミナラス術後眼球ヲ其本位ニ保持スルコト亦難カラスト雖既ニ再脫ノ虞アルニ至ラハ結膜ヲ傷ケスシテ眼瞼ノ外皮ニ一若ハ二點ノ縫合ヲ加ヘテ之ヲ防禦スヘシ、施術後ハ特ニ肉食獸ニ於テ約二十四時間ハ餌食ヲ禁ス是レ咀嚼ノ爲メ再脫ノ虞アレハナリ、脫出後十二―二十四時間ヲ經過シ角膜ノ表面既ニ乾燥スルカ或ハ窩内ニ腫瘍ノ存スルアリテ復位スルコトヲ得サルトキハ眼球ヲ摘出スルノ外術ナシ且同時ニ腫瘍ヲモ切除スヘク其法ハ彎刃剪刀ヲ以テ行フヘキモノニシテ鉤狀鑷子ヲ以テ角膜ノ近傍ニ於テ眼球結膜ヲ撮起シ先ツ之ヲ鞏膜ヨリ切除シ徐ロニ剪刀ヲ挿入シテ圍繞ノ軟組織ヲ切離シ終ニ視神經ヲ切斷スルニアリ眼球摘出後ハ消毒液(昇汞水・石炭酸水)ヲ以テ眼窩ヲ洗滌シ石炭酸綿俞的或ハ繃帶材

眼眶癒着 眼球脫

料ヲ之ニ填充シ眼瞼ノ外皮ニ二三ノ縫合ヲ加ヘテ一ハ填實物ヲ保定シ一ハ出血ヲ止ムルノ用ニ供ス但大血管ノ切斷ヲ要スルトキハ豫メ之ヲ結紮スヘシ二十四時間ヲ經ハ糊帶ヲ除去シ其後ハ日々一―二回消毒藥ヲ以テ眼窩ヲ洗滌スヘク肉芽發生セハ相應ノ處分ヲ行フヘク創口全ク癒ユル後ハ飼主ノ望ニ應シテ偽眼ヲ用フルコトアリト雖犬猫ニアリテハ多ク之ヲ厭フテ自カラ其眼ヲ搔傷スルノ困難ニ會ス偽眼ニハ硬護膜製ノモノ之ニ適スト雖使用ノ間屢々眼ヲ洗滌セサルヲ得サルヲ以テ高價ノ馬ニアラサレハ之ヲ用フルコトナシ

眼球顫動 Nystagmus. (羅)

療法 中毒・腦症・腦脊髓膜炎ノ場合ニ發ス原病ノ治療ヲ施スヘシ構成異常ニ由ル先天的顫動ハ素ヨリ不治トス

眼 翹 Pterygium. (羅)

療法 先天性ノ贅片ニシテ弛ク角膜ヲ覆ヘルモノハ刀若ハ剪刀ヲ以テ容易ニ切除スルヲ得ヘシト雖角膜溷濁ヲ免ルル能ハス癩痕翼狀贅片ハ患畜ニ休養ヲ命シ刺撃ヲ減シテ贅生物爾後ノ發育ヲ防止スルニ過キスホフマン氏ハ外觀ヲ粧フ爲メ剗刺法ヲ賞用ス

間歇性眼炎 月盲 Iridochorioiditis recidiva Ophthalmia periodica. (羅)

療法 患馬ハ蕃殖用ニ供セス隔離シ牧場ヲ變更シ排水法ヲ設ケテ土地ヲ乾燥シ發作ノ時期ニハ攝生・飼料ニ注意シ穀類ヲ禁シ夏ハ青草ノミヲ與ヘ便秘アレハ下劑・灌腸ヲ施シ眼充血ヲ防キ暗廄ニ容

レ温包シ患眼ヲ覆ヒ「アトロピン」(1%)液ヲ毎日二三回點眼シテ癒着ヲ防キ冷卷法ヲ施シ疼痛甚シケレハ「コカイン」液ヲ點眼シ滲出液ノ吸收ヲ促ス爲メ鹽酸「ピロカルピン」ノ皮下注射ヲ試ム英式療法ハ消炎及誘導療法ニシテ甘朮或ハ蘆薈内服ヲ連用シ營養善良ナルモノハ刺絡(顫動脈)ヲ行フ第二期ニ於テハ甘朮或ハ「ベラドンナ」軟膏(1:3:30)油ヲ塗布シ誘導法トシテ芫菁軟膏ヲ咬筋部或ハ項部ニ塗布シ或ハ烙鐵ヲ施ス或ハ加里液(1%)・芳香浸汁ニ酒精ヲ伍シテ眼ノ洗滌及卷法ヲ行フ結膜囊ニハ黃降朮軟膏ヲ塗ス近時「ピオクタンニン」(0.1-1%)ヲ毎日結膜囊内ニ點眼スルヲ賞揚スル人アレトモ本藥ハ角膜及鞏膜ヲ經テ傳染原ヲ撲滅スルヤ否ヤ疑ハシ、虹彩切除術及角膜穿刺術ヲ試ミ癒着セル虹彩ヲ切除シ滲出液ヲ排除シテ眼内壓ヲ減スル法モ亦効アリト雖毎時奏効スルモノニアラス施術ノ困難ト貽患ノ多發トハ未タ確實ナル手術トシテ賞用スルニ足ラス虹彩切除術ハ馬ヲ充分麻醉セシメ(同時ニ「コカイン」液點眼)次ニ眼瞼及眼球ヲ固定シ鎗狀刀ヲ以テ角膜ノ上外緣ニ一刺ヲ行ヒ次ニ彎鑷子ヲ角膜創口ヨリ眼房内ニ挿入シ虹彩ノ瞳孔緣ヲ把取シ剪刀ヲ以テ截除ス此時虹彩斷根ハ創口ニ接近セルヲ以テ徐ロニ之ヲ眼房内ニ復還シ後覆蔽シテ動物ヲ靜養セシムヘシ角膜ノ創口ハ日ナラスシテ癒合スヘク虹彩ノ斷面ヨリ眼房ニ溢出セル血液ハ數週ノ後全然吸收シ去ルヲ法トス要スルニ本病ノ療法トシテ古來試用シタル藥物及方法ハ頗ル多樣ナリト雖確効ヲ舉クルモノ尠シ本症病原ヨリ推セハ消毒法ニ若クモノナシト雖病魔ノ位置常ニ内部ニ存シ消毒藥ヲシテ其効ヲ逞フセシムルコト頗困難ナリ須カラク「アトロピン」ノ點眼ニヨリ瞳孔ヲ散大セシメ毛様筋ヲ麻痺セシメ一ハ虹彩癒着ヲ防キ一ハ疼痛ヲ減シ虹彩ノ運動ヲ制シテ該部ノ刺戟ヲ和ラケ其附近ニ傳染毒ノ蔓延ヲ防クニ止マル其他攝生食物ニ注意シ下劑ヲ連用スル等ニ過キス頑固慢性ノモノハ眼球摘出術ヲ行フ

貫創 管骨瘤

硼酸 二・〇
 鹽酸コカイン 〇・二
 右爲溶液點眼水トス 一〇〇・〇
 鹽酸コカイン 〇・一
 鹽酸モルヒネ 〇・二五
 クロールナトリウム 〇・二
 右爲溶液滅菌シ更ニ五%石炭酸
 ニシユライヒ氏浸潤麻醉液(中
 等度ノ)トシテ與フ——三日間
 有效
 硫酸アトロピン 〇・二
 右爲溶液毎日三回點眼(虹彩癒)

貫創

Vulnera perforans. (羅)

著アル場合ニ強散瞳劑トシテ)
 鹽酸ピロカルピン 〇・〇五—〇・一
 右爲溶液皮下注射 一〇〇・〇
 硫酸アトロピン 〇・一
 右爲溶液毎日三回點眼(中等ノ
 散瞳劑トシテ)
 ホマトロピン 〇・〇二
 右爲溶液點眼水トス(檢眼鏡使
 用ノ場合)
 ヨードカリウム 三・〇
 右爲滅菌溶液卷包料トス 一〇〇・〇
 ヨードカリウム 二・五

11011

鹽酸コカイン 二・〇
 グリセリン 一〇〇・〇
 滅菌蒸餾水 一〇〇・〇
 右爲溶液毎日二回宛點眼
 ヨードカリウム1% 一〇〇・〇
 右上腺ニ注射
 プローム水素酸スコポラミン 〇・〇一
 右爲溶液毎日數回點眼(散瞳劑
 トシテ)
 硫酸フィゾスチグミン 〇・〇五
 スプラレニン溶液(千倍) 三・〇
 右爲溶液結膜囊内ニ點滴 一〇〇・〇

刺創ト略同様ノ療法ヲ施ス

管骨瘤

Splints. (英)

療法 蹄鐵ヲ改装シ合理的の裝蹄ヲ施シ肢ノ負重ヲ平均ニシ休憩ヲ命シ役務ヲ免ス骨膜炎ニ向テハ
 冷湯・解凝軟膏ノ塗布例之灰白水銀軟膏「ヨード」丁幾ヲ用フ皮膚ニ創傷無ケレハ發疱藥ヲ用フ就中赤
 複「ヨード」汞軟膏・昇汞軟膏最モ効アリ例之昇汞一分・酒精四分ノ合劑ヲ塗布シ「コルク」ヲ以テ強ク
 擦入ス之カ爲ニ皮膚及皮下織ニ腫脹ヲ起シ骨膜ニ適度ノ壓迫ヲ與ヘ滲出及増殖ヲ妨ケ竝ニ吸收ヲ促
 進ス烙鐵モ亦同一ノ効ヲ奏ス若シ此ニ法ヲ施シ能ハサル場合ニハ壓迫繃帶ヲ代用ス毎日一回水銀軟
 膏ト「ラノリン」トノ等分ヲ強ク摩擦シ不絶壓迫繃帶ヲ縛シ置クヘシ之ト共ニ按摩ヲ毎日一回施ス(軟
 キ木片或ハ錫匙ニテ摩擦スヘシ)尙壓迫ヲ強クセントセハ厚キ靴底革ノ小片ヲ骨瘤ニ壓抵シ繃帶ヲ以
 テ緊縛ス毎日一回改装シテ皮膚ヲ檢視シ壞疽ヲ起ササル様注意スヘシ骨膜切除術ヲ賞用スルモノア
 リト雖其結果却テ瘤ヲ大ニシ甚キハ骨ノ壞疽ヲ來スノ虞アリ縱令消毒ヲ嚴ニスレハ此害ナシトス
 ルモ今日迄此手術ハ未タ良効ヲ報セルモノ少シ赤熾烙鐵ヲ骨瘤上ノ皮膚ヲ貫通シテ施スハ英佛ニ於
 テ賞用セラル

昇汞 四・〇
 酒精 一六・〇
 右局所塗布
 純ヨード 五・〇
 グリセリン 二〇・〇
 右混和毎日一回宛刷毛ヲ用ヒテ
 塗擦ス但痂皮形成マテ連用
 管骨瘤

純ヨード 五・〇
 ヨードカリウム 七・五
 パラフィン軟膏 五〇・〇
 右混和爲軟膏外用(但貴種ニシ
 テ皮膚薄キ馬ニ用フ)
 赤複ヨード汞 三・五
 石鹼精 三五・〇

樟腦軟膏 二〇・〇
 右混和毎日一回宛塗擦
 ヨード丁幾 三〇・〇
 灰白水銀軟膏 一〇〇・〇
 右混和外用
 赤複ヨード汞 三・〇
 灰白水銀軟膏 二〇・〇

顔面神經麻痺 癌腫 冠膝

二〇四

綠石鹼	各二〇〇〇	右混和「コルク」ヲ用ヒテ患部ヲ
右混和爲軟膏	一回宛塗擦	塗擦ス
昇汞	五〇〇	カンタリス末
酒精	三〇〇〇	木タール
		四〇〇〇

右混和局部ノ被毛ヲ剪去シ毎六
—八日一回宛刷子ヲ用ヒテ塗擦
ス

顔面神經麻痺

Paralysis nervi facialis. (羅)

療法 外傷又ハ感冒ニ原因スル顔面神經麻痺ハ特殊ノ治療ヲ要セス殊ニ牧場ニ放テハ速ニ治癒ス
顔面及耳筋ニ對シ按摩及電流ノ正規的應用ヲ試ミ腫瘍又ハ膿瘍ニ因ルモノハ外科手術ヲ行フ凡テ患
畜ニハ軟食ヲ與ヘ食後頰及齒列間ニ嵌留セル哺塊ヲ除去スヘシ

癌

腫 Carcinoma. (羅)

療法 刀或ハ鋏ヲ以テ可成早ク全部截除スルニアリ腫瘍ノ周圍一仙迷テ距テテ健部ヲモ共ニ除去
スヘシ斯クスルモ再發スルコトアリ人ニアリテハ一—三年ニテ再發スルコトアリ除去後ハ腐蝕藥(砒
石)烙鐵ヲ施用ス手術ヲ施シ能ハサル場合ニハ凡テノ外科的療法ヲ避クヘシ是レ不快ノ潰瘍ヲ發生ス
ルノ虞アレハナリ腫瘍實質内注射(硝酸銀・醋酸等)モ亦効力尠シ屠殺獸ハ肥肉シテ屠殺スヘシ

冠膝

Broken knee. (英)

療法 皮膚ヲ透傷セス上皮ノ剝離ニ止マレハ其部ヲ洗淨シテ「ワゼリン」鉛糖軟膏ヲ塗布シ或ハ繃
帶ヲ纏ヒブロー氏液ノ冷湯ヲ施ス皮膚ヲ破損セハ休憩ヲ命シ關節ノ運動ヲ防キ大癩痕ヲ遺ササラ
シム臙膜露出スレハ最モ消毒ヲ嚴ニシ頭ヲ高ク繫留シテ横臥ヲ禁シ繃帶ヲ施ス馬不安ニシテ繃帶ヲ

許ササレハ開放療法ヲ施ス即チブロー氏液或ハ昇汞液ノ連續灌漑ヲナス創液排泄過多ナレハブ
ロー氏液ヲ宜シトス後ニ至レハ消化軟膏ヲ以テ肉芽ノ發生ヲ促ス但シ此軟膏ヲ用フル早ニ失スヘカ
ラス又可成肉芽ノ發生ヲシテ各部均一ナラシムヘシ「ヨード」フオルムタンニン「若ハ」ヨードフオル
ム「白糖」ハ肉芽發生ヲ防キ乾痂皮ヲ結ハシメ痂皮ノ下ニテ治機整然トシテ進行シ速ニ癒ヲ致ス創深ク
シテ關節腔ニ達セルモノハ昇汞・石炭酸・クレオリン「水等ニテ精密ニ洗滌シ」ヨードフオルムコロヂ
ウムヲ以テ創口ヲ塞キ繃帶ヲ施ス要ハ關節ノ運動ヲ防クニアリ既ニ化膿スレハ防腐液ノ連續的灌漑
ヲ行フ其他ハ一般ノ創傷療法ニ依ル

關節癩麻質斯

Rheumatismus articularum. (羅)

療法 關節癩麻質斯ノ特效藥ハ「サリチール」酸及其鹽類(「サリチール」酸「ナトリウム」ナリトス
即チ大動物ニハ本藥三〇〇—四〇〇ヲ一日二三回與ヘ小動物ニハ一〇—二〇ヲ一日三四回與フ
之ニ依リテ通常第一日ニシテ解熱シ局所症狀モ緩解ス、良結果ヲ得ントセハ本藥ヲ持續スルヲ肝要
トス又「アンチヘブリン」・「アンチピリン」・「ザリピリン」・「ザロール」ヲ代用スヘシ所患關節ノ局所
療法トシテハ「ヨード」フオルム・樟腦・石炭酸ノ軟膏又ハ灰白水銀軟膏ノ塗擦ヲ行ヒテ後樟腦ヲ混ス
ルブロー氏液ヲ以テ卷法ヲ施スヘシ患畜ハ全然休養セシメ畜舎ヲ溫暖ニシ且柔軟ナル蓐藁ヲ多給
ス關節ノ慢性變狀ニハ按摩法又ハ吸收劑ヲ應用ス牛ハ甚タシク瘦削セサル前ニ屠殺シテ肉ヲ利用ス
ヘシ(滑液膜炎參照)

ヒヨス油

四分—クロロフォルム

一分—

右混和爲擦劑一日四回塗布

關節癩麻質斯

二〇五

關節癩麻質斯

豚脂 一〇〇〇〇〇
 枸橼酸コロホニウム 八〇〇〇〇
 芫菁末 三五〇〇〇
 龍骨木末 六〇〇〇
 テレピン油 一二〇〇〇
 右朝夕二回宛水疱ノ發スル迄塗布ス(牛)
 巴豆油 一〇〇
 テレピン油 三〇〇
 右混和馬ノ肩胛癩麻質斯ニ塗布
 ヴエラトリン 〇・五
 酒精 五〇〇
 右爲溶液毎日五〇宛皮下注射
 二回(馬)
 アンチヘブリン 五〇
 アラビヤゴム・白糖 各適量
 右爲十九日一日乃至二九與フ
 (犬)
 硫酸エーテル 各六分
 酒精 各六分

二〇六

巴豆油 一分
 右一日二回宛水疱ノ發スル迄塗布ス
 亞麻仁油 九〇〇
 苛性アンモニア精 各四〇〇
 テレピン油 各四〇〇
 右一日三回塗布
 エーテル 各二五〇
 テレピン油 二五〇
 樟腦精 二五〇
 右外用塗擦
 サリチール酸ナトリウム一〇〇
 右爲五包毎三時一包宛水ニ溶解シテ與フ
 右爲溶液一日三―五食匙ヲ與フ
 (犬ノ熱性關節癩麻質斯)
 イヒチオール 五〇
 豚脂 五〇

右爲軟膏外用
 アムモニア擦劑 一五〇
 テレピン油 五〇
 右肩胛癩麻質斯塗擦(馬)
 テレピン油 一〇
 樟腦精 三〇
 右犬ノ關節ニ塗擦ス
 サリチール酸ナトリウム 六〇
 サルチール酸 一〇
 ワソージェン 六〇
 右混和爲軟膏毎日二回宛塗擦
 ラヘンデル油 一〇
 カンフル丁幾 三〇
 右混和爲溶液塗布ス
 重クローム酸カリウム 四〇
 ヨードカリウム 六〇
 ワゼリン 三〇
 右混和塗擦料トス
 ラクトフェニン 〇・五
 白糖 一〇

右爲一包四包ヲ與フ一日二三回
 一包宛(犬)

アスピリン 各〇・五
 白糖 各〇・五

右爲一包其五包ヲ與フ二日分服
 (犬)

右爲一包其五包ヲ與フ二日分服
 (犬)

關節創傷 Wounds of the joint. (英)

療法 關節創傷ハ嚴密ナル防腐法ヲ施スヲ要ス即チ創傷及其周圍ヲ迅速ニ且充分ニ洗滌清潔ニシ防腐ス成シ得ヘクハ防腐的閉鎖繃帶ヲ行フ大創傷ハ縫合ヲ施スヘシ又「ヨードフォーム」ヲ撒布シ適當ナル繃帶ヲ施スヲ可トス創傷ヲ無敗性ニ保タントセハ繃帶ヲ防腐液(石炭酸・昇汞等)ヲ以テ一兩日間潤シ可成損傷セル關節ハ繃帶ニ依リテ不動性ニ保ツヘシ然レトモ此法唯小動物ニ於テ行フヲ得ルノミ著シキ體溫昇騰及他ノ熱性症候或ハ顯著ノ疼痛發起シ或ハ創傷液若ハ血液ヲ以テ浸潤セルトキハ之レヲ改装スヘシ若シ關節既ニ病徵ヲ現セハ強力ナル防腐法ヲ試ムヘシ即チ關節腔ニ石炭酸或ハ昇汞水ヲ注入シ或ハ創傷ニ連續灌漑ヲ行フ後者ハ殊ニ繃帶ヲ施用スルニ適セサル動物及大創ニ於テ殊ニ必要ナリ灌漑ニハ「クレオリン」・石炭酸・昇汞水或ハブロー氏液ヲ用フ數日ヲ經過スレハ清潔ナル微溫水ヲ用フ灌漑ハ晝夜共ニ連續スレハ良効アリ小創殊ニ刺創ニ於テハ古代ヨリシテ實驗家ハ刺戟軟膏或ハ烙鐵ヲ用ヒタリ刺戟藥ノ効用ハ主トシテ軟部ノ腫脹ヲ起シ之ニヨリテ創管ノ狹窄或ハ閉鎖ヲ來シ以テ關節内ニ傳染毒ノ侵入ヲ防禦スルニアリメラ氏ハ之ト同様ノ目的ニ昇汞ヲ用フ即チ昇汞酒精溶液(一・一〇)ヲ用フ本藥ハ芫菁軟膏ニ比スレハ深部ニ達スル作用アルヲ以テ之ヲ賞用ス。關節創傷療法ノ第二要旨ハ可成迅速ニ滑液ノ漏出ヲ防禦スルニアリ其ノ良法ハ關節ノ完全ナル不動ニアリ然レトモ唯小動物ニ於テナシ得ルノミ故ニ通常他ノ藥物ヲ用ヒサルヘカラス即チ「タンニン」酸ハ滑液ヲ凝固セシメ且防腐ノ効アルニ由リ之ヲ粉末或ハ溶液トシテ用フ例之槲皮煎汁又ハ「タ

關節創傷

ンニンコロヂウム(一〇・二)ノ如シ又「ヨードフォルムタンニン」ヲ以テ皮膚ヲ被覆シ其周圍ニ芫菁軟膏ヲ塗布ス或ハ「ヨードフォルムコロヂウム」ヲ塗布ス又過「クロール」鐵ヲ「コロヂウム」ト同量ニ混和シ關節ノ創口ヲ閉鎖ス然レトモ本藥ハ濕潤ナル表面ニハ固著セサルカ故ニ其應用ハ制限セラル反之昇汞ヲ多ク用フ即チ粉末或ハ溶液ノ形狀ニ於テ栓塞絲ト共ニ創内ニ挿入スヒンメルストツス(Hinckel)氏ハ昇汞挺子ヲ用フ此モノハ昇汞及「カカオ」酪ノ同量ヨリ成リ創内ニ挿入シ次ニ絆創膏ニテ閉塞ス場合ニ依リテハ滑液ノ漏出ハ緊キ繃帶ニ依リテ防クコトヲ得ヘシベツチオールド(Petzold)氏ハ護繃繃帶ヲ損傷セル關節ニ纏ヒ之ニヨリテ創傷ヲ閉塞シ關節炎ノ發作ヲ避ケタリ

- | | | | | |
|-----------------|-------|-----------------------|---------|------------|
| ヨードフォルム | 一〇・〇 | 餉水 | 五〇・〇 | 右混和毎日四回宛塗布 |
| アラビアゴム漿 | 各二〇・〇 | 右爲溶液毎日三回患部周圍ニ皮下注射 | ヨード | 一〇・〇 |
| グリセリン | 四〇・〇 | 昇汞 | 五〇・〇 | ヨードカリウム |
| 白陶土 | 各二〇・〇 | 酒精 | 五〇・〇 | 一〇〇〇・〇 |
| 右混和爲泥膏「ヨードフォルム」 | | 右爲溶液「タムボン」トシテ創面ニ用フ(馬) | 右爲溶液洗滌料 | 五〇・〇 |
| 泥膏トシテ與フ | | 各二〇・〇 | 餉水 | 各三〇・〇 |
| 過クロール鐵液 | 五〇・〇 | 流動石炭酸 | 稀酒精 | 四〇〇・〇 |
| コロヂウム | 三〇・〇 | 稀酒精 | | |
| 右混和外用 | 一〇・〇 | | | |
| 石炭酸 | | | | |

關節炎

Arthritis. (羅)

療法 患者ニ休養ヲ命シ急性漿液性化膿性關節炎ニアリテハ最初關節冷湯ヲ行フ即氷囊或ハ鉛糖

水或ハブロー氏液ノ灌溉等ヲ用ヒテ不絶冷却ス次テブリースニツツ氏卷法ヲ施ス弱刺戟藥ヲ皮膚ニ塗布ス(灰白水銀軟膏ト「バラヒン」ノ合劑)或ハ快方ニ向ヘハ關節内ノ貯溜液ノ分解吸收ヲ促ス爲樟腦精「テレピン」油等ノ藥物ヲ關節ニ塗布ス之ニ兼ルニ壓迫繃帶ヲ以テスヘシ劇痛ニハ「クロロフォルム」・「ヒヨス」油ヲ用ヒ慢性頑固症ニハ刺戟藥ヲ施シ附近ニ串線打膿法・烙鐵ヲ用フ關節ノ周圍ニ膿瘍又ハ瘻管ヲ生スレハ切開シテ石炭酸酒精注入ヲナシ之ニ温巴布ヲ兼用ス轉移性關節炎ニアリテハ水銀劑・沃度劑ニテ消散ヲ試ミ吸引管ヲ關節ニ刺入(充分消毒)シテ滲出液(或ハ膿汁)ヲ吸收スルカ或ハ刺戟誘導劑ヲ塗布ス、滑液膜炎參照

- | | | | |
|-------------|-------|------------|-------|
| 樟腦 | 一五〇・〇 | 芫菁末 | 四〇・〇 |
| テレピン油 | 六〇・〇 | 龍骨木ゴム | 三〇・〇 |
| アムモニア水 | 三〇・〇 | 亞麻仁 | 六四・〇 |
| 酒精 | 七二〇・〇 | テレピン油 | 一〇〇・〇 |
| 右混和關節周圍ニ塗布ス | | 右爲擦劑慢性症ニ用フ | |

關節遊體

關節鼠

Mures articularis. (羅)

療法 遊體ヲ除去スルニアリ人ニ於テハ特別ノ困難ナシト雖動物ニ於テハ人ニ於ケルカ如ク防腐法ヲ正シク行フ能ハス故ニ關節遊體ヲ滅或ハ烙鐵ヲ以テ穿刺シ其關節囊トノ癒著ヲ試ムヘシ若シ關節遊體ヲ除去セントセハ防腐法ヲ勵行シ關節切開術(Arthrotomie)ヲ行フヘシ局所剪毛後皮膚ハ鹼洗シ石炭酸或ハ昇汞水ニテ洗シ遊體ニ接近シテ切開シテ之ヲ壓出スヘシ次テ創傷ハ注意シテ縫合シ被覆繃帶ヲ纏ヒ關節ヲ可成不動性ニ保持スヘシ

乾癬 腰疼 腰痛
 乾癬 Psoriasis. (羅)
 慢性鱗屑濕疹參照

腰疼 Kreuzlaehmung. (獨)

療法 患者ハ可成起立セシメ置クヘシ横臥セルモノハ屢々起立ヲ試ミ能フ丈ケ起立ヲ命シ吊馬器ニテ懸吊ス横臥セハ屢々臥位ヲ交換シ導創ヲ豫防シ腰臀部ノ摩擦・按摩及刺戟擦劑(樟腦精・「テレビ」油・「アムモニア」水)烙鐵ヲ用ヒ下劑ハ「エゼリン」(〇・一)ヲ皮下注射シ「カテーテル」ニテ排尿シ少量ノ易消化食物ヲ與ヘ之ニ重曹ノ大量(日量五〇〇・〇〇)ヲ加フ導創ハ消毒收斂藥ニテ所置ス緩慢ノ腰疼ニハ十二乃至十六ノ亂刺ヲ腰部ニ施ス

不全腰疼
 安靜懸吊シ器械的刺戟ニ由ルモノハ局所冷濕「レウマチス」性ナレハ「ブリース」ニツツ氏電法・刺戟藥塗布「ストロキニーネ」注射・脊髄疾患ノ疑アレハ刺戟擦劑(芥子油完膏軟膏等)ヲ施シ胎後ノ筋肉萎縮ニハ運動・按摩・輕打ヲ試ム「ヴェラトリン」皮下注射ハ有効ナリ犬ニハ電氣ヲ施ス大動物ニハ用ヒス
 硝酸ストロキニーネ 〇・〇五 右爲溶液皮下注射(馬)
 餉水 五・〇 — ザロール 五・〇 — (犬)

腰痛 Lumbago. (羅)

療法 吊馬器ニヨリテ患馬ヲ懸吊起立セシメ、能ハサルモノハ多量ノ柔軟乾燥ノ蓆ヲ設ケテ横臥

セシメ屢々起立ヲ試ムヘシ常ニ横臥スルモノハ反覆臥位ヲ交換ス全軀ヲ摩擦シ後溫包ス腰部ニ刺戟擦劑塗布・腸内テ空虚ニスル爲メ冷水灌漑「エゼリン」〇・一皮下注射或ハ下劑ヲ投ス飲水ニハ鹽酸例之硫酸(一五・〇)鹽酸ヲ混シテ内服・導創ヲ發スレハ其治療ヲナス攝生ニ注意シ易消化飼料ヲ與フ

- | | | | | | | |
|--------------|-------|------------------|-----------------|------------------|------------------|----------|
| 粗製明礬 | 一〇・〇 | 右混和爲散劑一日内ニ與フ | 右混和爲散劑一日内ニ與フ | (本處方ハ牛ニモ用フルコトヲ得) | スコボラミン | 〇・〇一 |
| 醋酸鉛 | 二〇・〇 | 右混和爲散劑一日内ニ與フ | ブローム水素酸アレコリン | | 右爲溶液皮下注射量一回分トス | 一五・〇 |
| 常水 | 一〇〇・〇 | 右混和爲散劑一日内ニ與フ | 餉水 | | (後軀ノ持續的運動障礙アル場合) | |
| 鹽酸キニーネ | 八・〇 | 右混和爲散劑一日内ニ與フ | 右爲溶液皮下注射量一回分トス | | ヴェラトリン | 〇・〇五—〇・一 |
| 麥角越越斯 | 五・〇 | (本處方ハ牛ニモ用フルコトヲ得) | 硫酸フィゾスチグミン | | 酒精 | 一〇・〇 |
| アルテア根末 | 各適量 | | 餉水 | | 右爲溶液皮下注射量一回分トス | (腰部ニ) |
| 水 | | | 右爲溶液皮下注射量一回分トス | | 鹽酸ピカロカルビン | 〇・七 |
| 重曹 | 二五〇・〇 | | 餉水 | | 右爲溶液皮下注射量トス | 一〇・〇 |
| 亞麻仁 | 五〇〇・〇 | | 樟腦油 | | 右爲溶液皮下注射量トス | 一個 |
| 右混和爲散劑一日内ニ與フ | | | 精製エーテル | | 右混和爲散劑一日内ニ與フ | |
| 重碳酸ナトリウム | 五〇〇・〇 | | 下注射(衰弱及麻痺狀態ノ場合) | | ルムバーギン | |
| 亞麻仁 | 五〇〇・〇 | | | | 右靜脈内注射料一回分トス | |

羊 虻

鹽化アドレナリン溶液(一萬倍)

二〇・〇

右注射液一回分トス

ヨデピン

三五・〇

右皮下注射液一回分

生理的食鹽水(〇・九%)

四・〇リートル

右二乃至三回靜脈内注射(重症ノ場合)

生理的食鹽水(〇・九%)

一リートル

ストロファンチン

〇・〇一〇・〇一五

右混和靜脈内注射料トス

ヨードカリウム

一〇・〇

餵水

一〇〇〇・〇

右爲溶液靜脈内注射料トス(病ノ初期ニ用フ)

ヨードカリウム

一〇・〇

餵水

一五〇〇・〇

二二二

右爲溶液靜脈内注射液一回分トス

ヨードナトリウムアイゴン

一〇・〇一五・〇

アルテア根末及水

七〇・〇

右混和爲丸劑一回ニ與フ

ブロームカリウム

四〇〇・〇

餵水

右爲溶液一回ニ與フ

羊 虻

Oestrus ovis. (羅)

療法 圓鋸術ヲ施シテ患部ヲ露出シ現存スル幼蟲ヲ除去スルヲ最良ノ療法トス殘留スルモノハ適當ノ液ヲ注入シテ麻醉セシムルヲ宜シトス然レトモ此療法ハ多數ノ羊ニ發生シタルトキハ殆ト實行スルコト能ハサルニヨリ唯貴重ナル羊ニシテ施スヘシ縱令手術ヲ行フモ充分ノ効驗ナク殊ニ劇シキ腦症狀ヲ呈スルモノハ無効ニシテ死ニ歸ス故ニ重患ノモノ若ハ圓鋸術ニ依リテ輕快セサルモノハ速ニ屠殺スヘシ

豫防法 豫防法ハ頗ル困難ナルモ要旨ハ幼蟲ヲ撲滅スルニ在リ此目的ニハ時々羊舎ノ燻蒸ヲ行ヒ成蟲ニ驅出セシムルニアリ又藪・樹林ノアル牧場ニハ盛夏ノ候羊ヲ放牧セス且牧場ノ藪ハ切除スヘシ

然レトモ場合ニ依リ之ヲ實行シ能ハサルコトアリ故ニ羊ノ鼻孔ニ惡臭ノ藥物例之「タール」・臭性獸油等ヲ塗布ス之トテモ大群ノ羊ニ盡ク施スコト能ハサルニヨリ斯ル場合ニハ盛夏ノ候羊ハ燻蒸ヲ行ヘル羊舎ニ收容シ日没又ハ夜中放牧スルノ外策ナシ

羊 痘

Variola ovina. (羅)

療法 攝生ヲ主トシ合併症ニハ對症療法ヲ施ス然レトモ大群ニハ實施シ難シ惡性ノモノニハ芳香消毒液ノ洗滌ヲ行フヘシ出血性下痢ニハ收斂劑ノ應用・呼吸器ノ「カタル」ニ對シテハ「テレピン」油・重炭酸「ナトリウム」ヲ混シタル蒸氣ノ吸入、口腔粘膜炎ヲ侵セルモノハ收斂劑ノ稀溶液ヲ以テ洗滌シ結膜角膜ノ炎症ニ對シテハ消毒消炎ヲ兼タル藥液ヲ點眼シ滋養易化ノ食物ヲ與ヘ合併症ヲ豫防スヘシ

豫防法

病羊ノ隔離鎖固ヲ嚴行シテ病毒ノ散蔓ヲ防キ羊舎及其附近ニハ消毒ヲ行ヒ人畜ノ出入ヲ禁止スヘシ其他接種法・血清注射法及獸醫警察ヲ勵行スヘシ緊急接種法ハ羊痘一群中ニ發生シタル場合ニ施ストキハ本症經過ヲ短縮シ群羊ヲシテ速ニ患了セシムルノミナラス疫勢輕クシテ局處ニ止マリ死亡率ハ皆無若ハ二%ニ過キササルヲ常トス又免疫血清注射ハ豫防ノ効アリ其他共同注射法トシテ免疫血清五―一五・〇ヲ軀幹皮下ニ注射シ有毒「リンフ」(痘漿)〇・〇五ヲ耳ノ皮下ニ注射ス

硝酸銀

餵水

右爲溶液點眼料トス

皓礬(硫酸亞鉛)

一・〇

六・〇

一・〇

一・〇

アラビアゴム漿

餵水

右爲溶液點眼水トナス

亞片丁幾

二五・〇

五〇・〇

一〇〇・〇

一〇〇・〇

硫酸亞鉛

グリセリン

右點眼水トナス

硼酸

一・〇

一五〇・〇

一〇〇・〇

一〇〇・〇

羊 痘

幼獸下痢 癰腫 第一胃麻痺 第一胃食滯
餵水 五〇〇・〇 右爲溶液外用

幼獸下痢 白痢 Dysentaria neonatorum. Dysentaria alba. (羅)

初生獸赤痢(白痢)參照

癰腫 Carpuaculus. (羅)

癰腫參照

第一胃麻痺 Atonia ruminis. (羅)

慢性胃腸加答兒參照

第一胃食滯 反芻獸ノ第一胃急性擴張

Dilatatio acuta ruminis ab alimentis. (羅)

療法 先ツ一兩日間ハ粗飼料ヲ絶對ニ與ヘス口網ヲ施シ臥薬ノ食用ヲ禁スヘシ且第一胃ノ按摩ヲ施シ加フルニ動物ノ牽運動及臍部ノ摩擦ヲ行ヒ第一胃ノ運動ヲ促スヘジ輕症ハ之ノミニテ治療ス更ニ重症ノモノニハ下劑ヲ處ス此目的ニ最適ノ藥物ハ「エゼリデイヌム・タータリウム」(「エゼリデイン」)ニ一〇・三酒石酸〇・〇一蒸餾水二〇・〇)・硫酸「ヴェラトリン」(成牛〇・〇一〇・一五、羊山羊〇・〇三)〇・〇四ヲ五十倍ノ酒精ニ溶解)「エゼリン」(成牛〇・一五〇・二)ヲ皮下注射ス、但「エゼリン」ハ興奮・呼吸困難・流産・窒息ノ危險アルニ由リ小反芻獸ニハ用ヒス又「ピロカルピン」(〇・三)〇・

五)ヲ用フ其他吐酒石(一日三回三—四・〇内服)「クロールバリウム」(六—一〇・〇)・白藜蘆(根末一〇—二〇・〇)丁幾二〇—四〇・〇)モ効アリ窒息ノ危險アレハ第一胃穿刺術ヲ施シテ瓦斯ヲ排除シ最後ノ手段トシテ第一胃截開術ヲ施シ胃内容物ヲ摘出スヘシ

- 吐酒石 一〇—二〇・〇
- 芒硝 二五〇・〇
- 亞麻仁油 一〇〇—二〇〇・〇
- 右爲振盪劑與フ(牛)
- 白藜蘆丁幾 五—八・〇
- 硫酸マグネシヤ 五〇—一〇〇・〇
- 右半瓶ノ粘汁ニ溶解シ一・二回ニ與フ(羊)
- テレピン油 各一〇〇・〇
- 酒精 右一瓶ノ亞麻仁煎ニ混シ頓服
- 煙草葉 五〇〇・〇
- 右二瓶ノ水ニテ煎出シ二回ニ分與ス毎回一乃至二握手ノ食鹽ヲ混ス(牛)
- アルセン浸 一五〇・〇
- ヴェラトリン 〇〇・一
- 酒精 右頓服(羊)
- 甘汞 二—五・〇
- アルテア根末 四五・〇
- 右爲丸劑發熱ノ際與フ(牛)
- 白藜蘆根末 一〇〇・〇
- 緬草根末 二五・〇
- 芒硝 二五〇・〇
- 右半「リートル」ノ亞麻仁煎ニテ合劑トナシ頓服(牛)
- 吐酒石 一〇〇・〇
- 餵水 三〇〇・〇
- 右爲溶液一瓶ノ亞麻仁煎ニ加ヘ與フ(牛)
- 稀鹽酸 一〇〇・〇
- 右五等分シ其各ヲ一瓖ノ燕麥汁ニ和シ與フ(牛)
- 稀鹽酸 一五〇・〇
- 宛ノ薄荷茶劑ニ和シ二日間ニ分與(牛)
- 白藜蘆根 各一五・〇
- 吐酒石 一五〇・〇
- 硫酸マグネシウム 七五・〇
- 泥葛根 右混和爲散劑三包ニ分チ亞麻仁漿ニ和シ二十四時間内ニ與フ(牛)
- 瀉利鹽 三五〇・〇
- 吐酒石 一〇〇・〇
- 緬草丁幾 一五・〇
- 右混和「リートル」半ノ水及少量ノ亞麻仁漿ヲ加ヘ僅ニ煮沸シ二乃至三回ニ分與ス、投藥後第一胃食滯

第一胃食滯

二一五

第一胃食滯

一胃部ノ摩擦・灌腸・輕度ノ運動ヲ行ハシム(牛)

煙草藥 重曹 食鹽 各二〇・〇

右混和一食匙宛每飼料ニ混與

吐酒石 一〇・〇

次亞硝酸ナトリウム 一五〇・〇

アブシント草 五〇・〇

右混和一「リートル」半ノ熱湯ヲ加ヘ浸出シ一日二回ニ分與(牛)

吐酒石 五〇・〇

次亞硝酸ナトリウム 七五〇・〇

アブシント草 二五〇・〇

右混和一「リートル」ノ熱湯ヲ加ヘ浸出シ一日三回ニ分與(山羊)

吐酒石 一五〇・〇

泥菖根 各一五〇・〇

茴香 各一五〇・〇

硫酸マグネシウム 四〇〇・〇

右混和八「リートル」ノ熱湯ヲ加ヘ一時間浸出シ一日三回「リートル」宛與フ(牛)

硫酸ナトリウム 五〇〇・〇

アブシント草 七五〇・〇

食鹽 一〇〇・〇

右煙草煎汁ニ混和二回分與(牛)

次亞硝酸ナトリウム 二五〇・〇

蘆薈越幾斯 三〇〇・〇

アルテア根 二〇〇・〇

右混和微溫湯ニ和シ二回ニ分與(牛)

芒硝 三〇〇・〇

吐酒石 各一五〇・〇

細草丁幾 各一五〇・〇

右混和一「リートル」半ノ粘漿ニ和シ三回ニ分與(牛)

白藜蘆根 五〇・〇

泥菖根 各一〇〇・〇

ゲンチアナ根 各一〇〇・〇

二一六

瀉利鹽 一〇〇・〇

右混和爲散劑一包其四包ヲ作リ各一包ヲ「リートル」ノ熱湯ニ浸出シテ與フ(牛)

蘆薈末 各一〇・〇

白藜蘆根末 各一〇・〇

右混和一燻ノ亞麻仁煎汁ニ和シ與フ(牛)

ヴェラトリン 〇・一

酒精 二〇・〇

右爲溶液其半量宛皮下注射(牛)

硫酸エゼリン 各〇・五

酒石酸エゼリン 二〇・〇

餽水 右爲溶液皮下注射二回分(牛)

硫酸ヴェラトリン 〇・一

クロロフォルム 五〇・〇

酒精 一〇・〇

右爲溶液「トローカー」ヲ用ヒテ第一胃内ニ一回ニ注入ス(牛)

特ニ第一胃麻痺ノ場合)

酒石酸エゼリン

鹽酸ピロカルピン

餽水

各〇・三

一〇・〇

右爲溶液皮下注射料一回分(牛)

下劑トシテ)

第四胃及十二指腸加答兒 Catarrh of abomasum and duodenum in cattle. (英)

療法 減食・易消化飼料ヲ給シ人工「カルルス」泉鹽及稀鹽酸ヲ投スサーケ氏ハ「タンニン」酸ヲ賞用ス

大動脈瘤 Aneurysma aortae. (羅)

療法 大動脈瘤ノ治療ハ効ヲ奏セス故ニ患畜ノ勞働ヲ制限シ心臟障得ヲ整調スルニ過キス、沃剝ノ内服効ナシ

大水疱 Bulla. (羅)

療法 防腐收斂液例之糊皮煎・石炭酸(一%)・クレオリン・明礬水・「クロール」鐵液洗滌ヲ行フ破裂スレハ乾燥防腐撒布劑例之「ヨードフォルム」・タンニン」或ハ糊皮末「ヨードフォルム」合劑ノ如シ場合ニヨリ腐蝕藥ヲ要ス

帶傷 Injuries by the girth. (英)

療法 皮膚ノ擦傷ニ止マルカ或ハ腫起ヲ起スコトアリ療法ハ鞍傷ノ條下ニ述ヘタルモノヲ撰用スヘシ豫防法トシテ腹帶ノ締括ヲ適當ニス又帶徑ニ滑軟布或ハ兔毛ヲ裏スヘシ

第四胃及十二指腸加答兒 大動脈瘤 大水疱 帶傷

濕疹參照

唾瘻 Fistula salivaria. (羅)

療法 腐蝕藥例之熔製硝酸銀・硝酸・濃厚石炭酸或ハ白熾熱鐵ニテ瘻管ヲ腐蝕ス痂皮ハ唾液ノ排泄ヲ妨ケ肉芽發生シ癩痕ヲ形成スル迄疏通セス一回ニシテ奏効ナケレハ反覆ス治療後ト雖唾液排泄ヲ當態ニ復スルコト困難ナリ時トシテ瘻管ト唾液排泄口トノ癒著ヲ發スレハ探子ヲ以テ開通ス開通後ハ瘻管壁ヲ腐蝕藥・烙鐵ニテ腐蝕ス次テ起ル炎症性腫脹ハ再ヒ閉塞(排泄管ノ)ヲ來ス諸家ハ瘻管縫合法ヲ賞用ス其法彎針ニ糸ヲ通シ皮膚ヲ貫キテ針ヲ挿入シ瘻管口ヲ縫合閉鎖スルニアリ、唾液ノ口腔内ニ排泄セサルトキハ人工排泄口ヲ設クストツクフリリス氏ハ排泄管ヲ瘻管ノ後ロニ設ケ套管針ヲ以テ斜メニ頰ニ穿口ス其他種々ノ法アルモ根治療法ハ困難ナリ最後ニハ次ノ三法ヲ試用スヘシ(一)排泄管ノ結紮、瘻管ノ上部ニ於テ排泄管ヲ結紮ス廿四乃至四十八時間斷食シテ爾後液狀飼料ヲ與フ結紮後唾液ハ貯溜シテ腫瘍狀ヲナス唾腺ハ漸次萎縮ス結紮ニハ可成強靱ノ糸ヲ用フ(二)唾液排泄管ノ切斷ハ諸家ノ實驗ニヨレハ良好ナリ(三)唾腺ニ強刺戟藥注入例之苛性「アムモニア」液一〇—一五〇其後「ヨード」丁幾・「クレオソート」・硝酸銀等ヲ用ヒバツシ氏ハ「アルコホール」三〇〇注入シラバト氏ハ「ヨード」丁幾二〇—四〇〇「ヨード」加里一〇水六〇〇ノ合劑ヲデラモット氏ハ「ヨード」丁幾五〇〇ベルグロン氏ハ乳酸二〇%液ヲ注入ス濃厚「ヨード」丁幾ノ注入ハ烈シキ炎症ヲ起シ時トシテ壞疽ニ陥ルコトアリ

唾石 Calculus salivaria. (羅)

療法 結石ノ外科的摘出ヲ要ス小結石ハ時トシテ排泄口ヨリ排出セララルコトアルモ必要ニ應シテ多少切開ヲ要ス大結石ハ毎時唾液輸送管ヲ切開ス切開口ハ橫斷ヲ縱斷ヨリ勝レリトス是レ治療速ニシテ且唾瘻ヲ遺ササレハナリ創ハ適當ノ外科的治療ヲ施シ術後二十四—四十八時間ハ絶食スベイヤー氏ハ馬ニ於テ縱切開口ヲ設ケ結石摘出後縫合ヲ施ナシニ第一期癒合ニテ治療セリ

唾腺損傷 Injuries of the salivary glands. (英)

療法 唾腺中耳下腺及其排泄管ステノニアン氏管最モ損傷ヲ受ケ易シ通常全治スルト雖時トシテ唾瘻ヲ遺スノ虞アルニヨリ損創部ハ止血消毒ノ後縫合シ二十四乃至四十八時間絶食セシメ且少量ノ「アトロピン」ヲ皮下注射シ唾液ノ分泌ヲ制減スヘシ其他ハ創傷療法ノ原則ニヨル

唾腺腫瘍 Tumors of the salivary glands. (英)

療法 小腫瘍ニシテ限局性ノモノハ外科刀ニテ切除或ハ缺切ス適當ナル幫助ニヨリ唾瘻ヲ避クルコトヲ得、大腫瘍ニシテ散蔓セルモノハ全腺ノ摘出ヲ要ス耳下腺ノ摘出ハ困難ノ手術ニアラスト雖周圍ニ血管及神經多存スルヲ以テ注意ヲ要ス本手術ハ呼吸困難ノ場合屠殺スル能ハサル時或ハ高貴ノ動物ニ行フ先ツ消毒法ヲ嚴行シ腺ノ上縁ヨリ下縁迄縱切皮ヲナシ唾腺ト皮膚ト癒着スルトキハ之ヲ切離ス皮下腱膜ヲ切り耳下腺ヲ現ハシ先ツ下縁ヨリ腺ヲ切離シ頸動脈露出スレハ之ニ糸ヲ掛ケ或ハ結紮ス二三ノ止血鑷子ヲ用意シ血管ヲ嵌血壓止ス回歸神經ヲ損傷セサル様注意スヘシ鈍刃外科刀或ハ剪刀ヲ以テ(手指ト共ニ)腺ヲ徐々ニ離ス海綿或ハ布片ヲ以テ出血ヲ拭除シツツ手術セハ危険ナ

唾石 唾腺損傷 唾腺腫瘍

ク腺ヲ摘出スルヲ得創面ハ消毒液ニテ洗滌シ「ヨードフォルム」ヲ撒布シ「ユーテ」或ハ麻織子ヲ抵シ包攝ス二十四乃至十八時ヲ經テ包攝ヲ去リテ洗滌消毒シ「ヨードフォルムタンニン」ヲ撒布シ開放創傷療法ヲ行フ三乃至四週ニシテ癒ユ或ハ結紮縫合ヲ施シ創底ニハ消毒麻織子ヲ挿入シ創液ヲ吸收セシメ皮膚ハ創液ノ排泄ニ便ナル丈ク切開シ必要ニ應シテ排膿管ヲ裝ス翌日創面濕潤セハ消毒綿ニテ拭除シ「ヨードフォルムタンニン」(一・〇・二)ヲ撒布ス乾燥痂皮ヲ形成シテ治癒ス

壁蝨 Ixodidae. (羅)

療法 壁蝨ヲ動物體ヨリ摘除スルハ直接手指又ハ鑷子ヲ以テ併シ注意シテ徐々ニ摘去セサレハ其物ヲ殘シ化膿又ハ皮膚炎ヲ起ス殊ニ馬及犬ニ於テ然リトス、又石油其他ノ鑷油ヲ塗擦スレハ窒息シテ自ラ落下ス其他「テレピン」油・「ベンゼン」・石炭酸油・脂油又ハ鹽水ヲ用フ米國ニテハ壁蝨浴(石油又ハ他ノ鑷油)ヲ賞困ス、豫防法トシテハ壁蝨ハ小植物或ハ天然牧場ニ多キカ故ニ雜木・灌木ヲ拔除スルヲ要ス年々牧草地ニ放火シテ燒クヘシ
鳥類ニ寄生スル壁蝨ヲ驅除スルニハ砂浴ヲ爲サシムルタメ充分砂或ハ砂ト灰トテ混淆シタル砂浴場(砂ニ一―五%ノ硫黃華又ハ細末トナシタル「アニス」實ヲ混スルヲ佳トス)ヲ設備スルヲ要ス尙鳥體ニハ臭氣アル藥或ハ殺蟲藥ヲ撒布スヘシ「ペルーバルサム」・蘇合香(二〇―三〇分ノ酒精ニ混シ)又茴香・「アニス」實・迷迭香油(二〇―五〇分ノ水又ハ油ト混シタルモノハ殊ニ小禽ニ適ス)此目的ニ適ス硫肝末又ハ除蟲菊粉ヲ羽毛ノ間ニ撒布スルモ妙ナリ此場合ニハ羽根ニ豫メ少量ノ軟石鹼ヲ塗抹シ置ケハ粉未能ク附着シ其藥効有力ナリ又一〇%「リゾール」液若ハ「テレピン」油ヲ用フヘシ

豫防法 家禽ノ壁蝨豫防上必要ナル方法左ノ如シ

- (一) 家禽舎ハ常ニ清潔ニ保チ熱湯・熱瀾汁ヲ以テ板壁・牀等ヲ洗滌シタル後生石灰末若ハ木炭末ヲ撒布シ
- (二) 新ニ鶏ヲ購入セシトキハ精密ニ之ヲ検査シ消毒シタル後ニアラサレハ家禽舎ニ入レサルコト
- (三) 家禽舎ハ可成家屋ノ柱壁ト隔離シ懸垂セシムルコト
- (四) 毎年少クトモ二回生石灰乳・「コールタール」若ハ生石灰乳ト「クレオリン」ノ混合物ヲ以テ家禽舎ノ柱・板壁等ニテ苟モ間隙アル場所ハ本蝨ノ潜伏所ナルニ依リ充分ニ之ヲ塗布スルコト
- (五) 家禽舎ハ熱湯消毒ヲ充分ニスルカ或ハ硫黃・硫化炭素又ハ「フォルマリン」ノ燻蒸ヲ爲スコト但間隙ヲ密閉シ燻蒸ノ漏出セサル様ニナシ「ブリキ」皿ノ如キモノヲ用ヒ燻蒸シ四十八時間ハ閉塞シ置キ更ニ二十四時間開放シタル後家禽舎ヲ入ルルコト
- (六) 器具及器械ハ熱湯消毒ヲ施スコト
- (七) 木炭末二分生石灰末一分砂七分ヲ混シ砂浴セシムルコト
- (八) 此鶏巢中ニアルトキハ其場所ニ生石灰・硫黃華又ハ除蟲菊末ヲ撒布スルコト
- (九) 家禽舎内ニ藁ヲ敷クカ又ハ棲木ニハ穴ヲ穿チ其ノ中ニ蝨ノ入りタルトキハ之ヲ燒却スヘシ蓋シ蝨ハ晝間棲木ノ穴ニ入り夜間鶏ヲ舎内ニ容ルルヲ待チ出テ來ルモノナレハナリ
- (十) 家禽舎ノ棲木ハ石油又ハ石炭酸五%溶液ヲ以テ消毒スルコト

多腫症 Polypnie. (羅)

療法ナシ

多汗症 Hyperidrosis Epedrosis Dysidrosis. (羅)

療法 皮膚ヲ洗滌シ酒精溶液ヲ以テ拭ヒ去リ反覆「アトロピン」ノ皮下注射ヲ行フ然レトモ多クハ多腫症 多汗症

脱肛 脱臼 脱出

二二三

發汗ヲ制止スルヲ得ス「ヨード」加里ノ内服(日量六・〇六日間持長)ヲ賞用スル者アリ

脱肛 Prolapsus ani. (羅)

療法 整復法及他ノ療法ハ直腸脱ニ同シ

脱臼 Luxatio. (羅)

療法 先ツ整復ヲ行フ整復ハ愈々早く之ヲ行ヘハ愈々容易ナリ其法全身迷朦ヲ行フテ後脱臼關節ノ形狀及骨端ノ位置ヲ顧慮シテ舒伸、時トシテハ回轉、時トシテハ外轉或ハ内轉ヲ爲ス又之ト共ニ通常強壓ヲ脱臼骨ニ加フ、整復スレハ忽チ關節ノ自由運動恢復シ常形ニ歸ス

整復後動物ノ保定ニハ特別ノ手當ヲ要セスト雖大動物ノ四肢ノ脱臼ニ於テハ其ノ横臥ヲ防クヘシ是レ起立スル際再ヒ脱臼ヲ發スルコトアレハナリ場合ニ依リテハ吊起帶ヲ用フ、出來得ヘクンハ不動性繃帶ヲ施シ一ハ脱臼ノ再發ヲ防キ一ハ破裂セル軟部ノ治機ヲ容易ナラシム寒冷ノ應用其他ハ通常必要ナラス肢ノ負重恢復スルトキハ繃帶ヲ撤去ス、然レトモ直ニ動物ヲ重役ニ服セシムヘカラス、又飛躍ヲ避ケシムヘシ蓋シ之ニヨリ再發シ易ケレハナリ、軟地ニ於ケル安靜ナル運動ハ治機ヲ促進シ且不動ニ由リテ生シタル軟部及靱帶ノ短縮ヲ除去ス、常習脱臼ニ於テハ骨ノ新轉位ヲ來スヘキ凡ヘテノ原因ヲ避クヘシ又先天性脱臼ニ於テハ療法ナシ通常斯如疾病ニアリテハ動物ハ屠殺スヘシ但膝蓋脱臼ハ例外トス

脱出 Prolapsus. (羅)

子宮脱其他各脱出條下参照

脱毛症 Alopecia. (羅)

秃毛症参照

打創 Vulnere caesa. (羅)

療法 挫創ノ療法ヲ参照シ他ハ一般創傷療法ニ依ル

蛋白尿 Albuminuria. (羅)

療法 原病ニ由リ夫々療法ヲ異ニス

没食子酸	二・〇	デギタリス葉末	一一・〇
餡次	一五〇・〇	アルテア根末	一一〇・〇
右爲溶液毎日二食匙宛與フ(犬)	水		適量

右混和爲丸劑三個毎日二個宛與フ(馬)

丹毒 Erysipelas. (羅)

療法 丹毒ノ豫防法ニハ僅微ナル損傷ニモ清潔法ト消毒法トヲ嚴密ニ行フヘシフエーアイゼン氏ニ據レハ千倍昇汞水ハ丹毒ニ妙効アリテ一〇乃至一五秒ニシテ丹毒菌ヲ剋滅ス、乳房ハ丹毒ニ罹リ易キヲ以テ其清潔ニ注意シ苟モ乳房皮膚ニ創傷アレハ等閑ニ附スルコトナク「アイロール」糊・「ヨード」フォルム、コロヂウム「ヲ塗布シ丹毒菌ノ侵入ヲ防ク、局所療法トシテハ石炭酸水三―五・〇ヲ患部ノ周圍ニ皮下注射スレハ病機ノ蔓延及進行ヲ制壓スルヲ得、昇汞水(千倍)ノ皮下注射モ亦効アリ皮膚面ニハ「イヒチオール」ト「ラノリン」等分又ハ純粹「イヒチオール」ヲ塗布シ或ハ「ヨード」丁幾若ハ硝酸

脱毛症 打創 蛋白尿 丹毒

二二三

銀熔液(一・四—一〇)ヲ塗布シ綿布ニテ被覆シ或ハ「クレオリン」鉛軟膏ヲ塗用ス、又石炭酸・昇末・「レゾルチン」又ハ酒精等ヲ以テ晝間ハ絶ヘス濕性療法ヲ施シ三乃至五時間毎ニ交換シ夜間ハ制腐藥ヲ含メル軟膏ヲ塗布シ包ミ置クヘシ、四肢ニハ溫浴ヲ施ス、浮腫ヲ發スレハ亂刺シテ皮下ニ蓄積セル敗液ヲ漏シ切孔ヨリ防腐藥ヲ注入シ次テ前記ノ如ク處置スヘシ、皮下敗液ヲ漏セルハ體溫速ニ低下ス又烙鐵ヲ線狀或ハ點狀ニ施シ(亂刺)石炭酸療法ヲ施ス、全身療法トシテハ安息香酸「ナトリウム」カフエイン・赤酒等ノ興奮劑ヲ與ヘ清涼ノ飲料ヲ供シ熱性重患ナレハ解熱藥ヲ處シ生理的食鹽水ノ注入ヲ行ヒ努メテ身體ヲ安靜ナラシムヘシ

- 石炭酸 一〇〇
- 備水 一〇〇〇
- 右混和局所濕布料 一〇〇〇
- 鹽酸 三〇〇
- オレーフ油 三〇〇
- 右混和一日二乃至三回塗布ス 三〇〇
- クレオリン 四〇〇
- 備水 四〇〇
- 右ニテ頻々局所ヲ濕シ繙帶ス 四〇〇
- クレオリン 三〇〇
- ヨードフォルム 一二〇〇
- ラノリン 適量
- 右混和シ皮上ニ厚ク塗布シ「グッタベルカ」紙及綿ヲ以テ包攝ス 一二〇〇
- イヒチオール 一二〇〇
- ワゼリン 五〇〇
- 右混和一日數回塗布 五〇〇
- グリセリン軟膏 三〇〇
- 硫酸銅 一〇〇
- 右同 一〇〇
- 石炭酸 〇・一—〇・二
- 備水 一〇〇
- 右丹毒寵周圍ニ皮下注射ス 三〇〇
- コロヂウム 三〇〇
- 石炭酸 三〇〇
- タンニン 一・五
- 安息香酸 〇・七五
- 右混和屢々皮膚面ニ塗布ス 〇・七五
- グッタベルカ 七〇〇
- クロロフォルム 六〇〇
- 溶解シ 六〇〇
- 炭酸鉛 一二〇
- 加ヘ振盪シテ後靜置シ濾過ス用 一二〇
- 法右同 一二〇
- グリセリン軟膏 三〇〇
- 熔製硝酸銀 〇・三

- 右一日一回塗布 〇・五—一〇
- イヒチオール 一〇〇
- 備水 一〇〇
- 右皮下注射 二〇
- 明礬 二〇
- 醋酸鉛 四〇
- 備水 一〇〇
- 右爲溶液收斂・防腐性器包料(繙帶料又ハ浴料)トシテ與フ 一〇〇
- イヒチオール 一〇〇
- オレーフ油 二〇〇
- 酒精 一〇〇
- 右混和爲擦劑外用 一〇〇
- イヒチオール 一〇〇
- パラフィン軟膏 一〇〇
- 右混和爲軟膏塗擦ス 一〇〇
- イヒチオール 一〇
- 豚脂 一〇
- 右同 一〇
- イヒチオール 五〇
- カリ石鹼精 一〇〇
- 酒精 一五〇
- ラノリン 五〇
- 右混和爲軟膏毎日塗布 五〇
- イヒチオール 一〇〇
- 酒精 一〇〇
- 右爲溶液朝夕一回宛塗布 一〇〇
- イヒチオール 各二〇〇
- カリ石鹼 各二〇〇
- 右同 各二〇〇
- イヒトフォルム 二・五
- パラフィン軟膏 五〇〇
- 右混和爲軟膏毎日塗擦 五〇
- サリチール酸フェニール 一五〇
- 稀酒精 一五〇
- 右混和爲溶液消毒性繙帶料トナス 一五〇
- オキシチアン化汞 一〇
- 酒精 一〇
- 備水 各五〇〇
- 右混和外用繙帶料トス 各五〇〇
- 粗製明礬 五〇
- 次醋酸砒 二五〇
- 備水 五〇〇
- 右混和外用 五〇〇
- 硝酸銀 二〇
- 白色ワゼリン 二〇
- 右混和爲防腐性軟膏 二〇

丹毒性皮炎

Dermatitis erythematosa. (羅)

療法 局所療法ハ唯重劇ノ場合ニ於テノミ之ヲ行ヒ輕症ハ自然ニ治癒ス清水・クラーラード氏液・鉛水・ブロー氏液又ハ石灰水ヲ局所ニ應用ス次テ引赤皮膚血ニハ石炭酸油(一・一〇)ヲ塗布シ或ハ收

歛末ヲ撒布ス、丹毒性炎若シ傳染ニ原因スル場合ニハ三%石炭酸水・五千倍昇汞水ヲ患部周縁ニ皮下注射(馬ハ一ヶ所ニ一〇—三〇〇注射)スレハ炎症ノ蔓延ヲ防止ス尙本症ニ用フル藥品ハ一〇—一〇%「イヒチオール」・「レゾルチン」・「クレオリン」・「ヨードフォルム」軟膏・灰白水銀軟膏・消毒藥液ナリ、著シキ全身障アレハ對症療法ヲ施ス

炭疽 脾脫疽 Anthrax. (羅)

療法 皮膚・皮下織或ハ露出粘膜ノ局所變狀ニハ外科的手術ヲ行フ即チ癰腫ハ深ク切開シテ滲液ヲ壓出シ又病的組織ヲ刮除シタル後強消毒藥ヲ以テ反覆洗滌シ烙鐵ヲ施ス此場合ニハ十字切開ヲ賞揚スルモ腫脹大ナレハ所々ニ截開ヲ施ス、消毒藥トシテハ昇汞(千倍)・石炭酸(三%)・「クレオリン」(五%)等ヲ宜シトス、或ハ癰腫ノ周縁所々ニ一—三%石炭酸水若ハ五%「クレオリン」水ノ皮下注射ヲ施シ石炭酸濕布ヲ行フトキハ良効ヲ奏スルコトアリ

全身症狀ヲ呈スルニ至リテハ其末々病勢ノ進マサル場合ニハ免疫血清注射ハ著シキ効顯アリ即チ農商務省所管獸疫調査所製造免疫血清牛馬三歳以上ハ一五〇—三〇〇〇、三歳以下一〇〇—二〇〇〇、大豚五〇—一五〇〇、小豚三〇—八〇〇ヲ皮下ニ注射スヘシ然ルトキハ體溫忽チ沈降シ十二時間後ニ全癒スルコトアリ、若シ血清注射後數時ニシテ快善ノ徵ナキノミナラス更ニ體溫昇騰スレハ更ニ注射ヲ反覆ス、時トシテハ對症療法例之反覆スル冷水浴・樟腦・「テレピン」油又ハ酒精ヲ以テスル全身摩擦ハ効アリ、内服藥トシテ葡萄酒・酒精又ハ樟腦ヲ與ヘ或ハ「エーテル」若ハ樟腦ノ皮下注射ヲ行フ、腸感染ノ際ニハ消毒藥ノ大量ヲ内服セシム例之「クレオリン」又ハ「リゾール」(大動物二〇—五〇

〇、小動物五—一〇〇)・「クレオソート」(大五—一〇〇〇、小一—二〇〇)・石炭酸(〇・五%日量四〇—五〇〇)少量ノ甘汞反覆内用(馬ニハ阿片〇・五ヲ混和)、テレピン油(大動物ニハ油ト混シテ二〇〇—三〇〇)・肛門劇症ノ徵アレハ消毒藥ノ灌腸ヲ行フ、「コルラルゴール」(一〇〇ヲ五〇—一〇〇〇)水ニ溶解)ノ靜脈内注射又試ムヘシ、患畜ハ換氣善良ナル冷涼畜舎ニ移シ冷水ヲ多量ニ供給シ尙其飲水ニ鹽酸ヲ加味スルヲ宜シトス

豫防法 豫防法ヲ緊要トス其法屍體ヲ滅却シ厩舎ノ消毒ヲ勵行スルニアリ、屍體ノ滅却ニハ燒棄ヲ最良トスルモ事情ニ依リ之ヲ行フコト能ハサレハ人家、公道又ハ牧場ヲ距ル適當ノ地ヲ選ヒ深六尺以上ノ土坑ニ埋ムヘシ、消毒法ニハ昇汞水(一〇—一〇〇)・「クレオリン」(五%)・クロール石灰等ヲ用フ但昇汞消毒後二%ノ硫酸溶液ニテ洗ヒ無毒ナラシム、炭疽常存地方ニ於テハ合理的土地改良法ヲ施シ其危險ヲ減スヘシ即チ卑濕沮洳ノ如ニハ排水法ヲ施シ河川ヲ浚渫シ疑ハシキ牧場ニ放牧セス又疑ハシキ井水ヲ飲マシムヘカラス、轉地ハ最モ希望ナル所ナルモ多クハ實行シ難シ飼料及飲料水ノ變換亦然リ、斯ノ如キ炭疽傳染ノ危險アル地方ニ於テハ豫防接種ヲ行フヲ最良トス其方法左ノ如シ

一、バスタール(Pastour)式豫防接種法 此法ハ強弱二種ノ滅毒炭疽菌培養液ヲ皮下ニ注射スル法ニシテ弱毒即第一苗ハ炭疽菌ヲ二十四日間攝氏四十二度乃至四十三度ニテ培養シタルモノニシテ強毒即第二苗ハ十二日間同一溫度ニテ培養シタルモノナリ、先ツ第一苗ヲ皮下(牛ハ肩ノ後方、馬ハ頸側、羊ハ股ノ内面、豚ハ耳根部ノ皮下)ニ注射シ次テ十日乃至十二日ヲ經テ第二苗ヲ反對側ニ注射ス其量第一苗第二苗共ニ牛馬及豚ニ在テハ〇・二、犢・駒及羊ニハ〇・一トス

二、ゾーベルンハイム(Sobernheim)氏共同注射法 免疫血清ト炭疽菌培養液ヲ同時ニ注射スル法ニシテ接種一回ニテ足ルノ利アリ、先ツ體ノ一側皮下ニ免疫血清ヲ注射シ數分ノ後反對側ニ滅毒炭疽菌培養(第二苗ニ相當ス)ヲ注射ス、此法ハ注射後約二週間ヲ經レハ免疫性ヲ生シ約一ケ年間持續ス

三、免疫血清注射 既ニ傳染ノ疑アル動物ニ免疫血清ヲ注射スルトキハ其發病ヲ免レシムルコトヲ得、故ニ此法ハ炭疽ノ發生シタル一群ノ動物又ハ急速ニ免疫性ヲ賦與スルノ必要アル場合ニ行フ蓋シテ血清ヲ注射スレハ僅時ニシテ免疫性ヲ得レハナリ其免疫力ハ一乃至一週間ニ過キス、豫防ノ目的ヲ以テ注射スル血清量ハ牛馬三歳以上五〇—八〇〇、同三歳以下三〇—五〇〇、大豚三〇—五〇〇、緬羊・山羊・小豚一〇—二〇〇トス

獸醫警察法 發病届出・告示・病獸ノ隔離及鎖飼・病獸排泄物並屍體ノ燒棄埋却・畜舎消毒・病獸ニ直接シタル飼料及藁ハ無害ナラシメ、病獸ノ乳肉及皮蹄等ノ賣買ヲ禁止シ、又交通遮斷・家畜市場ノ閉鎖・畜籍調査ヲ行フノ必要アリ

クレオソート	一〇〇〇	ヨードカリウム	二〇〇〇	食鹽水(七%)	五〇〇〇
右毎日二回五〇—一〇〇宛與フ(馬・牛)	一〇〇〇宛與	右爲減菌溶液刺絡後靜脈内注射料トシテ二回ニ與フ、但注入前藥液ハ消毒加温スヘシ(馬・牛)	一〇〇〇	豫防的體内消毒劑トシテ)	〇・一
石炭酸	〇・五	シテ與フ(馬・牛)	一五〇〇	フオルモール	一〇〇〇
右爲溶液一日量五〇—二五〇宛與フ(馬・牛)	一〇〇〇	クレオリン	一五〇〇	右爲溶液注入料トス(炭疽癰ノ)	一〇〇〇
ヨード	一〇〇	右粘漿ニ和シ一食匙量宛日量五〇〇〇迄與フ(牛)	三〇〇〇		
		フオルムアルデヒド液	三〇〇〇		

場合)		右混和注入料トナス(右同)		餵水	一〇〇〇
昇汞	一〇〇	ヨード	一〇〇	右ルーゴール氏液トナシ外用トス(右同)	一〇〇〇
酒精	一〇〇〇	ヨードカリウム	五〇〇		

膽石 Cholelithiasis. (羅)

療法 疝痛發作ノ間ハ鎮痛藥例之「モルヒネ」ノ皮下注射・抱水「クロラール」ノ内服又ハ灌腸・「クロフォルム」吸入ヲ行フ、「カルルス」泉鹽・「アルカリ」鹽類・蓖麻子油・甘汞等ヲ處方シ食餌ニ注意シ充分運動セシムヘシ、膽石消毒ノ目的ヲ以テ「サリチール」酸「ナトリウム」・「ウロトロピン」ヲ處スルコトアリ

裂創 Vulnura lacera. (羅)

一般創傷療法ニ依ル

裂蹄 Sand-crack. (英)

療法 創脣結束法 創脣ノ結束ハ未タ必スシモ眞個唯一ノ療法ニアラス蹄負重ノ平均及蹄形ノ矯正等之ト同時ニ實行セララルニアラサレハ恐クハ徒勞ニ歸セン、創脣結束法ハ其種類甚多シ今左ニ其主要ナルモノヲ擧クレハ

(一) 鑢 金屬線ヲ以テ鑢ヲ作り特製ノ烙鐵ヲ以テ鑢ヲ装着スヘキ部ニ於テ蹄壁ヲ焦烙シテ孔ヲ穿ツコト鑢ヲ刺入スルニ足ルヘキ深ヲナスニ至ルヲ以テ度トナス焦烙終レハ直ニ鑢子ヲ以テ鑢ヲ蹄壁ニ刺入シ以テ裂創ヲ結束ス鑢ノ固定ハ必ス烙鐵ノ直後ニ於テスルヲ要ス否ラサレハ焦烙セル蹄壁後ニ

膽石 裂創 裂蹄

硬變シテ鋸ノ刺入ヲ困難ナラシメ從テ結束ノ鞏固ヲ害スヘシ且此手術ハ必ス負重セル蹄ニ於テ行フヘク鋸ノ用數ハ蹄創ノ長短ニヨリ一乃至三個ヲ以テ定限トス此法ハ蹄尖裂ノ一種ニノミ賞用スヘキモノニシテ其他ニハ適應セス(一)金屬鋸 金屬鋸ヲ以テ適宜蹄壁ニ密接スヘキ形狀ヲ作り木製ノ小螺子ヲ以テ之ヲ固定スルモノニシテ螺子ノ長ハ蹄壁ノ厚徑ヲ以テ度トスヘシ装着ノ前金屬ヲ熱シ之ヲ以テ蹄壁ヲ焦烙シ装着ノ後ハ金屬鋸少シク蹄壁ニ埋没スルヲ要ス此法ハ蹄側及蹄踵ニモ應用スルコトヲ得ヘキモ踵端ニハ適當ナラス(二)鉸釘 裂創ノ兩側ヨリ蹄釘ヲ刺入シ裝鐵ノ際ニ於テスルト同一ノ方法ヲ以テ其兩端ヲ曲ケテ釘節ヲ造リ以テ裂創ヲ結束ス釘ノ刺入ヲ容易ナラシムルカ爲ニ或ハ角目打ノ細端ヲ延長シテ錐ヲ作り焦烙法ヲ以テ豫メ蹄壁ニ孔ヲ穿ツヲ便トス鉸釘法ハ往時ヨリ久シク行ハルルモノニシテ能ク實際ニ適應スルモ蹄壁ノ稍厚キ蹄尖及蹄側部ニアラサレハ行フコトヲ得ス近來此孔ヲ穿ツカタメニ特製ノ鑽ヲ製出シ或ハ鉸釘ノ代用トシテ金屬線ヲ用ヒ其兩端ヲ糾合シテ創裂ヲ結束スルノ方法ヲ報告セルモノアリ、以上三法ノ外ニ世ニ存在セル革帶或ハ永久繃帶等裂創ノ哆開ヲ防過スルノ法一ニシテ足ラスト雖多クハ實際ニ適當セサルヲ以テ之ヲ略ス左ニ各種裂蹄ノ療法ヲ示サン

蹄冠裂

蹄尖裂 陷著ヲ平坦ニシ蹄鐵ニハ前側鐵唇ヲ設ケテ前鐵唇ヲ省キ釘ハ後方ニ装着スヘク裂創ノ結束ニハ金屬鋸或鉸釘ヲ用フヘク裂創尙未タ大ナラスシテ原因ノ判明セルモノニアリテハ原因ヲ除キ矯正ノ裝蹄ヲ行フヲ以テ之ヲ醫スルニ足ル連尾蹄鐵ハ蹄壁負縁ノ缺損セルモノニ限り之ヲ用フ○蹄

側及蹄踵裂 原因ノ舉踵ニ屬スルモノハ舉踵蹄ノ條下ニ説ケル要領ニ基キ十分ニ矯正ノ裝蹄ヲ行フヲ以テ足ルヘク完裂蹄ニアラサル限リハ鉸釘或ハ造溝等ノ要アラヌ又改裝後ハ一日ノ休業ヲ命セサルモ安全ニ治療スルコトヲ得ヘシ元來裝蹄療法ノ要ハ新蹄ノ發生ヲ俟ツニアルヲ以テ原因若シ全ク排除セラレサレハ一ヶ月乃至二ヶ月ノ休業ヲ要ス然ルニ休業及運動ノ缺乏ハ蹄ノ生長延滯スルノ不利アルヲ忘ルヘカラス且矯正ノ裝蹄完カラサレハ鉸釘造溝或ハ蹄下ニ間隙ヲ設クルカ如キ普通ノ療法ハ皆姑息タルヲ免レサルヲ以テ長日數ノ休業ヲ要スヘキノミナラス癒後ニ至リテ再發ノ虞少カラサルナリ原因ノ蹄形異常ニアルモノハ斯ノ如キ簡易ノ一法ニ據ルヲ得ス矯正ノ削蹄ハ素ヨリ第一要點タルヘキモ尙他ニ蹄壁殊ニ踵部ノ負擔ヲ減スルカ爲ニ連尾蹄鐵或ハ填底法ヲ用フルノ要アリ釘ハ裂創ノ直下或ハ其後ニ裝スルヲ禁ス而モ尙患部ノ反動ノ分裂ノ增長スルヲ止メ難キ虞アルトキハ下ノ如キ方法ヲ以テ負縁ニ間隙ヲ設クルヲ可トス即チ間隙ノ前段ハ裂創ノ延長線下ヨリ起リ後端ハ裂創上端ノ直線下ニ終ルヘシ間隙ノ距離ハ次回ノ改裝期ニ至ル迄鐵壓ノ爰ニ達セサルヲ度トス蹄又チ缺損セル窄蹄ノ分裂ニ在テハ窄蹄蹄鐵或ハ連尾蹄鐵ヲ用フヘシ、裂創不正ニシテ相壓迫スルモノニアリテハ互壓ノ創縁ヲ切除シ或ハ表面ヨリ薄削スヘク且之ニ壓定ノ繃帶ヲ加ヘテ過度ノ乾燥ヲ防キ増裂ヲ豫防シテ新蹄ノ發生ヲ俟タサルヘカラス、裂創ノ正シキモノニ在テハ要アラハ鉸釘・金屬鋸或ハ鋸ヲ用フヘク分裂ノ增長ヲ防カン爲ニハ裂創下端ニ於テV若クハ一字形ノ深キ溝ヲ蹄壁ニ穿ツヘシ(造溝術)而テ其溝ノ深サハ角質葉狀層ヲ見ルニ至ルヲ度トス

蹄支裂

療法ノ目的ハ不裂ノ新角質ヲ發生セシムルニアリ之カ爲メ分裂ノ創縁ヲ全然削除シ周圍ノ蹄角ヲ薄

裂蹄 裂齒及碎齒 縫癬 卒中 癢痒症

二二二

削シテ指壓ニ應スルニ至ラシメ同側ノ蹄踵ヲ多削シテ鐵壓ニ感セサラシメ連尾蹄鐵ヲ裝著シテ之ニ
填充物ヲ有セル革底ヲ併用スヘシ、裂創縁ヲ削除スルカ爲ニ深キ溝ヲ造リ其溝底濕潤ヲ示スニ至ル
時ハ麻織糸ニ沒藥或ハ蘆薈丁幾ヲ浸シテ溝底ニ填裝シ黃蠟ニテ閉塞スヘシ 療法枝葉ニ流レ原因ノ排
除宜キヲ得サレハ分裂際限ナク反覆回歸スヘシ

負縁裂

此裂蹄ノ療法ハ蹄蹄ニアリテハ蹄鐵ヲ裝スルニアリ裝鐵蹄ニ於テ蹄壁下縁ノ缺裂ヲ恐ルルモノニア
リテハ豫防トシテ釘孔ノ正シキ蹄鐵及細キ釘ヲ用フヘク分裂ノ増進ヲ豫防セントスルニハ裂創ノ上
端ニ烙鐵若ハ刀刃ヲ加ヘ深サ葉狀層ニ達スルノ溝ヲ穿ツヘシ

裂齒及碎齒 Spaltung und Zersplitterung der Zähne. (獨)

療法 裂齒及碎齒ハ拔除スルコト困難ナラス細碎セルモノハ齒鉗子ニテ除去スヘシ此目的ニハギ
ユンター氏ノ嘴形鉗子ヲ宜シトス

縫癬 Plica. (羅)

疥癬様濕疹參照

卒中 Apoplexia. (羅)

腦溢血參照

癢痒症 Pruritus cutaneus. (羅)

療法 摩擦・冷水・一―三%「サリチール」酸酒精溶液・石炭酸・チモール・樟腦・ナフトール」或ハ
「タール」ヲ應用シ或ハ溫湯若ハ酒精ノ卷法ヲ行フ、硫酸「エーテル」亦試ムヘシ麻酔藥軟膏(「コカイ
ン」二分・硼酸五分・「ラノリン」三分)又ハ微溫「クレオリン」水若ハ「ベンゼン」ヲ浸シタル綿ヲ以テ
皮膚ヲ清拭シタル後「オルトフォルム」三分・「チマトール」百分ノ撒布ヲ施ス又「アネステジン」一%軟
膏ヲ用フ

樟腦	一・〇〇	餉水	八五・〇	オレーフ油	三・〇
アラビヤゴム	二・〇〇	右混和數回塗布		ラノリン	一〇・〇
沈降硫黃	一二・〇〇	酸化亞鉛	三・〇	右爲軟膏外用	
石灰水及水	各一〇〇・〇	硫黃華	各二・〇	鹽酸コカイン	〇・五
右混和外用洗滌用		ペルバルサム	四〇・〇	石灰水	各二五・〇
樟腦	各二・〇	ワゼリン	各五〇・〇	亞麻仁油	各二五・〇
抱水クロラール	四〇・〇	右爲軟膏外用		右混和爲擦劑	
ワゼリン	〇・三	サポラン・鉛水	一・〇	鹽酸コカイン	二五・〇
右爲混和軟膏外用		右混和外用	〇・二	パラフィン軟膏	二五・〇
チモール	一五・〇	鹽酸オイカイン		右混和爲軟膏一日二三回外用	
グリセリン		メントール			

瘦削 Marasmus. (羅)

療法 飼養管理ニ注意シ善良乾草ヲ與ヘ夏時ハ青草ヲ給シ或ハ放牧スヘシ消化シ易キ食物(麩・挽

瘦削

二二三

麥、碎豆等)ヲ與へ能ク其病原ヲ探究シテ之ニ對スル療法ヲ施シ藥物トシテ苦味強壯藥(龍膽・大黃)等ヲ與へ毎食餌ニ食鹽少許ヲ混シテ與フ

創傷 Vulnere. (羅)

創傷療法

創傷療法ノ要旨ハ(第一)創傷ノ癒合ヲ妨ケ且生命ヲ危フスル諸件ニ注意シ之ヲ除去スルニ在リ(第二)創傷ヲ接合シテ適當ノ位置ニ保定シ且其接合ヲ妨害スル諸件ヲ避クルニ在リ(第三)創傷ノ化膿及傳染ヲ防クニ在リ(第四)攝生ニ注意シ體力ヲ強壯ニシ癒創力ヲ促進スルニ在リ所謂攝生療法之ナリ

第一 止血法

人工止血法ニハ二種アリ一ハ小血管ノ止血法ニシテ一ハ大血管ニ施ス止血法ナリ

(甲)小血管(毛細管・實質出血)ノ止血法左ノ如シ

- 一、熱 熱ハ血液凝固ヲ促進シ血管ノ形成ヲ迅速ナラシムルニ由リ止血法ニ用フ、烙鐵或ハ「テルモコーテル」ヨリ發射スル熱ハ血管ノ開口部ニ於テ迅速ニ血管ヲ生ス動脈管ニ於テハ血壓高キカ故ニ一度血管ヲ生スルモ直ニ血流ニ由リテ排除セララルコトアリト雖熱ノ應用ニ由リ痲皮ヲ生スレハ容易ニ剝脫セス此目的ニハ主トシテ赤熾熱ヲ用フ是レ白熾熱ニ由リテ生スル痲皮ハ組織ヲ全然炭化スルニ由リ抵抗力少シ又熱度低キニ過クル烙鐵ハ痲皮ニ燒着シテ之ヲ剝離スルノ缺點アレハナリ
- 二、寒冷 寒冷ハ血管ヲ收縮セシムルニ由リ一般ニ實質出血ノ止血法ニ適用ス冷水灌溉・氷囊・氷片ノ形狀ニ於テ用フ
- 三、溫湯 四十五度ノ溫ヲ有スル水ハ直ニ血液ノ凝固ヲ促スノ効アルニ由リ之ヲ灌溉シテ止血ス

四、止血藥

止血作用ハ尙藥物(止血藥)ノ力ヲ藉リテ奏効ス止血藥ハ一部ハ血管ヲ縮小シ一部ハ血液凝固ヲ促進シ血管形成ヲ誘起ス止血藥中第一ニ掲記セララルモノハ過「クロール」鐵液ナリ此液ヲ直接ニ創面ニ應用シ或ハ藥液ヲ綿ニ浸漬シテ乾燥シタルモノ即止血綿ヲ用フ或ハ此液ヲ以テ綿塊或ハ綿紗塊ヲ浸漬シ大約一・二分時間止血部ヲ之ニ依リテ可成固ク壓抵スヘシ此藥物ノ効力ハ血液ノ凝固ヲ迅速ニシ硬固ノ凝塊ヲ形成ス永ク貯フルトキハ液中ニ鹽酸ヲ遊離シ之ヲ應用スルトキハ劇痛ヲ感セシムルカ故ニ此酸ヲ中和スル爲「アムモニア」水ヲ加フ依テ生スル沈澱ノ消失セサル迄之ヲ加フ、之ト同効力ヲ有スルモノハ「タンニン」酸・明礬・醋其他收斂藥ノ多數・硫酸鐵・硫酸亞鉛・硫酸銅・鹽化「アドレナリン」等ナリトス、又血液凝固ヲ迅速ナラシメ且形成セル血管ヲ強固ナラシムル爲多孔鬆粗

物體ヲ應用ス例之綿・紡績布・木炭末・澱粉・「アラビヤゴム」等ノ粉末ノ如シ

五、栓塞法

麻織子・綿紗・綿・海綿等ノ球塊ヲ以テ創窩ヲ填メ繃帶ヲ以テ緊縛シ或ハ其球塊ヲ浸スニ止血液ヲ以テシ若ハ之ニ撒布スルニ止血粉ヲ以テスルコトアリ栓塞子ハ一乃至二日間創内ニ留置ス

(乙)大血管ノ止血法 大血管ノ出血ニ在リテハ前記ノ止血法ハ効ヲ奏セス加之創傷癒合機ニ惡感作ヲ及ホスカ故ニ其應用ハ制限セララル大血管ノ止血法ハ左ノ如シ

一、血管ノ壓抵法(Compression)

危險ナル出血ハ可成迅速ニ止血スル爲一時ノ止血法トシテ出血セル血管ヲ指ヲ以テ壓迫シ或ハ出血部ノ周圍ニ結紮系ヲ施用ス往時ハ絞壓機ト稱スル裝置ニシテ止血部ニ帶ヲ螺旋シテ壓抵セリ近來手術豫備止血トシテ「エスマルク」氏驅血帶ヲ用フ強キ護謨管ニシテ四肢ニ纏絡シテ止血シ或ハ出血性手術ノ際血液ヲ惜儉スル爲ニ用フ

二、鉗壓法(Forcepression)

大手術中ニ用フルニ便ナリ其法ハ捻轉鑷子・動脈鑷子ヲ以テ血管ヲ鉗壓

シ或時間放置ス然ルトキハ血管壁ハ互ニ壓迫シ其後血塞ヲ生ス五乃至十分ノ後器械ヲ除去スレハ止血ス大血管ニ在リテハ此法ニ由リテハ全然止血セス唯一時止血スルニ止マル場合ニヨリテハ動脈鑷子ハ二四―四八時間放置スルコトアリ特ニ結紮困難ナル場合ニ於テ然リ

三、血管捻轉法(Torsion) 血管斷端ヲ結紮鑷子ニテ把シ少シク牽出し其縱軸ニ匝リテ捻轉スレハ血管内皮ハ破レ中皮ハ外皮ヨリ離レテ血管腔ニ卷回シ外皮ハ損セラレス捻轉シ以テ開口ヲ捻閉ス此法ニ二種アリ自由捻轉及限局捻轉之ナリ甲法ハ一個ノ鑷子ヲ以テ血管端ヲ把シテ牽出し斷端ヨリ一乃至三十回或ハ把端ノ斷裂スル迄捻轉ス乙法ハ一鑷子ヲ以テ血管端ヲ把シテ牽出し斷端ヨリ一乃至二仙迷ヲ距テ他ノ鑷子ヲ抵シテ之ヲ固定シ置キテ一方ノ鑷子ヲ捻轉ス限局捻轉法ハ血管鬆粗組織中ニ在リテ牽出捻轉ノ範圍廣キ場合ニ用ヒ自由捻轉法ハ血管斷端ノ捻轉制限セラルル場合ニ用フ捻轉ハ結紮ノ如ク確實ナラス殊ニ動脈ニ於テハ効驗著シカラス

四、血管ノ結紮法(Ligature) ハ最モ安全ナル止血法ニシテ損傷セラレタル血管ノ結紮ヨリ成ル凡ソ出血スル所ノ脈管口徑ハ悉ク之ヲ結紮スルヲ要ス斯クスレハ大血管ト雖更ニ危險ノ後出血ヲ來スコトナシ、血管ノ結紮ニハ結紮鑷子或ハ動脈鑷子及結紮絲ヲ要ス鑷子ハ強固ニシテ且堅韌ナル齒鉤ヲ其末端ニ具フ之ヲ以テ開放セル血管口ヲ把持シ以テ鑷子ニ附着セル適當ノ裝置(嵌止機)ヲ以テ之ヲ閉鎖ス現時ハ主トシテ第三圖ニ示スカ如キ鑷子ヲ用フペーアン氏動脈鑷子モ亦之ト同様ノ形狀ヲ有シ應用ニ便ナリ

(イ)直接結紮(分離結紮) ハ血管ノ斷端創面ニ突出スルモノニ施ス法ニシテ先血管端ヲ結紮鑷子ヲ

第三圖



血管結紮鑷子

第四圖



血管結紮法

以テ個々特離シテ把捉シ爾後麻絲・絹絲・金屬線・獸腸線・カンガル・臍絲・牛血管絲等ヲ以テ鑷子ノ後方ニ於テ注意シテ之ヲ結紮スヘシ結紮絲ハ充分消毒防腐シタルモノヲ用ヒ決シテ之ニ依リテ創傷ノ治癒ヲ妨害スヘカラス、往々結紮絲ノ防腐ヲ怠リタル爲往時ハ血塞ノ腐敗軟化ニ由リテ膿毒症ヲ醸

シ或ハ強直症ヲ發シタル例アリ結紮ノ際ニハ決シテ血管ノ牽引破裂又ハ結紮ノ滑脱ナキ様努ムヘシ結紮絲中麻絲・絹絲及金屬線ハ吸收セラレスシテ組織内ニ遺存シ殊ニ金屬線ハ組織ヲ刺戟スルニ由リ稀ニ用フルニ過キス獸腸線ハ吸收速ニ失スルノ不利アリ稀釋「クローム」酸ニ浸シテ強韌トナシ無水酒精ヲ容レタル金屬器ニ入レ一時間攝氏百二十度ニ熱シ密封シテ貯フ臍絲ハ「カンガル」ノ尾臍ヨリ作り牛血管絲ハ牛動脈管ノ中層ヨリ作ル是等ハ用前四十八時間一%ノ昇汞酒精溶液ニテ消毒スルヲ要ス大動脈ノ結紮ニ在リテハ二個ノ複結節所謂外科的結紮ヲ作り小動脈ニ於テハ尋常ノ單一ノ結紮ヲ爲ス外科的結紮ヲナスニハ其一系端ヲ他系ニ纏絡スルコト單一ノ結紮ノ如ク一回ニ止マラスシテ二回之ヲ行フ此際第二回ノ結紮ハ緊縮セサルヲ要ス是レ第一

一回ノ結紮弛緩スル虞アレハナリ血管ノ大小ニ隨ヒ結紮絲モ亦撰用スヘシ概シテ適當ノ麻絲或ハ強キ絹絲ヲ用フ
(ロ)間接結紮法(總括結紮法) ハ鑷子ヲ以テ出血部(血管及周圍組織)ト共ニ血管ヲ結紮ス此法ハ血

管ノ斷端收縮シテ深部ニ入り之ヲ見ル能ハスシテ唯出血ノミヲ見ルモノ或ハ組織緻密硬固ニシテ血管ヲ特離把出スル能ハサル場合ニ施ス組織及血管ノ共把ニハ廣キ鉤ヲ有スル鑷子ヲ用フ此法ニ依リテ結紮セラレタル組織ハ血行廢絶スルニ由リ壞死スルノミナラス結紮絲ノ該部ニ及ホス壓迫ニ由リ疼痛ヲ發起ス故ニ此法ハ可成用ヒス必要已ムヲ得サル場合ニ於テノミ施スヘシ之ニ用フル結紮絲ハ獸腸線或ハ絹絲ナリ

(ハ)連續血管ノ結紮 トハ血管ノ斷端ニ於テ結紮セス其連絡スル血管經路ニ於テ結紮スル法ヲ云フ此法ハ斷端ニ直達シテ結紮ヲ行フ能ハサル場合ニ施ス例之骨間動脈ノ出血ニ於テ橈骨動脈ヲ結紮スルカ如シ須ラク局所解剖的構成ヲ鑑ミ血液ノ配布ヲ案シ其中心ニ接スル部及末梢ニ位スル部ヲ結紮スヘシ

第二 創傷内ノ異物除去・清潔・乾燥

(甲)異物除去 止血終レハ創内ニ遺存スル異物(化學的若ハ器械的)及創口ニ附着セル血液ヲ除去ス異物遺存スレハ創部ヲ刺戟シテ疼痛ヲ増シ炎症・化膿・肉芽ヲ増加シ癒合機ヲ妨害スルノミナラス種ノ創傷傳染病ヲ誘發スル原トナル而シテ動物體ハ外來ノ異物ニ對シテ種々ノ反應ヲ起シ或ハ之ヲ體外ニ驅出シ或ハ新生組織ヲ以テ包裹シテ無害ナラシメ或ハ之ヲ崩解シテ體外ニ排出若ハ吸收消散セシムル機能ヲ有スト雖之カ爲メ長日月ヲ要シ且創傷ノ癒合機ヲ緩慢ナラシムルカ故ニ速ニ人工的除去ヲ施ササルヘカラス即チ嚴密ナル防腐法ヲ施シ手指・鉗子ヲ以テ精密ニ異物ヲ摘除シ或ハ特製ノ拔丸鑷子・彈丸鑷子等ヲ用フ若シ彈丸ノ如ク占地ヲ轉シテ表層ニ近ツクモノハ更ニ對孔ヲ設ケ之ヲ拔除シ化學的ノ異物ハ洗除スヘシ

(乙)清潔・乾燥 創面清潔ニハ乾式及濕式ノ二法アリ乾式ハ綿紗・綿・布片・麻織子等ヲ以テ創面ヲ清拭スルノ法ニシテ濕式ハ創傷及其周圍ヲ三%ノ石炭酸或ハ千倍乃至五千倍ノ昇汞水ヲ以テ洗滌ス此目的ニハ灌水器(Errigator)ヲ用フルヲ便トス 此器ハ硝子或ハ金屬製ノ圓壺及之ニ連絡スル護管



灌水器



灌水器

創傷

ヨリ成ル創傷洗滌ニハ過度ニ強烈ナル制腐液ヲ用フヘカラス是レ創傷ハ之カ爲メ刺戟セラレ創傷分泌液ヲ増加スルノ害アリ然レトモ既ニ染毒又ハ化膿セル創傷或ハ深キ創傷(刺創)ハ稍強度ノ制腐液ヲ用ヒテ洗滌シ終リニ弱度ノ制腐液ニテ濃厚ノ藥液ヲ洗滌ス若シ灌水器ナキトキハ消毒セル海綿・綿紗・棉花等ニ適度ノ制腐液ヲ浸シ洗滌ヲ行フヘシ人醫ニ在リテハ手術創傷ハ滅菌蒸餾水ノ洗滌ヲ行ヒ制腐液ノ灌漑ヲ用ヒス能ク効ヲ奏スルコトアルモ家畜ニ在リテハ創傷ノ染毒スルコト多キカ故ニ制腐液ノ應用ヲ廢スル能ハス創傷ヲ清潔ニスルニ際シ乾式及濕式共ニ決シテ創面ヲ摩擦スヘカラス之ニ依リテ既ニ生シタル血液凝塊剝離シテ再ヒ出血ヲ來スコトアレハナリ

創面ハ充分清潔ニナシ畢ラハ消毒乾燥セル綿紗・綿等ニテ創面ヲ拭ヒ全然乾燥セシメ次ヲ必要ニ應シテ創形整理ヲ行ヒ縫合ス

第三 創形整理法

創縁ハ癒ユルニ其形ノ恰好ナルヲ要ス故ニ創縁齊整ナラサレハ外科刀或ハ鋏ヲ以テ之ヲ切斷整理ス
挫創ノ壞死部ハ截テ之ヲ去リ皮片ノ剝離スルモノハ亦之ヲ截リ去ル眼瞼・唇・鼻翼等ノ創傷ニ於テ皮
片ノ剝離垂下スルコトアリ斯ノ如キハ新ニ發スルモノハ縫合シ久シキヲ經タルモノハ截去スヘシ

第四 創縁ノ接合(創傷縫合法)

創縁哆開スルトキハ治癒困難ニシテ著シク治機ヲ遷引スルカ故ニ第一期癒合ニ依リテ可成速ニ治癒
ヲ來サントスルニハ適當ノ方法ヲ以テ創縁ヲ接合閉鎖スルヲ要ス創傷縫合ハ如何ナル場合ニ於テモ
防腐法ヲ嚴行シ之ニ用フル器具ハ無敗性ナラサルヘカラス然レトモ第一期癒合ノ望ナケレハ縫合ハ
規則的ニ背示ナリ是レ縫合ニ由リ創傷分泌液及膿汁ノ排泄ヲ妨害スレハナリ此場合ニ於テ止血ノ爲
ニ創傷ノ縫合必要ナレハ之ヲ施シ二十四乃至四十八時間後ニ除去スヘシ縫合ニ用フル器具ハ縫合鋏・
把鋏器及縫合線ナリ共ニ無敗性ナラサルヘカラス

(一)縫合鋏 縫合鋏ニ二種アリ一ハ無柄鋏ニシテ一ハ有柄鋏ナリ

(イ)無柄鋏 ハ(第七・八圖)鋼製ニシテ直形(直鋏)或ハ彎形(彎鋏)ヲナシ一端(鋏尖)ハ尖リテ二刃若
ハ三刃ヲ有シテ組織ニ刺入スルニ便シ他端(鋏頭)ハ圓錐形ニシテ孔ヲ有シ糸ヲ通スルニ供ス 鋏體ハ
圓錐形・三角形或ハ平板形ニシテ其面平滑或ハ凹陥ス 彎鋏ハ半圓形ノ如ク全部彎曲セルモノアリ(第
七圖)或ハ鋏尖ニ至リテ彎曲スルモノアリ(第八圖)鋏ニ大小アリ最小ナルモノハ長サ二仙迷厚一密
迷幅二密迷、最大ナルモノハ長サ十乃至十二仙迷トス 鋏ノ貫通困難ナルトキハ特製ノ鋏ハゲドルン
氏(Hagedorn)鋏(第九圖)ヲ用フルヲ便トス 此鋏ハ扁平ニシテ組織ヲ刺通スルコト容易ニシテ特ニ

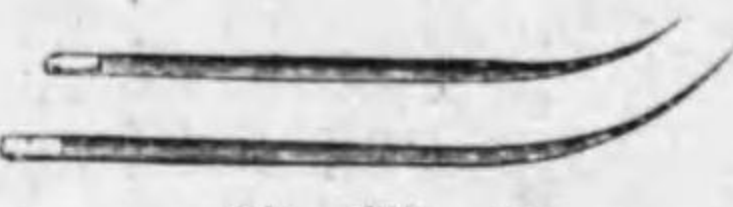
把鋏器ヲ用フレハ最便ナリ且此鋏ハ鋏頭端ニ缺刻ヲ有シ又鋏頭ニ縫線ヲ容ルル裂溝アリテ此溝内ニ
縫線ヲ容ルルニヨリ鋏ノ通過宜シ是等ノ無柄鋏ハ指或ハ特別ノ把鋏器ニ由リテ組織ニ刺通ス

第七圖



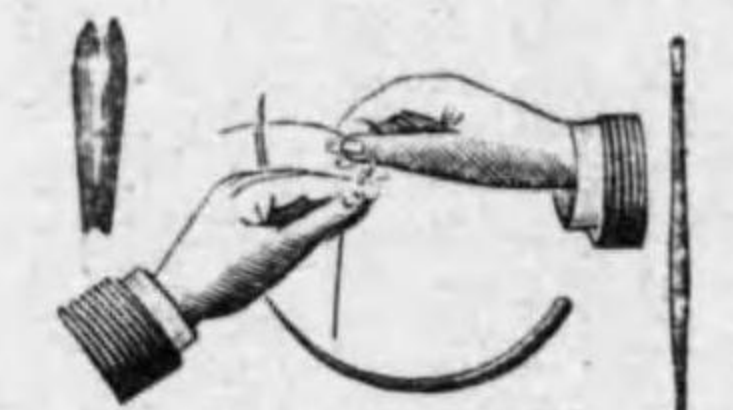
彎鋏全

第八圖



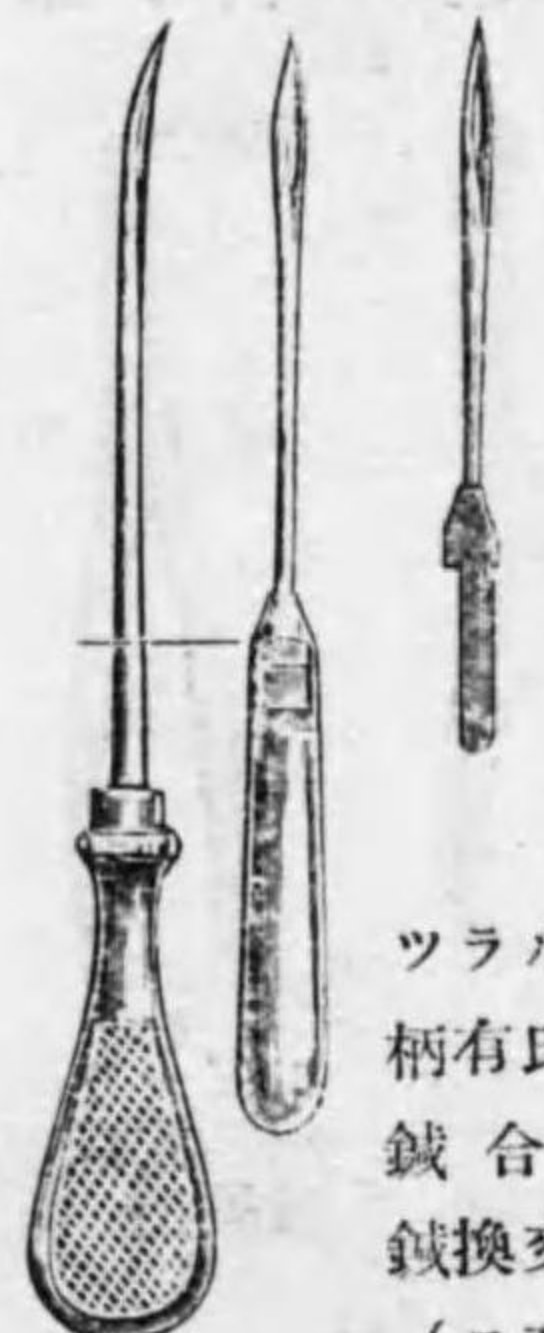
彎鋏半

第九圖



ハゲドルン氏縫合鋏

第一圖



ツラルゲ
柄有氏ハ縫
合鋏交換
(ス有)

ツラルゲ
柄有氏ハ
縫合鋏

創傷

二四一

(ロ)有柄鋏 (第一〇・一一圖)ハ柄ヲ具
フル強大ナル鋼製ノ鋏ニシテ其尖端ニ孔
アリ縫線ヲ通スニ供ス此鋏ハ刺通ニ便ナ
リゲラツハ氏(Gelach)縫合鋏ハ最モ
實用ニ適ス大創傷ノ縫合・貫線打膿其他
同様ノ目的ニ用フ又結紮縫合ニハ此鋏ヲ
常用ス

(二)把鋏器 (第一二・一三圖)ハ無柄鋏ヲ
把持スル器械ニシテ種々ノ構造アリ此器
ハ皮膚硬厚ナル部分例之大動物ノ背部・
四肢下部等ノ如キ或ハ手ヲ以テ鋏ヲ使ヒ
能ハサルトキ特ニ口腔及咽頭腔等ニ應用
ス把鋏器中常用スヘキモノハローゼル氏
(Roser)把鋏器(第一二圖)及ハゲドル
ン氏(Hagedorn)把鋏器(第一三圖)ナ
リ結紮鑷子モ亦把鋏器トシテ用フルヲ得

創傷

圖二一第



ルゼーロ式把

圖三一第



ハゲ式把

可シ
 (三)縫合線 ハ麻絲・絹絲・獸腸線・馬毛稀ニ金屬線(銀線)等ニシテ第一期癒合ヲ期セント欲セハ嚴密ナル防腐(滅菌)ヲ要ス、若シ適當ニ防腐スル能ハサル場合ニハ可成清潔ナル材料ヲ用フ、如何ナル場合ニ於テモ一度地上ニ落ちタルモノハ再ヒ用ニ充ツヘカラス、往時ハ此點ニ重キヲ置カスシテ屢々強直症其ノ他ノ重性傳染病ヲ誘發シタリ、獸腸線ハ最良ノ縫合線ニシテ吸收セラレ易キカ故ニ皮下縫合所謂埋沒縫合ニ用フ、抵抗力ノ強大ヲ要スル場合ニハ絹絲或ハ麻絲ヲ撰用ス銀線其他ノ金屬線ハ濕氣ヲ吸收セス且腐敗セサルノ利アリト雖硬キニ失シ組織緊張スレハ創縁斷裂スルノ害アリ又吸收セラレス獸腸線ハ刺激性ナク吸收セラレルノ利アリト雖其吸收早キニ失シ創ノ未タ癒合セサルニ先チ結點分離・創縁哆開スルコトアリ故ニ長時日ヲ要スル縫合ニ適セス馬毛ハ濕氣ヲ吸收セス長時日ニ耐ユルト雖結フニ難ク且其質脆ク解脱シ易シ絹絲ハ吸收セラレサルモ刺激性ナク長時日ニ耐ユ、要スルニ絹絲及獸腸線ハ普通ニ使用セラレル縫合線ナリメラ一氏ハ高價ナル絹絲ノ代リニ麻絲ヲ用ヒテ之ト同様ノ結果ヲ得タリ

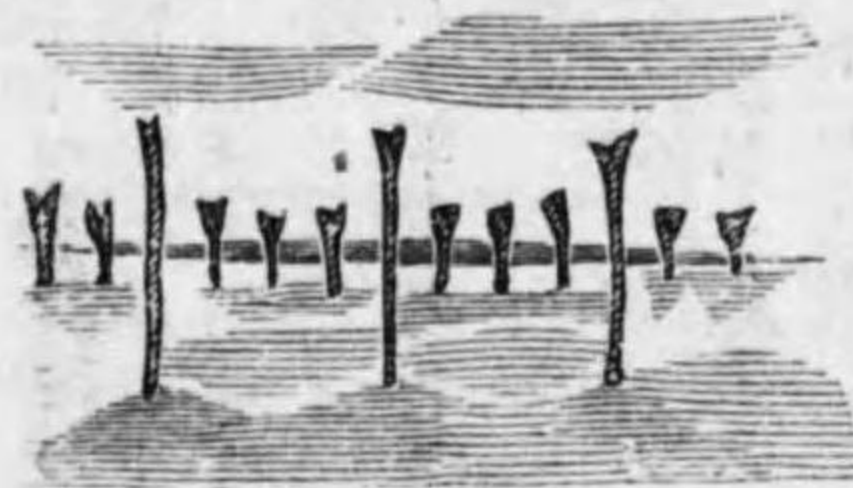
縫合法

獸醫術ニ用フル縫合ノ種類左ノ如シ

一、結節縫合又ハ結縫 Sutura nodosa (第一四圖) 先ツ直鍼或ハ彎鍼ニ縫線ヲ裝ス其裝法ハ防腐性

獸腸線或ハ絹絲ヲ單一ニ鍼孔ニ於テ結ヒ或ハ唯長キ縮縮トシテ通過セシムルヲ便トス殊ニ太キ絲線ノ結節ハ皮膚中ニ於テ孔部ヲ通過スルノ際妨害ヲナスコトアリ縫合ヲ行フニハ有鉤鑷子ヲ以テ創縁ヲ把持シ鍼ヲ以テ先ツ一方ノ創唇ニ直角ニ刺穿シ適當ノ深サニ達スレハ鍼尖ヲ轉シ對側ノ創唇ヲ壓抵シテ鍼尖ヲ穿通セシメテ鍼ヲ出ス或ハ助手ヲシテ兩創縁ヲ接合セシムルトキハ一回ノ穿刺ニテ同時ニ兩創唇ヲ穿通スルヲ得、各縫絲ヲ刺通スル距離ハ一乃至三仙迷ニシテ創ノ大小ニ隨ヒ其數ハ不定ナリ縫合ハ中央ヨリ始ムルヲ便トス既ニ第一縫合終レハ創縁ノ適當ニ接合スルヤ否ヤヲ檢シ紛糾セサル様注意スヘシ獨リ皮膚ノ適合ノミナラス深奥軟部ノ適合ニモ亦注意スヘシ組織彈力強キトキハ鍼ヲ深ク刺入シテ創ノ深サノ半ハ以上ニ達セシムヘシ(第一四圖)又彈力性創面ハ互ニ牽引シ所謂

圖四一第



合縫節結

(合縫張緩) (合縫着接)



ケ於ニ合縫節結

法刺穿ノ鍼ル

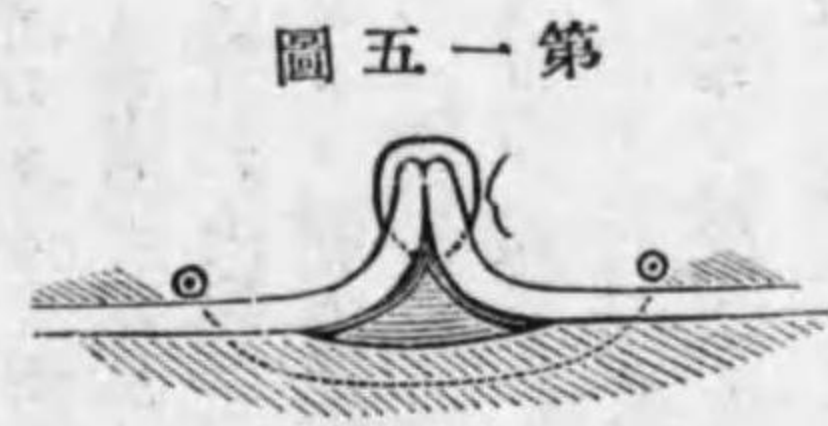
死室ヲ形成シ茲ニ血液及創傷分泌物滯積シテ分解シ治機ヲ障碍シ動物ノ生命ヲ危險ナラシムルコトアリ、縫線ヲ刺通シ終ラハ個々ニ結節シ其結點ハ創ノ一側特ニ其上緣ニ位スルヲ宜トス銀線ヲ用フルトキハ各縫線ヲ直角ニ交叉シ二三回捻轉シテ結點ヲ作ル縫孔ノ各縁ヲ去ル距離ハ創ノ深淺ニ隨ヒ鍼數ハ創ノ大小及深淺ニ隨テ異ル、結節縫合ニ二種アリ接着縫合及緩張縫合或免緊縫合是レナリ

接着縫合トハ直接ニ創縁ヲ接合附着スル縫合法

創傷

ヲ云フ鍼ノ刺入及刺出點ノ創縁ヲ去ル距離ハ短ク約半乃至一仙迷トス
 緩張縫合 深クシテ且哆開大ナル創傷ニ在リテハ縫合深ク且廣カラサレハ動モスレハ絲ハ破裂シ或
 ハ創縁斷裂スルコトアリ此場合ニ於テハ創縁ノ緊張ヲ緩免スル爲緩張縫合ヲ用フ此法ハ創縁ヨリ三
 乃至六仙迷ノ距離ニ於テ鍼ヲ深ク刺入シ對側ニ之ヲ刺出シテ結節ス緩張縫合ハ深大創ニ於テ接着縫
 合ト連用シ最初ニ緩張縫合ヲ行ヒ居所ノ緊張ヲ緩ラケ次テ接着縫合ヲ行フ斯ノ如ク深淺ノ縫合ヲ併
 用スルトキハ之ヲ階段縫合ト稱ス

定位縫合 長大ナル哆開創ニ在リテハ先ツ創縁ノ適正ナル接合ヲ確保セン爲メ所謂定位縫合ヲ施ス
 此縫合ハ例之新鮮ナル筋創ニシテ第一期癒合ノ期望ナキ場合ニ創縁ノ收縮ヲ防ク爲ニ施ス此縫合ヲ
 施シ三四日ヲ經過スレハ創縁ニ炎症浸潤ヲ起シ既ニ新創ノ如ク收縮セサルニ至リテ始メテ接着縫合
 ヲ施ス此縫合ニハ可成太キ縫線ヲ用フヘシ是レ細絲ハ創縁ヲ斷截スル虞ア
 レハナリ

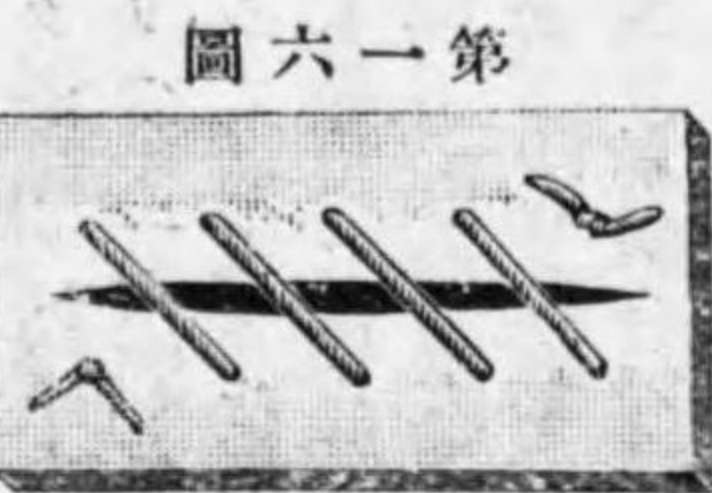


第一五圖
 緩張縫合ヲ以テスル
 皮下織ノ接合法

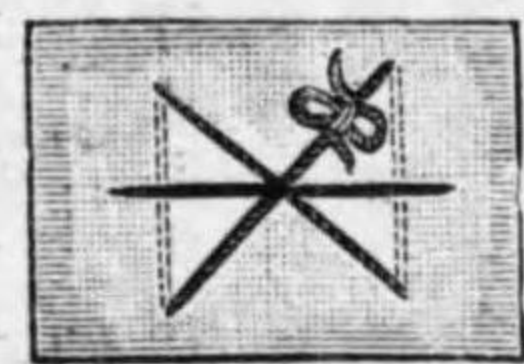
凹窪セル創傷或ハ菲薄ナル皮膚ノ創傷ニ在リテハ縫合絲ノ結締後創縁内翻
 シテ皮膚ノ外面互ニ觸接スルコトアリ然ルトキハ到底創縁ハ癒合セス故ニ
 創縁ノ内翻ヲ避クル爲メ縫合絲ヲ結締スル間ハ創縁内ニ彎缺ヲ挿入シテ下ヨ
 リ保定スルカ或ハ創縁ヲ示指及母指ニテ把舉シテ維持シ結締スヘシ然ルト
 キハ創縁ノ皮下織ハ互ニ接着シ決シテ内翻スルコトナシバイエル氏(Bayer)
 ニヨレハ此法ハ馬ニ於テ特ニ良好ナリト此法ニ依リテ縫合スルトキ創縁ハ
 ○五一一・五仙迷水平面ヨリ突窿ス(第一五圖)

結節縫合ニ際シテ注意スヘキ要件ハ縫合絲ノ結締法ニ在リ其結締ハ創縁ノ適當ニ接合スルヲ程度ト
 ス結締緩ニ失スレハ縫合ノ目的ヲ達セス反之緊縮ニ過クレハ創縁ノ血行及營養機能ヲ障碍シ隨テ治
 機ヲ緩慢ニシ時トシテ創縁ノ壞死ヲ誘起スルコトアリ腫脹ノ豫想アルカ或ハ現ニ腫脹ノ存在スルヤ
 否ヤヲ顧慮精査シ甲ノ場合ニハ結締ヲ緩カニシ乙ノ場合ニモ初メ緩結ヲナシ腫脹去ルノ後緊結スヘ
 シ結締スルニハ通常單純ノ二重結ヒテ用ヒテ殘絲ヲ切除スト雖大哆開創ニ在リテハ外科的結節ヲ施
 ス即チ絲ヲシテ二回交互ニ相纏縮セシメテ後結締ス縫合ヲ早晚解脱スルノ豫期アレハ解ケ易キ結締
 ヲ用フヘシ此法ハ主トシテ定位縫合ニノミ限用ス

二、進行縫合 連續縫合・綴縫・革匠縫合 Sutura continua. (第一六圖)



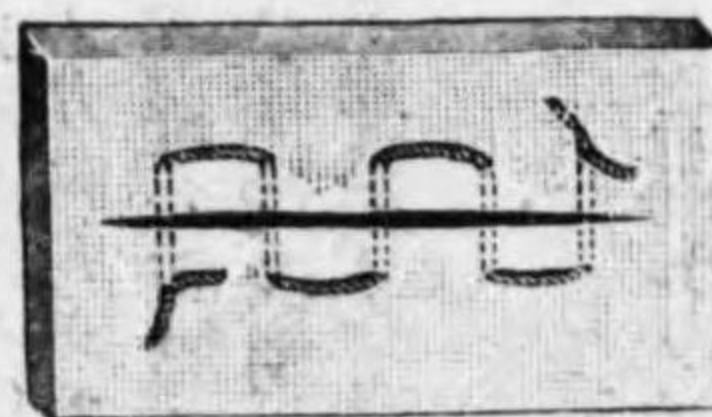
第一六圖
 連續縫合



第一八圖
 X狀縫合



第一九圖
 丁字狀縫合



犬牙狀縫合

或ハ絲端ニ結點
 ヲ作リ其絲ヲ
 切斷セスシテ一
 乃至三仙迷ノ距
 離ニ於テ創縁ニ
 對シテ直角ニ鍼
 ヲ穿刺シ平等ノ
 距離ヲ以テ兩創
 縁ヲ透シテ引キ
 續キ創縁ノ他部

ニ至ル迄進行シ缺ヲ以テ絲ヲ切り其端ヲ結締シテ結點ヲ作ル此縫合法ハ簡單ナリト雖結節縫合ノ如ク創縁ノ精確ナル接合ヲ來サシムル能ハス是レ創縁互ニ直角ノ方向ナラス斜メニ緊縮セラレハナリ(第一六圖ニ付キテ見ヨ)且一端ニ於テ絲カ斷解スルトキハ全縫合弛脱スルノ不利アリ又必要ニ應シテ希望スル部分ノ縫合ノミヲ解除スル能ハス故ニ進行縫合ハ唯淺表創或ハ豫備縫合ノミニ適スルモ結締ニ依ル免緊縫合ト共ニ行フトキハ確實ニシテ且用ニ適ス此縫合ノ一種ニシテX狀縫合(第一七圖)丁字狀縫合(第一八圖)アリ

三、犬牙狀縫合 (Zigzag suture. (第一九圖))

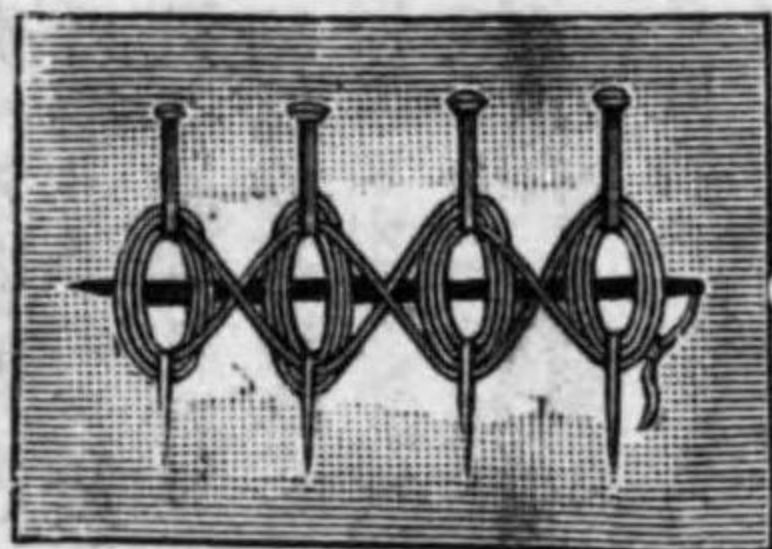
犬牙狀縫合ハ進行縫合ニ類似ス其異ナル所ハ創ノ一邊ヨリ他邊ニ涉ルノ線ハ創縁上ヲ踰ヘスシテ其下ヲ潛過スルニ在リ故ニ縫線ハ創ノ各邊ニ於テ少シク皮上ニ現ハルルノミ此法ハ稀ニ用フ

圖〇二第



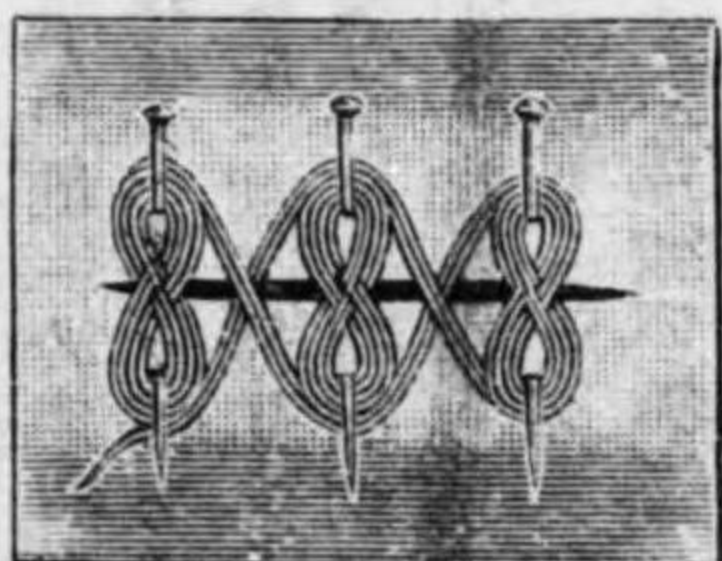
合縫絡經

圖一二第



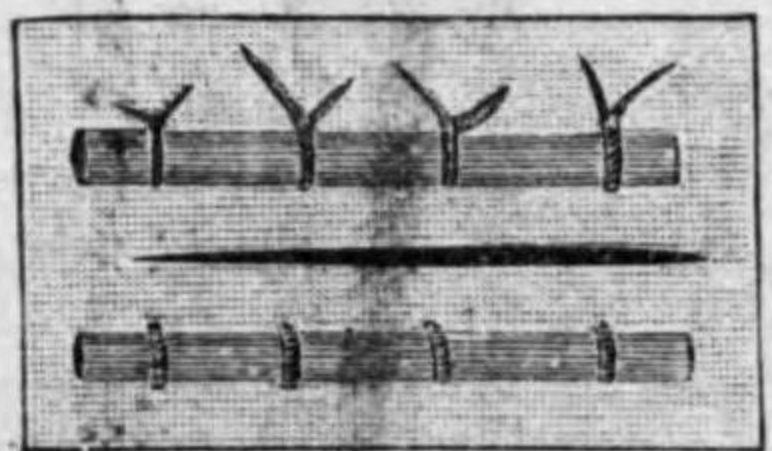
合縫絡經形字八

圖二二第



合縫絡經狀〇

圖三二第

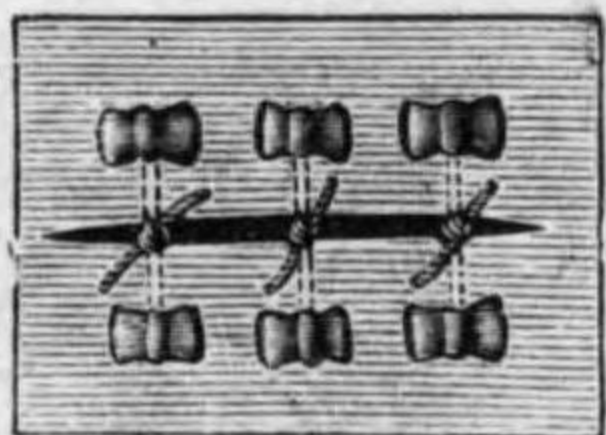


合縫翻英

四、纏絡縫合(纏絡) Sutura circumvolata.

創縁ニ帽子針ヲ一乃至二仙迷ノ距離ニ於テ横貫ス帽子針ニ代フルニ長クシテ鎗狀尖端ヲ有スル「カルルスバット」鍼ヲ用フ小創ニ在リテハ一鍼ニ二重ニ縫線ヲ纏絡スレハ足ル(第二〇圖)其縫線ハ麻絲・馬毛(刺絡創ノ縫合ノ如シ)ヲ8形(八字形纏絡縫合第二一圖)或ハ〇狀纏絡縫合(第二二圖)ニ縫綴ス唯一針ヲ通シタルトキハ線ノ兩端ヲ結締シ多數ノ針ヲ用ヒタルトキハ各針ニ絲ヲ連絡シテ纏ヒ終リニ結締スヘシ

圖四二第



ルフ用ヲ葶牀子織麻合縫翻英

此縫合ノ利益ハ縫合材料ノ單純ナルノミナラス其應用法モ亦單純且創縁ハ強靱ナル針ニ由リテ確實ニ固定セラレテ解脫セス此縫合ハ唯淺表創ノミニ用ヒラレ深創ニハ用フル能ハス移動シ易キ部分ノ縫合ニ最モ適ス例之唇・鼻翼・眼瞼・頬ノ創傷ノ如シ又此縫合ノ利益ハ其應用不安ノ動物ニ於テモ容易ニシテ他ノ結節縫合ヨリモ施シ易シ尙創縁ヲ確接セントセハ針上ニ「コロヂウム」若ハ膠ヲ以テ被覆スヘシ之ニ依リ獨リ摩擦ニ由ル創部ノ損傷ヲ防クノミナラス爾後ノ損傷傳染ヲ豫防スルノ利アリ

五、英翻縫合(腹縫) Sutura clavata.

英翻縫合ハ深創ニシテ哆開大ナル創傷ニ應用シテ利アリ是レ創縁ノ破裂或ハ斷裂ハ縫線ニ依リ確實ニ防止スルヲ得ヘク且深創底モ能ク接合ス此縫合ノ術式ハ左ノ如シ
二個ノ鉛筆大圓滑ナル木杆或ハ同様ノ護謨等ヲ創ヨリ長ク切り創縁ヨリ同距離ニ於テ並行シテ皮膚上ニ置キ其後ノ縫線ヲ結節縫合ノ如ク創縁ニ穿通ス之カ爲ニハ強靱ナル彎鍼ヲ用フ、刺入口ニアル縫線係ニ前記ノ木杆或ハ護謨ヲ掛ケ次テ刺出口ニアル重線ノ兩端ヲ牽キテ之ニ第二ノ棒ヲ結着

ス近年人醫ニ於テハ硝子連珠ヲ用フ(連珠縫合)反之所謂牀褥縫合ト稱スルモノハ硝子連珠ノ代リニ麻茹ヲ用ヒタルモノナリ(第二四圖)

六、絞搾縫合 Purse-suture.

絞搾縫合ハ圓形開口創例之瘻管ヲ閉塞スルニ用フ初メディーフエンバツハ氏(Dieffenbach)ニ依リテ應用セラレタリ一ノ強靱ナル絹絲ヲ裝セル彎鍼ヲ開口ノ周圍ノ軟部ニ穿孔シ其絲端ヲ結合スルニ在リ

七、埋沒縫合 Buried suture 深創ニ於テ同組織ヲ結合スルニ用フ例之筋肉ハ筋肉・筋膜ハ筋膜ト縫合スルカ如シ此縫合ニハ滅菌セル獸腸線ヲ用フ

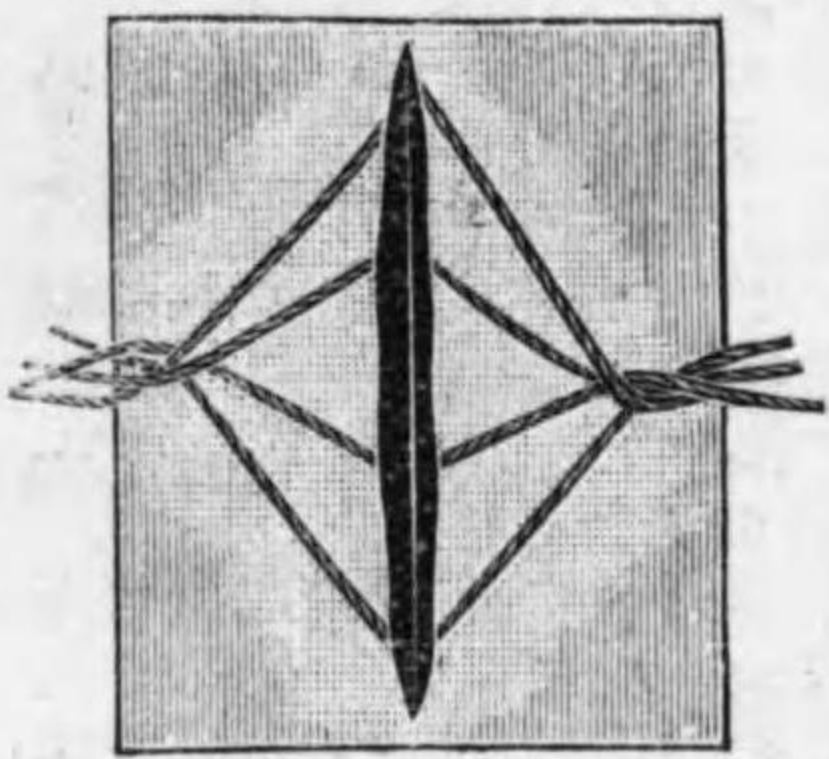
八、蹄係縫合 Loop-suture

蹄係縫合ト同様ニ施シ各縫絲ハ各個ニ結締セスシテ創縁ノ各側ニ於テ一束トナシ兩側ノ束ヲ創上ニテ結締ス食道創傷ニ應用ス(第二五圖)

九、結束縫合 Bourdonnet

結束縫合ハ創傷ノ開放療法ニ於テ用フルモノニシテ眞ノ縫合法ニアラス唯暫時皮膚ヲ接着シ置キテ創面ノ外氣ト直接スルヲ防ク又制腐填塞子ヲ維持スルノ目的ニテ用フ此法ハ有柄鍼ニテ皮膚ヲ内面ヨリ外面ニ向テ穿孔シ鍼尖皮膚ノ外面ニ現ハルレハ之ニ縫線(串線)ヲ繫ケ再ヒ鍼ヲ絲ト共ニ内方ニ抽出シ然ル後縫絲ノ外端ハ結締ヲ作り或ハ麻織子ノ牀褥ヲ結合シテ脫出ヲ防ク同様ノ方法ニシテ所要ノ數ニ隨ヒ

圖五二第



蹄係縫合

縫絲ヲ設施セハ之ヲ結締シテ皮膚ヲ接合ス其結締ハ可或緩ニシ再ヒ解結スルニ便ナラシムヘシ腫瘍或ハ病的組織摘出後ニ施ス縫合法ニシテ時々縫合ヲ解キテ創面ヲ洗滌シ填塞子ヲ交換ス縫合ノ通則及注意

- (一) 創縁ノ被毛ハ剪除シ且創内ニ被毛ノ入ラサル様注意スヘシ、(二) 創縁ハ整理シ其面不整ナレハ外科刀或ハ剪刀ニテ切除シ平均ニシ若シ陳舊ニシテ乾燥或ハ硬固ナレハ刀ヲ以テ切除シ新鮮ナル平滑創面ヲ作り接合スヘシ、(三) 縫合鍼ハ可成垂直ニ穿孔スヘシ決シテ斜ニ過クヘカラス、(四) 縫線ハ可成深ク貫通セシムヘシ是レ淺キニ過クルトキハ創縁ノ密合セサルノミナラス創底ニ息室ヲ生シ茲ニ創液滯溜スルノ虞アレハナリ、(五) 縫合ノ際濫リニ神經・腱・靱帶及血管等ヲ損傷スヘカラス、(六) 鍼ノ刺入及刺出點ハ創縁ヨリ同距離ニアラシムヘシ、(七) 鍼ノ刺入口ト創縁ヲ去ル距離ハ鍼ヲ通スル深サト同様ナルヲ要ス故ニ深創ニ在リテハ創縁ヨリ鍼ノ刺入口迄ノ距離ハ大ニシテ且鍼ヲ深く刺入スヘシ、(八) 各個結締點ノ距離ハ同様ナルヘシ、(九) 鍼ヲ外方ヨリ内方ニ刺入セントスルトキハ有柄鑷子或ハ左ノ拇指ト示指トニヨリ皮膚ヲ保持シ内ヨリ外ニ刺ストキハ同手指ニテ皮膚ヲ壓定シテ鍼尖ヲ刺出ス、(十) 創傷大ナレハ助手ヲシテ創縁ヲ接合保定セシムハシ、(十一) 第一縫合ハ創縁ノ接合最モ宜シキ點通常中央部ニ於テスヘシ創縁ノ一端ニ自由角アリテ瓣狀創ヲナセハ其部ニ第一縫合ヲ施ス、(十二) 縫線ノ結締ハ全縫合終ルノ後第一縫線ヨリ始ムヘシ場合ニ由リテハ第一縫線ヲ先ツ結締シ置キテ後他ノ縫線ヲ通スコトアリ、(十三) 創縁ハ縫線ヲ牽引シテ接合スヘカラス必ス軟部ヲ雙方ヨリ壓迫シテ接合セシムヘシ、(十四) 縫線ヲ結締スルニハ緊縮過度ナルヘカラス又緩ニ失スヘカラス、(結締參照)、(十五) 結締ハ創ノ一側特ニ上縁ニ設クヘシ、(十六) 創傷分泌

液多量ニシテ之カ排泄ヲ要スルトキハ其一端ヲ縫合セスシテ開放シ置クヘシ、(十七)創圍ノ腫脹甚
 タシク縫線爲ニ斷裂若ハ創縁截裂ノ虞アルモノハ最初ハ緩ニ縫合シ腫脹去ルニ及ヒ更ニ之ヲ緊縮ス
 ヘシ(結縫参照)、(十八)場合ニヨリ創縁ヲ接合セスシテ皮下織ヲ外翻シ兩皮下織面ヲ接合シテ縫合ス
 ルコトアリ反之腸管ハ内翻シテ漿液膜面ヲ接シテ縫合ス(結縫参照)

縫合ノ除去

縫合ハ次ノ場合ニ於テ除去ス、(一)創縁ノ癒合シタルトキ、縫線ハ創縁全ク癒着スル迄他ノ障碍ナ
 ケレハ除去スヘカラス而シテ其癒着ノ遲速ハ創傷ノ大小・形状・患部ノ組織・動物ノ營養等ニ依リテ異
 ナル、小創ニシテ皮膚強ク緊張セサレハ三日乃至四日ニシテ癒着シ之ニ反スル場合ニハ五日乃至十
 日ヲ要ス此日子ヲ過キ創縁已ニ附着スレハ縫合ヲ除去ス長形ノ創傷及縫合除去ノ後癒合セル創縁再
 ヒ離開スルノ危険アルトキハ同時ニ全縫合ヲ除去セスシテ一縫合宛漸次ニ除去スヘシ、縫合ヲ除去
 スルノ法ハ解剖用鑷子ヲ以テ結節ノ一絲端ヲ摘ミ輕ク牽引シ創縁ニ沿ヘル縫合線ヲ切離シ(缺ニテ)
 注意シテ絲ヲ拔除スヘシ此際絲縮ノ全部ヲ除去スルコトニ注意セサルヘカラス縫線及針(纏絡縫合)
 ヲ拔去スルノ際ニ指ヲ以テ創縁ヲ壓定シ創口ヲシテ再ヒ哆開スルコトナカラシムヘシ進行縫合ニ於
 テハ線ヲ切ルニ其中央ニ於テシ兩頭ヲ引キテ之ヲ拔去ス獸腸線ヲ以テ縫合スルトキハ其組織中ニ存
 スル部分ハ吸收セララルルニ由リ唯鑷子ヲ以テ外部ノ腸線ヲ取り去ルノミニテ足ル、(二)緩張縫合若
 シ皮膚中ニ陷没シタルトキ即チ皮膚ニ截入シタルトキハ直ニ拔除ス、(三)創縁著シク腫張シ創内傳
 染ノ徴アレハ除去ス時トシテハ一・二縫合ノミヲ除去シテ創内ヲ洗滌スルコトアリ、(四)全身熱性
 ヲ呈スレハ除去ス

第五 創傷分泌液ノ排導(創傷ノ排膿法)

創傷ニ於テ斷離開放シタル毛細管及淋巴空隙ヨリハ血液及淋巴液ヲ排泄シ爾後創傷部ノ血行障碍ニ
 由リテ血漿ヲ滲出シ相集リテ創傷分泌液ヲ形成ス創傷小ナレハ創傷分泌液ハ少量ナリト雖創傷大ニ
 シテ其量多キトキ或ハ化膿シタルトキハ其分泌液及膿汁ヲ排導スルヲ必要トス蓋シ分泌液創内ニ停
 滯蓄積スルトキハ創傷ノ癒合(第一期癒)ヲ妨碍スルノミナラス其吸收ニ依リテ創傷熱ヲ起シ又創傷
 分泌液ハ細菌發育ノ好培養場ナルヲ以テ細菌ハ容易ニ茲ニ蕃殖シテ化膿ヲ起シ多量ノ膿汁ヲ排出ス
 膿汁創内ニ停滯スレハ益々周圍組織ヲ侵蝕シテ化膿ハ増進蔓延スルノミナラス血液中ニ傳染毒ヲ攝
 取シ以テ全身傳染(膿毒症・敗血症)ヲ誘發ス之ヲ以テ大ナル創傷就中染毒セルモノニ在リテハ周到ノ
 排膿法ヲ行フヲ要ス

一、創傷ノ開放(開放療法) 最モ單一ナル方法ニシテ創傷ヲ其儘開放シテ縫合ヲ施サス或ハ唯其一
 部分ノミ縫合シテ創角ヲ遺シ之ヨリ創液ヲ排泄セシム、開放療法ニハ吸收力アル防腐性繃帶材料例之
 消毒綿紗・ヨードフォルム「綿紗等ヲ以テ創傷ノ填塞法ヲ行フニ在リ是等ノ材料ハ能ク分泌液ヲ吸收
 シ創傷ヲ無敗性ニ保ツヲ得ヘシ必要ノ場合ニハ一・二ノ縫合ヲ施シ以テ其填塞物ヲ固定スヘシ、填塞物
 ハ創液ニテ全ク浸漬セラレハ交換ス

二、排導管裝設 稍々大ニシテ且深キ非染毒創傷ヲ第一期癒合ヲナサシメンカ爲ニハ縫合ヲ行ヒ創
 傷ヲ全ク閉鎖スルトキハ創液ヲ排泄スル能ハサルニ由リ其深部ニ排導管ヲ裝設シテ分泌液ヲ外部ニ
 導出スヘシ又深部化膿ニ於テモ膿ヲ導出スル爲メ排膿管ヲ用フ

創傷

之ヲ硬化スルニハ濃厚硫酸中ニ(大約五分間)浸スヲ宜シトス其後七%ノ酒精ニテ洗滌シ五%石炭酸或ハ五百乃至千倍ノ昇汞水中ニ貯フヘシ、橙赤色護膜ハ灰白色或ハ黑色ノモノニ比スレハ此目的ニ適ス、排膿管ハ可成廣キヲ要シ長ニ失スヘカラス不斷創液ヲ流出スル様装置スヘシ之カ爲可成創底ニ達セシメサルヘカラス之ヲ保定スルニハ結節縫合或ハ排膿管ノ末端ニ穿通セル絲縮或ハ安全針ニ依リテ適當ノ位置ニ固定シ以テ創傷内ニ滑入或ハ創傷外ニ脱出スルヲ除クヘシ之ヲ防ク爲ニハ丁字形ノ管ヲ用フルヲ便トス、新創ニ在リテハ排膿管ノ除去ハ縫合ノ除去ト同時ニ行ヒ化膿創ニ在リテハ化膿ノ休止スルトキ除去ス此際ニハ一時ニ全ク除去セスシテ先ツ之ヲ短切シ漸次ニ除去スヘシ

三、其他ノ排膿法 創傷ヲ潤開シ或ハ反對孔ヲ設ケ、皮膚下ニアル創傷ニ於テハ單ニ皮膚穿孔ヲナシ深創ニハ串線ヲ施ス等ノ處置ヲ以テ創液ノ排泄ヲ流利ス

第六 化膿・傳染ノ豫防及制遏(防腐法・制腐法)

防腐法 Antisepticsトハ催炎性及催腐性ノ微機生體ノ創傷内竄入ヲ豫防スル方法ヲ謂ヒ制腐法 Antisepticsトハ創内ニ竄入シタル催炎性及催腐性ノ微機生體ヲ剋殺シ又ハ之カ發育ヲ抑止スル方法ヲ謂フ、制腐法ハ猶疾病ヲ既發ニ治療スルカ如ク防腐法ハ之ヲ未發ニ豫防スルカ如シ蓋シ治療ハ豫防ニ如カス制腐法ト防腐法トノ得失ハ言ヲ俟タスシテ明カナリ故ニ制腐法ハ漸次其應用ヲ減シ現今ニ至リ防腐法ハ益々其區域ヲ擴メツツアリ然リト雖傳染シタル創傷殊ニ家畜ノ創傷療法ニ於テハ制腐法ニ依ラサランモ得ヘカラス且自宅開業者ニ在リテハ今尙制腐法ヲ應用スルコト尠カラス

催炎性及催腐性ノ微機生體ハ到ル處ニ散蔓スルカ故ニ防腐的手術ヲ行フニ當リテハ手術臺・手術室・術部・器械・海綿・繃帶材料・洗水・術者及助手ノ手腕・衣服等總テ直接若ハ間接ニ創傷ニ觸ルルモノハ皆嚴密ノ消毒ヲ行フヲ要ス、斯クシテ創傷ヲ無菌性ニ保タルレハ故ラニ刺戟性制腐藥ヲ以テ洗滌消毒スルコト素ヨリ徒勞ニ屬スルノミナラス却テ有害ナル感作ヲ及ホス場合尠カラス若シ無菌性創傷ヲ洗滌スルノ已ムヲ得サル場合ニハ滅菌セル水又ハ食鹽水(〇・六一〇・八%)ヲ以テ從來慣用ノ制腐液ニ代フヘシ

防腐法ノ要旨トシテ術者ノ服膺スヘキ注意事項左ノ如シ

一、手術部ノ消毒 手術ノ施行ニ於テハ吾人ハ無敗性ノ創傷經過ヲ達セサルヘカラス例之蹄軟骨或ハ腫瘍ノ摘除ノ如シ此場合ニ於テ無敗性ノ目的ヲ達スルノ第一要件ハ手術野ヲ完全ニ防腐シテ蹄及其周圍ヲ注意シテ洗滌シ石鹼水ヲ以テ刷子洗滌ヲ行ヒ後制腐液(昇汞或ハ石炭酸)ヲ注キ壞敗セル蹄角質ヲ除去シ充分清潔ニシ防腐繃帶ヲ施シ置クヘシ殺菌セル繃帶材料ヲ十二時乃至二十四時間裝シ置キテ之ヲ防腐液ニテ濕スヘシメラー氏ハ遷引シ得ヘキ手術ニハ防腐繃帶ヲ用フ是レ動物ハ被毛アルニ依リテ皮膚ノ完全殺菌ハ甚タ困難ナリ周到ナル剃毛・洗滌・灌注ノ後ト雖尙細菌ハ毛囊ニ留マルコトアリ

二、器械ノ消毒 手術ニ用フル器械ハ五乃至十分間一%曹達溶液或ハ單純ノ水ヲ以テ煮沸スルヲ最確實トス木柄ハ殺菌ニ困難ナルノミナラス煮沸ニ依リテ毀損スルカ故ニ「ニツケル」ヲ鍍金セル金屬柄ヲ附セル器械ヲ用フルヲ便トス外科刀及他ノ切斷器ハ石炭酸ヲ飽和セル綿或ハ「ムル」ヲ以テ拭去シ一分間煮沸セル曹達水中ニ入ルヘシ是レ長ク曹達液ノ作用ヲ受クルトキハ又ヲシテ鈍ナラシムレハナリクンメル氏(Kummel)ニ據レハ器械ヲ單純ニ石炭酸水ニ浸シ置クノミニテハ適度ノ殺菌法ニアラス手術中ハ器械ハ五%石炭酸溶液中ニ入レ置クヘシ

三、術者及助手手腕ノ消毒 爪ハ小刀或ハ爪切鉋ヲ以テ剪去シ尙石炭酸及刷毛ヲ以テ洗淨シ金屬筯ニテ爪間皮垢ヲ爬淨ス手及腕ハ石炭酸及溫湯ヲ以テ充分ニ刷洗スヘシ次テ手ハ三%石炭酸或ハ千倍ノ昇汞水ヲ以テ一分間洗滌スランドベルグ氏(Landberg)ノ研究ニ據レハ手ノ強キ摩擦及洗滌ハ特ニ必要ナリ最モ有効ナルハ手指ヲ七〇乃至八〇%ノ酒精ニテ洗ヒ皮膚ノ脂肪塊ヲ除去スルニアリ蓋シ脂肪塊中ニ封入セラルル細菌ハ防腐液ノ作用ヲ防禦セラレハナリ又指環ヲ挿ムヲ避ケ須ラク之ヲ除去スヘシ是レ防腐充分ナラサレハナリ手術中手指ハ常ニ清潔ニスル爲ニ三%石炭酸或ハ千倍昇汞液ヲ充タセル器ヲ備ヘ置キ其洗滌ニ便スヘシ手指ノ防腐ヲ行ヒシ後ハ未タ殺菌セサル物體ヲ取ルヲ禁ス

四、創傷包攝材料ノ消毒 海綿ノ完全ナル消毒ハ困難ナルニ由リ無敗創ニ於テハ血液ヲ拭去スルニ綿或ハ「ムル」ヲ用フヘシ之ニ用フルモノハ熱蒸氣ノ殺菌裝置或ハ防腐液(石炭酸・昇汞水)ヲ以テ滅菌シタルモノヲ用フ

創傷ノ縫合及出血血管ノ結紮ニ用フル絹絲ハ粗製支那絲ヲ最モ堅牢トス然レトモ大麻絲或ハ亞麻絲ヲ之ニ代用スルヲ得是等ハ半乃至一時間五%ノ石炭酸或ハ千倍昇汞水中ニ入レ煮沸シテ其内ニ貯フヘシ腸線ハ六乃至十二時間一%ノ昇汞酒精ニ浸シタル後純粹酒精中ヘ貯ヘ置クヘシ之ニ〇・一%ノ昇汞ヲ加フ(Schefe)ブラーツ氏(Brauts)ハ次ノ方法ヲ用フ十二時間「エーテル」或ハ「クロロフォルム」十二時間九五%酒精・十二乃至二十四時間〇・一%昇汞水ニ浸シ置キ後充分熱氣消毒ヲナシタル器ニ容レ乾燥シテ貯ヘ置クヘシ

結紮及縫合材料ヲ石炭酸或ハ昇汞水ヲ以テ浸シ或ハ其中ニ置クノミニテハ完全ナル防腐ヲ行フ能ハス是レ脂肪或ハ同様ノ物體中ニ包藏スル細菌ハ斯ル單純ナル方法ニ依リテハ決シテ死滅セサレハナ

五、施術場ノ撰定及準備 手術ノ施行ハ可成塵埃ナキ室ニ於テスヘシ野外實地ニ於テ大動物ヲ横臥セシムヘキ適當ノ葦ナキトキハ溫暖ナル時期ニ於テハ藁葦ヲ夕刻ニ準備シ一夜ヲ經過セシムレハ露ヲ被リ適度ニ濕ヒ塵ヲ發セスメラー氏ハ急劇ノ場合ニ於テハ動物ヲ倒ス前撒水器ヲ以テ濕スヘシト、大動物ヲ横臥セシムルニハ凡テ手術ニ必要ナル準備整頓シタル後ニ於テスヘシ昇汞水或ハ石炭酸水ヲ充セル器ヲ備ヘ置クヘシ、小動物ハ充分清潔ニシタル卓上ニ於テスヘシ

六、施術ノ執行 手術者ノ手指・術野・器械及繃帶材料ノ防腐完了シタル後施術ニ進行ス術者及助手ノ衣服ニ由ル創傷傳染ヲ防クヘシ故ニ清潔ナル木綿衣或ハ護謨衣ヲ着用スヘシ創傷ニ近接スル衣服ノ表面特ニ袖ハ海綿ヲ以テ其表面ヲ濕シ術者ハ袖ヲ適當ニ肘迄卷擧スヘシ術前及術中ハ決シテ未タ防腐セサル物體ニ觸ルルヘカラス出血セル動脈或ハ靜脈ハ直ニ結紮鑷子ヲ以テ把シ手術中或ハ術後ニ於テ結紮スヘシ毛細管ヨリノ出血ハ布片ヲ以テ拭除ス之ニハ綿紗或ハ綿或ハ木絨綿ヲ以テ充シタル鷄卵大ノ綿紗囊ヲ用フ手術後出血全ク閉止スルヤ否ヤヲ證明シ縫合ニ依リ皮膚ヲ接合ス必要アレハ排導管ヲ裝ス

第七 創傷ノ保護(創傷被覆法繃帶法)

創傷ハ適當ノ方法ヲ以テ包攝被覆シテ之ヲ保護シ以テ傳染毒ノ侵入ヲ防キ外來ノ刺戟ヲ避ケ出血ヲ止メ滲出物ヲ吸收消散セシメ治機ヲ幫助シ癒合ヲ迅速ナラシムヘシ之ヲ創傷被覆法又ハ繃帶法ト謂フ、繃帶法ハ大動物ニ在リテハ其應用制限セラル是レ身體ノ多クノ部分ニ施スコト困難ナレハナリ且肉食獸及馬ハ屢々齒牙ヲ以テ繃帶ヲ咬破リ或ハ患脚ノ運動ニ由リテ繃帶ノ弛緩ヲ來シ易シ加之其

應用法ノ不當ニ依リ獨リ創傷ノ治機ヲ障碍スルノミナラス危險ヲ招クコトアリ
 繃帶法ノ要旨ハ創傷ノ種類・患部ノ性状及位置・組織ノ構造・局所及全身症候等種々ノ事情ニ由リテ異
 ナルト雖創傷被覆ニ用フル繃帶材料ハ二個ノ要件ヲ具備セサルヘカラス(一)創傷ヲ外界ノ刺戟ヨリ
 閉鎖保護ス(二)創傷分泌液ヲ迅速ニ吸收ス、創傷ヲ防腐的ニ保タンニハ繃帶材料ハ無菌性ニシテ或
 ハ防腐液ニ浸漬シテ乾燥シタルモノ或ハ熱蒸氣ニ依リテ滅菌シタルモノヲ用フ寧ロ後者ヲ選用スル
 ヲ宜シトス是レ材料ノ飽和ニ供シタル藥物ハ時ヲ經ルニ隨ヒ變化(昇汞)シ或ハ稀釋(石炭酸)スルノ
 虞アレハナリ場合ニヨリ繃帶材料ハ用前五乃至十分間熱湯中ニ入レ煮沸スヘシ
 繃帶材料ハ其數多シ今其ノ主ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 包攝材料

- 一、糊煮セサル柔軟ノ綿紗或ハ「ムル」(Mull)ハ人ニ於テハ最モ廣ク用ヒラルルモ家畜ニ於テハ高價
 ノ材料ナリ故ニ特別ノ場合竝小動物ニ用フ綿紗ハ種々ノ制腐藥特ニ昇汞・石炭酸・「クレオリン」・「ヨ
 ードフォルム」等ヲ以テ飽和シ或ハ百度以上ノ蒸氣ニ暴露シテ殺菌シタルモノヲ用フ「ムル」ハ柔軟ニ
 シテ吸收力ニ富ミ良好ノ材料ナリ
- 二、綿 綿ハ石炭酸・昇汞・「クロール」亞鉛或ハ「サリチール」酸ニ飽和シ再ヒ乾燥シタルモノヲ用フ
 綿ハ直接ニ創面ヲ被覆スルニ適セス是レ吸收力少ク分泌液ハ綿下ニ停滞シテ其分解ヲ來シ易キカ故
 ナリ吸收性アル綿紗ヲ以テ創面ヲ被ヒ其上ニ綿ヲ抵スヘシ稍々高價ノ材料ナリ消毒綿・脫脂綿等アリ
- 三、黃麻(Jute)及麻織子 黃麻ハ東印度・支那ニ産スル黃麻(Corchorus capsularis)ノ皮ヨリ取りタル
 麻ニシテ綿紗及綿ヨリ廉價ナリト雖之ニ比スレハ吸收力少ク且粗硬ナルノミナラス傳染原ノ侵入ヲ

防禦スヘキ確實ノ防止帶トナラス石炭酸ニテ殺菌シテ屢々大動物ニ用フ、麻織絲ハ何レニモ存在ス
 ルニヨリ野外實施ニ特ニ便ナリ用ニ臨ミ石炭酸・昇汞水ヲ以テ飽和シ或ハ煮沸シテ殺菌スヘシ

- 四、木絨・木絨綿 木絨トハ磨臼ニヨリ粉碎シタル木質(特ニ松類)ニシテ其質鬆疎柔軟ニシテ吸收力
 ニ富ミ且廉價ナリ之ニ二〇%ノ綿ヲ混糅シテ一片ノ板狀トナシ木絨綿ヲ製ス此材料ハ卓絶ナル吸收
 力アリテ自己ノ重量ノ五六倍ノ液體ヲ吸收ス松ノ木絨綿ハ揮發性油ヲ含有スルヲ以テ細菌ノ含量少
 シ木絨及木絨綿共ニ廉價ナルヲ以テ獸醫術ニ使用シテ便ナリ
- 五、泥炭「ムル」・蘚苔(ミヅゴケ) ハ大部分蘚苔葉ヨリ成リ吸收力ニ富ミ彈力アリテ且安價ナリ昇汞
 水ヲ飽和セシメテ殺菌ス

六、泥炭 ハノイベル氏(Neuber)ニ依リテ賞用セラル獸醫術ニモ所々ニ於テ繃帶材料トシテ使用セ
 ラル吸收力ニ富ミ多量ノ腐敗性創液ヲ能ク吸收ス

七、其他人醫ニ於テ使用セラルル硝絲絨・濾紙・灰・鋸屑等モ往々應用セラル
 以上ノ材料ハ主トシテ創液分泌液ヲ吸收スル目的ニテ使用シ之ヲ創面ニ保定維持シ且外來ノ諸刺戟
 ヲ防禦スル爲メ繃帶(布帕・卷帶・廣帶)ヲ用フ

第二 繃帶

繃帶ノ種類ハ左ノ如シ

- 一、布帕繃帶・壓定布帶 布片ヲ創面ニ抵着壓定スル法ニシテ木綿・亞麻布・粗布等ヲ使用ス就中亞麻
 布(糊ヲ付ケサル)ヲ最モ適當トス通常強剛ナルヲ選用スト雖場合ニヨリ柔軟トナシテ用フルコトアリ

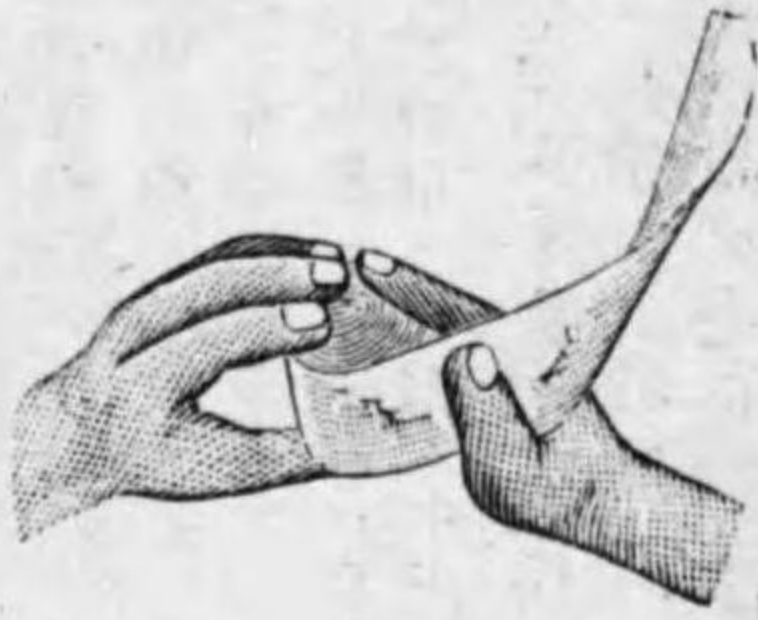
布帛繃帶ハ家畜ニ在リテハ人ニ於ケルカ如ク應用セス布ヲ折疊シテ二重三重トナシ所要ノ形狀ニ調製シ直接ニ創面ニ施設シ或ハ他ノ包攝ノ上ヲ被覆ス何レノ場合ニ於テモ皺襞ヲ生セス布縁平ニシテ全部一様ノ厚サヲ有スルヲ要ス其形狀ハ種々アリ

- (イ) 四角布帛 ハ四角形ニシテ布片ヲ折疊ミテ其形狀トナス
- (ロ) 長布帛 ハ一布片ヲ長ク折疊ミタルモノナリ
- (ハ) 三角布帛 ハ四角布ヲ二重ニ折疊ミ三角形トナシタルモノナリ
- (ニ) 頸巾布帛 ハ三角布ノ頂端ヲ二回乃至三回摺折シタルモノナリ
- (ホ) 馬達十字布帛 ハ四角布ノ各隅ヲ切リテ十字形ヲ作りタルモノナリ
- (ヘ) 半馬達十字布帛 ハ前者ノ半形ヲナシタルモノナリ
- (ト) 雙頭布帛 ハ長帶ノ一端ヲ裂キテ二片トナシタルモノナリ
- (チ) 三頭布帛 ハ長帶ノ一端ヲ裂キテ三片トナシタルモノナリ
- (リ) 圓錐布帛 ハ長廣ナル布ヲ數次階段的ニ折疊シテ圓錐狀トナシタルモノナリ創底ニ壓迫ヲ加フルトキ用フ又圓錐布ハ長サ異ナル單片ヲ疊積シテ作ルヲ得ヘシ
- (ヌ) 有窓布帛 布帛ノ中央ニ窓ヲ有スルモノニシテ創傷ノ一部ヲ開放セントスルトキニ用フ

二、卷帶又卷軸帶・卷帶ハ幅五—一五仙迷長二—一〇迷ノ木綿・亞麻布・「フランネル」・莫大小・護謨・綿紗ノ長帶ヨリ成リ或ハ直接ニ皮膚上ニ施設シ或ハ麻織絲・綿花・黃麻・木絨・綿紗等ノ被覆物ヲ置キテ其上ニ設ク毛布（「フランネル」）卷帶ハ彈力アリテ木綿卷帶ニ比スレハ能ク撓曲シテ施設部ニ適合シ其壓迫モ亦木綿ヨリ輕度ナリ兩者ノ中間物ニ木絨卷帶及半毛卷帶アリ綿紗卷帶ハ施設ニ適ス特ニ塗膠シテ濕潤シタル時ニ然リ但抵抗力及保存力ニ乏シ護謨卷帶ハ強壓ヲ患部ニ要スル場合ニ用フル

モ高價ナルヲ以テ動物ニハ應用スルコト稀ナリ

圖六二第



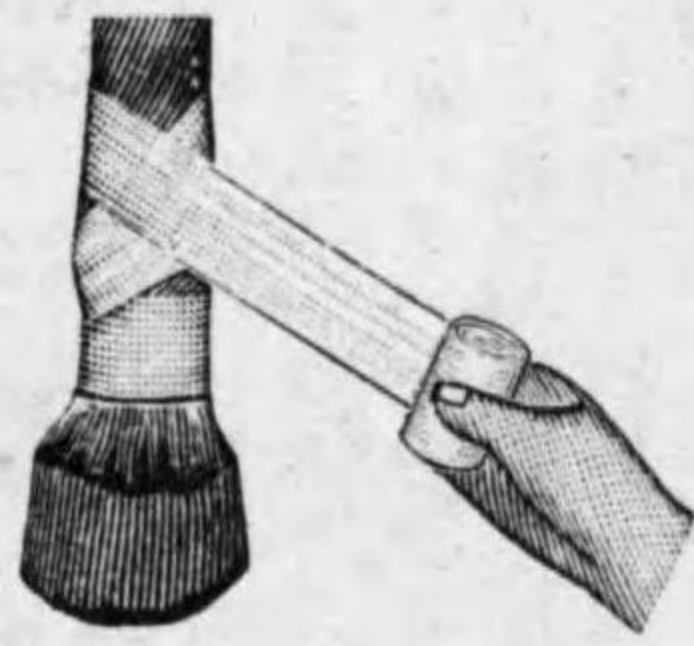
卷軸帶 (頭單)

圖七二第



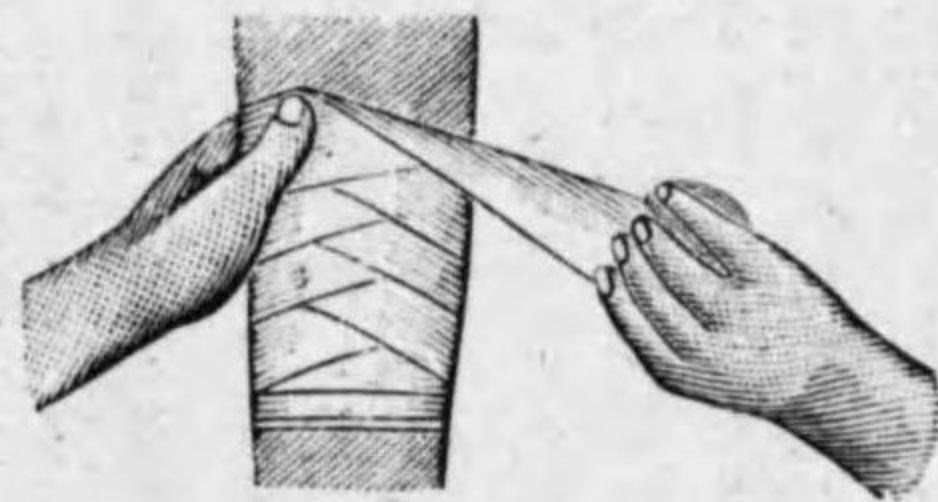
卷軸帶 (頭雙)

圖八二第



交叉帶

圖九二第



折轉帶

卷帶ヲ區別シテ單頭卷帶・雙頭卷帶及多頭卷帶ノ三種トナス（第二六・二七圖）動物ニハ多ク單頭卷帶ヲ用ヒ稀ニ雙頭卷帶ヲ用フ卷帶ヲ製スルニハ一反ノ木綿ヲ縱ニ三乃至四條ニ裂キ長キ帶トナシ卷テ軸トナス帶ハ一部ヲ頭ト云ヒ一部ヲ尾ト云フ單頭卷帶ハ帶ノ一部ヨリ卷キテ他部ニ及ヒタル卷軸帶ニシテ雙頭卷帶ハ一部ヨリ卷キテ中央ニ至リテ止ミ更ニ他部ヨリ卷キテ中央ニ至リテ止ミタル卷軸帶ナリ多頭卷帶ハ木綿長帶ノ一端或ハ兩端ヲ裂キテ各個ニ卷キタルモノナリ

卷帶ノ收卷 ハ初メ布帶ノ一部ヲ二三褶疊シテ小圓壻ヲ作り之ヲ右手ノ拇指ト示指ニテ保チ布帶ハ左手ノ同指間ニ挿入レ保定シ（第二六圖）右手ノ二指ヲ以テ圓壻ヲ左ヨリ右ニ旋轉シテ漸次收卷ス

卷帶ノ纏絡 乾式及濕式ノ二種アリ施設前ニ

繃帶ヲ濕シ之ヲ纏絡スルトキハ卷軸帶短縮シ容易ニ緊縮スルヲ得ヘシ故ニ濕繃帶ハ乾繃帶ヨリ緊縮スルヲ得時トシテ或藥物ヲ以テ飽和シ或ハ澱粉其他ノ物質ヲ含有セシメ乾燥シタル後固締セシム纏絡ノ術式ハ卷帶ノ種類ニ依リテ異ル

(イ)單頭繃帶ノ纏絡術式 右手ニ卷帶ヲ執リ其一端ヲ拇指一端ヲ中指ニテ把持シ自由端ヲ左手ノ拇指或ハ示指ヲ以テ卷帶ノ始端ヲ身體ノ部分ニ固定スル様把持シ而シテ第一纏行ヲシテ能ク固定センカ爲メ精密ニ相掩覆スル二層ヲナサシメ然ル後軸ヲ交互左右ノ手ニ轉換シツツ平均ノ壓ヲ以テ之ヲ纏ヒ終レハ横ニ帽針ヲ末端ニ刺シ或ハ布端ヲ裂キテ結フモ亦可ナリ

纏絡中注意スヘキ件ハ手ニ保持セル軸ヲ脱落セシメス又絡輪一樣ニ患部ヲ壓シテ平坦ニ規則正シク施設シ病狀及局處關係ヲ顧慮シテ緩緊ノ度ヲ定ムヘシ緊ニ過クレハ弛脱セスト雖局所血液及營養障碍ヲ來スノ虞アリ一般ニ繃帶ハ靜脈血流ノ方向ニ隨ヒテ施ス四肢ニ在リテハ下方ヨリ上方ニ纏絡スルヲ常トス圓壘形ヲナス部分例之腕前部・附前部ニ於テハ一纏行ハ前纏行ノ約三分一ヲ重掩スル様纏絡スヘシ

卷帶ノ翻轉 容積ノ異ル部分ニテ圓錐形ヲナス部位例之前膊・脛等ニ卷帶ヲ平等ニ固ク接着セシムルハ困難ナリ是レ帶ノ下緣ハ緩ク離學シ上緣ハ緊縮シ壓迫不平等ナルノミナラス卷帶不安全ナリ之ヲ防クニハ所謂翻轉ヲ行フ(第一九・三〇圖)其法ハ左ノ如シ

(一)手掌ヲ自身ニ向ケ手背ヲ外方ニ向クル様右手ヲ以テ卷帶ヲ把握シ次ニ卷帶ヲ牽引シ且斜位ヲ取ラシメ茲ニ左手拇指ヲ以テ卷帶ノ下緣ヲ固定ス

(二)次テ繃帶ヲ少シク延長シテ右手ヲ反轉セシム然ルトキハ卷帶ハ褶疊シ其上緣ハ下緣トナリテ翻

圖〇三第



轉翻帶卷

圖一三第



帶節結

轉ス翻轉ハ可成施設肢部ノ同一部(最高部)ニ於テ交互重疊セシムヘシ其他各部ニ於テモ卷帶ノ纏行ヲシテ能ク身體ニ固定セシメンカ爲メニ翻轉ヲナスコトアリ

卷帶ノ終結 卷帶纏絡ノ終結ハ通常一二ノ環纏ヲ以テシ其末端ハ安全鍼ニヨリ或ハ帶端ヲ缺ニテ切り或ハ單ニ扯裂ニ依リテ縱徑ニ截半シ當該身體部ニ其兩端ヲ繞ラシメ之ヲ結締シテ固定スヘシ卷帶甚タ長クシテ纏行弛解スルノ傾アルトキハ各纏行ヲ鍼或ハ二三ノ縫絲ヲ通シテ固定ス

(ロ)雙頭卷帶ノ纏絡術式 雙頭卷帶ヲ纏絡スルニハ兩頭ノ中間部ヲ施設スヘキ部ニ抵シ一頭ヲ助手ニ保タシメ一頭ヲ肢ニ纏ヒ終ラハ更ニ他頭ヲ纏フヘシ或ハ場合ニ依リ兩手ニテ卷帶頭ヲ保持シテ纏フコトアリ此卷帶ハ一點ヨリ上下(肢ニ在リテハ)ニ施設シ得ルノ便アリ局所全面ニ一樣ニ壓迫シ得ルノ利點アリ

卷帶ハ其纏絡シタル形狀ニ依リテ種々ノ別アリ

環旋繃帶 ハ殆ント平行ニ纏絡シ一回轉毎ニ前片ヲ重襲ス
螺旋繃帶 ハ斜ニ上行シテ殆ント圓錐形ヲナシ其回轉毎ニ前片ノ半乃至三分ノ一ヲ重襲ス
翻轉繃帶又折轉帶(第二九圖) ハ回轉毎ニ上緣ヲ下緣ニ外面ヲ内面トナシ翻轉シテ纏絡シタルモノナリ

八文字形繃帶又交叉繃帶第(二八圖) ハ環帶ヲ以テ始マリ斜ニ下リテ一週シ又斜ニ上リテ前片ト交又シ上下數回ノ移環帶ヲ以テ終ル其形ハ字ノ如シ球節其他ノ關節ニ施ス

結節繃帶 第三(圖) ハ主トシテ蹄ニ用フルモノニシテ先ツ施設部ニ所要ノ包攝材料(填塞子)ヲ抵シ帶端ヲ距ル二十仙迷ノ部ヲ患部ニ當テ左手ノ拇指ニテ保定シ帶端ヲ同手ニテ握リ右手卷帶ヲ保テ第一纏轉ヲナシテ緊縮シ固定帶端ニ掛ケテ纏繞シテ緊縮シ次テ第二纏行ヲナス此際第一纏行ノ半ヲ重襲ス如此ニシテ反覆纏繞シ終リ兩帶端ヲ結締シテ結節ヲ作ル此繃帶ハ容易ニ弛解セサルノミナラス患部ニ強度ノ壓力ヲ及ホシ蹄病ニ用ヒテ効驗著シ濕帶ヲ用フレハ更ニ壓縮強ク効力大ナリ

廣キ卷帶ハ其長徑ニ沿フテ一端或ハ兩端ヲ裂キ各端ヲ卷收シテ用フ之ヲ分裂卷帶ト稱ス唯一端ノミ分裂スレハ複頭卷帶トナリ兩端ヲ裂ケハ四頭繃帶トナル此卷帶ハ雙蹄獸ノ蹄繃帶ニ應用セラル卷帶布ノ分裂セサル部分ハ趾間ニ挿入セラレ裂斷端ハ球節ヲ纏繞シテ結締ス

卷帶ノ解除 ハ纏繞ト反對ノ順序ニ行フ即チ最後ニ施シタル纏行ハ最初ニ之ヲ除去スヘシ卷帶ハ圓塊トナシテ集取シ解還ノ際速ニ一手ヨリ他手ニ之ヲ投與スヘシ卷帶ヲ再用セサルトキハ缺ニテ之ヲ切除スルモ可ナリ

卷帶應用ノ部位及方法 大動物殊ニ馬ノ四肢ニ於テハ唯腕節及飛節以下ニ用フルニ過キス繃帶ノ位置ヲ確保スル爲メ即チ其弛脱ヲ除クニハ球節迄達セサルヘカラス(第三〇圖) 前膊及脛部ニ於テハ通常下方ニ摺移スルヲ以テ特別ノ結着物ニ依リテ固定ス例之脛骨骨折ニ於テハ副木ニ依リテ保定スルカ如シ牛馬ノ腕節及飛節ニ於テハ通常環旋繃帶ヲ用フル能ハス是レ其關節ニ於テハ運動ヲ避クル能ハサレハナリ特ニ飛節ニ於テ然リトス腕節ハ殊ニ其炎症ニ於テ關節ノ運動ヲ制止スル爲伸縮性ヲ有

スル材料(「フランネル」等)ヲ以テ繃帶ヲ施設スルコトアリ然レトモ緊縛ニ失スヘカラス又關節ヲ包攝材料ニシテ被覆シ其上ニ布片ヲ纏繞シ以テ關節上下ニ卷帶ヲ施シ其卷帶ハ上下接着セサル様ニ纏繞ス大動物ノ軀幹ニハ卷帶ヲ用フルコト稀ナリ馬ノ後頭部ニ施スニハ耳ノ周圍ニ環狀ニ纏繞シ或ハ韁ノ項皮ニ圍繞ス反之肉食獸ニ於テハ腕節・肘節・飛節・脛部・後膝等ニモ卷帶ヲ施スヲ得ヘシ例之骨折・關節其他ノ疾病ニ於テ効力アリ、鞍帶ノ施設ニヨリ尙其繃帶ヲ確固ナラシムルヲ得ヘシ此法ハ患肢ニ卷帶ヲ纏繞シ以テ背ヲ超ヘテ對側ノ股ニ一纏ヲナシ再ヒ患肢ニ歸還シ數回反覆纏繞スルトキハ繃帶ハ確固トナリ且弛解ヲ防ク特ニ此法ハ石膏繃帶ノ施設ニ必要ナリ肉食獸ニ於テハ頸及軀幹ニモ能ク卷帶ヲ施スヲ得ヘシ胸部及腹部ニ於テハ容易ニ後方ニ滑脱スルカ故ニ纏繞スル際兩肢間ニ卷帶ヲ通過セシメ頸ヲ廻リテ纏フヘシ頸部ニ施ス繃帶ハ緊縮スヘカラス

卷帶ハ時トシテ強ク時トシテ緩ク纏繞ス一ハ繃帶ノ目的及病態ヲ考察スルヲ要シ一ハ腫脹ノ増減ヲ顧慮スヘシ一般ニ繃帶ハ緊縮スレハ短時間ニ於テハ害ヲ來サスト雖永ク施設スルトキハ容易ニ皮膚ノ壞疽ヲ發ス特ニ護謨卷帶ヲ緊縮スル時ハ注意スヘシ

第三 廣帶又複繃帶又充實繃帶

大動物ノ軀幹及四肢ノ上部ニハ卷帶ヲ纏繞スルコト能ハス故ニ廣キ布ヲ以テ被覆布帶ヲ作り之ニ數條ノ紐ヲ附シタルモノヲ用フ之ヲ廣帶或ハ複繃帶ト云フ

複繃帶ハ金巾・木綿・亞麻布ノ強クシテ柔撓性アル廣帛二枚ヲ取り其周邊ヲ縫ヒテ拾トナシ其内へ粗麻糸ヲ充實シテ製ス之ヲ施用スル部位ニ隨テ特別ノ形狀ヲ有シ數本ノ紐帶ヲ附シテ維持ス時トシテ屈繞性ノ皮或ハ透水性ナキ布ヲ用フ可成單純ニシテ應用ニ便ナルヲ要シ創傷分泌液及膿ノ排泄ヲ妨

クヘカラス而シテ創面ニ密接スヘシ、複縛帶ハ紐帶ニ依リテ鬚・鬣・尾・鞞・靴・腹帶・頭絡等ニ結着保定スヘシ復縛帶ノ種類ハ極メテ多シ今其主要ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

(一)單額縛帶 四角形ノ布ニシテ前額ヲ被覆スル幅ヲ有シ耳ノ後方ヨリ眉弓上ニ達ス四紐縛ヲ具フ前方ニアル二紐縛ヲ眉紐ト稱シ後方ニアルモノヲ頰紐ト稱ス眉紐ハ各側ノ頰紐ニアル孔ヲ通過シテ結着シ頰紐ハ其上紐ニ依リテ頂ニ於テ兩側ノモノト結締ス

(二)複額縛帶 菱形ノ長布ニシテ兩耳間ヲ通過シ鼻額面ヲ下リ鼻梁ニ達ス兩側ニ三紐縛ヲ有ス上中下紐之ナリ中紐ハ眉弓ノ上ニ在リテ上紐ト結着ス下紐ハ額ノ後方ニ於テ交叉シ上紐端ト結締ス

(三)片眼縛帶 ハ長方形ニシテ五紐縛ヲ附ス

(四)双眼縛帶 ハ前者ノ二個合セタルモノニ外ナラス八紐縛ヲ附ス

(五)顎下縛帶 ハ綿羊・犢牛皮ヲ以テ作ル其形四角ニシテ四紐縛ヲ附ス

(六)耳縛帶 ハ三角ニシテ六紐ヲ以テ維持セララル

(七)頸上縛帶 長方形ニシテ頸ノ背縁及側面ヲ被包ス九紐縛ヲ附ス

(八)頸下縛帶 ハ八角形ニシテ頸ノ下縁及側面ヲ被ヒ每各角ニ紐縛ヲ附ス

(九)警甲部縛帶 ハ方形ニシテ四紐縛ヲ附ス(第三二圖)

(十)背縛帶 ハ斜切長方形ニシテ六紐縛ヲ附ス(第三九圖)

(十一)腰尻縛帶 ハ其形背縛帶ニ類似ス同シク六紐縛ヲ附ス(第四一圖)

(十二)臂縛帶 ハ正角狀ニシテ八紐ヲ以テ維持ス(第四二圖)

(十三)陰囊縛帶 ハ斜切三角形ニシテ四紐縛ヲ附ス

(十四)腹縛帶 ハ長方形ニシテ六紐縛ヲ附ス(第四〇圖)

(十五)胸下縛帶 ハ方形ニシテ前縁ノ中央ニ延長物ヲ附シ六紐ヲ以テ維持ス

(十六)胸前縛帶 ハ前者ト同形ニシテ六紐縛ヲ附ス(第三三圖)

(十七)肩胛縛帶 ハ不正方形ニシテ肩胛部ヲ被包ス之ニ七紐縛ヲ附ス(第三五圖)

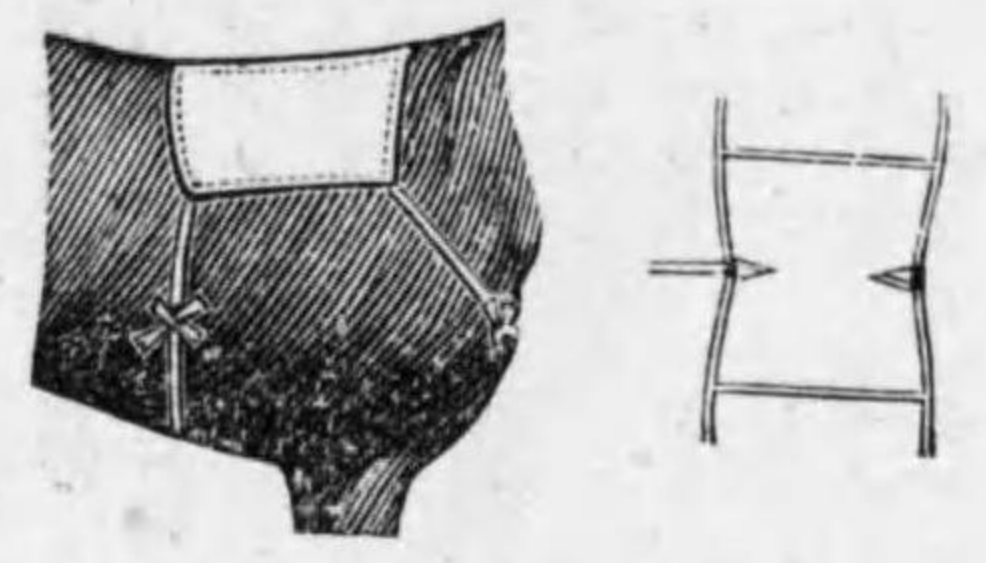
(十八)肩端縛帶 ハ方形ニシテ上角ヲ斜切ス六紐縛ヲ附ス(第三四圖)

(十九)肘頭縛帶 ハ五紐縛ヲ以テ維持ス(第三六圖)

(二十)前膊縛帶 ハ不正四角形ニシテ二大紐縛及四乃至六個ノ小紐ヲ以テ維持ス(第三七圖)

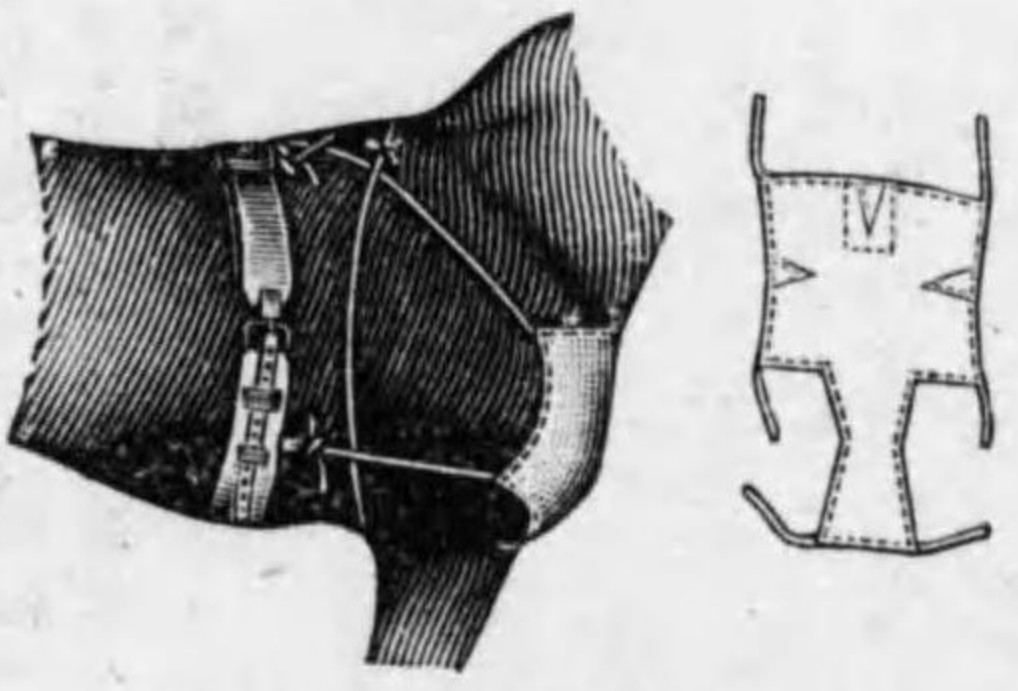
(二十一)膝縛帶 ハ方形ニシテ其内外縁ニ四乃至六紐ヲ附ス(第三八圖)

圖二三第



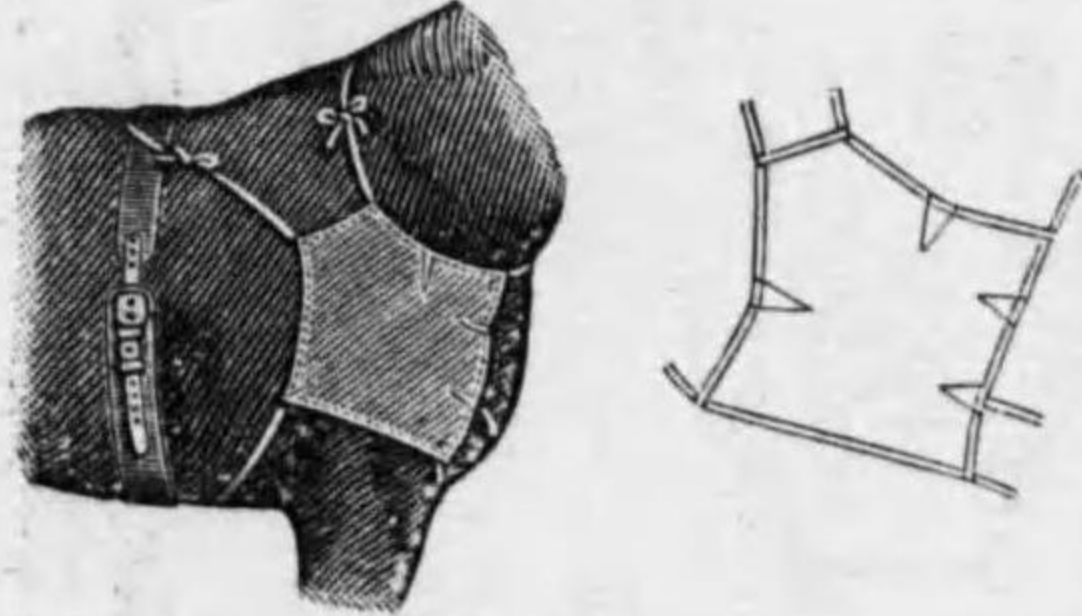
帶 縛 甲 警

圖三三第



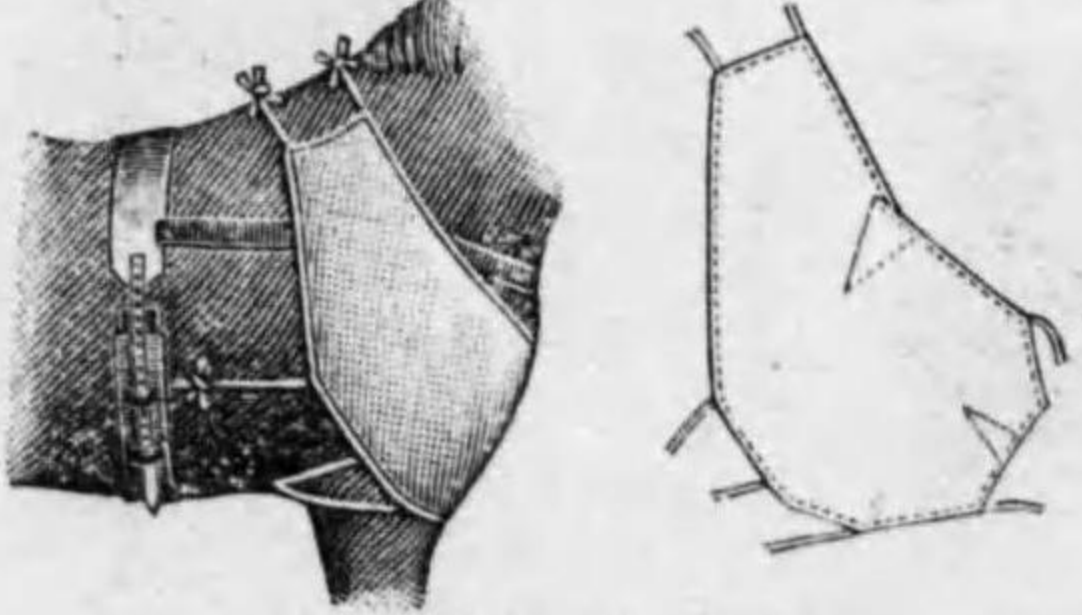
帶 縛 前 胸

圖四三第



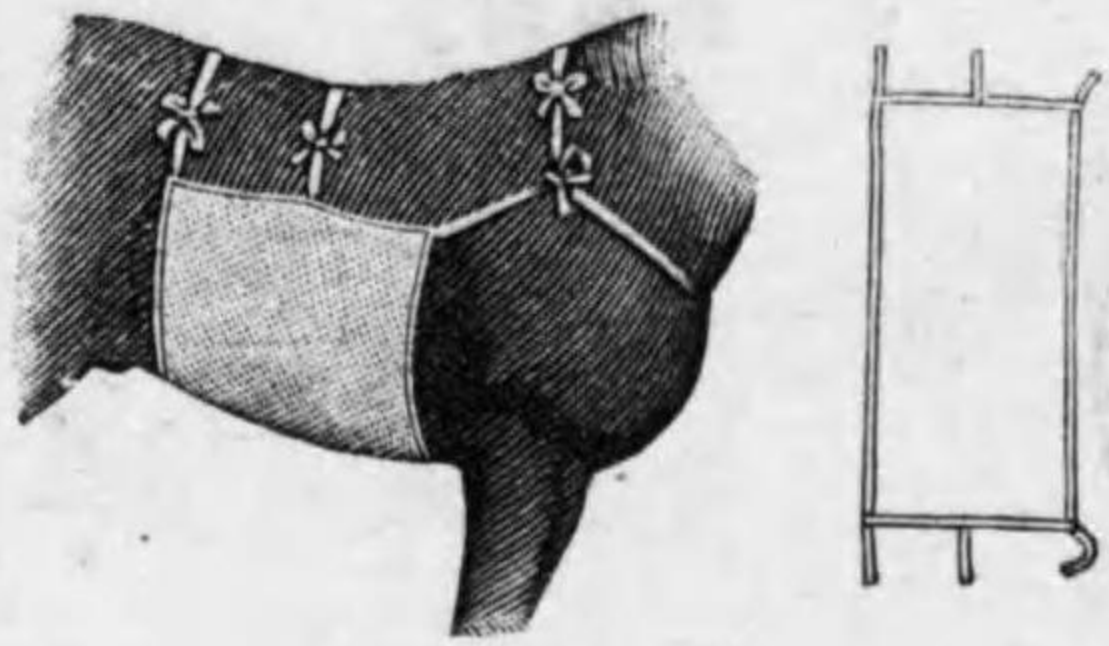
帶 縛 端 肩

圖五三第



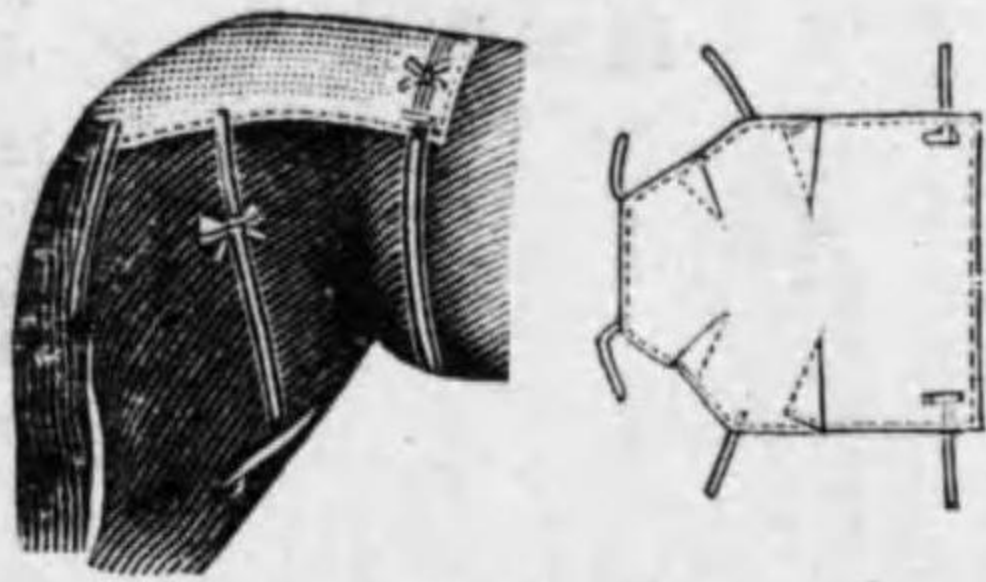
帶 縛 胛 肩

圖〇四第



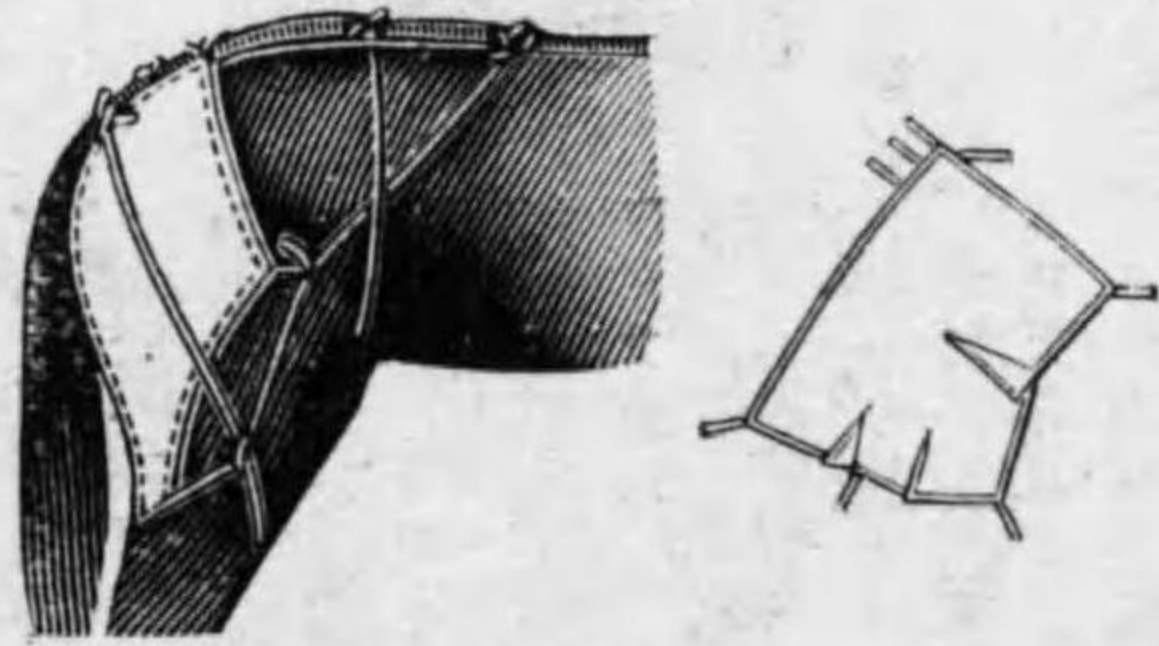
帶 繃 腹

圖一四第



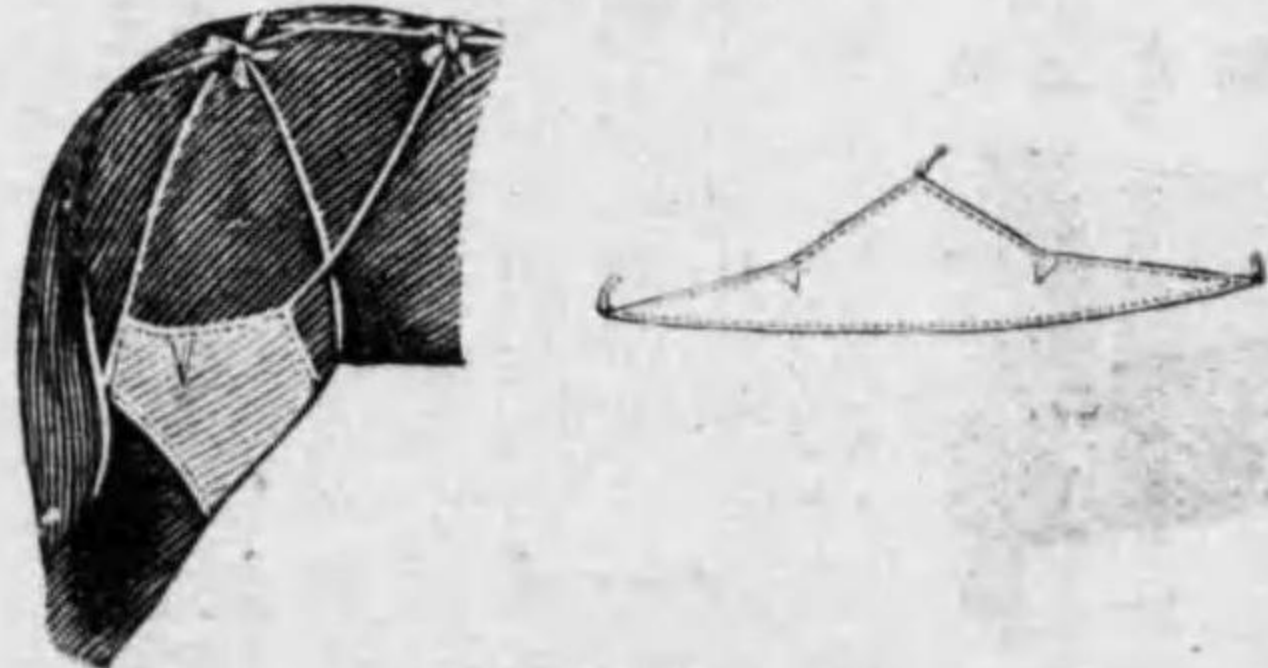
帶 繃 尻 腰

圖二四第



帶 繃 髀

圖三四第

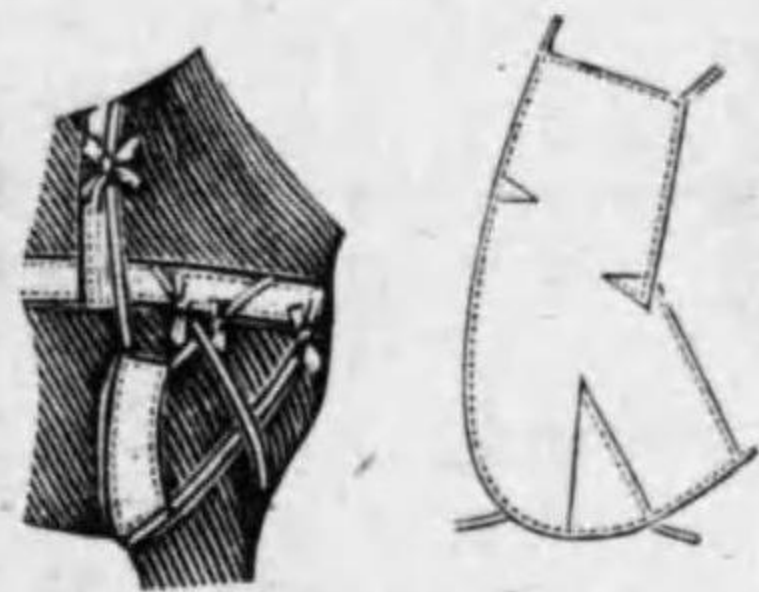


帶 繃 脛 膝

一、閉鎖繃帶ハ無菌創ニ於テ傳染ヲ豫防スルモノニシテ先ツ無菌性包攝材料特ニ綿紗ノ數層ヲ以テ創傷若ハ縫線ヲ覆ヒ以テ殺菌セル綿花ヲ抵シ繃帶ヲ施ス

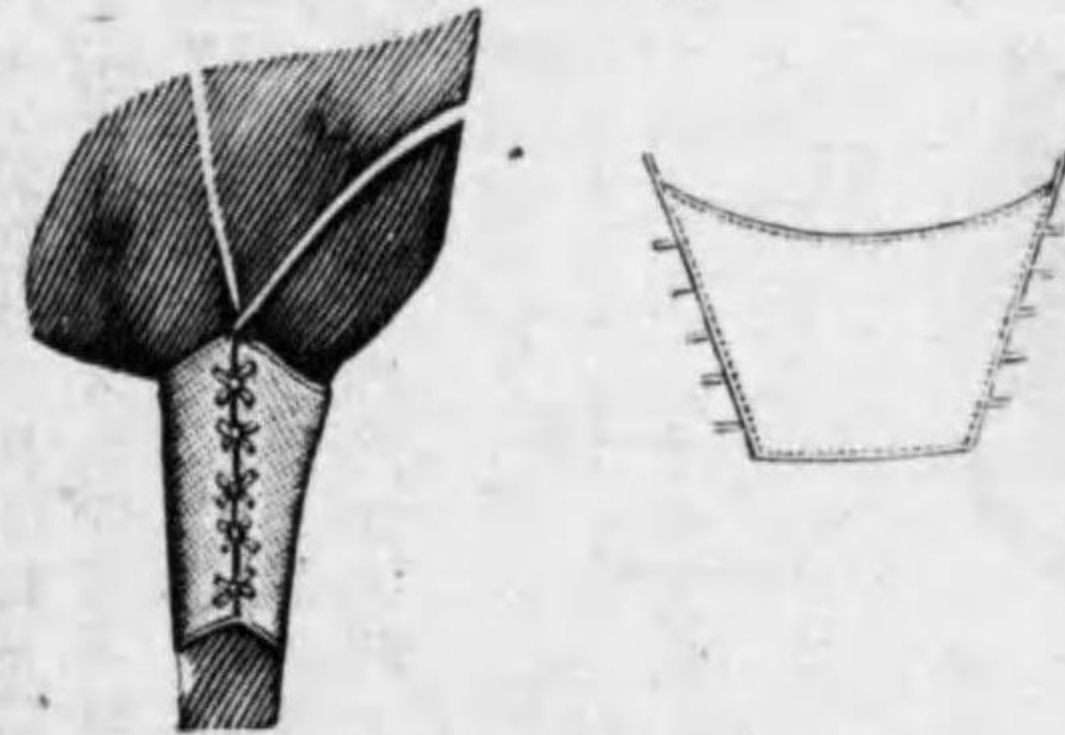
二、壓定繃帶ハ麻織子・黃麻・綿・綿紗等ヲ束トナシ或ハ硬ク丸メタル填塞子トナシ創内ニ封入シ或ハ縫線ニ抵シ必要アレハ卷軸帶・複繃帶或ハ縫合ヲ以テ創縁ニ固着保定スヘシ蹄ニ施ス壓定繃帶ハ屢々

圖六三第



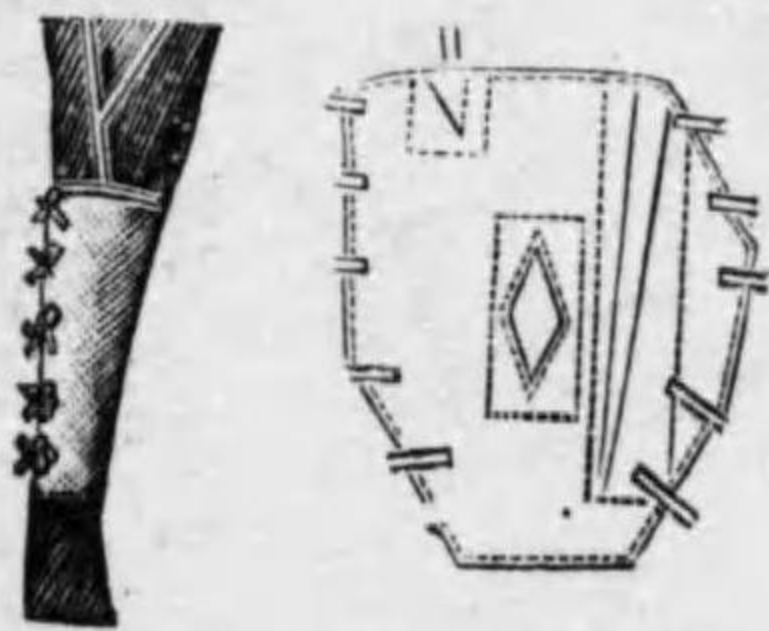
帶 繃 頭 肘

圖七三第



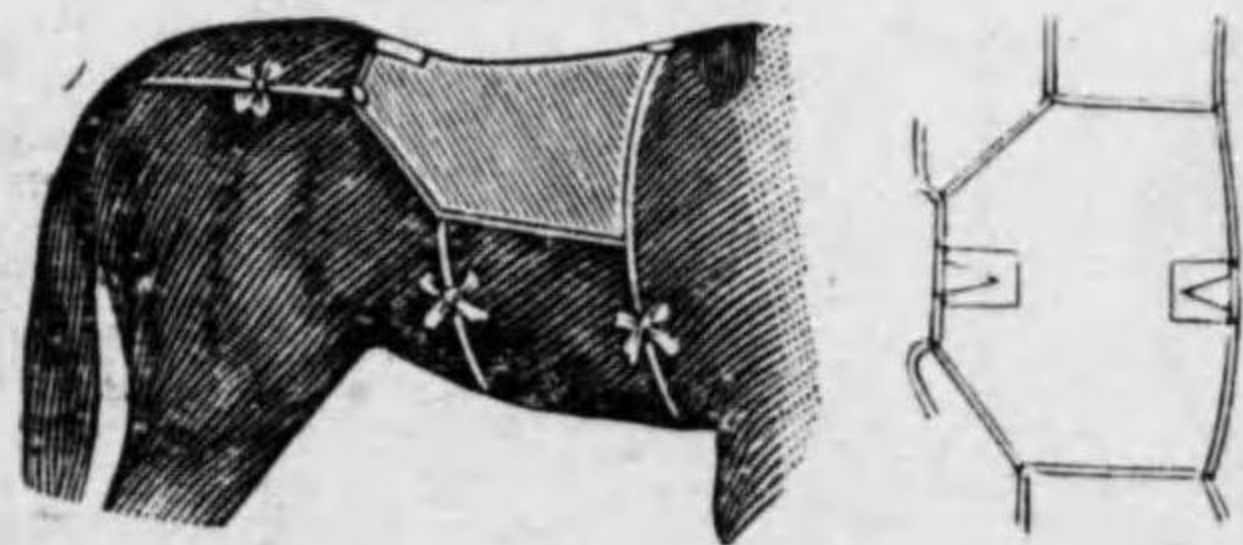
帶 繃 膊 前

圖八三第



帶 繃 膝

圖九三第



帶 繃 背

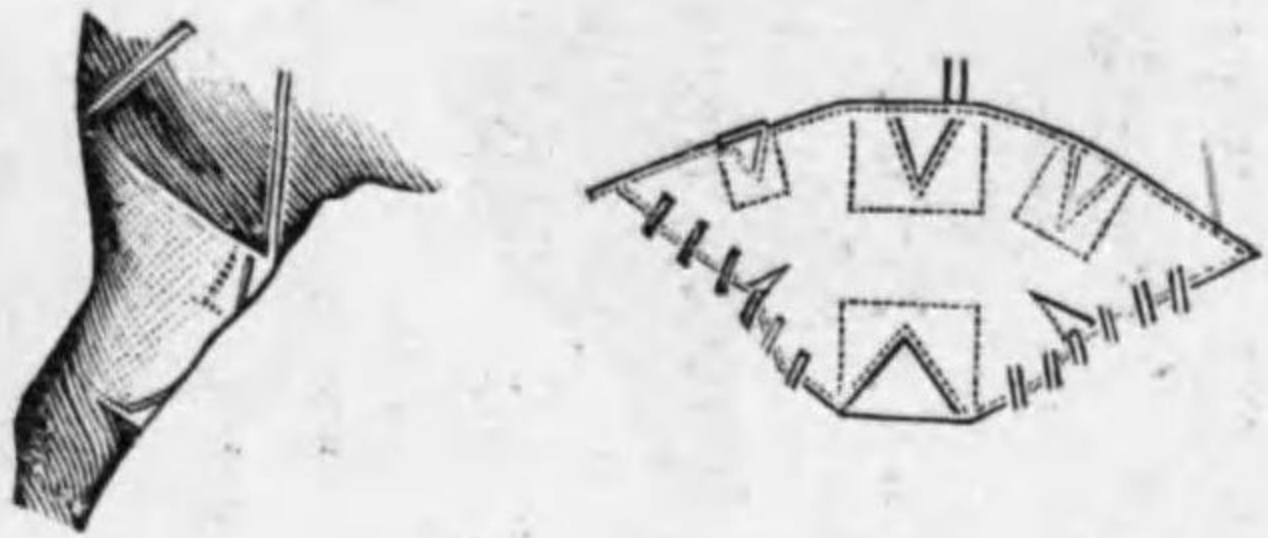
(二十二) 膝脛繃帶 ハ三角形ニシテ每角ニ一紐ヲ附ス(第四三圖)

(二十三) 脛繃帶 ハ三角形ニシテ其上縁ハ四紐各側縁ニ五乃至六紐縱ヲ附ス(第四四圖)

(二十四) 飛節及管繃帶 ハ飛節・管・球節迄被包スルモノニシテ其上縁ニ四紐ヲ附シ脚帶ニ結定シ其側縁ニ五乃至八個ノ小紐ヲ附シテ互ニ結定ス(第四五圖)

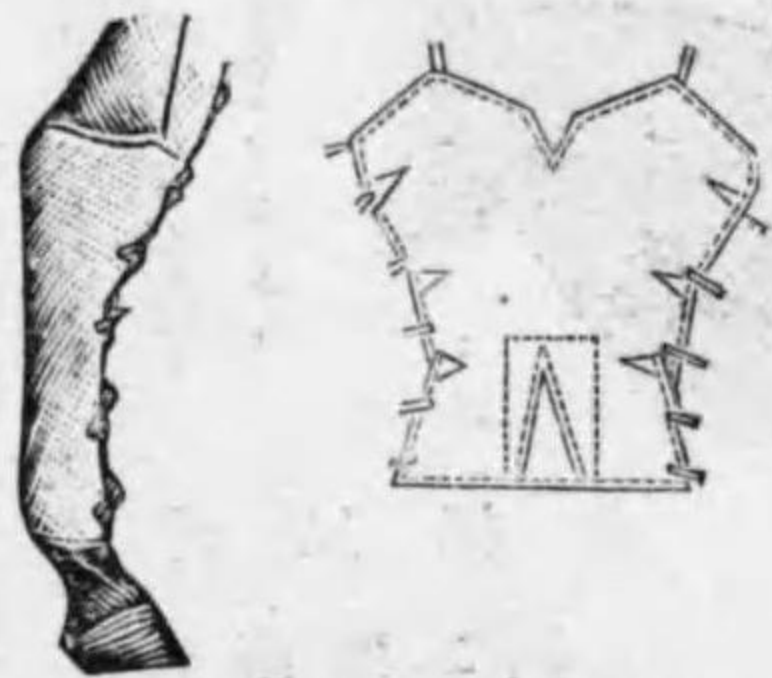
創傷繃帶ノ實施

圖四四第



帶 綑 歷

圖五四第



帶 綑 管 及 節 飛

蹄軟部ノ脱出ヲ防止ス

三、防禦綑帶ハ創傷分泌液ヲ吸收シ且創傷ノ毀損ヲ防禦スルモノナルカ故ニ包攝材料中吸收力ニ富ムモノニシテ創内或ハ縫線上ヲ覆ヒ(木絨綿)次テ綿或ハ麻織絲ヲ抵シテ綑帶ヲ施ス又患部ノ運動ヲ防止スル爲メ糊綑帶・石膏綑帶或ハ器械的綑帶即チ皮片・「グツタペルカ」・副木・鐵葉片・鐵棒(副木綑帶)等ヲ包攝物上ニ壓定シテ卷帶ヲ施スコトアリ

新鮮ノ小創及肉芽性創面ニ在リテハ絆創膏・コロヂウム・「ヨードフォルム」其他制腐的軟膏等ニテ創面ヲ被覆ス

料ニシテ特ニ小動物ニ適ス創傷小ニシテ其部收縮及運動少ク皮膚菲薄富脈ニシテ創淺ク皮下ニ達セサル時ニ卓効アリ絆創膏ハ熱或ハ水ニ依リテ容易ニ溶解スル物質ニシテ之ヲ應用スレハ迅速鞏固ニ附着スル物質ヨリ成ル英製絆創膏ハ最モ強ク粘着スルニ由リ小創ニ應用セラル本品ハ一面ニハ魚膠液(少量ノ酒精ヲ加ヘタル水中ニ魚膠ヲ溶解シタルモノ)他面ニハ安息香酸ヲ塗布セル精緻ノ絹片ヨリナル而シテ應用ニ望ミ魚膠ヲ塗リタル面ヲ唾液ヲ用ヒスシテ制腐液ニテ潤シ創面ニ貼附スヘシ尙鞏固ノ膠着力ヲ要スル場合ニハ「テレピン」那加奈豆・「バルサム」

松脂等ヲ亞麻布・木綿・綿等ニ塗布シ適當ノ大サトナシテ貼附ス通常是等ノ樹脂ニ「テレピン」油或ハ「オレーフ」油等ヲ加フ此融液ヲ布片ニ塗布シ豫メ被毛ヲ剪去シ置キテ直ニ創面ニ貼附スヘシ澱粉或ハ「アラビヤゴム」ノ溶液モ布片ニ塗布シテ用フルコトアリ近時製出セラレタル「ヨードフォルム」軟膏ハ「ヨードフォルム」・「グリセリン」・「アラビヤゴム」漿ヨリ成ル溶液ヲ亞麻仁布ニ塗布シタルモノナリ絆創膏ノ長幅ハ其貼用セラル患部ノ大小ニ依リ異ナル其貼用法ハ助手ヲシテ創縁ヲ適當ノ位置ニ保持セシメ絆創膏ヲ創縁ニ直角ニ貼シ固ク創唇ヲ密接セシムヘシ四肢ニ在リテハ長クシテ肢ヲ一廻轉半スルカ如クシ其中央ヲ患部ノ反對側ニ貼シ兩端ヲ創面ニ重襲シテ貼附スヘシ

大創傷ニシテ腫脹甚タシキ豫想アリ且屢々包攝ヲ變換スヘキトキ或ハ縫合ヲ支フル必要アルトキハ創傷ノ兩側ニ於テ平行シテ創縁ヨリ小距離ノ部ニ貼附スヘシ各帶ハ創傷ヨリ少シク長クスヘシ

(ロ)「コロヂウム」ハ「エーテル」及酒精中ニ於ケル火綿ノ溶液ナリ其「エーテル」及酒精ノ蒸散ニヨリ「コロヂウム」ハ乾燥シテ最モ能ク皮膚ニ粘着スル鞏固ノ被覆ヲ形成ス然レトモ「コロヂウム」ハ刺戟強キカ故ニ新創ノ被覆ニ適セス「ヨードフォルム」コロヂウム(一・一・一〇)モ亦屢々被覆物トシテ應用シ其粘着力強クシテ水ニ依リテ剝離セラレス屢々縫合セル皮膚創或ハ小創面ノ被覆ニ用フ然ルトキハ乾燥無敗性ノ痂皮様被覆物ヲ形成シ創ハ其下ニ於テ癒合ス

(ハ)軟膏 被覆材料トシテ硼酸軟膏・硼酸「グリセリン」・「ラノリン」・「ワゼリン」・石炭酸「ワゼリン」等ヲ用フ

綑帶法實施ノ注意
(一)綑帶ノ施設ハ壓力全部平等ニシテ皺襞凹凸ナクシテ患部ノ狹縮・嵌頓ナキヲ要ス (二)卷帶及紐帶(複綑帶)ハ血行ヲ遏止スルカ如ク緊ナルヘカラス又容易ニ弛脱スルカ如ク緩ナルヘカラス、(三)

四肢ニ於テハ腫脹ヲ防ク爲メ壓迫ハ常ニ周圍ヨリ始ムルヲ要ス (四) 繃帶施設中或ハ其後ニ疼痛ヲ挑發セサル様注意スヘシ是レ患者ヲシテ無益ニ苦シメ且繃帶ヲ除去セントセシムレハナリ

繃帶交換

繃帶ノ交換ハ次ノ場合ニ必要ナリ

- (一) 繃帶弛緩シ或ハ摺移(ズレル)シタルトキ
 - (二) 繃帶血液或ハ創傷分泌液ニ浸潤シタルトキ
 - (三) 繃帶弛緩セルトキハ傳染原ハ其浸潤液中ニ活潑ナル發育ヲ遂ケ創内ニ竄入シ所謂創傷傳染ヲ惹起ス故ニ此場合ニ在リテハ閉鎖繃帶ノ交換ハ特ニ必要アリ
 - (四) 疼痛劇甚トナリ或ハ高熱ヲ發シタルトキ
 - (五) 疼痛ノ劇甚トナルハ或ハ繃帶適當ニ施設セラレサルカ爲メ或ハ腫脹甚タシキカ爲メカ或ハ創傷傳染ニ由リテ著シキ炎症發起シタルカ爲メナルニ由ル此場合ニハ繃帶ヲ除去シ創傷ノ洗滌・防腐ヲ必要トス
 - (六) 高熱ヲ發スレハ炎症滲出物吸收セラレタル表徵ニシテ馬ニ在リテハ三九・五度ノ高體溫ヲ呈シ或ハ他ノ違和例之細數脈・食慾缺乏等ヲ起ストキハ繃帶交換ヲ施行ス
 - (七) 繃帶カ創傷ノ治機或ハ肉芽生成ヲ障碍スルトキニハ交換ス此障碍ハ創内填塞子ヲ應用シタルトキニ起リ易シ
 - (八) 創傷全ク癒合シタルトキハ之ヲ撤去ス
- 繃帶交換ハ之ヲ初裝シタルトキト同様ノ防腐的手段ニ於テ施行ス即チ防腐法若ハ防腐法ヲ嚴行セサルヘカラス初メ先ツ繃帶ニ必要ナル材料特ニ包攝材料・卷軸帶ヲ準備シ防腐セル鈹・探子・鑷子等ノ器械ハ三%石炭酸ニ浸シ布巾・綿紗等ハ十倍昇汞水中ニ置キ手ハ充分清淨消毒スヘシ繃帶ハ鈹ヲ以テ切り取ルカ或ハ注意シテ之ヲ解除スヘシ即チ卷軸帶及表層ノ繃帶片ヲ除去シタルトキハ十倍昇汞水ニテ再ヒ手ヲ消毒シ創傷ニ直接スルトキハ制腐液ヲ滴下シテ軟化セシム、全ク除去シ終ラハ創面ヲ檢視

示指及中指ニテ輕壓ヲ加ヘ創液停溜ノ有無ヲ検査ス創傷ノ治機整然タルトキハ直ニ新繃帶ヲ施ス一般ニ繃帶ハ可成永ク留メ置クヘシ是レ改裝毎ニ多少創面ヲ刺戟シ且傳染ヲ起スノ危險アレハナリ但創液ヲ吸收セシムルヲ以テ目的トナシ施設シタル繃帶ハ屢々交換スルヲ要ス又繃帶ハ甚タシク化膿シ或ハ腐敗シタル創傷ニハ用ヒス是レ繃帶ヲ用フレハ創傷分泌液ノ吸收ヲ促進シ體溫昇騰ヲ來シ且創傷内ニ濕氣ヲ保ツヲ以テ創傷分泌液ノ分解ト傳染原ノ發育トヲ旺盛ナラシムレハナリ斯ル創傷ニハ縫合モ亦之ト同一ノ惡結果ヲ來ス

第八 安保・靜養

創傷ニ及ホス刺戟及損傷ハ其治機ヲ障碍スルノミナラス傳染ノ危險ヲ結果スルカ故ニ創傷ニ種々ノ手段ヲ施ス際ニハ充分ニ注意シ且他ノ原因ニ因リテ損傷及刺戟ヲ來ササル様努メサルヘカラス動物ノ安保・運動禁止等ハ行フニ困難ナルモ可成創傷部ノ運動ヲ防止スルハ必要ナリ之カ爲メ患者ハ全ク役務ヲ免シ換氣善良ナル清潔ノ厩舎ニ繫留靜養セシメ消化シ易キ滋養飼料ヲ給シ適當ニ保定シテ創傷部ノ摩擦ヲ防キ且其部ノ運動ヲ制限スル爲メ要ニ應シテ副木繃帶ヲ施シ時トシテハ四肢ノ創傷ニ在リテハ吊起帶ニ依リテ懸吊シ肢ノ負重及運動ヲ免ス

昇汞	一〇〇	鉛醋水	一〇〇〇
酒精	一〇〇〇	餾水	一〇〇〇
餾水	九〇〇	右洗創用	一〇〇〇
右爲溶液創傷洗滌用	四〇〇	クロール亞鉛	各一〇〇
クロール亞鉛	四〇〇	小麥粉	各一〇〇

創傷

創傷

右腐蝕「バスタ」トナス（水適量ヲ加フ）
 ヨードフォルム 二〇〇
 硼酸 二〇〇
 右混和爲創面撒布劑
 ヨードフォルム 二〇〇
 豚脂 二〇〇
 右爲軟膏塗布用
 ヨードフォルム 五〇〇
 カカオ酪 二〇〇
 蓖麻子油 適量
 右混和長サ五仙迷徑半仙迷ノ小桿トナス
 硼酸 二五〇
 クレオリン 〇五〇
 右混和爲創面撒布劑
 梘皮末 二〇〇
 ヨードフォルム 二〇〇
 右同

タンニン酸 一〇〇
 ヨードフォルム 五〇〇
 右同
 クレオリン 二〇〇
 彈力コロヂウム 二〇〇
 右混和爲「クレオリンコロヂウム」
 クレオリン 二〇〇
 パラフィン軟膏 二〇〇
 右混和爲「クレオリン」軟膏
 ヨードフォルム 一〇〇
 エーテル 五〇〇
 右混和爲創面塗布用
 ヨードフォルム 一〇〇
 エーテル 三〇〇
 コロヂウム 一〇〇
 右混和爲「ヨードフォルムコロヂウム」包攝用
 昇汞 五〇〇
 澱粉 一〇〇

二七二

右適當ノ水ニテ「バスタ」トナス
 昇汞 二・五
 彈力コロヂウム 二五〇
 右混和爲腐蝕「コロヂウム」
 イヒチオール 一〇〇
 豚脂 一〇〇
 右混和爲軟膏（但新創ニシテ刺戟症狀アル場合）
 エーテル
 酒精 各三〇〇
 餾水 右混和爲創傷軟膏（但新鮮創ニシテ刺戟症狀アル場合）
 ビオクタニン 一〇〇
 餾水 一〇〇
 右混和爲創傷洗滌用
 醋酸アルミニウム液 一〇〇
 餾水 三〇〇
 右混和爲繃帶料（無毒性消毒劑トシテ）

創傷

粗製明礬 二〇〇
 醋酸鉛 四〇〇
 水 一〇〇
 右混和ブロー氏液トシテ與フ（肉芽發生及分泌過度ノ場合）
 タンノフォルム 五〇〇
 滑石末 五〇〇
 右混和爲撒布劑
 タンノフォルム 五〇〇
 滑石末 二五〇
 右混和爲撒布劑（創傷治癒ノ何レノ時期ニモ用フルヲ得）
 ベルバルサム 六〇〇
 硝酸銀 〇三〇
 パラフィン軟膏 九〇〇
 右混和爲軟膏（潰瘍性創傷ノ場合）
 サリチール酸 一〇〇
 硼酸 二〇〇
 清水 二〇〇

右混和爲溶液洗創用
 流動石炭酸 各五〇〇
 樟腦 一〇〇
 アラビヤゴム漿 五〇〇
 右混和肉芽促進ノ目的ニ用フ
 クレオリン 五〇〇
 餾水 五〇〇
 右爲溶液洗滌用
 クレオリン 一〇〇
 餾水 五〇〇
 右同
 石炭酸水 四五〇
 右同
 醋酸鉛 二五〇
 明礬 一二五
 樟腦 四〇〇
 右混和其一食匙量ヲ一盞量ノ水

二七三

ニ溶解シ洗滌料・巻法料・繃帶料トシテ用フ
 醋酸アルミニウム液 各一〇〇
 餾水 右混和用法右同
 醋酸アルミニウム液 一〇〇
 餾水 三〇〇
 右混和用法右同
 プロタルゴール 五〇〇
 餾水 一〇〇
 右爲溶液創傷洗滌用
 ロレチン 二・五
 豚脂 五〇〇
 右混和爲軟膏外用
 イヒチオール 各四〇〇
 澱粉 一〇〇
 蛋白液 一〇〇
 水ヲ加ヘテ全量 一〇〇
 シ外用
 ヨードフォルム 一〇〇

コロヂウム 二〇〇〇
 右混和「ヨードフォルムコロヂウム」トシテ與フ
 過クロール鐵液 三〇〇
 コロヂウム 三〇〇
 右混和止血「コロヂウム」トス
 エーテル精 各一〇〇
 コロヂウム 各一〇〇
 右混和「コロヂウムエーテル」トシテ與フ
 酸化亞鉛 一〇〇
 蓖麻子油 四〇〇
 コロヂウム 八〇〇
 右混和外用
 タンノフォルム 五〇〇
 コロヂウム 五〇〇
 右同
 クレゾール石鹼液 一〇〇
 硼酸 三五〇
 右混和爲撒布劑

クレオリン 一〇〇
 硼酸 各三〇〇
 硫酸カルチウム 右同
 メントール 二〇〇
 小麥澱粉 一〇〇
 滑石末 二〇〇
 右同
 ロレチン 一〇〇
 アラビヤゴム 一〇〇
 右同
 ヨードフォルム 一〇〇
 澱粉 一〇〇
 右同
 クトール 各一〇〇
 酸化亞鉛 各一〇〇
 滑石 各一〇〇
 右混和爲撒布劑
 サリチール酸アルミニウム 二〇〇

米澱粉 一〇〇
 酸化亞鉛 五〇〇
 右同
 次硝酸蒼鉛 九〇〇
 硼酸 四〇〇
 オレイン油 二〇〇
 右混和爲軟膏
 チオフォルム 二〇〇
 ラノリン 五〇〇
 右同
 タンノフォルム 二〇〇
 亞鉛華軟膏 二〇〇
 右同
 安息香酸油 二〇〇
 安息香酸脂 四五〇
 右同
 イヒタルガン 一〇〇
 餾水 一〇〇
 グリセリン 一〇〇
 溶解シ「ラノリン」 一〇〇

創傷熱

Febris traumatica. (羅)

用法右同
 次サリチール酸蒼鉛 二〇〇
 昇汞溶液(〇・一%) 適量
 右混和泥膏トシテ外用
 次硝酸蒼鉛
 白降汞

イヒチオール 各二〇〇
 ワゼリン 二〇〇
 右混和爲軟膏外用
 ヨードフォルム 各二〇〇
 樟腦 各二〇〇
 豚脂 二〇〇
 右混和用法右同

酸化アルミニウム液 五〇〇
 餾水 二〇〇
 右爲溶液外用(肉芽催進劑トシテ)

療法

創傷熱ノ療法ハ主トシテ外科的療法ヨリ成ル即チ左ノ如シ

(一)豫防法 トシテハ創傷ノ防腐ヲ嚴ニス 創傷無敗性ナレハ創傷熱ハ稀ニ發スルニ過キス 縱令發現スルモ無敗的無菌的ノ處置ヲ施サハ自然ニ消散ス 又創傷熱ノ豫防トシテ多量ノ創傷分泌液及血液ノ創傷内ニ瀦溜スルヲ防ク爲排導管ノ裝置、創液ヲ吸收スル繃帶材料ヲ用ヒ 注意シテ繃帶ヲ施設スルニ在リ

(二)熱性ノ決定 創傷ニ制腐的或ハ防腐的療法ヲ施スモ發熱スルトキハ先ツ敗性熱ナルカ無敗性熱ナルカヲ決定スヘシ 臨牀上ニハ兩者ヲ確實ニ斷定スルハ困難ニシテ若シ體温ノ昇騰迅速ニシテ顯著ノ障碍ヲ來シ例之一乃至一・五度以上ナルトキハ敗性熱(有菌性熱)ト想像スルコトヲ得ヘシ

(三)現在創傷ノ處置 創傷熱療法ノ最モ適正ナルモノハ現在ノ創傷ヲ精密ニ檢シ成ルヘク充分ニ現在セル異常状態ヲ除却スルニ在リ、即チ先ツ繃帶ヲ撤去シ 制腐的手段ニ依リ創傷ヲ潤開シテ滯溜セ

ル創液ヲ排除シ制腐液ニテ洗滌シ尙創液ノ排泄ヲ流利スル爲メ排導管ヲ裝シ或ハ反對孔ヲ設ケ或ハ串線ヲ通シ或ハ吸收性物質ヲ創内ニ填塞スメラー氏ハ直腸ノ溫度三九・五ニ達スルトキハ每常繃帶交換ヲ行フヲ規定セリ、縫合セル創傷ニ在リテハ繃帶ノ全部若ハ一部ヲ撤去シテ創液ノ排泄ヲ計ルヘシ開放セル創傷ニ在リテモ前同様ノ方法ヲ施シ反對孔或ハ排導管ノ裝設ニヨリ創液ノ排泄ヲ可成丈敏活流利ナラシムヘシ創傷ノ周圍ニ強度ノ腫脹ヲ發見スレハ創液ノ停滯或ハ膿瘍ノ現存スルヤ否ヤヲ精査シ斯ノ如キ病變アラハ直ニ切開シテ創液或ハ膿汁ヲ排除スレハ體溫ハ沈降シ常溫ニ復ス若シ創傷ノ位置不良ノ爲メ創液或ハ膿汁ノ排泄ニ不適當ナルトキハ制腐液ノ連續灌溉ヲ行フカ或ハ屢々(一日五六回)制腐液ヲ以テ創傷ヲ洗滌スヘシ又吸收力ヲ有スル材料ヲ填塞ス

(四)解熱療法 發熱ハ動物體ノ細菌及其生産毒素ニ對スル反抗作用ナルヲ以テ解熱法ハ寧ロ有害トス、且身體ノ冷却ハ却テ血中ニ於ケル細菌ノ發育ヲ助成スルノ弊アリ故ニ寒冷法ハ解熱藥(「サリチール」酸・「アンチピリン」)ノ如ク稀ニ用フルニ過キス、熱症ニハ「キニーネ」ヲ處シ「コロイド」銀(二%溶液)ヲ靜脈内ニ注射シ少量ノ甘汞ヲ投ス

(五)強壯療法 熱性ニ於テハ常ニ精密ニ脈搏ノ狀態ニ注視シ場合ニ依リテハ興奮藥(「ヂギタリス」・「カフェイン」・樟腦)ヲ與ヘ心臟ノ作用ヲ増進セシムヘシ衰弱ニ對シテハ酒精・「エーテル」・樟腦等ヲ應用ス尙生理的食鹽水ノ注射ヲ試ムヘシ

(六)攝生療法 患畜ニハ安靜休養ヲ命シ消化シ易キ食物及清涼ノ水ヲ與ヘ水ハ患畜ノ欲スル儘飲用セシムヘシ

創傷性胃橫隔膜炎

Reticulitis et phrenitis traumatica. (羅)

療法 豫防ヲ專一トス酪婦ヲ戒メテ鍼・釵等ニ注意セシメ又屢々食物ヲ檢査シ異物ヲ除去スヘシ診斷確實ナラサレハ急性又ハ慢性胃加答兒ノ治療ヲ施ス診斷確實ト認ムレハ速ニ屠殺スヘキヤ又ハ胃ヲ截開シテ異物ヲ除キ得ヘキヤヲ熟考スヘシ胃中ニ多量ノ砂アリト認ムレハ蓖麻子油・粘汁ヲ與ヘ八時間ノ後阿片ヲ投ス酒石酸・「エルゴチン」・「ヴェラトリン」・「アレコリン」等ノ皮下注射亦試ムヘシ

截開手術左ノ如シ
左腹側ノ所謂饑窪ノ上方ヨリ下方ニ向ヒ腰椎橫突起ノ下一掌ヲ距リ第一胃ヲ截開シ前下方ニ向ヒテ手ヲ入レ第二胃ノ口ヨリ胃底ヲ按診シ異物ヲ探リテ之ヲ除去ス而シテ後胃ノ創ヲ縫ヒ次テ腹壁ノ創ヲ縫合ス又一方ハ動物ヲ翻倒シ仰臥セシメ靴ヲ以テ劍狀軟骨ノ左側ヲ強ク蹴踢スルニ在リ

創傷性心囊炎

Pericarditis traumatica. (羅)

療法 診斷確實ナルモノハ速ニ屠殺スルニ如カス眞ノ初期又ハ察病上疑アルトキハ「ヂギタリス」葉末二・〇乃至五・〇「カフェイン」五・〇「ストロファン」丁幾一〇・〇—二五・〇、吐酒石・鹽類下劑等ヲ試ム心囊穿刺術ハ概ネ勞シテ効ナシ

象皮病

Elephantiasis (羅)

療法 象皮病ノ治療法ハ効力少シ是レ原因ヲ全然除去スルコト不可能ナレハナリ而シテ療法トシテハ其ノ硬化皸裂皮膚ヲ乾燥シ皮膚滲出液ノ吸收ヲ促ス爲メ發汗劑ノ内服例之「カミルレ」花・「アルニカ」接骨木花浸ノ内服、鹽酸「ピロカルピン」ノ皮下注射、皮膚ヲ摩擦シ體ヲ溫包シ局所ノ按摩ヲ行ヒ後樟腦精・石鹼精・「アムモニア」水或ハ「テレピン」油ヲ塗布シ濕布ヲ以テ之レヲ被ヒ「フランネル」

創傷性胃橫隔膜炎

創傷性心囊炎

象皮病

繃帶又ハ壓迫繃帶ヲ施ス又時々溫脚浴或ハ石鹼脚浴ヲ試ムヘシ硬化及結節ハ腐蝕若ハ切除スヘシ

ホーレル水	一五〇〇	木炭末	四〇〇	粗製明礬	五〇〇
食鹽	五〇〇	右混和爲粉末濕潤部ニ撒布		ナフタリン	
水	二〇〇〇	クレオリン	一〇〇	煤烟	各三〇〇
右每日一食匙宛(馬)		硼酸	五〇〇	右混和撒布用	
ヨードカリウム	一〇〇	右爲撒布劑		酸化亞鉛	三〇〇
重炭酸カリウム	二五〇	リコボジウム		澱粉	三〇〇
右飲水ニ混シ二回分服(牛馬)		酸化亞鉛	各三〇〇	右混和撒布用	
鹽酸ピロカルピン	〇〇一	右撒布用		右混和撒布用	
餾水	一〇〇	木タール		ヨードフォルム	二〇〇
右爲溶液皮下注射(牛馬)		綠石鹼	各五〇〇	右混和撒布用	
蘆薈越幾斯	一〇〇	酒精	二五〇	タンニン酸	二〇〇
大黃	五〇〇	右爲擦劑		ヨードフォルム	一〇〇
食鹽	一二五〇	ヨード加里	一〇〇	右混和撒布用	
アルテア根末及水	適量	ヨード	二〇〇	加里石鹼	各五〇〇
右爲丸劑六個毎日二丸宛與(馬)		樟腦	五〇〇	酒精	五一二五
硼酸	三〇〇	豚脂	五〇〇	右爲擦劑一日數回用フ	
タンニン酸	四〇〇	右爲軟膏硬化部ニ塗布		木タール	五〇〇
				グリセリン	二五〇〇

嚔囊便秘 Obstructio ingluviei. (羅)

療法 嚔囊ヲ按摩シ鹽酸ノ一・二滴ヲ薄荷浸一茶匙ニ混シテ與ヘ(一日三四回)又外科手術ヲ施シ内容ヲ除去ス

吐酒石	〇・二	右一日數回二〇—三〇滴宛一茶匙量ノ赤酒ニ混シテ與フ(鶏)	(家禽)
餾水	二〇〇	鹽酸	二〇
右爲溶液每十五分半乃至一茶匙量宛作用現ハル迄與フ(鶏)		水	三〇〇〇
苦味丁幾	二〇〇	右混和毎日數回一茶匙宛與フ	右爲溶液嘴ヨリ「ゴム」管ヲ挿入シ嚔囊内洗滌料トス(頑固症)

嚔囊炎 嚔囊加答兒 Inguvitis. (羅)

療法 按摩シテ嚔囊内ノ食塊ヲ口内ニ壓出シ防腐收斂溶液(硼酸水一%・硫酸鐵二%)又ハ「サリチール」酸溶液一茶匙ヲ投シ一日間絶食セシメ數日間軟食ノミヲ與ヘ穀類ヲ給スヘカラス

甘汞	〇〇五	油槽及薄荷	各五〇
右少量ノ「バタ」ニ混シテ與フ		右混和毎日數回一小刀尖量宛與フ	
甘汞	〇〇八	ヂチオサリチール酸着鉛	一〇〇
白糖	二〇〇	(チオフォルム)	二〇〇
右混和一回ニ與フ(鶏)		大黃根末	三〇〇
重曹		橙皮油糖	三〇〇
大黃根末		右混和毎日二回一小刀尖量宛與	
		吐酒石	〇〇二
		餾水	二〇〇
		右爲溶液一日數回一茶匙宛與フ	
		鹽酸	一〇五
		餾水	一〇〇〇
		右混和一日三四回半乃至一茶匙宛與フ	

嚔囊便秘 嚔囊炎

息癆 Broken wind. (英)

療法 攝生ニ注意シ容積ノ大ナル飼料・乾草ヲ減シテ滋養強壯濃厚ノ穀食ヲ與ヘ不潔ノ乾草及藁等ヲ避クヘシ藥物療法ハ多クハ効ヲ奏セス從來砒石ヲ賞用ス即本藥〇・一〇・五ヲ食物ニ和シテ與ヘ或ハ亞砒酸加里液五―五〇〇ヲ漸次增量シテ與フ又亞砒酸「ストリキニーネ」〇・〇二、亞砒酸鐵〇・〇三ヲ麥酒ニ混シテ與ヘ効ヲ見タル者アリ砒石ノ効力ニ就キテハ諸家ノ說區々タリ必竟動物ノ營養ヲ改良シ外貌ヲ美ニスルニ止ルガルゾール氏ハ心臟性ノ息癆ニハ減飲療法ヲ施シ其他慢性氣管支加答兒アレハ「アルカリ」劑特ニ人工「カルルス」泉鹽ヲ用フ時トシテハ「アムモニア」ノ製劑・粘劑・甘味藥ヲ伍用ス例之少量ノ吐酒石・金硫黃・甘草等ノ如シ

- 食鹽 一五〇〇
- 重曹 五〇〇
- 芒硝 八〇〇
- 右爲粉末一日三回食物ニ混與
- 人工カルルス泉鹽 一〇〇〇
- 右日々食餌ニ混與
- ホーレル水 一〇〇〇
- 右第一日ニ五〇〇次日一〇〇〇第三日一五〇〇ト徐々ニ增量シ一日量五〇〇ニ至ラシム
- 亞砒酸 〇・一
- 黑色硫化アンチモニウム 五〇〇
- 右混和散劑一包トナシ其十五包ヲ作り毎二日一包宛飼料ニ混與(馬)
- 亞砒酸 四〇〇
- 黑色硫化アンチモニウム 各五〇〇
- 重碳酸ナトリウム 各五〇〇
- 右混和毎日朝夕二回一食匙量宛飼料ニ混與(馬)
- 亞砒酸カリウム液 二〇〇〇
- 右毎日一食匙量宛麵粉ニ浸シ一週間連用、第二週ヨリ每週一食匙量宛ヲ増シ同様ニ與ヘ四食匙量ニ達スレハ次週ヨリ次第ニ減量シテ最初ノ量ニ復歸セシム(馬)
- 硝酸ストリキニーネ 〇・〇五
- 餾水 五〇
- 右爲溶液皮下注射(馬)

番木鱈丁幾

五〇〇

亞砒酸カリウム液

一〇〇〇

右混和毎日其五分ノ一量宛飼料ニ混與―連用(馬)

硫酸アトロピン

〇・一

餾水

一〇〇〇

右爲溶液毎日其五〇―一〇〇

宛皮下注射ス(馬)

ヨードカリウム

五〇〇

餾水

三〇〇

右爲溶液毎日三回一食匙量宛與

簇虫性實扶的里

Croupöse-diphtheritische Schleimhautentzündung durch Gregarina ergengt. (獨)

療法

家禽實扶的里ニ同シ粘膜炎及皮膚患部ニハ石炭酸水(一―二%)又ハ「クレオリン」五〇〇「グリセリン」一〇〇〇ノ合劑或ハ「グリセリン」「レゾルシン」液(十%)ヲ塗布ス純「グリセリン」ハ水分ヲ奪ヒ簇虫ヲ殺ス腸炎ニハ「グリセリン」一茶匙内服

- クレオリン 五〇
- グリセリン 各一〇〇〇
- 餾水 右爲溶液口内塗布
- グリセリン 各一〇〇〇

簇虫性實扶的里

フ(馬)

ニトログリセリン 一〇〇〇

酒精 一〇〇〇

右爲溶液毎日三回十滴宛飲水ニ混與

ニトログリセリン 〇〇一

グリセリン 一〇〇〇

水 一〇〇〇

右爲溶液毎日三回一茶匙量乃至一食匙量宛與フ(馬)

ニトログリセリン 〇〇一

グリセリン 一〇〇〇

酒精 一〇〇〇

右混和毎日三回一茶匙量乃至一食匙量宛與フ(犬)

(注意―引火性ノ藥品ナリ)

ニトログリセリン 〇〇一

酒精 一二〇〇

橙皮舍利別 二〇〇〇

右混和毎日三回十滴宛與フ(犬)

右混和口内塗布	七・五	水	右混和外用	一三〇・〇	グリセリン	各五〇・〇
クロールカリウム	一・五		右口粘膜及鼻粘膜塗布	一・〇	餾水	
サリチール酸	一五・〇		バチロール		右一茶匙量宛内服	
グリセリン						

鼠蹊過兒尼亞

陰囊過兒尼亞

Hernia inguinalis s. scrotalis. (羅)

療法 療法ハ嵌頓ノ有無ニ由リテ異ナル(一)嵌頓セサルモノノ療法(イ)灌腸ヲ施シ宿糞ヲ排除シ仰臥保定後身ヲ高カラシメ内容ヲ還納整復シタル後再脱ヲ豫防スル爲メ罌丸ヲ牽引シテ精莖ヲ摩擦シ腫起ヲ起サシメ次デ馬ヲ立タシメ最初三日間ハ減食シ徐々運動セシムレハ十二日ニテ癒ユ又一法ハ内容ヲ還納シ鼠蹊輪ノ近傍ニ於テ獸帶ヲ以テ陰囊ヲ結紮シ八日間留置シ腫起スルヲ待テ之ヲ解ク六乃至八日間ニシテ癒ユ(ロ)莢膜突起閉鎖又ハ狹窄法ニシテ其ハ刺戟藥(芫菁一分硫酸銅一・五分龍骨木二・五分脂肪一五分)ヲ製シ罌丸ヲ下方ニ牽引シテ陰囊ノ皮膚ヲ緊張シ毎日一回該藥ヲ鼠蹊輪ノ近傍ニ於テ陰囊ニ塗抹シ大抵八乃至十日連用シ表皮剝離スルニ至リテ止ム爾後微温湯ヲ以テ其部ヲ洗ヒ炎症狀消散スルニ及ンテ又新タニ塗抹ヲ始ム如斯シテ四乃至六週ニシテ歇兒尼亞消退ス、他ノ一方ハ鉗搾法ニシテ略ホ被式去勢術ニ等シク整復ヲ遂ク搾木ヲ可成鼠蹊輪ニ近ク莢膜上ヨリ施スニアリ搾木ニシテ可成鼠蹊輪ニ近クシメシメカ爲メニ弓狀搾木ヲ用フルコトアリ搾木ハ尋常ノモノヨリ短キヲ可トス且嚴ニ消毒シテ用フヘシ初メ麻醉セシメ還納ヲ遂ケ局所ヲ消毒ス高ク搾木ヲ施スヲ障害スルモノハ皮膚及皮下軟部ナルカ故ニ皮膚ハ可成的潤開シテ搾木ヲ創底ニ埋メ鼠蹊輪ノ直下

ニ施ス次ニ皮膚ヲ引長シテ搾子ヲ包ミ皮膚ヲ縫合シテ「ヨードフォーム」ヲ撒布ス翌日ニ到リ熱候其他ノ惡徵ナク又術部大ニ腫起セサレハ搾木ヲ留置スルコト八日ノ久シキニ涉ルモ敢テ害ナシ防腐消毒嚴正ナレハ搾木撤去ノ後良性肉芽速ニ發生シテ癒ユ(ハ)腹輪又ハ鼠蹊輪縫鎖法、腹輪ハ深奥ニ位シテ容易ニ施シ難シ鼠蹊輪ハ容易ニ縫合シ得ルト雖其邊緣ハ外斜腹筋ノ腱ヨリ成ルヲ以テ癒合シ難シ要スルニ此法ハ確實ノ法ニアラス(ニ)嵌頓鼠蹊過兒尼亞ノ療法、最初整復ヲ試ムヘシ縛倒麻醉仰臥後身ヲ前身ヨリ高カラシメ後肢ヲ屈シ患側ノ後肢ハ可成的外後方ニ引キテ保持シ過兒尼亞囊ヲ牽引回轉シ且其頸部ヲ按壓シテ内容ヲ還納ヲ試ミ之ト同時ニ手ヲ直腸ニ挿入シ腹輪ヲ搜探シ鼠蹊孔ニ陥入セル腸管ヲ細心徐々ニ牽引シ以テ内外相應スヘシ幸ニシテ整復シ終レハ馬體ヲ轉シテ健側ニ臥セシメ倒馬器ヲ解脫シ安靜ナレハ十五乃至三十分間其儘放置シ強テ立タシムルヲ要セス、前記ノ按摩還納法ヲ試ミ半時ヲ經ルモ尙整復シ得サレハ過兒尼亞手術ヲ施ス再ヒ麻醉藥ヲ用ヒテ充分麻醉セシメ後肢ノ下部及蹄ヲ洗滌シ濕布ヲ以テ之ヲ包ミ塵埃ノ術部ヲ汚スヲ防キ術部ハ充分洗滌消毒シ陰囊底ニ於テ皮膚及肉様膜ヲ切開シ指ト缺トヲ以テ莢膜突起ヲ露出スルコト過兒尼亞囊頸ノ括約最モ緊ナル部ニ及ホシ一方ニハ指ヲ鼠蹊管ニ挿入シテ莢膜突起ノ括約部ヲ按壓シ又一方ニハ直腸ニ手ヲ挿入シ腸管ヲ鼠蹊管ヨリ徐々ニ引キ出シテ整復ヲ試ムヘシ、嵌頓緊急ニシテ容易ニ整復セサレハ内過兒尼亞手術ヲ行フ其法ハ前法ニヨリ整備露出シタル莢膜ヲ切開シ場合ニヨリテハ過兒尼亞刀ニテ腹輪ヲ切開潤大ニス腹輪ハ其前隅ヲ外方ニ向ツテ切ルヘシ後隅ノ内方ニハ動脈アリ慎ムヘシ切割ハ深キヲ要セス嵌頓部ヲ切ルコト僅ニ數密迷ナレハ容易ニ整復シ得ヘシ既ニ腹輪ヲ割大シ終レハ腹内器官ノ吸引力ニヨリ内容自カラ還納スルコト屢々アリ整復シ終レハ搾木ヲ莢膜上ヨリ可成高ク精

鼠蹊間質過兒尼亞 鼠尾癬 追突傷

二八四

系ニ施スコト嵌頓ナキ過兒尼亞ト同シ、罌丸ヲ保存セント欲セハ陰囊及莖膜ヲ其外側鼠蹊輪ニ近キ部ニ於テ切割シ創口ヨリ有孔探子ヲ挿入シテ莖膜突起ノ最狹部ニ達シ此部ヲ割大スルニ過兒尼亞刀ヲ以テス皮創ハ縫合シ繃帶ヲ施シ防腐療法ヲ行フヘシ

鼠蹊間質過兒尼亞 *Hernia inguinalis interstitialis.* (羅)

療法 鼠蹊管ノ近傍ニ於テ腹筋破裂シテ腸管陰囊中ニ脫出シタルモノニシテ療法ハ恰モ鼠蹊過兒尼亞ニ同シト雖榨木ヲ用フル能ハス筋肉ノ裂孔ヲ縫合スルニ過キス

鼠尾癬 *Rattenschweif.* (獨)

疥癬様濕疹參照

追突傷 *Over-reach.* (英)

療法 追突ノ原因ハ(一)不良ノ體格・重大ノ頭・重ク短ク水平ニシテ運動輕捷ナラサル頸・短クシテ峻立セル或ハ運動ノ自由ナラサル肩・鯉背・短軀長肢・前軀低ク後軀高キモノ・尻甚タ傾斜シタルモノ(二)肢勢・集合肢勢・前肢後踏後肢前踏・前高蹄後低蹄其他凡テ運動ヲ滯滞スヘキ前肢ノ疾病(三)乘馭及調教、凡テ馬體ノ重心ヲ前方ニ移スヘキモノ即チ騎坐及騎手ノ姿勢ノ前方ニ偏スルモノ・脚ヲ受テサルモノ・頭及頸ノ下垂・韁ニ對スル硬口・歩度ノ伸暢・疲勞・馬體ノ馬術的平均ヲ得サルモノ・筋腱及靱帶ノ未タ強健ナラサル新馬ノ調教中(四)地況、交突ノ如シ(五)裝蹄過失、前蹄蹄踵過高若ハ蹄尖過短・後蹄蹄尖過長若ハ蹄踵過短・前蹄鐵尾過長・後蹄鐵頭過長・舉蹄蹄・狹窄蹄其他凡テ多少踏著ニ不便ナルカ或ハ疼痛ヲ感スヘキ蹄形異常又前蹄ニ於テ蹄尖ノ過長ニシテ蹄踵ノ過短ナルモノ及上

彎ノ缺如シタルモノモ亦前肢運動ノ自由ヲ妨クルヲ以テ原因トナル

豫防トシテ右ノ原因ヲ排除シ裝蹄ヲ矯正スルニアリ然レトモ追突甚シク且原因ヲ去ルヲ得サル時ハ前或ハ後追突蹄鐵ヲ用フヘシ即チ前蹄ノ鐵尾ハ成ルヘク短ク且前下方ニ斜ニ切斷シ兼テ蹄鐵內緣ノ下角ヲ除クヘク尙要アレハ四分ノ三鐵若ハ半月狀鐵ヲ應用シ後蹄ノ追突蹄鐵ハ鐵唇ヲ正位ニ置カスシテ蹄尖ノ兩側ニ各一個ヲ置キ鐵頭部ハ殆ト直線トナシテ其前緣ヲ下後方ニ斜斷シ後蹄鐵ニハ特ニ鐵臍ヲ設クルモノトス鐵臍ノ高サハ概シテ蹄鐵ノ厚サヲ基準トナセトモ時宜ニヨリテハ多少増減スルヲ得ヘシ此蹄鐵ヲ裝着シタルトキハ蹄尖部ノ稍々鐵頭部ヲ溢出スルヲ要ス

痛 風 尿酸性關節炎 *Gout.* (英) *Arthritis urica.* (羅)

療法 病禽ハ食物ニ注意シ蛋白質ニ乏シキ餌ヲ給ス、「アルカリ」鹽類(重曹・芒硝)ヲ飲水ニ混與ス、病禽ハ自由ニ運動セシムルヲ宜シトス、實驗ニ依レハ血中ニ「ピペラジン」存在スルトキハ尿酸鹽類ノ沈着ヲ防止シ得ヘキヲ以テ本藥(幼鷄〇・五—一・〇鳩〇・四—〇・五)ヲ用フヘシ、「コルシクム」丁幾試ムヘシ、關節ニ急性炎アレハ「サリチール」綿ニ酒精又ハ石炭酸ヲ浸シテ之ヲ包ミ、關節ヲ形成スレハ限局セルモノハ外科的手術ニ依リテ之ヲ切除シ結節軟化スレハ切開シテ内容ヲ排除シ消毒液灌注ヲ行フ、病禽ハ重態ニ陥ラサル内ニ肥育シ食用ニ供スルヲ利トス

硼酸 二・〇 — ヨードフォルム 五・〇
水 一〇〇・〇 — ラノリン 五〇・〇
右爲溶液注入料トス 右混和爲軟膏塗擦ス

痛風

二八五

熱射病 粘液囊炎

二八六

熱射病 Insolatio. (羅)

療法 動物ヲ冷所ニ導キ又ハ水中ニ追ヒ込ミ若ハ全身ニ冷水ヲ灌注シ同時ニ刺絡ヲ施シ又強力ノ興奮劑即チ「アドレナリン」・「アトロピン」・「ヒヨスチン」・「カフェイン」・樟腦ヲ處ス解熱ニハ「アスピリン」・「キニーネ」等効アリ(日射病參照)

粘液囊炎 Bursitis. (羅)

療法 急性粘液囊炎ニ於テハ先ツ原因ヲ除去ス例之鶯嘴粘液囊ニ於ケル蹄鐵ノ壓迫ヲ除去スルカ如シ初期ニハ冷濕・冷卷法・溫蒸法ヲ試ミ次テ解凝軟膏ヲ塗布シ慢性症ニハ刺戟擦劑又ハ烙鐵ヲ用フ兼テ按摩ニ依リテ粘液囊内ニ滯溜セル液體ノ吸收ヲ促ス若シ此法ニシテ能ハサレハ烙鐵或ハ腐蝕藥ヲ以テ囊ノ破壞法ヲ行ヒ或ハ穿刺法ヲ以テ内容ヲ排除ス、粘液囊周圍組織ノ著シキ肥厚ニアリテハ腫瘤ノ摘出ヲ行フ又其ノ結紮ハ良効ヲ奏スルコトアリ、皮下破壞法ハ臆鞘水腫ノ如ク試用スヘシ然レトモ再發ハ稀ナラス、馬ニ於テハ屢々鶯嘴粘液囊及跟頭粘液囊炎症ニ罹ル其療法ハ肘腫飛端腫條下ヲ參照スヘシ

漿液性粘液囊炎 Bursitis serosa. (羅)

粘液囊炎參照

纖維性粘液囊炎 Bursitis fibrinosa. (羅)

粘液囊炎參照

出血性粘液囊炎 Bursitis haemorrhagica. (羅)

粘液囊炎參照

粘液囊周圍炎 Parabursitis. (羅)

粘液囊炎ト同シ

粘液腫 Myxoma. (羅)

療法 手術的除去ニ依ル表在セルモノハ手指ニテ牽裂或ハ刀鋏等ニテ截除ス

内髁腫 High spavin. (英)

療法 患畜ヲ休養セシメ患部ニ強刺戟藥ヲ塗布スレハ小骨瘤ハ消散シ或ハ骨瘤消散セスシテ跛行ノミ消滅スルコトアリト雖跛行毫モ減退セサルモノハ飛節ヲ傷ケサル様注意シ穿刺烙鐵ヲ試ムヘシ但跗關節炎ヲ繼發セルモノハ概ネ不治ナリ要スレハ複切神術ヲ試ムヘシ

内皮腫 Endothelioma. (羅)

療法 臨床上肉腫或ハ癌腫ト區別スルコト困難ナリ

「ナガナ」病 Nagana. (羅)

療法 馬ノ「ナガナ」病ニハ「アトキシル」ハ偉効アリ之ニ他ノ殺蟲劑ヲ配スレハ更ニ妙ナリ又犬

粘液囊周圍炎 粘液腫 内髁腫 内皮腫 「ナガナ」病

二八七

軟骨腫 軟蹄 軟腫

二八八

「ナガナ」病ニハ「アルセノフェニールグリチン」(Arsenophenyl glyzin)(犬ノ體量一疋ニ付〇・一ノ内服又ハ靜脈内注射)ヲ常用ス又牛ノ皮下ニ吐酒石(〇・〇三五—〇・〇一)ヲ注射シ數回治効ヲ奏セル者アリ

豫防法 一般衛生ニ注意シ流行地ニ於テハ燻烟若ハ惡臭ノ軟膏(「クレオリン」・石油)ヲ動物ノ體表ニ塗擦シテ蠅類ヲ遠ク又夜間放牧ニヨリ傳染ヲ防クヘシ

軟骨腫 Chondroma. (羅)

療法 一般療法ニ從ヒ手術的除去ヲナス 腫瘍硬キカ故ニ結紮ハ難キモ血管稀少ナルヲ以テ刀截スヘシ

軟蹄 Too soft hoof. (英)

療法 本病ノ原因單ニ濕氣ニアリトセハ全治スト雖蹄ノ構造ニ異常アリトセハ全治シ難シ甲ノ場合ニアリテハ濕氣ヲ除去スルニ努ムヘシ乙ノ場合ニアリテハ蹄鐵及ヒ蹄ノ管理ニ注意セサルヘカラス即チ肢勢ニ鑑ミ軀重負擔ノ過不及ナカラシメ蹄鐵ハ廣キヲ要シ釘ハ可成的多數ヲ下サス但釘ハ寧ロ大ニシテ釘尖ハ高ク蹄壁ニ顯ハルルヲ良トス 廣蹄ニアリテハ八乃至十釘ヲ限リトス又必要ト認ムレハ二個ノ側鐵唇ヲ附スヘシ 蹄ノ管理法ハ其硬度ヲ保タシメ且抵抗力ヲ有セシメ老廢ヲ防クニアリ此目的ニハ蹄ヲシテ乾濕宜シキヲ得セシメ其急變ヲ防クニアリ之カ爲メ脂肪・「タール」・「テレピン」ナラ用フ又蠟ヲ用フルモ可ナリ初メ負縁ノ缺損ヲ防ク爲ニハ假角質ヲ用フ

軟腫 Galls. (英)

膝軟腫・球節軟腫・飛節軟腫ノ療法ハ滑液膜炎參照、球腫軟腫・飛網軟腫(「アヒレス」腫鞘水腫)・膝腫軟腫ハ腫鞘炎參照

爛斑 Erosio. (羅)

療法 防腐收斂液例之鉛糖水(二・一〇〇)ニテ洗滌シ乾燥撒布劑例之次硝酸蒼鉛・酸化亞鉛・「サリチール」酸等ヲ用フ

次硝酸蒼鉛	110.0	澱粉	300.0
炭酸苦土	11.0	右同	300.0
右混和爲散布劑		硼酸末	300.0
酸化亞鉛	30.0	右同	300.0
		右反覆局所ニ塗布	

亂視 Astigmatism. (羅)

療法 家畜ニアリテハ視力ニ精密ノ分別力ヲ要スルコトナク又一方ニハ眼鏡ヲ用ヒテ折光異常ヲ匡正スルカ如キハ家畜ニ於テ爲シ得ヘカラス

無乳症 Agalactia. (羅)

療法 原因ニ從テ取捨加減スヘク營養不給使役過度ノ爲疲羸シタルモアハ休養ヲ命シ蛋白質ニ富メル飼料ヲ給シ内科病ニ原因スルトキハ先ツ之ヲ治療ス、元來乳房ノ發育不十分ニシテ其官能不振ナルモノニアリテハ屢々搾乳按摩シ弱刺戟性ノ酒精劑ヲ塗リ内服ニハ泥菖根・茴香・「アニース」・杜松

爛斑 亂視 無乳症

二八九

無菌創 無菌蹄皮炎 馬虱・馬毛虱 齧齒
 子・黑硫化「アンチモニー」・硫黃華・食鹽等ノ泌乳催進藥ヲ單味若ハ調和シテ用ヒ飼料ニハ麩・麥粉・亞麻仁・椰子油糟等ノ稀粥・麥酒釀造粕ノ如キ軟食及液食ヲ給スヘシ乳腺ノ萎縮硬結ニ原因スルトキハ療法ナシ

二九〇

無菌創 Aseptic wound. (英)

療法 染毒創トハ細菌異物ノ侵入シタル創傷ニシテ創傷熱・敗血症・膿毒症・強直症・丹毒「フレグモノネ」等ノ原因トナルヲ以テ嚴密ノ消毒及防腐療法ヲ要ス、無菌創ハ細菌ノ未タ侵入染毒ヲ受ケサルモノニシテ前者ニ比スレハ治療速ニシテ合併症尠シ療法ハ共ニ一般原則ニ從フ

無菌蹄皮炎 Aseptic pododermatitis. (英)

療法 病毒ニ汚染セサル蹄皮炎ニシテ稀有ナリ療法ハ蹄皮炎參照

馬虱・馬毛虱 Pediculus equi. Tricodectes pilosus. (羅)

虱參照

齧齒 Caries dentium. (羅)

療法 動物ニ在テハ充填法ヲ實行シ難キヲ以テ患齒ヲ拔除スルヲ最良トス但拔齒術ハ齧齒ニ原因スル咀嚼障礙ノ非常ニ劇シキ場合ニ限リテ之ヲ行フヘク決シテ猥リニ行フヘキモノニ非サルハ豫メ注意スルヲ要ス即チ齒牙碎裂セル場合或ハ顎竇炎ヲ併發セル際ノ如キニシテ殊ニ後者ニ在リテハ齧齒ト同時ニ蓄膿症ノ治療ヲ行ハサルヘカラス

腦溢血 腦卒中 Haemorrhagia cerebri. Apoplexia cerebri. (羅)

療法 安靜ヲ主トシ刺絡ヲ施シ興奮劑(「エーテル」・樟腦ノ皮下注射)ヲ與ヘ頭部ヲ冷罨ス重劇ナル症狀消散セハ滋養易消化食ヲ給シ且緩下劑ヲ處ス若シ危險症狀アレハ早ク屠殺シテ肉ヲ利用スルニ加カス痲痺ノ療法ハ「ヴェラトリン」・「ストリキニン」ノ内服・按摩・電流ノ應用ニ在リ出血ヲ吸收セシムル爲「ヨードカリウム」ノ連用亦試ムヘシ

- | | | | | | |
|----------------|-----------|-----------------------|-------|-----------------|-------|
| ヨードカリウム | 一・〇 | 餉水 | 二五・〇 | 炭酸アンモニウム | 八〇・〇 |
| 苦味丁幾 | 二・〇 | 右爲溶液日々五・〇皮下注射 | | 食鹽 | 二〇・〇 |
| 單舍利別 | 一五・〇 | (犬) | | 麵粉及水 | 適量 |
| 水 | 一〇〇・〇 | 樟腦 | 一〇〇・〇 | 右爲砥劑二・三日間ニ分服(馬) | |
| 右混和一日三回ニ分與(犬) | | エーテル | 三〇・〇 | ヨードナトリウム | |
| 硝酸ストリキニーネ | 〇・〇五—〇・一五 | 右爲溶液五—六・〇宛一日三回皮下注射(馬) | | 炭酸カリウム | 各五〇・〇 |
| 餉水 | 一〇〇・〇 | 人工カルルス泉鹽 | 一五〇・〇 | 茴香水 | 一五〇・〇 |
| 右爲溶液皮下注射料トス(馬) | | ヨードカリウム | 五〇・〇 | 右爲溶液一日二回一茶匙乃至一 | |
| 牛) | | 麵粉及水 | 適量 | 食匙宛與フ(犬) | |
| 硝酸ストリキニーネ | 〇・〇一 | 右爲砥劑二日間ニ分服(馬) | | | |

腦挫傷及震盪 Contusio et commotio cerebri. (羅)

腦溢血 腦挫傷及震盪

療法 絶對ニ安靜ヲ命シ頭ヲ高クシ冷卷法ヲ施シ又ハ頭部ニ冷水ヲ注キ衝動劑(「エーテル」・樟腦油)ヲ用フ、大動物ハ厚キ敷薬ノ上ニ横臥セシメ日々數回頭位ヲ變シ成ルヘク吊起スヘシ餓餓ヲ防クニハ人工營養法ヲ施シ頭蓋ノ損傷ハ外科的處置ヲ要ス治癒ノ望ナキモノハ屠場ニ送ルヘシ

腦膜及腦炎 Meningitis et Encephalitis. (羅)

療法 患畜ヲ冷涼安靜ノ潤房ニ容レ日光ヲ遮リ風ヲ通シ不用ノ器具ヲ撤去シ舍壁ノ釘ヲ拔キ厚ク敷薬ヲ敷キ頭部ニ冷湯ヲ行フ氷・雪・冷水又ハ冷凍合劑(硝石・食鹽・芒硝ヲ醋又ハ水ニ伍ス)ヲ頭ニ抵シ昏睡ノ徵重キヲ占ムレハ高所ヨリ冷水ヲ灌滴ス又直腸ニ冷水ヲ灌腸ス刺絡ハ初期未タ實性腦充血ノ徵候アル場合ニノミ行ブ腸ノ誘導法即チ峻下劑(巴豆油・吐酒石・蘆薈)ハ初期ニ於テノミ用フ他ノ場合ニハ有害無効トス中性鹽類(芒硝・硝石)甘汞ヲ適當トス特ニ宿糞アル際ニハ有効ナリ内服藥ヲ投スル能ハサレハ硫酸「エゼリン」(〇・一)「アレコリン」(〇・〇八)皮下注射ヲナス又鹽酸「ピロカルピン」(〇・二—〇・五)ヲ數日皮下注射ス本藥ハ腦室及腦膜間ニ蓄積セル液ノ吸收ヲ促スノ効アリト雖時ニ有害ナルコトアリ實用ニ當リ取捨ヲ要ス皮膚誘導法トシテ項又ハ頸ノ兩側ニ刺戟擦劑(巴豆油・芥子精・光善軟膏又ハ「テレピン油」・光善丁幾各五〇〇巴豆油十滴)ヲ施ス但初期興奮期ニハ忌ム非常ニ興奮スレハ臭素加里(一〇—二〇〇)・抱水「クロラール」(二五—五〇〇)ノ灌腸・「モルヒネ」・煙草煎汁灌腸・冷水灌腸等ヲ用フ、飼料ハ滋養ノ食ヲ避ケ麩・麥粉湯・青草・根菜類ヲ與フ、豫防法トシテ多血肥滿ノ馬ニハ日々少許ノ人工「カルルス」泉鹽(二〇—五〇〇)ヲ與フヘシ

樟腦油 一〇〇〇— 右一日數回一〇—二〇〇宛與一フ(馬)

炭酸アムモニウム 三〇〇 水 適量 アルニカ丁幾 各一五〇〇
白菫根 六〇〇 右爲低劑與フ(馬) 右一日三回ニ分チ燕麥煎・粘汁
亞麻仁 一〇〇〇 テレピン油 ニ混シテ與フ(牛)

腦充血 Hyperaemia cerebri. (羅)

療法 輕症ニ在リテハ患畜ヲ通氣善良ニシテ靜穩ナル廣キ場所ニ移シ之ニ易消化食物及新鮮ナル水ヲ給スレハ足ル重症ノ初期ニハ多量ノ放血ヲナシ頭部ヲ冷湯シ又ハ冷水ヲ灌注スヘシ腹瀉及四肢ハ温包シ皮膚誘導劑ヲ塗ス内服藥ニハ下劑ヲ用フ但シ峻下劑ハ有害ナリ、充血ノ原因ヲ除去シ且之ニ罹リ易キ動物ハ可成興奮ヲ避ケシムヘシ

芫菁末 五〇 右「リートル」半ノ水ニ混シ振 餵水 三〇〇
龍骨木末 二・五 盪合劑トナシニ二分與(牛) 芒硝 五〇〇〇
豚脂 二〇〇 甘汞 三〇—五〇 亞麻仁末 二〇〇〇
右爲軟膏刺戟擦劑(牛馬) 蘆薈末 三五〇 右爲低劑二回ニ分與(牛馬)
芒硝 五〇〇〇 軟石鹼・アルテア根末及水 適量 其他腦膜炎參照
巴豆油 十五滴 右爲丸劑一個頓服(馬)
アルテア根末 一〇〇〇 吐酒石 一〇〇

腦腫瘍 Tumores cerebri. (羅)

療法 根治療法ハ難シ對症療法ニ過キス臭素加里・「ズルフオナル」ノ内服電氣ヲ用ヒ滋養強壯飼腦充血 腦腫瘍 二九三

料ヲ給シ營養ヲ良クシ健胃劑ヲ與フ

腦貧血 Anæmia cerebri. (羅)

療法 腦充血ノ反對ニシテ卒倒ノ場合ニハ衝動ヲ要ス即チ「エーテル」・酒精・「アムモニア」水ノ内服樟腦油・「カフエイン」ノ皮下注射及皮膚ノ摩擦・刺戟ヲ試ミ又生理的食鹽水ノ靜脈内注入及微温湯ノ灌腸ヲ施ス、慢性腦貧血ハ原因ヲ察シテ治療ヲ施スヘシ

- アムモニア水・酒精 各五〇・〇
- 右四・五回ニ分チ一瓶ノ「カミル」
- 右爲溶液日々二三回五—一〇・〇
- 〇皮下注射
- 炭酸アムモニウム 八〇・〇
- 小麥粉 一五〇・〇
- 右爲粉末水ヲ以テ舐劑ヲ作り二
- 日間ニ分服(牛馬)
- 茴香アムモニア水 一〇〇・〇
- 酒 一五〇・〇
- 一日數回一茶乃至一食匙大ニ與
- 樟腦末 一〇〇・〇
- エーテル 三〇・〇
- 右爲粉末水ヲ以テ舐劑ヲ作り二

腦脊髄膜炎 Meningitis cerebro-spinalis. (羅)

療法 大體ハ腦炎ノ療法ニ同シ頭部ヲ氷又ハ冷水ニテ冷湯シ其他誘導的ニ下劑(甘汞・蘆薈・鹽類下劑)ヲ用フ鎮痙藥ハ「モルヒネ」皮下注・臭素加里・抱水「クロラール」・「ズルフオナル」・「クロロフォルム」ヲ用フ「ヨード」ハ「ピロカルピン」(〇・六)ヲ用ヒ良効ヲ奏シタリ豫防法ハ流行的發作ノ際ニハ既舎ヲ消毒シ健馬ノ隔離ヲナシ殊ニ乾草ヲ變換シ良質ノモノヲ與フヘシ

腦水腫 Oedema cerebri. (羅)

腦膜及腦炎・慢性腦水腫參照

膿 疱 Pustula. (羅)

療法 惡性傳染性膿疱ハ烙鐵或ハ腐蝕藥例之濃厚鑷酸類・「アルカリ」・「クロール」・「亞鉛」・「昇汞」濃液・純石炭酸等ニテ腐蝕シ消毒繃帶ヲ纏フ膿疱ノ周圍ハ三〇%石炭酸水或ハ一・五%「プロミリ」昇汞水ニテ濕シ或ハ「ヨード」丁幾塗布又膿瘍内ニ二〇%ノ石炭酸液注入ヲ試ム内服ニハ「キナ」・鑷酸例之鹽酸五—一〇滴・磷酸一〇—二〇滴ヲ每飲水ニ混シテ與フ良性膿疱ハ切開防腐洗滌ヲ行フ(濕疹參照)

- 昇汞 各一〇
- 鹽酸 一〇〇
- 水 一八〇
- 右爲溶液腐蝕用
- 石炭酸 一〇〇
- 水 五〇〇
- 右爲溶液注射用

膿毒敗血症 Pro-septicaemia. (羅)

療法 臍ニ對シテハ臍炎ノ療法ヲ施スヘシ、關節炎ニ對シテハ「クレオリン」若ハ「リゾール」ヲ加ヘタル鉛糖軟膏・水銀軟膏・「イヒチオール」軟膏・「ヨード」軟膏等ヲ塗擦シ其他ブリースニツツ氏卷法又ハ錫鈍粉・麩・亞麻仁末等ノ瑟布ヲ用ヒ或ハ樟腦精ニ浸シタル繃帶ヲ施スコトアリ而シテ波動ヲ呈スル時ハ截開排膿シ其腔内ニハ三〇%ノ硼酸水ヲ以テ淨洗シタル後十倍稀釋ノ「ヨード」丁幾ヲ注入シ腔外ニハ「クレオリン」ヲ加ヘタル温瑟布ト樟腦精ニ潤シタル繃帶トヲ交互ニ用フヘシ前記ノ外便秘ニハ蓖麻子油ヲ與ヘ下痢ニハ阿片丁幾・「タン」ノフオルムヲ用ヒ腹部ノ卷縮ニハ樟腦精ヲ塗擦シ瘦削膿疱 膿毒敗血症

膿毒症 膿瘍

シタル時ハ葡萄酒若ハ酒精ニ鶏卵ヲ混シテ内服セシムヘシ

豫防法 妊畜ノ飼養管理法ニ注意シ産室及ヒ寢室ハ清潔ヲ主トシテ新生兒ノ臍帶ハ嚴重ニ消毒シテ速ニ乾燥セシムヘシ若シ患者又ハ其疑アルモノハ直ニ隔離スヘシ

膿毒症 Pyaemia. (羅)

療法 豫防法トシテ適當ニ制腐的創傷療法ヲ施行シ本病ヲ未發ニ防止スヘシ、療法ハ敗血症ノ條下ニ述ヘシモノト同シク現在傳染菌ノ局所的制腐療法ヲ施シ膿瘍ハ可成迅速ニ切開シテ排膿シ特ニ蹄ノ膿瘍ニハ注意スヘシ、皮膚ノ壞疽(壞疽疔)ハ一般ノ創傷療法及壞疽療法ノ原則ニ依リ處置ス其他ノ療法ハ對症的ニシテ危險ナル症狀ヲ除去スルニ在リ、處方ハ敗血症參照

膿瘍 Abscessus. (羅)

療法 可及的速ニ截開シテ制腐的洗滌ヲ行ヒ膿膜下膿瘍ニハ排導管ヲ施シ可及的開放療法ニ從ヒ栓塞セサルヲ可トス咽頭附近ノ膿瘍ヲ開クニハ初メ皮膚ノミヲ切開シ次テ指若ハ鈍端ノ器械ニテ深奥ニ突キ入ルヲ安全トス冷膿瘍ハ包裏膜ト共ニ全部ヲ剔除シ次テ縫合又排導法ヲ施スコトアリ附近ノ筋肉及腱膜ノ壞死ヲ來シタル散蔓性ノ膿膜下膿瘍ハ往々不治ニシテ敗血症ヲ惹起ス

- 樟腦油 三〇〇〇
- 苛性アムモニア水 一五〇〇
- 右混和塗布用 六〇〇
- タール 一六〇〇
- 龍骨木護膜 二〇〇
- 芫菁末 四〇〇
- 右爲軟膏塗擦(刺戟軟膏) 牛ニハ注意)
- カリ石鹼 一五〇〇
- 灰白水銀軟膏 三〇〇〇
- 右混和軟膏トシテ用フ(但

- 灰白水銀軟膏 各二五〇〇
- カリ石鹼 一五〇〇
- 菜油 右混和解凝軟膏トシテ與フ
- 灰白水銀軟膏 五〇〇〇
- 苛性アムモニア水 一〇〇〇
- 右混和用法右同
- 灰白水銀軟膏 各五〇〇
- ワゼリン 右同(馬ノ淋巴管炎)
- 灰白水銀軟膏 五〇〇〇
- カリ石鹼精 一〇〇〇
- 亞麻仁油 二五〇〇
- 右混和解凝・軟化・防腐性軟膏トシテ與フ
- 灰白水銀軟膏 各三〇〇
- ヒヨス油 一〇〇
- 樟腦 右同
- 灰白水銀軟膏 各一〇〇〇
- カリ石鹼 二〇〇
- 豚脂 木タール
- 右同(乳房炎) 一〇〇〇
- カリ石鹼 一〇〇〇
- 灰白水銀軟膏 五〇〇〇
- 樟腦油 二五〇〇
- 右混和強力解凝劑トシテ與フ 每二乃至三日塗擦
- オレーフ油 一五〇〇
- カリ石鹼 一〇〇〇
- 灰白水銀軟膏 五〇〇〇
- 右爲混和軟膏軟化・解凝・防腐性軟膏トシテ與フ
- 單鉛硬膏 一〇〇〇
- ラノリン 六〇〇〇
- ワゼリン 三〇〇〇
- 右混和軟化性保護軟膏トシテ用フ

膿胸 Empyema. Pyothorax. (羅)

療法 胸腔穿刺術ヲ行ヒ膿ヲ排除シ消毒液ニテ洗滌シルーゴル氏液ヲ注入ス

囊虫 Cysticercus. (羅)

療法 未タ詳ナラス其前房ニ存スルモノハ潤晴虫ニ於ケルカ如ク同法ヲ以テ寄生虫ヲ驅除スヘシ

膿胸 囊虫

囊腫 蚤 「クロバー」病 佝僂病

二九八

豫防法

豚ハ條虫患畜ノ便所・肥料溜又ハ汚物溜ヨリ遠ケ牛ニ於テハ畜舎ヲ清潔ニシ牧場ノ肥料トシテハ疑ハシキ人糞ヲ施スヘカラス

囊腫 Cystitis. (羅)

腫瘍參照

蚤 Pulex. (羅)

虱參照

「クロバー」病

Clver disease. (英)

療法

「クロバー」ノ給與ヲ廢スレハ自然ニ治癒ス症狀惡シケレハ局所冷湯法ヲ行フ之ニハ清水・グーラード氏液・鉛水・ブロー氏液ヲ用フ爾後ノ療法ハ濕疹ニ同シ(濕疹參照)神經障礙ニハ對症療法ヲ施ス口内炎ニハ其療法ヲ行フ(口炎參照)

佝僂病 Rachitis. (羅)

療法

攝生ヲ主眼トス即チ患畜ハ溫暖ニシテ通氣善良ナル畜舎ニ入レ好天氣ニハ舍外ニ出シテ自由ニ運動セシメ又石灰分ニ富メル飼料ヲ給與ス、哺乳中ノ動物ニ發スレハ母獸ニハ石灰ニ富メル滋養食ヲ與フルカ又ハ母獸ヲ換フヘシ、肉食獸ニハ肉ト共ニ多量ノ骨ヲ給ス草食獸ニハ善良ナル乾草・粟・穀類等ヲ與フ、牧場ニ放牧スルカ又ハ青草ヲ與フルトキハ往々良効ヲ奏スルコトアリ、胃腸加答兒ニ對シテハ適當ノ療法ヲ施シ消化作用ヲ助クヘシ動物體內ニ於ケル石灰分ノ缺乏ヲ補フ爲メ石灰鹽類

ノ内服ヲ賞用ス此目的ニハ炭酸石灰(白墨)ヲ最モ便トス駒及犢ニハ本藥一〇〇—二〇〇仔羊・犬・豚ニハ二—一〇〇ヲ食物ニ混與ス其他人工骨粉・沈降磷酸石灰等ノ白墨同量ハ大ニ効アリ磷酸加里ヲ白墨ト交代ニ用フルモ宜シトス又燐ヲ肝油ニ混シテ與フ即チ駒及犢ニハ燐〇〇〇—二〇〇五肝油三〇〇—一〇〇〇〇(日量)ヲ與フ豚ニハ燐〇〇〇—三〇〇〇五肝油二〇〇—四〇〇〇犬ニハ燐〇〇〇—一〇〇〇〇二肝油五〇〇—一五〇〇〇五—一〇〇〇一肝油二〇〇—一五〇〇ヲ用フ

- 稀鹽酸 五〇〇
- 薄荷水 二五〇〇
- 右食後一茶匙ヲ與フ(犬)
- 乳糖 五〇〇〇
- 泥莖根・アニース實 各二五〇〇
- 右爲散劑一日二回一茶匙乃至一食匙ヲ犬家ニ與フ
- 鹽酸キニーネ 各五〇〇
- クローレル鐵丁幾 二五〇〇〇
- 赤酒 各五〇〇
- 右一日一茶匙宛與(犬)
- ペプシネ 五〇〇
- 稀鹽酸 三〇〇
- 橙皮舍利別 二五〇〇
- 佝僂病
- 餉水 二五〇〇
- 右一日數回一茶匙宛犬ニ與フ
- 食鹽 一〇〇〇
- 大黃 一五〇〇
- 柱皮 五〇〇〇
- 右爲粉末一日二回一刀尖宛食餌ニ混シ犬ニ與フ
- 龍膽越幾斯 一〇〇
- 芳香丁幾 五〇〇〇
- 右二日二・三回十乃至三十滴(犬)
- 燐 二〇〇〇〇
- 墨粟油 二〇〇〇〇
- 右爲溶液一日一回一食匙宛與フ(駒・犢・家)
- 燐 〇〇二
- 肝油 二〇〇〇
- 右一日一回一茶匙—一食匙ヲ犬ニ乃至三十滴ヲ家禽ニ與フ
- 磷酸カルチウム 〇〇二
- 磷酸ナトリウム 各二五〇〇
- クローレルナトリウム 〇〇二五
- 亞砒酸 一〇〇〇
- 黑胡椒 三〇〇〇
- トルーリン 三〇〇〇
- 右混和爲散劑每日一食匙量宛食物ニ混與(犬)
- 磷酸カルチウム 一二〇〇
- 炭酸カルチウム 三〇〇

二九九

屈腱斷裂

乳酸鐵 一〇〇
 右混和一回量トシテ與フ(駒)
 磷酸カルチウム 一五〇
 番木髓末 三〇〇
 ゲンチアナ根 (二五〇〇
 右混和一回量トシテ與フ(駒)
 沈降磷酸カルチウム 四〇〇〇
 亞砒酸 一〇〇
 食鹽 五〇〇
 人工カルルス泉鹽 各二五〇
 磷酸ナトリウム 各二五〇
 フルンクリン

糠

各二五〇〇
 右混和毎日一〇〇宛分與(犬)
 人工カルルス泉鹽
 沈降磷酸カルチウム 各八〇〇
 炭酸カルチウム 右混和毎日四分ノ一—一食匙量
 宛與フ(駒・犢・牛) 〇・五
 扁桃油 三〇〇〇
 右爲溶液褐色罐ニ容レ毎日一匙
 量宛與フ(駒) 〇〇五

肝油

三〇〇
 三〇〇〇
 右爲溶液毎日一食匙量宛與フ
 (犬)
 白堊 二〇〇
 大黃根末 一五〇
 アルテア根末及水 適量
 右混和爲丸劑一個其三個ヲ作り
 三回ニ分與(馬)

屈腱斷裂

Rupture of the flexor tendons. (英)

療法 蹄骨屈腱及繫骨屈腱ノ全斷裂ハ通常不治ノ症トス蓋シ本症ノ多クハ數週間ノ久シキニ涉リテ三肢ノミヲ以テ起立スルノ結果蹄骨ノ下垂ヲ來シ蹄底ノ破裂ヲ起シテ化膿性蹄皮炎ヲ繼發シ又ハ永キ横臥ノ爲ニ尊創・壞疽ヲ發シテ致命的敗血症ヲ來シ易キヲ以テナリ乃チ唯輕症ノ場合竝非常ニ高價ナル馬ニ於テノミ試ミニ治療ヲ施シ先ツ吊起帶ヲ裝シテ之ニ義布斯繃帶ヲ纏絡スヘシ、冠骨屈腱ノ斷裂竝三屈腱ノ何レヲ問ハス不全斷裂ノ場合ニ於テハ豫後比較的良トス概ネ腫炎ノ治療法ニ準シ

テ初期ニハ冷湯又ハ濕溫卷法ヲ施シ後ニハ刺戟軟膏又ハ烙鐵ヲ施シ且充分ニ休養セシムルノ法ヲ講スヘシ往々ニシテ好結果ヲ奏シ得ヘシ

輝

裂 Rhagias. (羅)

療法

石炭酸油、脂肪・「ワゼリン」等ヲ皸裂部ニ塗布ス四肢下端ニアリテハ繃帶ス

野獸牛疫

牛ノ出血性敗血症

Septicaemia haemorrhagica bovum. (羅)

療法及豫防法 本病ノ治療ハ効ヲ奏セス初期ハ須ラク腫脹ノ亂刺・創傷ノ洗滌・腸管ノ消毒ヲ試ムヘシ、豫防法トシテハ牛豚ハ高燥ノ地ニ隔離ス、牛舎内ニ發病スレハ疑ハシキ飼料ヲ排除シ舎内ヲ消毒ス近來豫防接種ヲ試ムル者アルモ未タ成功セス、獸醫警察法ハ炭疽ト同一ノ取締ヲ要ス但皮膚ハ乾燥セシムルノミニテ無害トナルト云フ

痲

痺 Paralysis. (羅)

療法 痲痺ハ其原因及部位ニヨリ各其療法ヲ異ニス痲痺ノ原因ハ種々アリ腦溢血・脊髓變性・腦膜炎・筋肉萎縮・傳染病・中毒・腦充血・腦貧血等ヨリ來ル故ニ原因療法ニハ種々アリ、痲痺神經永ク靜止シテ働カサレハ營養障害ヲ來シテ變性ス故ニ痲痺ノ療法ニハ不絕神經ヲ刺戟シテ血液ノ供給ヲナシ新謝代謝ヲ旺盛ナラシメ活力ヲ維持セシメ刺戟性ヲ增多ナラシムルニアリ是カ爲メ外用ニハ刺戟擦劑・冷水彈瀉・電氣・按摩ヲ行ヒ内服藥ハ下劑・「ヨード」劑及神經興奮藥(「ヴェラトリン」・「ストリキニン」ノ皮下注等)ヲ用フ

輝裂 野獸牛疫 痲痺

痲痺

三〇二

膀胱痲痺 直腸ヨリ手ヲ挿入シテ膀胱ヲ按摩シ或ハ「カテーテル」ヲ挿入シテ排尿ヲナス 括約筋痲痺
ニハ「エゼリン」ノ皮下注射ヲナス
直腸痲痺 治癒困難屢々直腸ニ手ヲ挿入シテ宿糞ヲ排除シ緩下劑ヲ投シ緩和灌腸ヲナシ其他一般療
法ニ從フ

顔面神經痲痺 半側痲痺ニハ口内ヲ屢々洗滌シ食塊ノ停滯ヲ防キ解凝藥トシテ灰白水銀軟膏ヲ下顎
骨上縁ニ塗布ス又按摩ヲ施シ頰ニ「ヴェラトリン」ノ注射ヲナシ又電氣ヲ應用ス兩側痲痺ニアリテハ
液狀飼料(麩粥・粉水)ヲ與ヘ呼吸困難ヲ防ク爲メ鼻翼ニ金屬線ヲ通シテ鼻梁上ニテ結合シ鼻口ヲ擴開
シ必要ノ場合ニハ氣管截開術ヲ行フ又局所ニ亂刺・光膏軟膏塗布ヲ試用スヘシ

三叉神經痲痺 嚙下シ易キ飼料ヲ與ヘ必要アレハ食道探子ヲ用フ電氣(間流連流)ヲ應用ス
上肩胛神經ノ痲痺 初期ハ休養按摩ヲ施ス時々「ヴェラトリン」ノ皮下注射ヲ施ス同藥〇・一ヲ餉水
五・〇ニ溶解局所ノ皮下ニ注入スハンゼン氏ハ「テレピン」油ノ皮下注射ニテ良効ヲ奏セリ電氣ヲ施ス
知覺銳敏ノ馬匹ニハ困難ナリ若シ挫傷ヲ伴ヘハ冷湯ヲ行フ

大腿神經ノ痲痺 按摩ヲ主トス日々按摩打シ適度ノ運動ヲ命シ血行ヲ盛ニシ筋肉ニ營養ヲ給シ病
神經ノ再生機能ヲ促進ス犬ニハ間流電氣ヲ應用ス
坐骨神經痲痺、脛骨神經痲痺・鎖閉神經痲痺及撓骨神經痲痺ハ一般療法ニ從ヒ治療スヘシ

- 燐 〇・〇五 一匙量宛與フ(犬)
- 扁桃油 三〇〇・〇 番木鱧 一・二〇 各五〇・〇
- 右混和爲溶液褐色瓶ニ容レ毎日 甘草根 適量

フ但後ニハ二個宛與フ(馬)
ヴェラトリン 〇・五

酒精 五〇・〇

右爲溶液毎日二・〇—五・〇宛皮
下注射(馬)

サリチール酸ナトリウムカフエイ 五・〇

硝酸ストリキニーネ 〇・一

餉水 二〇・〇

右爲溶液皮下注射(牛)

硝酸ストリキニーネ 〇・二

餉水 三〇・〇

右爲溶液毎日二・〇—五・〇宛皮
下注射但順次一日三回ニ増シ後
又二回ニ復ヌヘシ(馬)

硝酸ストリキニーネ 〇・〇〇二

餉水 二・〇

右爲溶液皮下注射量一回分トス
但二日ヲ經テ反覆ス(中等大ノ
犬)

硝酸ストリキニーネ 〇・〇五

餉水 五・〇

右爲溶液皮下注射(牛馬)

ブローム水素酸スコボラミン 〇・〇三

餉水 一五・〇

右爲溶液皮下注射三分(犬)

亞砒酸カリウム液 一五〇・〇

右毎日一食匙量宛與フ(馬)

亞砒酸カリウム液 各一五・〇

桂皮水 各一五・〇

右混和毎日五滴宛與フ但次第ニ

増量シテ二十五滴ニ至ラシメ次
ニ次第ニ減量シテ最初ノ五滴ニ
復歸シ一日間休藥シ前ト同様ニ
反覆ス(犬)

鹽酸ピロカルピン 〇・七

餉水 一〇・〇

右爲溶液皮下注射一回分(馬)

誘導劑トシテ)

サリチール酸ナトリウムカフエイ 二五・〇

ン 二五・〇

キナ皮末 五〇・〇

右混和爲散劑更ニ蜂蜜ヲ加ヘテ
砥劑トナシ二日間内三回ニ分與
(馬牛ニ於テ心臟衰弱ノ場合)

痲痺性血色素血病

血色素尿病

Haemoglobinuria paralytica.

Haemoglobinuria. (羅)

痲痺性血色素血病

三〇三

療法 豫防法トシテ日々適當ノ運動ヲ爲サシメ又使役セサルトキハ食量ヲ減スヘシ、既ニ發病スレハ患馬ヲ吊起シ膀胱麻痺ノ兆アレハ直腸ヨリ膀胱ヲ壓迫シ又ハ「カテーテル」ヲ挿入ス、排糞ヲ促ス爲メ冷水灌腸ヲ爲シ効無ケレハ「エゼリン」(〇〇・〇八—〇〇・一)、「ピロカルピン」(〇〇・二—〇〇・三)或ハ「アレコリン」(〇〇・〇六—〇〇・〇八)ノ皮下注射又ハ鹽類下劑ノ内服ヲ爲サシム、臀部ハ一日二・三回摩擦シ濕布ヲ以テ温包ス、心臟衰弱スレハ酒精・珈琲・樟腦(二〇—三〇)皮下注射)、「カフェイン」(二—五)〇皮下注射)ヲ用フ、導劑ヲ發スレハ外科的治療ヲ施ス、食餌ハ大ニ減シ麩汁・青草ヲ與ヘ飲水ハ多量ニ給スヘシ

- 鹽酸ピロカルピン 〇〇・三
- 餾水 一〇〇・〇
- 右皮下注射一回量(馬)
- 稀硫酸 一〇〇・〇
- 酒精 一〇〇・〇
- 右一瓶ノ水ニ振盪シテ與フ(馬)
- 硫酸鐵 五〇〇・〇
- 重曹 一五〇〇・〇
- 亞麻仁 一〇〇〇・〇
- 右每三時一食匙宛與フ(馬)
- 重曹 二〇〇〇・〇
- 明礬 七五〇・〇
- 糠皮末 五〇〇・〇
- 右爲粉末一食匙宛飲水ニ混與
- (馬)
- 硫酸鐵 二〇〇・〇
- アルセン 五〇〇・〇
- 水楊皮 七五〇・〇
- 右混和爲散劑飲水ニ混シテ二回ニ分與(馬)
- 鹽酸キニーネ 八〇〇・〇
- 麥角越幾斯 五〇〇・〇
- アルテア根末 三五〇・〇
- 水 適量
- 右混和爲散劑一回ニ與フ
- (馬・牛)
- 結晶重碳酸ナトリウム 二五〇〇・〇
- 亞麻仁 五〇〇・〇
- 右混和爲散劑一日内ニ與フ(馬)
- 重碳酸ナトリウム 五〇〇〇・〇
- 亞麻仁 五〇〇・〇
- 右混和爲散劑一日内ニ與フ(馬)
- プローム水素酸アレコリン 〇〇・八
- 餾水 五〇〇・〇
- 右爲溶液皮下注射料一回分トス
- ストロファンチン 〇〇・一—〇〇・一五
- 右混和靜脈内注射料トス(馬)
- ヨードナトリウムアイゴン 一〇〇・一—一五〇・〇
- アルテア根末及水 適量
- 右混和爲丸劑一回ニ與フ(馬)
- プロームカリウム 七〇〇・〇—七五〇・〇
- 餾水 四〇〇・〇—五〇〇・〇
- 右爲溶液一回ニ與フ(馬)

- (馬)
- 硫酸フイゾスチゲミン 一〇〇・一
- 餾水 一〇〇・〇
- 右爲溶液皮下注射料一回分トス
- (馬—腸内容物排除ノ目的)
- 樟腦油 四〇〇・〇
- 精製エーテル 一〇〇・〇
- 右混和爲溶液一〇〇・〇宛數回皮下注射(馬—衰弱及麻痺狀態ノ場合)
- プローム水素スコボラミン 〇〇・三
- 餾水 一五〇・〇
- 右爲溶液皮下注射料三回分トス
- (馬—後軀ノ持續的運動障礙アル場合)
- ヴエラトリン 〇〇・五—〇〇・一
- 酒精 一〇〇・〇
- 右爲溶液皮下注射一回分(馬)
- ルムバギン 一個
- 右靜脈内注射料トス(馬)
- 鹽化アドレナリン溶液(一萬倍) 二〇〇・〇
- 右注射料一回分トス(馬)
- ヨヂピン 三〇〇・〇—四〇〇・〇
- 右皮下注射一回分トス
- 生理的食鹽水(〇・九%) 四「リートル」
- 右二乃至三回靜脈内注射(馬ノ重症)
- 生理的食鹽水(〇・九%) 一「リートル」
- ストロファンチン 〇〇・一—〇〇・一五
- 右混和靜脈内注射料トス(馬)
- ヨードナトリウムアイゴン 一〇〇・一—一五〇・〇
- アルテア根末及水 適量
- 右混和爲丸劑一回ニ與フ(馬)
- プロームカリウム 七〇〇・〇—七五〇・〇
- 餾水 四〇〇・〇—五〇〇・〇
- 右爲溶液一回ニ與フ(馬)

慢性肉壁炎 Chronic inflammation of the sensitive sole. (英)

療法 患部ノ角質ヲ鑿削シ肉壁ヲ傷ケサル様ニ之ヲ露ハシ洗滌消毒シテ過「クロール」鐵液ヲ塗布シ且同藥ヲ浸シタル麻織子或ハ「ユーテ」ヲ患部ニ抵シ壓迫繃帶ヲ行フ肉壁ノ贅生ニハ硝酸銀ヲ用フ

慢性肉壁炎

慢性動脈内皮炎 慢性鱗屑濕疹

三〇六

シユレグ氏ハ「テルモコーテール」ヲ用ヒテ前同様ノ繃帶ヲ施シ數日後改装ス其際角壁崩解ノ有無ヲ檢シ若シ崩解アレハ之ヲ除去ス本症ハ蹄癌ノ如ク蔓延ノ傾尠シ

慢性動脈内皮炎

動脈硬化症 動脈「アテロマ」變性

Endarteritis chronica. Arteriosclerosis. Atheromatosis.

療法 如何ナル方法ヲ以テスルモ動脈内皮ノ炎症ヲ阻止スルコト能ハス、人醫ニ在リテハ動脈硬化症ニ沃剝ノ内服ヲ賞用ス或ハ「ヨーデイベン」ノ皮下注射効ヲ唱フル者アルモ疑ハシ

慢性鱗屑濕疹

Dry tetter. (英)

療法 馬ノ慢性鱗屑濕疹ニハ皮膚手入ニ注意シ油類・軟石鹼又ハ「グリセリン」ヲ以テ痂皮・鱗片ヲ軟化セシメ「タール」・「クレオリン」ノ軟膏若ハ擦劑又ハ「サリチール」酸酒精溶液(一〇%)ヲ施ス蓋シ「タール」及「クレオリン」ハ慢性炎ヲシテ急性ニ轉セシメ以テ癒合ヲ促ス「クリサロビン」軟膏及「イヒチオール」軟膏(一・〇・一〇)亦同様ノ効アリ生理的食鹽水又ハリングル氏液ノ皮下若ハ靜脈内注射ヲ試ムヘシ之ニ屬スルモノハ糠批疹(Pityriasis)及乾癬(Psoriasis)アリ
犬ノ慢性鱗屑濕疹ニハ「タール」又ハ「クレオリン」ト酒精(一・〇・一〇)・グリセリン(水等分)若ハ軟石鹼ヲ施ス又「クリサロビン」一五分・バラヒン二〇分軟膏・「イヒチオール」軟膏等ヲ用フ病犬ハ減食シ便秘アレハ灌腸シ緩下劑(蓖麻子油)ヲ投シ頑症ニハ「ホーレル」水五—一〇滴ヲ數週間連用シ或ハ「ヨードカリウム」ノ内服ヲ試ム(處方ハ濕疹參照)

慢性腦水腫

神乏症 眼狂

Hydrocephalus internus chronica. Amentia. (羅)

療法 本症一度發スレハ治療ハ効ヲ奏セスト雖攝生ニ注意スレハ能ク病勢ノ増進ヲ防キ以テ比較的長ク使役シ得ルノ利アリ即チ患畜ハ輕役ニ服セシムルヲ肝要トシ濃厚飼料ヲ尠クシ淡白ニシテ消化シ易キ飼料ヲ選ム、夏ハ青草ヲ最良トス又患畜ハ溫蒸ナラサル清涼ノ厩舎ニ繋留スヘシ便秘アレハ鹽類下劑又ハ蘆薈ヲ與フ重キ意識障礙アルトキハ瀉液吸收ノ爲メ「ピロカルピン」(〇・三—〇・五)・「アレコリン」(〇・〇五—〇・〇八)ノ皮下注射ヲ行フ或實驗家ハ「ヴェラトリン」丁幾(六・〇—八・〇)ノ靜脈内注射ヲ賞用ス急性發症ニ對シテハ急性腦膜炎ノ療法ヲ用フ

鹽酸ピロカルピン	〇・〇五	ヴェラトリン	〇・〇五—〇・一
餉水	一〇・〇	酒精	五・〇
右爲溶液皮下注射一回分		右同(但發病ノ初期ニ試ムルヲ可トス)	右同
ブローム水素酸アレコリン			

雞跛

Stringhalt. (英)

療法 療法トシテ長腓筋ノ切離術ヲ施スヲ有効トス其術式ハ患脚ヲ舉上保持スルコト裝蹄ニ於ケルカ如クシ飛節ノ直下管骨ノ外側ニ於テ皮下ニ淺在スル長腓筋ノ腱ヲ按シ其部ノ被毛ヲ剪除シ洗滌消毒シ皮膚及腱膜ヲ貫キ以テ腱ト相並行スル創口ヲ作り夫ヨリ小切離刀ヲ腱ノ下即チ腱ト骨トノ間ニ進メ又ヲ轉シテ皮膚ニ向ケ以テ腱ヲ切離ス分離ノ全不全ハ觸診シ易シ出血ハ毎常微ナリ術後消毒液ニテ洗滌シテ壓迫繃帶ヲ施ス四五日ニシテ皮創癒合シ繃帶ヲ除去スヘシ消毒ヲ怠リ化膿スレ

慢性腦水腫 雞跛

三〇七

雞痘 鷄虎列刺 頸革傷

三〇八

ハ肥厚ヲ遺スト雖敢テ害ナシ跛行ハ術後直ニ或ハ數日ノ後ニ消散ス或ハ毫モ減退セサルコトアリ
術後八乃至十四日間ハ厩ニ繫キ柔軟地上ヲ徐歩セシメ全ク勞役ヲ免ス、デイカーホッフ氏ハ腱ト共
ニ腱膜ヲ切ルヲ賞用ス即チ初メ腱ヲ切り次ニ切離刀ヲ股腱膜ノ下ニ進メ内ヨリ外ニ向テ之ヲ切斷
ス其切斷部ハ該腱膜ノ長趾伸筋ニ附着スル所ニ於テスハートウツヒ氏ハ患脚ノ腸骨外角ヲ距ル下方
約一掌ノ所ニ於テ股鞘張筋ヲ切離セリ手術ハ稍々困難ニシテ防腐ニ便ナラス往々化膿シテ膿汁沈
下ヲ來スコトアリパスシ氏ハ中横膝靱帶ノ切離ヲ賞用ス然レトモ其境界判然セサルヲ以テ施術困難
ナリ
鷄跛ハ時トシテ知覺神經纖維ノ炎症刺戟ニ原因スルコトアルヲ以テ脛骨神經ノ切斷術ヲ用フル者ア
ルモ多クハ無効ニ屬ス其他「モルヒネ」・「ヴェラトリン」ノ皮下注射第三腓骨筋ノ内腱枝ノ切斷ヲ施ス
コトアルモ多クハ効ナシ

鷄痘 Epithelioma contagiosa avium. (羅)

家禽實扶的里參照

鷄虎列刺 Pasteurellosis avium. (羅)

家禽虎列刺參照

頸革傷 Injuries by the breast-collar. (英)

鞍傷及輓索傷參照

頸環傷 Contusion by the neck-collar. (英)

鞍傷及輓索傷參照

頸靜脈炎 Phlebitis venae jugularis. (羅)

療法 豫防法トシテ刺絡器械ノ消毒ヲ嚴密ニシ創ニハ防腐療法ヲ施シ術後靜養シテ頸靜脈上ニ壓
迫及摩擦ヲ避ケ局所ニ血液滲漏ヲ生セサル様注意ス、療法ハ初期冷卷法ヲ行ヒ冷水・氷或ハ食鹽・醋及
水ノ冷濕合劑ヲ應用ス皮創尙癒閉セサレハ昇汞水或ハ石炭酸水ニテ洗滌消毒シテ滲漏血液ヲ排除ス
腫脹疼痛甚タシケレハ濕溫卷法ヲ行ヒ刺絡創口ヲ毬頭外科刀ヲ以テ切開シ或ハ熔製硝酸銀ニテ腐蝕
ス膿瘍ハ切開シ排膿ヲ流利シ日々二回宛洗滌消毒シテ敗膿ヲ排除ス此際一手ヲ以テ創ノ下部ヲ壓迫
シテ敗膿ノ靜脈内ニ流入スルヲ防クヘシ快方ニ向ヘハ芫菁軟膏ヲ塗布ス慢性炎ニモ同軟膏ヲ用フ或
ハ水銀軟膏ヲ塗布ス軟膏塗布ノ際ハ壓迫及摩擦過度ナレハ血塞破壞シテ栓塞ヲ生スルノ虞アリ

繫 輝 Schruunden Mauke. (獨)

水疝參照

傾蹄及彎蹄 Schiefe Huf und Krumme Huf. (獨)

療法 此變形蹄ノ豫防法トシテ幼駒ノ四五歳ニ達スル間ハ務メテ護蹄法ヲ懇篤ニシ嚴正ノ削蹄法
ヲ行フヘキハ最重要ノ事ニシテ其効獨リ蹄形ノ變化ヲ防クニ止マラス能ク肢勢ノ失格ヲモ匡正シ
得ルノ利益アリトス、幼駒ノ發育期中ニ生シタル傾蹄ニアリテハ肢勢及負重ノ如何ニ鑑ミテ嚴正ノ

頸環傷 頸靜脈炎 繫輝 傾蹄及彎蹄

血斑病

三一〇

削蹄ヲ行ヒ體重ノ負擔ヲ平均スレハ容易ニ醫治スルヲ得ヘシ既ニシテ蹄鐵ヲ裝スルニ至レハ凹彎セ
ル蹄壁ニ對スル鐵枝ノ上面ハ水平ナラシメ凸彎セル部分ニ對スルモノニハ多ク斜面ヲ造ルヘク若シ
要アラハ此鐵枝ニ適宜ノ鐵唇ヲ設クヘシ又矯正ノ削蹄ニ於テ蹄壁ノ長キニ過キタルモノハ十分ニ削
截スヘク短ニ過クルモノハ補償物ヲ以テ之ヲ補フヘシ若シ場合ノ之ヲ許スアラハ過長ナリシ蹄壁ノ
負縁ニ體重ノ負擔ヲ免ルカ爲ニ之ト鐵面トノ間ニ空隙ヲ設クルヲ佳トス此目的ニ供用スヘキ蹄鐵ハ
連尾鐵ニシテ此鐵ハ體重ノ負擔ヲ蹄又ニ分配シ蹄機ヲ促進スルヲ以テ能ク蹄形ヲ回復スルノ効アリ
又デフエイ氏ノ窄蹄蹄鐵モ之ヲ應用スルニ足ル治療中ハ屢次改装ヲ行フヲ以テ利アリトス壯齡ノ馬
ニアリテモ亦治法之ニ異ル所ナク同一ノ主旨ヲ以テ矯正ノ裝蹄ヲ行ヒ以テ體重負擔ノ平等ヲ計ルヘ
ク若シ繼發症ノ存スルアラハ之ニ對スヘキ適當ノ療法ヲ講スヘシ傾蹄患馬ヲ堅道上ニ使役スルノ必
要アルトキハ藥・護膜若ハ栓樹皮等ノ填底法ヲ用フヘシ

血斑病

Morbus maculosus. (羅)

療法 純良新鮮ナル空氣ハ最モ必要ナルヲ以テ患馬ハ夏季室外ニ出シ天候不良ノ際ニハ潤大ノ厩
舍内ニ自由ニ運動セシメ小勒・絆綱・腹帶等一切撤去シ滋養食ヲ給ス、飲水ニ鹽酸八—一〇〇ヲ混シ
テ與ヘ熱アレハ葡萄酒又ハ酒精半乃至一「リットル」ヲ一槽ノ水ニ混淆シテ給ス嚙下困難ナレハ青草・
麩粥又ハ麵粉粥ヲ與フ若シ甚タシキ嚙下困難ニ陥レハ直腸ヨリ滋養灌腸ヲ爲ス、創傷・潰瘍及膿瘍ハ
防腐的の外科療法ヲ施ス鼻粘膜ノ著シキ腫脹アレハ一日二三回刺戟性ナキ消毒液(三—四%硼酸水・二
—三%クレオリン)或ハ「リゾール」液・〇・五—一%明礬液)ヲ鼻腔内ニ灌注スヘシ、皮膚ノ腫脹ニハ

一日二三回「テレピン」酒精ヲ塗擦ス斯クシテ皮膚ノ壞疽ヲ豫防スルコトヲ得ヘシ同一ノ目的ヲ以テ
種々ノ藥液例之ブロー氏液ト樟腦ノ合劑(樟腦五〇〇鉛糖二〇〇〇明礬一〇〇〇)ノ合劑一食匙
ヲ一「リットル」ノ水ニ溶解ス)・樟腦精等ヲ用フ此療法ヲ施スモ皮膚腫脹部ニ壞疽性膿瘍ヲ發生スレ
ハ其壞死組織ヲ截除シ前記藥液ヲ以テ充分ニ洗滌シ乾燥末ヲ撒布スヘシ撒布劑ハ昇汞ヲ含有スル木
炭末(一%昇汞ヲ木炭末ニ混シテ後乾燥シタルモノ)・「デルマトール」・「ヨードホルム」・「チオホル
ム」・「タンノホルム」等ヲ宜シトス五—七%「クレオリン」擦劑ヲ布片ニ塗布シ創面ニ貼スレハ良效ア
リ、斯ル療法ハ創傷全癒スル迄持續シ若シ肉芽贅生スレハ硝酸銀又ハ發煙硝酸ヲ以テ腐蝕ス

ヨード	〇・五	右爲散劑一日間ニ内服(馬)	二〇〇〇
ヨードカリウム	二・五	右混和爲散劑晝夕飼ニ一食匙宛	二〇〇〇
餽水	一〇〇〇	ナフタリン	一〇〇〇
右爲溶液氣管内注射(馬)	一〇〇〇	泥菖根末	各八〇〇
硫酸エゼリン	〇〇・八	アルテア根末	右混和爲散劑毎日三四回一匁宛
餽水	一〇〇〇	與フ	
右爲溶液皮下注射	〇・五	レゾルチン	二〇〇〇
コロイド銀	五〇〇	杜松子	一〇〇〇
餽水	五〇〇	甘草末	六〇〇
右爲溶液氣管内注射(馬)	二〇〇	右爲丸劑四個一日一丸宛與フ	五〇〇
硼酸	二〇〇	硫酸鐵	五〇〇
規那皮末	五〇〇	キナ皮末	八〇〇
		食鹽	二〇〇〇
		右混和爲散劑晝夕飼ニ一食匙宛	二〇〇〇
		與フ	
		タンニン酸	二五〇〇
		土木香根末	八〇〇〇
		炭酸アムモニア	五〇〇〇
		右爲丸劑四個一日一乃至二丸ヲ	
		與フ	
		クレオリン	二五〇〇
		アルニカ丁機	一〇〇〇
		アルテア根末	適量
		右爲丸劑四個一日一乃至二丸ヲ	

血斑病

三一

血尿

與フ
 フォルムアルデヒド液 一二〇〇
 餾水 六〇〇〇〇
 右爲溶液靜脈内注射一回分
 イヒタルガン 三〇〇
 ゴム漿 一〇〇〇〇
 右混和爲乳劑四〇〇宛氣管内
 注入
 アルバルギン 四〇〇
 餾水 一〇〇〇〇
 右爲溶液皮下注射料トス但一回
 五〇〇〇运用フ
 ヨードナトリウム 五〇〇
 餾水 七五〇〇
 右爲溶液一日二回ニ氣管内注入

血尿

Haematuria. (羅)

ヨヂビン 二五〇〇
 餾水 一〇〇〇〇
 右爲溶液二五〇—五〇〇宛皮
 下注射
 ヨードワソীগエン 一〇〇〇〇
 餾水 一〇〇〇〇
 右爲溶液其二〇〇ヲ燕麥汁ニ
 和シテ與フ
 樟腦 一五〇〇
 食鹽 一五〇〇
 小麥粉及餾水 適量
 右混和爲大丸劑毎日其三分ノ一
 量宛與フ(馬)
 鹽酸 八〇〇〇
 右一食匙宛飲料ニ和シテ與フ

(牛)
 鹽酸スプラレニン溶液(千倍) 二〇滴
 餾水 一〇〇〇〇
 右内用

流動ヒドラスチス越幾斯 二〇〇
 アルテア根末及水 適量
 右混和爲丸劑四個毎日二個宛與
 フ(馬)
 流動ヒドラスチス越幾期 一〇〇〇
 右一罐ノ赤酒ニ混シテ與フ(馬)

療法 原病ヲ治療ス出血多量ナレハ止血劑ヲ用フ即チ麥角及其製劑「アドレナリン」(體重一〇〇
 疋ニ對シテ一%溶液一—五〇ヲ生理的食鹽水ニ混シ靜脈内注射)又ハ收斂劑或ハ止血藥例之「タンニ
 ン」一〇・五%・明礬一%「アドレナリン」一〇〇〇一%液ヲ膀胱ニ灌注スヘシ

明礬・ヒヨス油 各八〇〇
 亞麻仁末 二〇〇〇
 右水適量ニテ爲紙劑二三日ノ内
 四回ニ分與
 トルメンチルラ根 一〇〇〇〇
 硫酸鐵 五〇〇〇
 樟腦 二五〇〇
 右混和爲粉末水及麵粉ニテ紙劑
 トナシ二日間ニ分與(牛)
 炭酸曹進 五〇〇〇
 キナ皮末 七五〇〇
 アルテア根末 一〇〇〇〇
 右爲紙劑三・四回ニ分與(牛)
 人工カルルス泉鹽 一〇〇〇〇
 タンニン酸 五〇〇〇
 亞麻仁末 二五〇〇
 右混和爲散劑每食一匙宛混與
 (牛)
 醋酸鉛 一〇〇〇
 ウワウルシ葉 七五〇〇

血尿

アルテア根末 五〇〇〇
 右混和二「リートル」ノ水ヲ加ヘ
 テ煮沸シ二日間三回ニ分與ス
 (牛)
 醋酸鉛 各八〇〇〇
 硫酸鐵 一〇〇〇〇
 アルテア根末 一〇〇〇〇
 硫酸ナトリウム(芒硝) 二〇〇〇〇
 右混和爲散劑毎日三乃至四回ニ
 食匙量宛一「リートル」ノ微溫湯
 ニ和シ與フ(牛)
 枯礬 五〇〇〇
 重炭酸ナトリウム 各二五〇〇
 アルテア根末 各二五〇〇
 右混和每三時二食匙量宛一罐ノ
 水ニ和シ與フ(牛)
 クロールカルチウム 四〇〇〇
 單舍利別 三〇〇〇
 餾水 九〇〇〇

右混和每二時一食匙量宛與フ
 (犬)
 クロールカルチウム 五〇〇〇
 餾水 一〇〇〇〇
 右爲溶液子宮洗滌料トス(牝牛)
 スナプチン錠 (一個含量〇〇
 五) 二十個
 右毎日五乃至六個宛與フ(犬)
 檳皮末
 トルメンチルラ根末 各四〇〇〇
 右混和爲散劑一包其三包ヲ作り
 毎日一包宛亞麻仁漿ニ和シ與フ
 (牛)
 キナ皮煎 一〇〇〇〇
 タンニン酸 二五〇〇
 粗製鹽酸 四〇〇
 右混和二回ニ分與(牛)
 タンニン酸 五〇〇
 餾水 一〇〇〇〇
 右爲溶液子宮洗滌料(牝牛)

血汗症

過クロール鐵液 三十滴
氷水 三〇〇〇

右同 三五〇〇

鹽酸キニーネ 右散劑二包ニ分チ毎日一包宛一
鱈量ノ酒ニ和シテ與フ(牛)

硫酸キニーネ 三〇〇〇

硫酸鐵 一〇〇〇

トルメンチルラ根 二〇〇〇

右混和一鱈ノ亞麻仁漿ニ和シ與
フ(牛)

硫酸鐵 五〇〇

醋 二五〇〇

右牛乳一「リートル」ニ和シ一日
三回ニ分與(牛)

樟腦精 一〇〇〇

右皮下注射料(一同量)

麥角越幾斯 二〇〇

血汗症

Haematidrosis. (羅)

三一四

水

右混和爲丸劑四個毎日一個宛與
フ(馬) 〇・一

鹽酸ヒドラスチニン 一〇〇〇

餽水 右爲溶液一〇乃至二〇宛皮下
注射(犬) 三〇〇〇

蘆薈越幾斯 右穀(又ハ糠)及一「リートル」ノ
水ヲ加ヘテ煮沸シ一回ニ與フ
(牛)

鹽化アドレナリン溶液(一萬倍)

右膀胱洗滌料トス

鹽酸スプラレニン溶液(千倍)五滴

滅菌食鹽水(〇・八%) 二〇〇

右混和靜脈内ニ注入料一回分ト
ス(犬)

療法

貴種馬ノ皮膚小出血ハ殆ント治療ヲ要セス冷水ヲ以テ洗滌スレハ足ル全身素質ニハ麥角・流
動蘇合膏越幾斯・「タンニン」・鉛糖ノ如キ止血藥ヲ内服セシム

血管腫

Angioma. (羅)

療法

結紮法ニ依リ危險ノ出血ヲ防ク刀切ハ用フヘカラス烙鐵或ハ「テルモコーテル」ヲ以テ線狀
又ハ貫通點狀烙ヲ施ス場合ニヨリ過「クロール」鐵液ノ注射ヲナス此際注意スヘキハ血液凝塊ヲ血
行ニ混入セシメサルニアリ之カ爲メ腫瘍ノ輸血管ヲ糸ヲ以テ結紮シ置クヲ要ス淋巴管腫ハ動物ニ
稀ナリ

血樣乳

Bloody milk. (英)

乳汁異常參照

血友病

Haemophilia. (羅)

療法

豫防法ハ注意シテ負傷ヲ避クルニアリ出血ハ壓迫・栓塞・結紮等ノ止血法ヲ行ヒ安靜ニ保タ
シム止血劑トシテハ過「クロール」鐵・發煙硝酸・烙鐵等ヲ出血面ニ應用ス麥角ノ内服可ナリ近年人ニ
於ケル實驗ニ依レハ他種動物ノ血清注射ハ大ニ効アリト云フ

磷酸

一〇〇〇〇

右飲水ニ混シ三日間ニ與フ(馬)

血色素尿病

Haemoglobinuria. (羅)

血管腫 血樣乳 血友病 血色素尿病

三一五

血腫 血栓症 結核症

麻痺性血色素血病参照

血腫 Haematom. (羅)

溢血参照

血栓症 血塞症 Thrombosis. (羅)

療法 血栓ハ股動脈・腋窩動脈及腹動脈ニ頻發ス療法ハ充分ノ効果ヲ得難シ「ヨードカリウム」・「アルカリ」鹽類・重曹・芒硝ノ内用ハ殆ント無効、直腸ヨリ血塞ヲ按摩スレハ軟化及吸收ヲ促スコトアリ又日々定期ノ運動ヲナサシメ以テ心力ヲ強盛ナラシムヘシ或場合ハ反之數日間全ク靜止セシメテ良果ヲ見ルコトアリ

結核症 Tuberculosis. (羅)

療法 醫藥療法ハ無益ナリ人ニ於テハ種々ノ醫藥ヲ使用スルモ眞ノ特效藥ト稱スヘキモノナキカ如シ豫防ノ法ハ正當ノ飼養管理ヲナシ成ルヘク舍外ニ放牧シ新鮮ノ空氣ヲ呼吸セシメ以テ身體ヲ強健ナラシメ健牛ハ病牛ヨリ隔離シ病牛ハ屠殺シ必ス蕃殖セシメス生乳ノ使用ヲ禁シ牛舎ヲ消毒スルニアリ犢ニハ決シテ病牛ノ乳ヲ飲マシムヘカラス犢・豚ニ脱脂乳ヲ與ヘント欲セハ先ツ八十五度以上ニ熱セサルヘカラス

豫防法 可成舍外ニ出シ新鮮ナル空氣ヲ吸入セシムヘシ牧場ニ放牧スレハ更ニ妙ナリ山地牛及高原牛ニ結核牛ノ稀有ナルハ此理ニ由ル既ニ感染セル牛舎ニ於テハ天候ノ許ス限リ日中斷ヘス(夜間亦)

舍外ニ出シ舍内ハ充分換氣ニ注意シ毎月若ハ隔月大掃除及消毒法ヲ行フヘシ牛舎ノ構造ハ牛ノ頭ト頭ヲ以テ對向セシムルハ宜シカラス、結核病牛ハ成ルヘク早く發見シテ賣却シ若ハ屠場ニ送ルヘシ凡ソ慢性肺病・慢性腸「カタル」・慢性子宮「カタル」ノ徵ヲ呈シ又ハ漸次羸瘦スルモノハ結核病ノ疑アルモノト看做ス乳房ニ硬結アルモノハ特ニ注意ヲ拂ヒ獸醫ノ診斷ヲ請フヘシ是レ乳汁ハ結核菌ヲ含ムヲ以テ人畜ニ傳染ノ虞アレハナリ

結核病制遏法トシテハバング氏法ヲ推獎ス乃チ舍内ノ牛全部ニ對シ精密ナル臨牀診斷法竝「ツベルクリン」應用法ヲ施シ肺・腸・子宮又ハ乳房結核ノ如キ所謂開放結核ノ徵アルモノハ屠場ニ送ラシメ「ツベルクリン」ニ對シ反應熱ヲ發スルモ臨牀症狀ナキモノハ別舍ニ隔離セシムヘシ別舍ノ備ナキトキハ鐵板ニテ隔壁ヲ作ラシム健康ナル牛群ハ豫メ消毒セル牛舎ニ入レシム疑牛ト臆牛ハ取扱人及器具ヲ別ニシ其ノ居處ノ入口ハ別ニ戸ヲ設ケシム反應牛ハ半年毎ニ淘汰ス犢ハ産後二十四時間ヲ經レハ母ヨリ離シ別舍ニ繫キ健牛ノ乳若ハ煮沸乳(少クモ八十五度ノ熱ヲ加ヘタル乳)ヲ以テ人工哺乳ヲ行フ犢ノ下痢スルモノハ直ニ隔離シ其居處ハ熱瀟汁ヲ以テ消毒ス既ニ離乳セル犢ハ「ツベルクリン」注射ヲ施シ健犢ノミト同居セシメ病牛ニ觸レシメス可成舍外ニ出スヘシ運動場ハ固ヨリ病牛ノモノト隔離セシムルヲ要ス

豫防接種 千九百二年ベーリング氏(Behring)ハ人ノ結核菌ヲ乾燥セシメ之ヲ犢ノ頸靜脈内ニ注射スレハ人工傳染ニ對シ抵抗力ヲ増加スルヲ認メタリ仍テ犢ヲ免疫性トナシ自然感染ヲ免レシメントス其法初生ノ犢ニ分娩ヨリ二日間母ノ初乳ヲ與ヘ爾後殺菌乳ヲ以テ育成ス産後三週乃至六週ヲ經タル犢ノ頸靜脈ニ結核菌〇〇〇四ヲ注射ス反應熱ヲ發スレハ一回ノ注射ヲ以テ足レリトス反應ナキ

結核症

トキハ結核菌二十五倍量(〇・〇一・四)ヲ以テ第二回ノ注射ヲ行フ諸家ノ實驗成績ニ徴スレハ確實ナル免疫性ヲ生シ難キモノノ如シ

乳肉衛生

公衆衛生上乳肉飲食ノ問題ハ極メテ重大ノ關係アリ (甲)結核病牛ノ乳 煮沸セサル牛乳ハ衛生ニ害アリ バンク氏(Banks)ノ試驗ニ據レハ攝氏八五度ノ熱ヲ加フレハ始メテ無害トナル故ニ結核牛並其ノ疑アルモノノ乳汁ハ必ス豫メ加熱セサレハ飲用ニ供スヘカラス牛ノ外觀健全ナルカ如キモ其乳汁ハ往々結核菌ヲ含有スルコトアルヲ以テ一般ニ乳汁ハ必ス加熱セシメサルヘカラス往時結核患者ニ新搾ノ生乳ヲ賞用シタルハ大ニ誤テリ市乳ノ稀釋(結核病牛ノ乳ニ他ノ健牛ノ乳ヲ混スルモノ)ハ傳染力ニ著シキ影響ヲ及ホサス結核乳ノ產物即チ「チース」・「バター」及脫脂乳亦傳染ノ媒介トナルコトアリ (乙)結核牛ノ肉 傳染力ハ乳ヨリモ少ナキヲ以テ適當ノ注意ヲ加ヘ食用ヲ許シテ可ナリ種々ノ程度ニ於テ眞珠病ニ罹レル牛十二頭ノ筋肉ヲ壓搾シ其肉汁ヲ十六頭ノ「モルモツト」ノ腹腔内ニ注射シタルニ一モ傳染セサリシト云フ然レトモ病牛ノ肉ハ必ス煮熟セサレハ食用ニ供スヘカラスフオルステル氏(Foster)ニ據レハ肉ノ醃藏・鹹水浸・薰煙ハ傳染ヲ豫防スルニ足ラス屠肉検査上現今ノ規定ハ左ノ場合ニ於テ食用ヲ許サス (一)全身結核・急性粟粒結核又ハ直接連絡ナキカ或ハ肺ノ淋巴管・血管若ハ門脉血行ニ由テ連絡セス唯大循環ノ連絡アル所ノ胸腹腔内ノ二臟器若ハ夥多ノ臟器ノ慢性結核浸潤(千八百八十七年九月十五日普魯西省令) (二)眞珠結節密發スルトキ (三)局所病竈ニ於テモ大ニ羸瘦スルトキ又ハ熱性全身病ノ徵アルトキ (四)肉ノ性状嘔意ヲ催サシムルモノ凡テ局所結核ハ患部ヲ廢棄シ其他ハ食用ヲ許ス此點ニ關スルオステルターグ氏(Osterlag)ノ意見ハ左ノ如シ (一)總テ結核ヲ生セル臟器ハ衛生上有害ナルヲ以テ食用ヲ禁セサルヘカラス淋巴腺ノ

發病セル臟器モ亦結核ト看做スヘシ乃チ各屠獸ニ於テハ體腔ノ入口消化器及呼吸器ノ諸淋巴腺ハ悉ク検査ヲ要ス (二)一臟器ニ一ノ病竈アルモノト雖當該臟器ノ全部ハ衛生上有害物トシテ處分スヘシ結核ヲ生セル臟器ハ寄生蟲ノ如ク其患部ノミヲ除去シテ無害トナスヲ得ス (三)輕微ノ局所結核變狀アル動物ノ肉ハ其結核病竈ヲ除去シ自由販賣ヲ許シテ可ナリ (四)結核蔓延セルモノ尙局所結核タルノ疑ナキ所ノ獸肉ハ其旨ヲ檢印シ下肉店ニ販賣セシム結核已ニ癒合シ内臟(肺肝脾又ハ腎)ニ限局セルモノ亦同様ニ處分スヘシ (五)大ニ瘦削シタルモノ並肉ニ結核變狀アルモノ又ハ僅々ノ時日内ニ血液傳染ノ徵(脾腫及諸淋巴腺ノ腫大・肺・肝・脾又ハ腎ノ粟粒結核)アル動物ノ全體ハ人ノ食用ヲ禁シ工業用ニ供セシムヘシ (六)結核ハ局所性ナルヤ將タ其肉ハ無害ナルヤ否ヤ疑アルトキハ(結核性空洞)存スルモノ・榮養變調ノ初期)該動物ノ肉ヲ細切シ十分煮沸シ又ハ蒸氣熱ヲ以テ殺菌シ而シテ後販賣スルコトヲ許スヘシ

結膜炎

Conjunctivitis. (羅)

單純結膜炎

加答兒性結膜炎

Conj. simplex & catarrhalis.

療法 異物其他ノ刺戟物ヲ除去ス大動物ニアリテハ異物ヲ除去スルニ束髮針或ハ屈曲セル黃銅線ヲ用フ又屈曲セル帽針ヲ賞用ス異物存在ノ疑アルモノ之ヲ認ムル能ハサレハ往々結膜囊ヲ灌漑シテ其存在ヲ認知スヘシ異物ヲ除去セントシ或ハ是カ存否ヲ決定センニハ大動物ニアリテハ食指ヲ結膜囊ニ押入スルヲ可トス食指ハ豫メ消毒シ馬ニアリテハ内眥ニ於テ瞬膜ヨリ之ヲ挿入スレハ容易ニ結膜囊底ニ達ス其他凡テ眼ニ對スル刺戟物ハ微細ト雖之ヲ排除セサルヘカラス患畜羞明甚タシケレハ暗

處ニ移シ或ハ布片ニテ眼ヲ覆フ炎症ニハ收斂藥即チ硫酸亞鉛・明礬・醋酸鉛・硝酸銀(一%)ノ類ヲ用フ
疼痛甚タシケレハ「コカイン」(二―三%)點眼ヲ行フ劇痛ニハ單味粘汁或ハ粘汁ニ麻酔藥ヲ和シテ用
フメルレル氏ノ賞用スル點眼劑ハ硼砂二〇苦扁桃水及楡梓漿各二〇・〇・〇・〇・〇・〇ナリ硝酸銀ヲ用
フルトキハ點眼後二三秒ヲ經テ二%ノ食鹽溶液ヲ點眼スヘシ慢性結膜炎ニハ往々熔製硝酸銀ヲ用フ
殊ニ結膜ノ腫脹ヲ來セルモノニ効アリ 結膜炎症ノ眼瞼内翻ニ由ルモノハ手術ヲ施ス食物ヲ減シ便秘
アレハ下劑ヲ投ス

硫酸亞鉛	〇・一	楡梓漿	各二・〇	鹽酸コカイン	〇・二
餽水	二・〇	餽水	一五〇・〇	オレーフ油	一・〇
右爲溶液點眼水トス		右混和點眼水トシテ與フ		白色ワゼリン	三〇〇・〇
ピオクタニン溶液(五百倍)	三〇・〇	硼酸	一・〇	右混和爲軟膏眼軟膏トシテ與フ	
右點眼水トシテ與フ		鹽酸コカイン	〇・一	硫酸亞鉛	各一・〇
硼砂	二・〇	餽水	二〇〇・〇	阿片丁幾	一〇〇・〇
苦扁桃水		右爲溶液點眼水トス		餽水	
		硼酸	〇・三		
				右一日二回洗眼	

膿漏性結膜炎 Conj. purulenta s. blenorhoea. (羅)

療法 特種傳染毒ノ撲滅ヲ唯一ノ療法トス此目的ニハ消毒液ヲ以テ結膜囊ヲ洗滌シ滲出液膿汁等
ヲ排除ス其藥液ハ五千倍昇汞水・百倍石炭酸水・「クロール」水(一%)・硼酸水(二―四%)・クレオリ
ン」水(〇・五―一%)等ナリ 化膿性葡萄狀菌ハ硝酸銀(一%)・昇汞(五千倍)液ニ遇ヘハ直ニ死滅スル

カ故ニ硝酸銀水ノ點眼ハ有効ナリ 石炭酸ハ刺戟強キヲ以テ賞用セス 初期ニアリテハ消毒藥ヲ混セル
水液ノ冷濕法ヲ行ヒ腫脹過度ナレハ亂刺及溫卷法ヲ施ス疼痛甚シケレハ「コカイン」ヲ用フ 第二期ニ
アリテハ收斂劑例之白糖・硫酸亞鉛・硝酸銀(〇・五―一%)點眼ヲ行フ 眼瞼ノ膠着ヲ防クニハ「バラフ
イン」ノ塗擦ヲ最良トス 角膜潰瘍ヲ併發スレハ「エゼリン」ヲ用ヒテ眼内壓ヲ減シ角膜ノ穿孔ヲ起セハ
「クロール」水(一%)ト「エゼリン」トヲ交互點眼スヘシ要スルニ本病ハ藥液ヲ點眼シ結膜囊ヲ清滌ス
ルヲ主眼トシ犬ニアリテハ毛筆ヲ用フ 其法先ツ眼瞼ヲ翻轉シ靜ニ結膜囊中ニ毛筆ヲ挿入シ爲シ得ル
限リ堆積セル分泌物ヲ排除シ次ニ藥液ヲ粘膜ノ表面ニ塗布スルニアリ、傳染性ヲ有スルニ由リ隔離其
他ノ豫防法ニ依リ蔓延ヲ防キ病眼ニ觸レタル海綿及其他ノ器具ヲ健眼ニ使用スルヲ禁ス又洗眼・點眼
ノ際角膜ヲ傷ケサル様注意ス病眼ニ接セル手ハ消毒ス

結膜實質炎 Conj. parenchymatosa. (羅)

療法 原因殊ニ化學的刺戟物ハ特ニ注意シテ除去ス 炎症ノ消散ニハ冷卷法之ニ適ス硝子若ハ血液
ノ如キ外觀ヲ呈セル強度ノ腫脹ニアリテハ亂刺ヲ行ヒ後收斂劑(明礬・タンニン・二%皓礬水)等ヲ
塗用スヘシ此等ノ藥物ハ亂刺ヲ用ヒサルモ亦克ク適應ス

硫酸亞鉛	一・〇	スプラレニン溶液(千倍)	一・〇	乳糖	一〇〇・〇
餽水	一〇〇・〇	白色ワゼリン	二〇〇・〇	右混和爲散劑容器ニ入レ撒布粉	
右爲溶液收斂性點眼水トシテ與フ		右混和爲軟膏每日數回硝子棒ヲ		トシテ與フ	
硫酸亞鉛	〇・一	以テ塗布ス(收斂性消炎性眼料)	三・〇	プロタルゴール	一〇〇・〇
		コロイド銀	三・〇	餽水	一〇〇・〇

結膜腫瘍

右爲溶液黑色瓶ニ容レ點眼水ト
シテ與フ(巻包料)
イヒタルガン 一〇・〇
右爲溶液二・三滴宛點眼 一〇・〇
硝酸銀 三〇・〇
右混和爲溶液點眼料トス 三〇・〇
但點眼後一乃至二%食鹽水ヲ以テ洗滌スヘシ
サリチール酸 〇・五
硼酸 一・〇
餾水 一〇〇・〇
右爲溶液點眼料トナシ毎日二回洗滌後結膜囊内ニ點入ス
硼酸 各〇・二
酸鹽コカイン 各〇・二
硼酸スブラレニン溶液 (一：一〇〇〇〇)一・〇

結膜腫瘍

Tumors of the conjunctiva. (英)

白色ワゼリン 一五・〇
右混和爲軟膏豌豆大ノモノ一個宛毎日二回硝子棒ヲ以テ塗布ス
蒸汽製酸化汞 〇・三
パラフィン軟膏 一〇・〇
右混和爲軟膏防腐性眼軟膏トシテ與フ
チアン化汞 〇・〇〇二
減菌水 一〇・〇
右爲溶液其〇・二五乃至一・〇ヲ結膜下注射
白降汞 〇・三
パラフィン軟膏 各一〇・〇
白色ワゼリン 各一〇・〇
右混和爲軟膏亞麻仁大ノモノ一個宛朝夕結膜囊内ニ送入ス
昇汞 〇・〇〇五
餾水 一〇・〇
右爲溶液洗眼用

硫酸アトロピン〇・〇二一〇〇九
餾水 一〇・〇
右差明ニ毎三時一滴宛點眼
赤降汞 一・〇
ワゼリン 二〇・〇
右爲軟膏毎日豌豆大宛眼ニ塗布ス
白降汞 〇・五
グリセリン 一〇・〇
右混和日々屢々眼ニ塗布ス
クレオソート 三滴
餾水 二五・〇
右毎日三・四回宛三乃至五滴ヲ眼内ニ點下ス
タンニン酸 一〇・〇
餾水 一〇・〇
右洗眼用

療法 結膜ニハ贅疣・脂肪腫・癌腫・肉腫・皮様腫等ヲ發生スルコトアリ外科手術ヲ以テ腫瘍ヲ截去ス腐蝕藥ハ用ヒサルヲ常トス場合ニヨリテハ「クローム」酸ノ濃液ヲ用フ通常「コカイン」ニテ奪覺シ次テ彎刃外科剪刀ヲ以テ剪去ス有頸腫瘍ハ結紮ヲ用フルモ截離スルニ若カス

月盲 Moonblindness. (英)

間歇性眼炎參照

下痢 Diarrhoea. (羅)

胃腸加答兒・初生獸下痢(白痢)及犢下痢參照

劇伸 Sprain. (英)

療法 分裂シタル組織ノ癒合スルニハ先ツ溢血ヲ去ラサルヘカラス故ニ溢血少量ナレハ治癒モ亦迅速ナリ依テ新鮮ナル場合ニハ寒冷法及壓定法ニヨリテ溢血ヲ止ムルヲ治療ノ第一要旨トス寒冷法ハ傷後二十四時間以内ニ施セハ最モ効アリ、二十四時間ヲ過レハ溢血ヲ吸收セシムル爲メ濕溫壓定法及按摩法ヲ施ス濕溫及壓定ハブリースニツツ氏巻法ニ依リテ施スヘシ又按摩法ハ劇痛アレハ施用セス濕溫ハ血管ヲ膨大シ血行ヲ旺盛ニシ吸收ヲ促ス按摩ノ有効ナルハ勿論ニシテ之ニ依リ溢血セル血液ヲ循環血中ニ驅入シ吸收セシム又一様平等ノ持續的壓定繃帶モ吸收ヲ促ス從來慣用ノ解凝藥ノ主ナルモノ即チ「ヨード」軟膏及水銀軟膏ハ特效アルニアラス塗擦ノ器械的作用即チ按摩法ニ依リテ効ヲ奏スルモノノ如シ此藥品ハ適當ナル應用法ニヨリテ強力ノ塗擦ヲ行ヘハ正効アリ緩伸・劇伸ノ癒

月盲 下痢 劇伸

合後ニ於ケル筋肉ノ衰弱ハ運動即チ輕役ニ依リテ漸次恢復スルモノナリ

肩跛行 Shoulder lameness. (英)

療法 療法ハ其原病ニ由リテ異ナル挫傷・不全骨折或ハ劇伸等ニ於テ急性炎症アレハ冷湯ヲ行フ最モ便ナルハ布ヲ以テ肩部ヲ包ミ或ハ粘土ヲ塗布シ頻リニ冷水ヲ以テ潤ホスニアリ但創傷或ハ皮膚剝離アレハ粘土ヲ用フヘカラス八乃至十四日間ヲ經ルモ尙輕快セサレハ四・三・一合劑(樟腦精四分・アムモニア擦劑三分・「テレピン」油一分)ヲ塗布ス毎日一回宛三日間連用ス尙効ナクハ「テレピン」油ヲ塗布シ又串線ヲ施ス按摩法ハ軟部ノ疾患ニ卓効アリ又ブリースニツツ氏器法モ可ナリ按摩及器法ハ炎性滲出物ノ吸收ヲ促シ器法ハ殊ニ癱瘓質斯症ニ適ス其他「ヴェラトリン」ノ皮下注射ヲ行フ筋肉癱瘓質斯ニ起因スルモノニハ良効アリ食鹽溶液ヲ皮下注射スレハ局所ニ炎性腫脹ヲ起シ稍々効ヲ奏ス又「テレピン」油四・〇「エーテル」一・〇ノ皮下注入ヲ行フ是等ハ皆刺戟誘導ノ目的ニテ串線ト同効ヲ有ステムベル博士ハ「モルヒネ」〇・二「アトロピン」〇・〇五水二〇・〇ノ液ヲ馬ニ注射シテ良効ヲ得タリ特ニ慢性及癱瘓質斯性跛行ニ適ス尙急性及器械的刺戟ニ由ル跛行ニモ効アリト云フ

- 芫菁軟膏 三〇・〇
- 吐酒石 一・〇
- 右毎日一回痲皮ノ生スル迄塗布
- 食鹽 一・〇
- 餉水 五・〇
- 右爲溶液肩胛關節ノ近傍ニ二回
- 注射ス
- 「テレピン」油 一二〇・〇
- アムモニア水 三〇・〇
- 樟腦精 三〇・〇
- 右爲振盪合劑毎日二回塗布
- クロロフォルム 五〇・〇
- 「テレピン」油 七五・〇
- 右毎日二回塗布
- ヴェラトリン 一〇〇・一
- 酒精 一〇〇・〇
- 餉水 三〇・〇
- 右一日一回宛三回ニ注射ス

- 硫酸アトロピン 〇・〇二(〇・〇五)
- 鹽酸モルヒネ 〇・四(〇・二)
- 餉水 二〇・〇
- 右爲溶液皮下注射量二回分トス
- (注意—中毒ノ危險アリ)
- 硫酸アトロピン 〇・〇三
- 鹽酸モルヒネ 〇・二
- 餉水 一〇・〇
- 右爲溶液皮下注射料トシ一日間
- 三回ニ與フ
- 硫酸アトロピン 〇・〇二五
- 餉水 一〇・〇
- 右爲溶液皮下注射料トス
- 鹽酸モルヒネ 〇・四
- 餉水 一〇・〇
- 右爲溶液皮下注射
- 鹽酸コカイン 〇・一五
- 鹽酸モルヒネ 〇・一
- 餉水 五・〇
- 右爲溶液皮下注射
- クロロフォルム 各五〇・〇
- ヒヨス油 各五〇・〇
- 右混和爲擦劑塗擦ス(疼痛烈シキ場合)
- 「テレピン」油 各三〇・〇
- アムモニア水 各三〇・〇
- 樟腦精 各一五・〇
- 石鹼精 各一五・〇
- 右混和爲塗擦料
- 「テレピン」油 四・〇
- エーテル 一・〇
- 右混和皮下注射料
- クロールナトリウム 七・〇
- 餉水 一〇〇・〇
- 右爲滅菌溶液四十二度トシ頸部ニ皮下注射(一回分)
- ヴェラトリン 〇・一
- 酒精 四・〇
- 餉水 四・〇
- 右爲溶液皮下注射
- ヴェラトリン 〇・一
- クロールナトリウム 一〇〇・〇
- 石炭酸水(〇・五%) 五〇・〇
- 右混和爲溶液五個所ニ皮下注射

犬瘟熱

Febris catarrhalis et nervosa canum. (羅) Distemper. (英)

療法 攝生殊ニ食物ニ注意ヲ要ス即チ患畜ハ清潔ニシテ等温ノ場所ニ收容シテ賊風ヲ避ケ濃厚ナル滋養食ヲ給ス牛乳・濃キ肉汁・卵黃之ニ適ス胃腸加答兒ヲ患フモノニハ粥ヲ與フルヲ良トス本病ノ初期ニハ「ヨードトリクロリド」(五百倍乃至千倍溶液三一五・〇一日三回)ノ皮下注射ヲ賞揚

ス殊ニ病初ニ用フレハ僅日ニシテ患畜ノ容態佳良トナリ體溫常溫ニ復シ加答兒症狀減退ス然レトモ
 或場合ニハ注射部位ノ皮膚壞死スルコトアリバツス氏 (Baz) ハ初期「イヒタルガン」(Ichthargan)
 「イヒタルガン」アラビヤゴム各五〇水一〇〇〇一日三回一茶匙乃至一食匙宛内服ヲ用ヒリ
 ベルト及シユミツド兩氏 (Liebert & Schmidt) ハ「タンナルゲンタン」(Tannargentan) (一〇一日一
 三回)ヲ用ヒタリ

沈鬱及衰弱ニハ神經衝動劑例之酒精(葡萄酒・ブランデー)ヲ適度ニ稀釋シ少量宛反覆内服セシム重
 劇ノ場合ニハ珈琲又ハ「カフェイン」・茴香「アンモニア」精・生理的食鹽水三〇〇(Parent)ヲ用フ尙該
 食鹽水ニ「カフェイン」(〇・一〇〇)ヲ加フレハ更ニ妙ナリ(Cuny)熱ニ對シテハ特ニ治療ヲ要セス
 四十度以上ニ達スレハ解熱劑(フェナセチン)・アンチピリン(〇・二五〇)ヲ與フ

呼吸器加答兒ニハ祛痰劑ヲ混スル蒸氣吸入(一―三%炭酸曹達液又ハ重曹液)ヲ施シ分泌過多ナレハ
 防腐藥ノ吸入(一―三%クレタリン)・〇・五%クレオソート「テレピン」等、痛咳ニハ鎮痙ノ目的
 ヲ以テ「モルヒネ」(鹽酸「モルヒネ」)・〇・一苦扁桃水二二〇、二乃至三時毎二十乃至二十滴宛内服)或ハ
 「コデイン」(磷酸コデイン)・〇・三、餹水一五〇〇ヲ二乃至三時毎二―二食匙宛)ヲ與フ然レトモ分泌
 過多ナルトキ咳嗽ヲ止ムルハ却テ害アルヲ以テ斯ル場合ニハ吐根浸及「セネガ」煎ニ「アボモルヒネ」
 (一回量一―二ミリグラム)或ハ礮砂(〇・一―〇・五)ヲ伍用スヘシ肺炎ヲ發スレハ酸素吸入ヲ行フ
 胃腸加答兒ハ前記セル食物ノ注意ヲ肝要トシ、病初ニハ蓖麻子油又ハ甘朮(〇・二―〇・五、一日
 二三回内服)「ザロール」ヲ與フ嘔吐ヲ發スレハ氷塊・曹達水・サリチール「酸蒼鉛(〇・五)・阿片(〇・
 〇五―〇・一)ヲ用フ消化機能ヲ衝動スル爲飲水ニ稀鹽酸(〇・二―〇・五)ヲ混與シ又ハ「ペプシン」

(〇・一―〇・五)ヲ單味又ハ鹽酸ト伍用ス其他苦味劑丁幾(大黃丁幾・「ゲンチアナ」丁幾・複方「キナ」丁
 幾・一回量五―一〇〇)ヲ用フ下痢ヲ發スレハ阿片劑(阿片〇・一―〇・二或ハ其五倍量ノ阿片丁幾ヲ
 三・四時毎ニ與フ)又「タンニン」(〇・一―〇・五)・次硝酸蒼鉛(〇・二―〇・五)・「タンノフォルム」・「タ
 ンナルピン」・「タンノピン」(〇・五―一・〇)ヲ用フ

神經症狀ニハ鎮痙藥トシテ臭素曹達又ハ臭素加里(一・二五〇、一日四・五回一食匙宛)・抱水「クロラ
 ール」(〇・〇五―〇・一)・「ズルフオナル」(一―二〇)ノ内服又ハ大量ノ「モルヒネ」(〇・〇五―〇・
 一)ノ皮下注射ヲ行フ麻痺ハ按摩・酒精摩擦・電氣應用竝「ヴェラトリン」(一―五「ミリグラム」)又ハ
 「ストリキニン」(〇・五「ミリグラム」)ノ皮下注射ヲ行フ

結膜炎ハ初期ハ一日二三回溫卷法ヲ施シ一%ノ「クレオリン」又ハ硼酸水ヲ以テ洗滌シ急性症狀去リ
 タル後收斂藥液即チ〇・五―一%ノ皓礬・明礬・「タンニン」液ヲ用フ加答兒慢性トナルカ或ハ眼漏過多
 ナレハ一%硝酸銀液ヲ點眼ス但該藥液ハ注意シテ用ヒ點眼後一%食鹽水ヲ以テ洗滌スヘシ角膜炎竝
 眼内炎ニハ溫卷法及一%「アトロピン」溶液ノ點眼ヲ行フ角膜溷濁ニハ甘朮粉末ノ吹入・赤降朮軟膏
 (一・〇ワゼリン二〇)ヲ塗抹シ眼球ヲ按摩ス視神經麻痺ノ結果トシテ盲目トナルトキハ「ストリキニ
 ネ」ヲ顳顬部ニ注射スヘシ

皮膚ノ發疹ハ特別ノ治療ヲ要セス唯濕潤面ニ乾燥末ヲ撒布シ或ハ軟膏ヲ塗布シ治療ヲ速カナラシム
 ヘシ

豫防法 病犬ハ容易ニ健犬ニ疾病ヲ感染セシムルヲ以テ之ヲ隔離シ其犬房ハ充分ニ消毒スヘシ幼
 犬ヲ病犬ニ接近セシメサレハ老齡ニ至ル迄本病ニ侵サルルコトナク又縱令罹病スルモ能ク全治スト

云フ

硫酸キニーネ 五〇〇
 餾水 二〇〇
 稀硫酸 二・五
 吐根舍利別 二五〇
 右根三時一茶匙—一食匙ヲ與フ
 (解熱)
 アンチフェブリン 各〇・五
 白糖 右爲散劑其五包ヲ作り一日一包
 宛與フ(解熱) 一五〇
 フェナセチヌム 各一〇
 白糖 右混和頓服(解熱) 各一〇
 アラビヤゴム 一五〇
 苦扁桃水 一〇〇
 アニース水 一〇〇
 右同 二〇
 アンチピリン 五〇
 餾水 五〇

右爲溶液頓服(解熱)
 吐根浸 二〇〇
 安息香酸 五〇
 白糖 一五〇
 右一日三四回一茶匙乃至一食匙
 宛與フ(右同)
 吐根浸 二〇〇
 炭酸アムモニア 五〇
 甘草煎 二〇〇
 右爲溶液每三時一食匙乃至一茶
 匙宛ヲ與フ(右同)
 重曹 各五〇
 食鹽 二五〇
 茴香浸 右混和一日四回一食匙宛(右同)
 鹽酸アポモルヒネ 一〇〇
 鹽酸 一五
 餾水 二〇〇
 單舍利別 一五〇

用法右同(右同)
 茴香アムモニア精 一五〇
 赤酒 五〇
 右混和一食匙ヲ與フ(右同)
 硝砂 三〇
 餾水 一八〇
 甘草舍利別 二〇〇
 右混和一日二回一食匙乃至一茶
 匙宛與フ(鼻漏過多・細小氣管枝
 炎)
 炭酸アムモニア 各五〇
 林檎鐵丁幾 一八〇
 アニース水 一八〇
 右混和一日一食匙乃至一茶匙宛
 與フ(右同) 五〇
 茴香アムモニア水 一八〇
 餾水 二〇〇
 セネガ舍利別 二〇〇
 右混和一日三回一匙宛(右同)

ペルバルサム 三一五
 茴香 一五〇
 糖蜜 一五〇
 右混和一日二回一匙宛(右同)
 鹽酸モルヒネ 〇・二五
 餾水 一〇〇
 甘草蒸 一〇〇
 右混和每三時一茶匙乃至一食匙
 宛與フ(痛咳)
 鹽酸アポモルヒネ 〇・〇三
 苦扁桃水 一〇〇
 餾水 一八〇
 右混和一日三・四回一茶匙乃至
 一食匙宛與フ(右同)
 硝砂 一〇〇
 甘草蒸 二〇〇
 餾水 三〇〇
 右爲溶液每三時一茶匙(小犬)乃
 至一食匙(大犬)ヲ與フ
 レゾルチン 三〇

餾水 一〇〇
 右爲溶液每三時一食匙宛(消化
 器加答兒)
 イヒチオール 二一五
 アニース水 一〇〇
 グリセリン 一五〇
 右混和一日數回一匙宛内服(右
 同)
 稀鹽酸 五〇
 茴香水 二〇〇
 右一日數回一匙宛(右同)
 稀鹽酸 五〇
 苦味丁幾 二〇〇
 水 三〇〇
 右混和一日三回半食匙乃至一食
 匙宛(健胃劑)
 キナ丁幾 二五〇
 ホミカ越幾斯 〇・一
 鹽酸 〇・七五
 右混和一日數回三一五滴宛ヲ白

糖ニ和シテ與フ(右同)
 人工カルルス泉鹽 五〇
 大黃丁幾 五〇
 茴香水 一八〇
 右混和朝夕二回一小食匙宛與フ
 (右同)
 重曹 五〇
 蕃木髓丁幾 二・五
 カルビー油 四滴
 右用法前ニ同シ(右同)
 甘汞 〇・〇五
 阿片末 〇・〇五
 乳糖 〇・一
 右混和一乃至二日分服(下痢ニ
 對シ)
 サフラン阿片丁幾 一五〇
 タンニン酸 一五〇
 グリセリン 一五〇
 餾水 一五〇
 右混和每三時一食匙宛與フ(右
 同)

犬瘟熱

同) 三・〇
 明礬 各五・〇
 次サリチール酸蒼鉛 各五・〇
 澱粉 右爲散劑一刀尖宛食物ニ混與
 (右同)
 硝酸銀 一・〇
 餾水 三〇〇・〇
 右混和三回ニ分與(右同)
 阿片丁幾 一〇〇・〇
 アラビヤゴム 一五〇・〇
 茴香水 三〇〇・〇
 右混和一日一茶匙乃至一食匙宛
 與フ(右同)
 甘汞 〇〇・五
 白糖 〇〇・二
 右混和以上六包ヲ作り一日其三
 包宛與フ(右同)
 臭素ナトリウム 二五〇・〇
 餾水 二〇〇・〇

右一日三回一匙宛(神經症)
 サリチール酸カフエイン 二・〇
 炭酸鐵 四・〇
 右混和一日三回宛二日間ニ分與
 (右同)
 ストリキニーネ 〇〇〇・二
 餾水 五・〇
 右爲溶液皮下注射三日連續ス
 (右同)
 エーテル精 二五・〇
 右每三時二十滴ヲ葡萄酒又ハ珈
 琲一食匙ニ混シテ與フ(右同)
 ズルフオナル 一・〇
 以上十包ヲ作り一日一包宛與フ
 (右同)
 エーテル製纈草丁幾 二〇〇・〇
 右每三時二十滴ヲ珈琲ニ混シテ
 與フ(右同)
 酸化亞鉛 三・〇
 澱粉 一五〇・〇

三三〇

右爲粉末撒布ス(皮疹)
 ヨードフォルム 一〇〇・〇
 檫皮末 一〇〇・〇
 右同(右同)
 アンチピリン 五・〇
 單舍利別 一〇〇・〇
 餾水 一〇〇・〇
 右混和三回ニ分與(高熱ノ際)
 アンチピリン 二・〇
 右爲散劑一包其三包ヲ作り必要
 ニ應シテ一包宛與フ(右同)
 アンチピリン 一〇〇・〇
 餾水 一〇〇・〇
 右爲溶液皮下注射料三回分トス
 (犬犬右同)
 ラクトフェニン 五・〇
 赤酒 一〇〇・〇
 覆盆子舍利別 二五・〇
 右混和一日三乃至四回一食匙宛
 與フ(稽留熱アル場合)

ラクトフェニン 〇・五
 右爲散劑一包其六包ヲ作り一日
 二乃至三回一包宛與フ(高熱ノ
 際)
 磷酸コデイン 〇・六
 餾水 一五〇・〇
 右爲溶液一茶匙宛與フ(咳嗽ア
 ル場合)
 磷酸コデイン 〇・三
 アルテア舍利別 一〇〇・〇
 餾水 一五〇・〇
 右同(右同)
 磷酸コデイン 〇・一
 プロームナトリウム 一〇〇・〇
 餾水 一〇〇・〇
 右混和一日二回一食匙量宛與フ
 (右同)
 鹽酸モルヒネ 〇・一
 苦扁桃水 一五〇・〇
 餾水 一五〇・〇

右混和一日一乃至三食匙宛與フ
 (右同)
 鹽酸モルヒネ 〇・一
 苦扁桃水 五・〇
 餾水 一〇〇・〇
 右混和爲水劑每二乃至三時一食
 匙量(右同)
 鹽酸モルヒネ 〇・二
 鹽酸アポモルヒネ 〇・五
 餾水 一〇〇・〇
 右混和每三時一食匙量宛與フ
 (氣管枝炎ノ場合)
 鹽酸モルヒネ 〇・二
 白糖 〇・五
 右混和爲散劑一包其五包ヲ作り
 與フ(咳嗽アル場合)
 鹽酸モルヒネ 〇・二
 鹽酸アポモルヒネ 〇・二
 苦扁桃水 一五〇・〇

麥角越幾斯 三〇〇・〇
 アニース水 一五〇・〇
 右混和一日數回一匙量宛與フ
 (痛咳アル場合)
 鹽酸モルヒネ 〇・二
 鹽酸アポモルヒネ 〇・二
 苦扁桃水 一五〇・〇
 鹽酸 五滴
 餾水 一三〇・〇
 麥角越幾斯 二五・〇
 用法右同(右同)
 鹽酸モルヒネ 〇・六
 鹽酸アポモルヒネ 〇・一
 稀鹽酸 〇・三
 茴香水 一〇〇・〇
 右混和每三時半乃至一食匙量宛
 與フ(咳嗽アル場合)
 チオニン 〇・三
 重碳酸ナトリウム 〇・五
 右混和爲散劑一包其六包ヲ作り

犬瘟熱

毎日二乃至三包宛與フ(犬瘟熱性肺炎ノ場合)
 阿片吐根散(ドーフル散) 各一〇
 白糖 各一〇
 右混和爲散劑十包朝・晝・夕各一包宛與フ(咳嗽ノ場合)
 アガリチン 〇・一五
 ドーフル散 三・〇
 アラビヤゴム漿 適量
 右混和爲丸劑三十個毎夕一乃至二個宛與フ(右同)
 吐根浸 二・〇・二五〇・〇
 鹽酸モルヒネ 〇・二
 甘草羔 二〇・〇
 右混和毎三時一食匙(犬犬)乃至一茶匙(小犬)宛與フ(右同)
 人工カルルス泉鹽 五・〇
 吐根浸 (一・〇)一五〇・〇
 覆盆子舍利別 二五・〇

右混和一日三回一匙宛(加答兒性肺炎ノ場合)
 吐根浸 (一・〇)一五〇・〇
 吐酒石 〇・五
 扁桃舍利別 二五・〇
 右混和一日三回一匙量宛與フ(氣管炎ノ初期ニ祛痰劑トシテ)
 吐根末 〇・〇二
 重碳酸ナトリウム 二・〇
 右混和爲散劑一包其四包ヲ作り一日二包宛與フ(氣管枝肺炎ノ初期ニ)
 吐根舍利別 各五〇・〇
 セネガ舍利別 各五〇・〇
 ゴム舍利別 各五〇・〇
 右混和毎二乃至三時一匙量宛(氣管枝肺炎ノ場合)
 吐根舍利別 各四〇・〇
 アルテア舍利別 各四〇・〇
 右混和毎二時一匙量宛與フ(咳

三三二

嗽アル場合)
 セネガ根浸 (一〇〇・〇)一八〇・〇
 人工カルルス泉鹽 一五・〇
 アムモニアアニリス液 五・〇
 右混和一日三回一茶匙宛與フ(祛痰劑トシテ)
 セネガ根浸 (一〇〇・〇)一八〇・〇
 礮砂 各五・〇
 甘草羔 各五・〇
 右混和毎三時一食匙乃至一茶匙宛與フ(解熱性祛痰劑トシテ)
 セネガ根浸 (一〇〇・〇)一五〇・〇
 甘草舍利別 一五・〇
 アムモニアアニリス液 四・〇
 右混和毎二乃至四時、半一食匙宛與フ(祛痰劑トシテ)
 セネガ根浸 (一〇〇・〇)一七五・〇
 アムモニアアニリス液 五・〇
 甘草羔 各一〇・〇
 單舍利別 各一〇・〇

右混和毎三時一茶匙乃至一食匙量宛與フ(咳嗽アル場合)
 ペルーパーサルム 五・〇
 アラビヤゴム 一〇・〇
 常水 一五〇・〇
 セネガ舍利別 一五・〇
 右混和一日二回一小兒匙宛與フ(胃症狀及氣管枝症狀合併ノ場合)
 礮砂 五・〇
 吐酒石 〇・五
 餡水 一八〇・〇
 甘草羔 一五・〇
 右混和一日三回一匙量宛與フ(加答兒性肺炎ノ場合)
 含鐵礮砂
 礮酸
 甘草根末 各〇・二五
 右爲散劑一包其十包ヲ作り毎日一乃至二包宛與フ(氣管枝肺炎ノ場合)

犬瘟熱

ヨードワツソゲン(六%)五〇・〇
 右一日三回十乃至三十滴宛内用シ同時ニ一日一回一匙宛胸部ニ塗擦(右同)
 蓖麻子油 五〇・〇
 アラビヤゴム 一〇・〇
 餡水 三〇〇・〇
 右混和爲乳劑二回ニ分與(下劑トシテ)
 次硝酸蒼鉛 各〇・二五
 重曹 各〇・二五
 白糖 各〇・二五
 右混和爲散劑一回ニ與フ(下劑アル時)
 デルマトール 各五・〇
 粗製明礬 各五・〇
 桂皮 一五・〇
 乳糖 五・〇
 右混和爲散劑一日數回一小刀尖量宛與フ(胃腸加答兒ノ場合)

三三三

デルマトール 〇・五
 阿片末 〇・二五
 乳糖 〇・三
 右爲散劑一包其四包ヲ作り朝夕二包宛與フ(下劑ノ場合)
 阿片末 各〇・二五
 デルマトール 各〇・二五
 小麥澱粉 二・〇
 白糖 〇・一五
 右混和右同(中等大ノ犬ノ慢性下劑ノ場合)
 次サルチール酸蒼鉛 各二・五
 假性マグネシヤ 各二・五
 タンナルビン 各五・〇
 ゴム末 各五・〇
 右混和爲散劑一日數回一小刀尖量宛與フ(但既ニ胃腸障礙・下劑アルトギニハ下劑ヲ投シタル後ニ與フ)
 キセロフォルム 一五・〇

犬瘟熱

アラビヤゴム漿 五〇・〇
 覆盆子舍利別 一〇・〇
 右混和一日乃至二茶匙量宛與
 フ(腸内消毒劑トシテ)
 ベンツオナフトール 各二・五
 レゾルチン 一・〇
 薄荷油 二〇・〇
 桂皮末 二〇・〇
 右爲散劑一日三回一小刀尖宛與
 フ(右同)
 イヒチオール 各五・〇
 人工カルルス泉鹽 一八〇・〇
 アニース水 五・〇
 肉越幾斯 五・〇
 右混和一日三回一食匙量宛與フ
 (急性胃腸加答兒ノ際)
 イヒチオール 三・〇
 粗製クレゾール 五・〇
 薄荷油 一〇〇・〇
 右混和朝夕一匙量宛與フ(腸管

消毒劑トシテ)
 イヒトフォルム 三・〇
 アラビヤゴム 一〇・〇
 右混和爲散劑二日間ニ分與(右
 同)
 イヒトフォルム 各二・〇
 乳糖 各二・〇
 右混和爲散劑二日間ニ四乃至五
 回ニ分與(右同)
 イヒトフォルム 三・〇
 阿片末 一・〇
 右爲散劑一包其三包ヲ作り必要
 ニ應シテ一包宛與フ(止瀉・腸管
 消毒劑トシテ)
 イヒタルガン 各二・〇
 アラビヤゴム 五・〇
 餾水 五・〇
 右混和毎二時一茶匙量宛與フ
 (體内消毒劑トシテ)
 酒精製大黃丁幾 五・〇

三三四

右一日三回半乃至一食匙量宛與
 フ(健胃劑トシテ)
 複方キナ丁幾 二五・〇
 番木甯越幾斯 〇・一
 鹽酸 〇・七五
 右混和一日數回三乃至五滴宛砂糖
 ト共ニ與フ(健胃強壯劑トシテ)
 鹽酸キニーネ 各二・五
 鹽酸 一八〇・〇
 餾水 二五・〇
 橙皮舍利 二五・〇
 右混和一日數回一食匙量宛(食
 慾不振・衰弱ノ場合)
 エーテル 五・〇
 樟腦精 一五・〇
 右混和爲皮下注射料但一回量
 二〇—三〇トシ數回行フ
 (心臟衰弱又ハ腦ノ興奮ヲ必要
 トスル場合)
 アムモニアアニース液 五・〇

セリー酒 一五〇・〇
 右混和一日數回一乃至二食匙量
 宛與フ(衰弱ノ場合)
 ストロファンツス丁幾 五・〇
 單舍利別 一〇・〇
 水 一二五・〇
 右混和一日乃至二食匙量宛與
 フ(強心劑)
 安息香酸ナトリウムカフェイン 〇・五
 〇・三
 桂皮油糖 〇・三
 右混和爲一包其四包ヲ作り一日
 一乃至二包宛與フ(心臟及神經
 興奮ノ目的ニ)
 桂皮舍利別 二五・〇
 桂皮水 一〇〇・〇

酒精 五〇・〇
 右混和卵黃二個ト和シ一食匙量
 宛與フ(胃症ノ場合)
 藥用釀母 二〇〇・〇
 右毎日三回二食匙量宛與フ(右
 同)
 ズルフオナール 一・〇
 右爲一包其十包ヲ作り一日一包
 宛卵黃ト共ニ與フ(鎮靜ノ場合)
 鹽酸コカイン 〇・五
 餾水 一〇・〇
 右爲溶液點眼料トシ毎三時五滴
 宛點眼(犬瘟熱性眼症アル場合)
 抱水テレピン 三・〇
 コンニアク(酒) 二五・〇
 茴香水 一〇〇・〇

アルテア舍利別 二五・〇
 右混和一日二乃至二回一茶匙—
 一食匙量宛與フ(膿漏アル際)
 プロームアムモニウム 二・五
 プロームナトリウム 各五・〇
 プロームカリウム 一五・〇
 餾水 〇・一—〇・二
 右爲溶液一日二乃至三回一匙量
 宛與フ(腦症狀アル場合)
 ヨードトリクロリド 〇・一—〇・二
 餾水 一〇〇・〇
 右爲溶液一日三回三・〇乃至五・
 〇宛皮下注射

療法 腱裂ノ療法ハ第一患脚ノ姿勢ヲシテ可成腱ノ斷端ヲ互ニ密接セシムルカ如ク保定スルヲ要
 ス此目的ニハ繃帶(石膏或ハ副木繃帶)ヲ用ヒ永久ノ休養ヲ命ス新鮮ナル腱創ハ可成治機ヲ短縮スル

腱裂 Ruptura tendinale. (雜)

カ爲メ制腐的療法ヲ行フ特ニ四肢ノ屈腱及腱鞘同時ニ損傷セラレタルトキハ二重ノ注意ヲ要ス昇求・石炭酸若ハ「クレオリン」水ニハ充分洗滌清潔ニシタル後閉鎖繃帶ヲ行ヒ排導管・串線ヲ用フ又創傷ノ縫合モ必要ナリ、化膿ヲ起セハ制腐法ヲ勵行ス壞死組織塊ノ分離ニ長時日ヲ要スルトキハ周圍軟部ノ肉芽發生ヲ制止スル爲メ前ヨリ壓定繃帶及收斂藥(明礬・タンニン)ヲ應用スヘシ又壞死崩解斷片ハ時々鑷子ヲ以テ除去スヘシ遺後ノ肥厚ハ壓迫繃帶ヲ施ス

腱創傷 Wounds of the Tendons. (英)

療法

慎重ナル防腐法ヲ施シ窓ヲ穿チタル「ギプス」繃帶ヲ纏絡シテ吊起帶ヲ裝シ且可成の高キ鐵臍ヲ有スル蹄鐵ヲ裝スルニアリ腱假骨質ヲ生シテ治癒スルマテニハ一ヶ月乃至一ヶ月ヲ要ス、馬ノ後肢ニ於ケル腱創傷ハ豫後比較的的不良トス例之ベルル氏ノ記載セル一病例ノ如キハ單ニ管骨屈腱ノ損傷ナリシニ拘ラス猶五ヶ月ヲ要シテ漸ク治癒セリト云ヘリ

腱炎 (急) Tendinitis. (雜)

療法

第一原因ヲ除去シ全体ヲ命シ跛行ノ消散後モ尙之ヲ持續スヘシ若シ屈腱ノ伸張蹄尖ノ過長ノ結果タルトキハ削蹄ノ際蹄踵ヲ儉惜シ蹄鐵ニ鐵臍ヲ附シ或ハ鐵枝ヲ厚クシテ裝蹄スヘシ特ニ蹄骨屈腱ニ於テ然リトス(一)初期寒冷ノ應用ハ炎症ヲ制限シ特ニ疼痛・腫脹・増温甚クシク發現シタルトキニ良効アリ又出血ヲ制限シ且腱ニ於ケル急性滲出ヲ制ス(二)炎症産物トシテ生シタル贅物ノ吸收ヲ促進ス此目的ニハ濕温及器械的壓迫トス石鹼水或ハ加里ノ稀釋溶液(〇・五%)ノ灌漑及ブリースニツツ氏卷法共ニ特効アリ就中後者ヲ賞用ス患脚ヲ柔軟ナル麻織子或ハ綿ヲ以テ包ミ濕潤セル卷軸帶

ヲ適度ニ緊縛シ其上ニ「フランネル」卷帶ヲ施スヘシ、四肢ノ淺深屈腱ニ於テハ腱ノ部分ニ同一ノ壓迫ヲ與フル爲メ麻織子或ハ楡子枕ヲ腱ノ兩側ニ抵シテ後卷軸帶ヲ纏絡ス四乃至五時間毎ニ改裝ス、此療法ハ特ニ腱ノ周圍(腱周圍結締織)ニ於ケル炎症機轉ニ卓効アリテ遺後ノ廣大ノ肥厚ヲ豫防ス尙解凝藥「ヨードカリ」軟膏或ハ灰白水銀軟膏ヲ用フ(三)慢性炎及肥厚ニハ按摩及皮膚刺戟藥ヲ應用ス按摩ハ其應用ニ注意シ疼痛アルトキハ之ヲ用ヒス是レ動物ヲシテ不安ナラシムレハナリ按摩ヲ行フニハ患部ニ護謨紙ヲ抵シ指ニ塗油シ初メハ輕ク摩擦シ後ニハ強キ壓力ヲ下方ヨリ上方ニ(淋巴流ノ方向)拇指・示指及中指ヲ以テ反覆腱上ニ加フヘシ疼痛及腫脹増加スレハ此方法ヲ止ム、然ラサレハ毎日一二回宛週間持續施行スヘシ

皮膚刺戟藥ノ効力ハ皮膚ノ腫脹ニ由リテ永續平均ノ壓迫ヲ腱ニ及ホスニアリ故ニ皮膚ハ腫脹愈々甚タシケレハ其効力モ亦愈々善良ナリ然レトモ腱ノ劇性炎ニアリテ長時間刺戟軟膏ヲ應用スヘカラス局處ノ炎症症候顯ハル、ヤ否ヤ之ヲ止ムヘシ此目的ニハ赤複「ヨード」汞軟膏(一・八脂肪或ハ「ワゼリン」)ヲ最良トス之ニ由リテ起ル腫脹ハ甚ク且強硬ナル痲皮ヲ形成ス尙効驗ノ大ナルヲ望ムニハ刺戟軟膏ヲ塗用シタル後強力ノ壓迫ヲ施スヘシ此目的ニハ麻布帶ヲ纏絡スヘシ、經久頑固ノ腱肥厚ニハ線狀烙鐵ヲ用フ烙鐵ハ初メ皮膚ニ急性炎ヲ起シテ腫脹ヲ發シ病腱ニ壓迫ヲ及ホシ晚期ニハ皮膚ノ癩痕組織ノ收縮ニ由リテ尙壓迫ヲ與ヘ解凝吸收上良効ヲ奏ス(四)屈腱短縮ノ治療ハ患腱カ肢ノ負重セル際伸張シ得ル間ハ行フヲ得ヘシ斯カル場合ニ於テハ患馬ヲ輕役ニ服セシムレハ徐々ニ關節ノ形狀ヲ改善スルコト稀ナラス然レトモ腱短縮ニ由リテ突球ヲ起シ負重ニヨリテ伸張セサルトキハ腱ノ自然延長ハ期待スル能ハス此場合ニハ唯切腱術ニ依リテ肢ノ姿勢及運動ヲ矯正シ得ルノミ然レ

腱炎

トモ切腱術ハ毎時良効ヲ奏スルモノニアラスシテ腱カ既ニ周圍組織ト癒着スルトキハ更ニ効力ナシトス故ニ施術ニ際シテハ注意ヲ要ス

ヨードワッソーゲン	一五・〇	ワゼリン	三〇・〇	ラノリン	各二五・〇
芫菁軟膏	二〇・〇	右混和爲軟膏外用	六・〇	右混和爲軟膏外用	五・〇
右混和爲軟膏毎日一回宛痂皮形		ヨードカリウム	四〇・〇	イヒチオール	三・〇
成スル迄塗擦		灰白水銀軟膏	三〇・〇	餵水	一五・〇
ヨードワッソーゲン		右混和毎日二回塗擦	三・〇	ラノリン	二五・〇
灰白水銀軟膏	各一〇・〇	ヨード	三〇・〇	豚脂	
右混和爲軟膏毎日一回宛塗擦(馬)		灰白水銀軟膏	三〇・〇	右混和爲軟膏塗擦料	三〇・〇
灰白水銀軟膏	各二〇・〇	右混和爲軟膏外用	三・四	獸醫用芫菁硬膏	三〇・〇
綠石鹼	一〇・〇	赤色ヨード汞	一五・〇	右加熱シテ二―三ミリメートル	
樟腦		パラフィン軟膏	四・〇	ルノ厚サニ塗布ス(慢性症)	
右混和毎日二回宛塗擦		赤色ヨード汞	四・〇	芫菁丁幾	各二五・〇
灰白水銀軟膏	各一〇・〇	パラフィン軟膏四〇・〇―五〇・〇	五・〇	アムモニア水	一〇〇・〇
綠石鹼	二〇・〇	右混和毎日一回塗擦(強力刺戟軟膏トシテ)		酒精	
ラノリン	三・〇	イヒチオール		右混和外用	
右混和爲軟膏外用		ワゼリン			
ヨード	五・〇				
ヨードカリウム					

腱鞘炎 腱鞘軟腫

Tendovaginitis. (雜) Tendon galls. (英)

球腱軟腫

Wind galls. (英)

飛網軟腫(アヒルス腱鞘軟腫)

Thorough-pin. (英)

膝腱軟腫

Knee galls. (英)

療法 新鮮ニシテ尙疼痛アレハ冷脚又冷湯若ハ冷水灌漑・壓迫繃帶ヲ施スブロー氏液ノ如キ冷却收斂ノ効アルモノ最モ之ニ適ス温熱疼痛等ノ如キ急性炎症既ニ減退スレハ冷湯ヲ止メ濕温壓迫及按摩ヲ施ス輕運動ハ吸收ヲ促シ却テ全体ニ勝リ疼痛甚シケレハ粘汁麻酔液ヲ用フ(温浴・亞麻仁卷法・「ヒヨス」葉煎)新小軟腫ハ此法ニ依リ消散スト雖一タヒ勞役ニ服スレハ再發ス慢性症ハ強刺戟藥ヲ塗用ス例之芫菁軟膏・赤複ヨード汞軟膏(一・八)強硫酸・昇汞軟膏・芫菁「コロヂウム」・強發泡膏・烙鐵等ヲ用フ此等ノ刺戟藥ハ腫脹ヲ起シ腱鞘ヲ壓迫シテ吸收ヲ促進ス就中烙鐵ハ有効ナリ其他軟腫ノ内容物ヲ除去スル法アリ(一)套管針穿刺 此法ハ消毒ヲ厳行スレハ危險ナシト雖効驗微弱ナリ一タヒ内容ヲ排除スルモ數日ニシテ再ヒ蓄積ス稀ニハ反覆穿刺シテ効ヲ奏スルコトアリ穿刺ノ後「ヨード」ヨードカリ」液(ルーゴル氏液)ヲ注入シ良効ヲ見ル、既ニ頑性ニシテ内容纖維素凝塊ヨリ成ルモノハ穿刺スルモ無効ナリ此凝塊ハ軟腫ノ切開法ニヨリ除去ス(二)軟腫切開法ハ消毒ヲ嚴ニセサレハ甚不良ノ結果ヲ來ス性質温良ニシテ術ノ前後能ク繃帶ヲ維持スルモノニアラサレハ施サス屈腱鞘ノ切開ハ危險多シ反ニ伸腱鞘ハ危險ナラス縱令消毒ヲ厳行セサルモ良効ヲ奏スルコトアリ、要スルニ消毒

腱鞘炎

劍創 眩暈

三四〇

防腐ハ最モ之ヲ嚴密ニシ術前二十四時間前ニ局所ノ毛ヲ剔去シ石鹼水ニテ皮膚ヲ洗滌シ千倍ノ昇汞水ニ浸シタル繃帶ニテ術部ヲ纏絡シ置キ二十四時間ヲ過キ馬ヲ縛倒シ繃帶ヲ去リ消毒的注意ニ基キ軟腫ヲ切開シ指ヲ挿入シ纖維素凝塊其他ノ異物ヲ除去シルーゴル氏液ヲ鞘内ニ注入シ次ニ昇汞水或ハ石炭酸水ニテ洗ヒ絹絲ヲ以テ創ヲ縫合シ壓迫繃帶ヲ行ヒ八日間解クヘカラス創ハ三乃至四日ニシテ癒合スルモ勞働スレハ再裂ノ虞アリ(三)串線ノ應用ハ獨リ伸腱鞘軟腫ニノミニ限ラレ特ニ膝腱軟腫ノ前方ニ顯ハルルモノニハ串線ヲ通シ置キテ時々防腐液ヲ注入シテ癒ヲ得ルコトアリ(四)烙鐵ニテ穿孔 尖頭烙鐵ヲ白熾トナシ腱鞘ヲ穿刺シテ其内容物ヲ排除スル法最モ安全ナリ是レ烙鐵ハ皮創ヲ消毒スルノミナラス之ニ由リ創縁ニ炎症ヲ起シテ其創口ヲ閉鎖シ醗膿菌ノ侵入ヲ防ク、傳染病(胸疫等)胸疫等經過中ニ起ル腱鞘炎ニハ濕溫壓迫ヲ用ヒ吸收ヲ促シ滲出物再溜ヲ制シ細菌蕃殖ヲ抑制ス末期ニ皮膚刺戟藥ヲ行フ

ヨード丁機

一五・〇

右局所塗布

右混和爲軟膏繃帶ヲ施ス前ニ局

繃水

三〇・〇

ヨード

二・五

部塗布

右混和軟腫内容排除後注入

ヨードカリウム

七・五

腱炎參照

芫菁コロヂウム

三〇・〇

パラヒン軟膏

五〇・〇

劍創

Vulnera, per gladium. (羅)

刺創參照

眩暈

Vertigo. (英)

療法 發作ノ初ニ當リ先ツ馬具ヲ撤去シ頭部及肩ヲ支ヘテ顛倒ヲ防キ目ヲ掩フテ頭部ニ冷水ヲ灌注ス若シ顛倒ヲ支フルコト能ハサレハ患馬ヲ負傷セシメサル様注意シテ横臥セシム發作經過後ハ肢體ヲ摩擦スルヲ可トス療法ノ要旨ハ原因ヲ探究シテ之ヲ除去スルニ在リ殊ニ動物ニ對スル懇切ナル取扱・遮眼革ノ除去・適當ナル馬具ノ使用等ハ良効ヲ奏ス

險球癒着

Symblypharon. (羅)

療法

適當ノ療法ナシ辛苦以テ癒着ヲ分開スルニアルノミ乍チ再癒著ヲ來シ多クハ効ヲ得ス

不妊

Sterilitas. (羅)

療法 不妊ニ二種アリ可治的不妊及不可治的不妊是ナリ甲ハ淫慾減耗・子宮口ノ閉鎖例之慢性子宮炎ニテ癥痕組織ニ由ル狹窄・牛山羊ニハ腔ノ閉鎖・變位・子宮腫瘍・腔及子宮粘膜炎慢性加答兒特ニ子宮内膜炎・嬉疹等ノ場合ニ發シ乙ハ卵巢ノ缺乏・萎縮・變性・囊腫・囊腫或ハ子宮ノ缺乏・變性・萎縮等ニ基因シテ發ス甲ハ外科的手術ニ依リテ原病ヲ治療スレハ不妊ヲ癒ヤスヲ得ルモ乙ハ不治トス

不消化症

Indigestion. (英)

胃腸加答兒・過食症・第一胃食滯參照

葡萄房狀菌病

ボトリオミコーゼ

Botriomyces. (羅)

療法

放線菌腫ニ於ケルカ如ク成ルヘク早く割去スルヲ要ス非常ニ巨大ナルモノ竝既ニ全身ニ汎

險球癒着 不妊 不消化症 葡萄房狀菌病

發スルモノハ手術ヲ施スヲ得ス本症ニモ「ヨードカリウム」ヲ特效藥トシテ賞用ストーマスセン氏(Thomassen)ハ馬ニ日々「ヨードカリウム」一〇〇ヲ與ヘ精系癯ニハ「ヨード」丁幾ヲ施セリ一ヶ月此療法ヲ施セハ腫瘍ハ著シク縮小スジークムンド氏(Siegmund)ハ日々「一乃至一五〇」(一頭ノ馬ニハ全量八〇〇)他ノ馬ニハ「二〇〇」ヲ與ヘ良效ヲ得タリト報道ス又「ヨード」ノ無効ヲ報スル者アリ

葡萄膜腫瘍

療法 腫瘍ハ早晚眼球ノ亡滅ヲ來スモノナレハ生前ニ發見スレハ眼球摘出術ヲ決行スヘシ

舞蹈病 Chorea. (羅)

療法 病犬ハ豫メ安靜ナラシメ努メテ滋養ノ美食ヲ給シ「プロロムカリウム」ヲ内服セシメ又ハ抱水「クロラール」ヲ灌腸ス人ニ於テハ殊ニ「ホーレル」水及「カコヂール酸ナトリウム」〇〇五皮下注射ヲ賞用ス例之「ホーレル」水・桂皮水各一〇〇一日三・四〇滴宛飼料ニ混シ二・三週日連用ス「ズル」フオナール」亦試ムヘシ

鹽酸モルヒネ	〇・一	犬ニ與フ
臭素ナトリウム	一〇〇〇	抱水クロラール
桂皮水	一五〇〇	アルテヤ舍利別
右一日三回一茶匙乃至一食匙宛		餵水
		一八〇〇
		右一日三回一茶匙乃至一食匙宛
		犬ニ與フ

膚列虞蒙 フレグモネー 蜂窩織炎 Phlegmone. (羅)

療法 凡ソ創傷ハ嚴密ニ防腐シテ本病ヲ未發ニ防カサルヘカラス各創傷特ニ脚部ノ創傷ハ大小ニ論ナク傳染容易ニシテ發病原位トナル、馬ノ交突傷・追突傷ノ如キハ注意ヲ要ス、創傷ハ石鹼水ヲ以テ清淨シ「クレオリン」・昇汞或ハ他ノ防腐液ニテ洗滌シテ後乾拭シ「タール」ヲ塗布ス次ニ創傷分泌液ノ排泄ヲ流利スル爲メ刺創ハ潤開スヘシ創底既ニ肉芽ヲ生スレハ傳染ノ虞ナキカ故ニ肉芽ヲ生セサル間ハ特ニ注意スヘシ又冬期四肢ノ損傷ニハ周密ノ注意ヲ要ス是レ冬期ニ在リテハ著シキ重性ノ病機ヲ發シ屢々皮下「フレグモネー」ヲ來スコトアレハナリ(馬ノ壞疽疵)又濕潤セル道路ノ泥土・厩舎ノ汚物等ハ屢々傳染ノ媒介ヲナス豫防上注目スヘシ本病既ニ發スレハ左ノ療法ヲ施ス

一、單純ナル「フレグモネー」就中馬ノ射入病ノ如キハ先ツ病毒侵入門口タル創傷ヲ洗滌防腐シ四肢ノ下端ニ在リテハ防腐藥ノ溫脚浴ヲ施スヘシ吸收機能ヲ促進スル爲メ濕溫ヲ應用ス寒冷應用法ハ此場合ニ用フレハ疼痛ヲ増加シ且經過ヲ緩慢ナラシムレハナリ 反之濕溫ハ血行滲出及白血球遊出ヲ促進シ以テ病毒ニ抵抗シ病機ノ蔓延ヲ止ムルノ効アリ膿瘍顯著トナレハ速ニ切開シ(膿瘍ノ檢査ヲ要スルトキハ試刺シテ内容ヲ檢シ確診ス)防腐法ヲ施シ分泌液ノ排泄ヲ能クスヘシ

二、腐敗性「フレグモネー」ニ在リテハ可及的急ニ切開シ嚴密ニ防腐シ壞死組織ヲ除去若ハ腐蝕シ努メテ敗液ノ排泄ヲ能クスヘシ適當ナル時期ニ於テ切開スレハ組織ノ壞死ヲ防クヲ得ヘシ病局深部ニアレハ先ツ皮膚ヲ切り次テ臃膜ヲ破リ指或ハ球頭鉗・串線針等ヲ挿入シテ病竈ニ達セシム切開後ハ微溫ノ制腐液ヲ以テ絶ヘス創内ニ灌注スヘシ

三、臃膜下「フレグモネー」ニ於テ限局性波動ヲ呈シタルトキ即チ膿瘍ヲ形成シタルトキハ直ニ皮膚ヲ切開シテ膿ヲ排除シ次テ臃膜ヲ丁字形若ハ十字形ニ切開シテ排膿ヲ便ニシ屢次ノ制腐液ノ洗滌或

ハ連續灌漑ヲ行フ

四、悪性浮腫ニ於テモ亦速ニ患部ヲ切開シテ敗液ヲ排泄シ昇水水「クレオリン」水ノ制腐的灌注・莖布・糊帶等ヲ施シ體力沈衰シタルモノハ樟腦精ノ皮下注射又ハ酒精ノ内服ヲ命スコーネヴァン氏(Cornevin)ノ試験ニ據レハ石炭酸・「サリチール」酸等ノ外用ハ悪性浮腫桿菌ノ作用ヲ減シ或ハ全ク撲滅スルカアリト云フ

硫酸亞鉛	二〇〇	ラウリル脂	各三〇〇
餽水	一〇〇	右混和毎日一回宛塗擦	
右爲溶液洗滌用		灰白水銀軟膏	各三〇〇
明礬	一〇〇	ワゼリン	各三〇〇
醋酸鉛	二〇〇	右混和爲解凝性擦劑與フ	
餽水	一〇〇	灰白水銀軟膏	各二〇〇
右爲溶液局所ヲ屢々洗滌濕潤ス		ヒヨス油	一〇〇
タンニン酸	五〇	樟腦精	右混和爲軟膏軟化・解凝・防腐性軟膏トシテ與フ
餽水	一〇〇	灰白水銀軟膏	二五〇
右爲溶液濕潤料トス		アムモニア水	一五〇
イヒチオール	一〇〇	菜油	五〇
パラフィン軟膏	四〇〇	樟腦精	一〇〇
右爲軟膏塗布			
灰白水銀軟膏			

右混和爲軟膏毎日胡桃大量宛塗擦		用法右同	
ヨード	各六〇	ヨード	二・五
ヨードカリウム	一・二〇	ヨードカリウム	七・五
グリセリン		パラフィン軟膏	五〇
右混和吸收性塗擦料トス		用法右同(吸收劑)	
ヨード	〇・五	ヨード	一〇
ヨードカリウム	二・五	ヨードカリウム	五〇
ワッーゲン	二五〇	カリ石鹼	一五〇
右同		灰白水銀軟膏	七五〇
ヨード	〇・五	右混和爲塗擦軟膏毎日一回用フ	
ヨードカリウム	各五〇	(吸收劑トシテ)	
餽水	五〇	ヨード	三〇
ラノリン		ヨードカリウム	七〇
右混和爲軟膏塗擦用		軟石鹼	四〇
ヨード	各五〇	酒精	一五〇
ヨードカリウム	五〇	右混和外用塗擦	
餽水	各五〇	ヨードフォルム	各二〇
豚脂	一〇〇	樟腦精	三〇
ラノリン	四〇〇	右混和爲塗擦軟膏	
膚列虞蒙			
		軟石鹼	七・五
		樟腦精	五〇
		右混和爲樟腦軟膏解凝性塗擦料トシテ與フ	
		デオサリチール酸蒼鉛	四〇
		ラノリン	各二〇
		ワゼリン	五〇
		右混和爲塗擦軟膏	五〇
		アントラソール	五〇
		菜油	五〇
		右混和爲塗擦料	
		リゾール	四〇
		グリセリン	二〇
		クロロフォルム	八〇
		右混和爲塗擦料	
		ブローム水素酸アレコリン	〇・一
		鹽酸ピロカルピン	〇・五
		餽水	一〇〇
		右爲溶液一回ニ皮下注射ス	
		三四五	

腹壁過兒尼亞 Hernia ventralis. (羅)

療法 新發シテ未タ掛頓セサルモノハ專ラ消炎法ヲ施シ場合ニヨリ壓迫繃帶ヲ施シ以テ内容ヲ還納シ瘤ノ膨大ヲ防ク壓迫過度ナレハ皮膚壞疽シ腸脫ヲ來ス經久症ハ過兒尼亞ノ一般療法ニ從ヒ強刺擊藥塗布・結紮・縫合・搾木等ヲ施シ尙効ナケレハ過兒尼亞手術ヲ行フ

腹臟露脫 Exenteratic. (羅)

療法 露脫セル腹臟ヲ充分洗滌消毒シテ同時ニ腹腔ヲ消毒シ還納ス掛頓ヲ起シ腸内瓦斯蓄積膨大セハ穿刺シテ瓦斯ヲ排除シ還納ス脫露部暗褐赤色ニ變シ或ハ壞疽ニ陥レハ其部ヲ切除漿液膜面ヲ接シテ縫合シ還納後腹壁ハ各々獸腸線ニテ同組織ヲ縫合シ或ハ莢翹縫合ヲ施ス手術ノ結果ハ大抵不良ナリ術後暫時絶食シ後少量ノ麩粥・粉粥ヲ與ヘ緩下劑ヲ投ス

腹膜炎 Peritonitis. (羅)

療法 腹膜炎ノ原因カ創傷(去勢)ニアルトキハ之ニ防腐療法ヲ施セハ病機ヲ局所ニ制限シ得ヘシ又牛ニ於ケル異物ニ由ル膿瘍ニ對シテハ外科的手術ヲ施シ犬ニ在リテハ人醫ノ行フカ如ク開腹術ヲ施シテ腸創ノ縫合腸片ノ切除滅菌食鹽水或ハ稀薄ナル「サリチール」酸水・硼酸水ヲ以テスル腹膜ノ洗淨ヲ行フハ大ニ効アリ又腹膜ノ吸收性ヲ減スル爲メ人醫ノ行フ如ク樟腦油(一三〇・〇)ノ腹膜内注入ヲ試ムヘシ次ニ腸ノ蠕動ヲ防止スル爲メ阿片(牛馬五—一〇〇)中動物一—三・〇犬〇・一—〇・三・鹽酸「モルヒネ」(大動物〇・三—〇・四小動物〇・〇二—〇・一、一日一回乃至二回皮下注射)ヲ用ヒ食物ハ消化シ易キ液狀ノ滋養物ヲ與フヘシ腹部ニハ冷水卷法(腹壁ニ布ヲ纏ヒテ之ニ冷水ヲ灌注シ又犬ニハ

氷囊ヲ抵ス)ヲ施シ爾後疼痛緩解シ急性症狀去ラハブリースニツツ氏卷法・「テレピン」油塗擦ヲ行フ灰白水銀軟膏ヲ股ノ内面及腹壁ニ反覆塗擦(日量馬五・〇犬一・〇)ス初期便秘アルトキハ緩下劑トシテ蓖麻子油(馬二五〇—五〇〇・〇犬一五—三〇・〇)甘朮(犬〇〇・〇三—〇・〇五)ヲ用フ牛ニハ毎二乃至三時水・大麥汁・「オートミール」・亞麻仁茶等ヲ與ヘ胃内容ノ乾燥ヲ防クヘシ腹腔内ニ滲出液瀦溜スレハ穿腹術ヲ施シ瀦液ヲ排除ス場合ニ依リテハ胃腸穿刺術ヲ要ス慢性腹膜炎ニ於テハ腹壁ニプリースニツツ卷法ヲ施シ若ハ按摩ヲ行ヒ又ハ「ヨードカリ」(大動物五—一〇・〇小動物〇・三—〇・五)或ハ利尿劑ノ内服ニ依リテ滲出液ノ吸收ヲ促スヘシ

- | | | | | | |
|--------------|-------|-----------------|-------|----------------|-------|
| 甘朮 | 一〇〇・〇 | アラビヤゴム | 一〇〇・〇 | 甘朮 | (大犬) |
| 芒硝 | 二〇〇・〇 | 餉水 | 七五・〇 | 重碳酸ナトリウム | 八・〇 |
| アルテア根末及水 | 適量 | 甘草根末 | 適量 | 硫酸ナトリウム | 六〇・〇 |
| 右爲丸劑四個馬ニ二日分服 | | 右混和爲軟氈劑一回ニ與フ(豚) | | アルテア根末及水 | 二〇〇・〇 |
| 阿片丁幾 | 五・〇 | ——下劑トシテ) | | 右混和爲大丸劑二日間ニ與フ | 適量 |
| アラビヤゴム | 一〇〇・〇 | 甘朮 | 各〇・一 | (馬) | |
| 餉水 | 一五〇・〇 | 白糖 | 各〇・一 | 甘朮 | 一〇〇・〇 |
| 右一日四食匙宛(犬) | | 右混和二回ニ分與、但同時ニ灌 | | 硫酸ナトリウム | 二〇〇・〇 |
| 鹽酸モルヒネ | 〇・五 | 腸ヲ行フヘシ(犬) | | アルテア根末及水 | 適量 |
| 餉水 | 一五・〇 | 白糖 | 〇・三 | 右混和爲丸劑四個四日間ニ與フ | (馬) |
| 右爲溶液皮下注射(馬) | | 白糖 | 三・〇 | | |
| 蓖麻子油 | 五〇・〇 | 右散劑三包ニ分チ一日間ニ與フ | | | |

腹膜炎

甘汞 四〇〇
 阿片末 一〇〇
 アラビヤゴム漿 適量
 アルテア根末 二五〇
 右混和爲丸劑一回ニ與フ(馬―腸内消毒ノ目的)
 甘草 〇〇五
 阿片末 〇〇一
 砂糖 〇〇五
 右混和爲散劑一回ニ與フ(犬―腸内消毒及鎮靜ノ目的)
 阿片末 二〇〇
 アルテア根末 五〇〇
 水 適量
 右混和爲丸劑二個毎日一個宛與フ(馬―疼痛及下痢症狀アル場合)
 阿片末 〇〇一
 サリチール酸ナトリウム 一〇〇
 右混和爲散劑一包其五包ヲ作り

毎四時一包宛與フ(犬)
 醋酸カリウム液 一〇〇
 アラビヤゴム 一五〇
 餵大 二〇〇
 右混和毎日四食匙量宛與フ(犬)
 醋酸カリウム液 五〇〇
 ストロファンツス丁機 五〇〇
 桂皮舍利別 一五〇
 右混和一日三回一茶―一食匙量宛與フ(犬―利尿劑・強心劑・吸收劑トシテ)
 酒石酸カリウム 五〇〇
 海葱浸 (三〇〇) 一五〇
 稠厚杜松實蒸 三〇〇
 右混和毎日三―四回一匙量宛與フ(犬―水腫アル場合)
 炭酸カリウム 各三五〇
 硼砂 一五〇
 杜松實浸 一五〇
 右混和二回ニ分與(半―利尿劑)

三四八

吸收劑トシテ
 炭酸カリウム 六〇〇
 杜松實末 一〇〇
 小麥粉及水 適量
 右混和爲散劑每三時其四分ノ一宛與フ(馬―利尿劑・吸收劑トシテ)
 硼砂 各五〇
 ヨードカリウム 適量
 アニース實 適量
 アルテア根末 適量
 右混和適量ノ水ヲ加ヘ爲丸劑四個毎日一個宛與フ(馬・牛)
 硼砂末 五〇〇
 杜松實末 二五〇
 右混和爲散劑其五分ノ一量宛毎飼料ニ混與(馬―利尿劑及吸收劑トシテ)
 テレピン油 五〇〇
 硼砂 三〇〇

アルテア根末 適量
 右混和爲丸劑二個一日二回ニ與フ(馬―利尿劑)
 サリチール酸ナトリウムカフエイ 二五〇
 キナ皮末 五〇〇
 蜂蜜 適量
 右混和爲散劑二日間内三回ニ分與(馬・牛―強心劑)
 サリチール酸ナトリウムカフエイ 二〇〇
 餵水 五〇〇
 右爲溶液必要ニ應シ一〇〇宛皮下注射(馬・牛―心臟衰弱及肺氣腫ノ場合)
 チギタリス葉末 五〇〇
 硼砂 一五〇
 杜松實末 三〇〇
 右混和爲散劑一包其四包ヲ作り
 晝・夕一包宛與フ(馬―利尿劑及

腹膜炎

吸收劑トシテ
 サリチール酸ナトリウムカフエイ 一五〇
 餵水 三〇〇
 右爲溶液二回皮下注射(牛―強心劑)
 サリチール酸ナトリウムカフエイ 〇〇五
 右爲散劑一包其五包ヲ作り毎日一包宛與フ(犬―強心劑・利尿劑)
 サリチール酸ナトリウムカフエイ 二〇〇
 アラビヤゴム及砂糖 適量
 右混和爲丸劑十個毎日一―二回宛與フ(犬―腹水ノ場合)
 チギタリス葉末 一〇〇
 硝酸カリウム 二五〇
 右混和爲散劑二包毎日一包宛一糰ノ「カミル」茶劑ニ和シテ與

三四九

フ(馬・牛―利尿劑)
 チギタリス葉末 一二〇
 硝酸カリウム 二五〇
 アルテア根末 九〇〇
 水 適量
 右混和爲散劑二十四時間内ニ與フ(馬―利尿劑)
 ヨードカリウム 二〇〇
 チギタリス葉末 四〇〇
 洋芹實末 八〇〇
 オレーフ油石鹼及水 適量
 右混和爲丸劑十二個毎日四個宛與フ(犬―吸收劑及利尿劑)
 チギタリス葉浸(二〇) 二〇〇
 硝酸カリウム 三〇〇
 單舍利別 二〇〇
 右混和毎二時一茶匙量(小犬―一食匙(犬)量宛與フ(利尿劑トシテ)
 樟腦油 五〇〇

腹膜炎

エーテル 一〇〇〇
 右爲溶液皮下注射科トス(馬—衰弱ノ場合)
 吐酒石 一〇〇〇
 强芫菁軟膏 五〇〇〇
 右混和爲強刺戟軟膏與フ(牛—外傷ニ由ル限局性腹膜炎ノ場合)
 芥子油 五〇〇
 亞麻仁油 八〇〇〇
 右混和爲擦劑塗擦料一回分トス
 (馬—誘導劑)
 犬ニハ其三〇〇—五〇〇宛塗布
 アムモニア擦劑 二〇〇〇
 灰白水銀軟膏 八〇〇〇
 右混和腹壁ニ塗擦ス(消散劑)
 食鹽 一〇〇〇〇
 餾水 五〇〇〇〇
 酒精 四〇〇〇〇
 アムモニア水 二五〇〇〇

カンフル丁幾 九〇〇〇
 エーテル 三六〇〇
 右混和爲溶液外用
 蕃菽丁幾 六〇〇〇
 アムモニア水
 カンフル丁幾
 エーテル精
 食鹽 各一二〇〇〇
 餾水 一〇〇〇〇
 右混和爲恢復液外用
 食鹽 五〇〇〇
 カンフル丁幾 各五〇〇〇
 アルニカ丁幾 一〇〇〇〇
 餾水 三〇〇〇〇
 右同
 エーテル精 五〇〇〇
 カンフル丁幾 一〇〇〇〇
 アルニカ丁幾 一〇〇〇〇
 テレピン油 各一五〇〇〇
 酒精 各一五〇〇〇

右同 三五〇
 食鹽 一〇〇〇
 餾水 五〇〇〇
 酒精 二〇〇〇
 アムモニア水 一五〇〇
 エーテル 五〇〇〇
 右同
 エーテル 二・五
 樟腦 一〇〇〇
 アムモニア水 一〇〇〇
 アルニカ丁幾 四・五〇
 食鹽水(五%) 一〇〇〇
 右同 三三〇〇
 アムモニア水 各五〇〇
 カンフル丁幾 各五〇〇
 エーテル精 三五〇〇
 稀酒精 各五〇〇
 右同 三五〇〇
 食鹽水(二五%) 四〇〇〇
 蕃菽丁幾 六〇〇〇

腹水 Ascites. (羅)

カンフル丁幾
 エーテル精

アムモニア水
 右同

各一五〇〇〇

療法 幼犬ニ於テハ穿腹術ヲ行ヒ瀦液ヲ排除スレハ全治スルコトアルモ多クハ全治ハ望ミ得ヘカ
 ラス對症療法トシテハ滲漏液ヲ吸收セシムル爲利尿藥(「ヂギタリス」)「ストロファンツス」
 「カフエイン」
 「醋酸加里」例之醋酸加里〇・一—〇・二
 日三・四回「ヂギタリス」浸「ヂウレチン」〇・五—
 一〇「アグリニン」一〇—二〇「テオシン」ヲ用ヒ下劑トシテハ鹽類・甘汞(〇・三—〇・四犬)ヲ用フ、
 又分泌劑トシテ「ピロカルピン」(〇・〇〇五—〇・一犬)「アレコリン」ノ皮下注射ヲ行フ但シ心臟及肺臟
 ノ疾患アルモノハ禁忌トス

食鹽 一〇〇〇〇
 精製炭酸加里 五〇〇〇
 杜松子 二〇〇〇〇
 右爲散劑每食餌ニ一食匙宛混與
 (牛・馬)
 人工カルルス泉鹽
 テレピン油
 アルテア根末 各一〇〇〇〇
 右爲紙劑正午及夕ニ一莖宛與フ
 (牛・馬)
 胸水

ヂキタリス丁幾 一五〇〇〇
 右毎日一食匙宛半瓶ノ水ニ混シ
 テ與フ(牛)
 醋酸加里液・洋芹水 各七五〇
 橙皮舍利別 二五〇〇
 右毎日數回一茶匙乃至一食匙宛
 與フ(犬)
 硼砂 一〇〇〇
 キナ皮 五〇〇
 茴香 三〇〇

右爲散劑毎日三回宛(犬)
 海葱醋 五〇〇〇
 茴香水 一五〇〇
 炭酸アムモニア 適量
 右毎日數回一茶匙—一食匙宛與
 フ(犬)
 ヂキタリス葉浸 一〇〇〇
 醋酸加里液 一〇〇〇
 杜松子稠羔 一〇〇〇
 三五一

腹水

右毎日三回一食匙宛(犬)
 ギタリス葉 一〇〇
 醋酸加里液 各一〇〇
 杜松子稠羔 一〇〇
 水 各一〇〇
 右一日一―二食匙宛與フ(犬)
 カフェイン 一〇〇
 白糖 五〇
 右混和爲粉劑五包ニ等分シ一日一包宛與フ(犬)
 安息香酸曹達カフエイン 二〇
 アラビヤゴム及白糖 各適量
 右爲十九日一・二丸宛與フ(犬)
 海葱浸 二〇〇
 杜松實羔 二〇〇
 右爲溶液每三時一食匙宛(犬)
 サリチール酸ナトリウムテオプロミン 〇・五
 右爲散劑一包其六包ヲ作り毎日

三包宛與フ(犬)

ギタリス葉浸(二〇)一五〇
 ストロファンツス丁幾
 サリチール酸ナトリウムテオプロミン 各五〇
 稠厚杜松實羔 二五〇
 右混和三乃至四日間一匙量宛與(犬)
 ギタリス葉浸(一〇)一〇〇
 炭酸ナトリウム 〇〇
 右混和每三時一茶匙乃至一食匙量宛與フ(犬)
 ギタリス葉浸(一・五)一五〇
 醋酸カリウム液 五〇
 扁桃舍利別 二五〇
 右混和毎日一茶匙―一食匙量宛與フ(犬)
 ギタリス葉浸(一〇)一三〇
 海葱醋 五〇
 醋酸カリウム液 二五〇

三五二

右混和毎日二―三茶匙量宛與フ(犬)
 ギタリス葉末 〇〇
 甘朮 〇〇
 白糖 〇〇
 右混和爲散劑一包其六包ヲ作り毎日三包宛與フ(犬)
 ギタリス丁幾 二〇〇
 右毎日一食匙宛半「リートル」ノ珈琲ニ和シテ與フ(牛)
 ギタリス丁幾 四〇
 稀酒精 八〇
 右混和毎日二回小兒匙量宛與フ(犬)
 ギタリス丁幾 二〇
 苦扁桃水 八〇
 右混和毎日三回十五滴宛與フ(犬)
 醋酸カリウム 一五〇
 稠厚杜松實羔 一〇〇

餵水

右混和爲溶液每三時一匙量宛與フ(犬)
 稠厚杜松實羔 各二〇〇
 醋酸カリウム液 三〇〇
 海葱醋蜜 一三〇
 水 一三〇
 右混和毎日三茶匙量宛與フ(犬)
 海葱浸 (二〇)一八〇

稠厚杜松實羔

右混和一乃至二食匙量宛與フ(犬)
 テオシン 〇・二
 右爲散劑一包其六包ヲ作り毎日三回一包宛與フ(犬)
 抱水テルピン 五〇
 稀酒精 一八〇
 杜松實油糖 二〇〇

右混和毎日三乃至四回一茶匙乃至一食匙量宛與フ(犬)

鹽酸ピロカルピン 一〇〇
 餵水 一〇〇
 右爲溶液皮下注射(牛) 〇・三
 鹽酸ピロカルピン 一五〇
 餵水 一五〇
 右爲溶液毎日二回一食匙量宛與フ(犬)

副睪炎

Epididymitis. (羅)

療法 休養懸吊繃帶ヲ罩丸ニ施シ冷湯(冷水・鉛糖水・氷囊)ヲ行ヒ腫脹甚シケレハ亂刺ヲ行フ小動物ニハ「コロヂウム」大動物ニハ粘着硬膏ヲ塗布シ適度ノ壓迫ヲ加ヘ内服ハ下劑ヲ用ヒ時ニヨリ局所ニ水銀軟膏「ヨード」加里軟膏「ペラドンナ」軟膏等ヲ試ム傳染性副睪炎ニ由リ高熱ヲ伴フモノハ去勢術ヲ施ス

灰白水銀軟膏 三〇〇
 ヒヨス油 一〇〇
 右混和朝夕二回塗布
 グリセリン軟膏 三〇〇
 ヒヨス油 五〇
 副睪炎

右混和屢々塗布
 灰白水銀軟膏 二五〇
 ヨード 一〇〇
 パラヒン軟膏 五〇
 右混和硬結ヲ生シタルトキ塗擦

ヨードカリウム 五〇
 ヨード 一〇〇
 グリセリン 二〇〇
 右混和塗擦用(硬結)

三五三

腐骨片 腐蹄 燕蹄

腐骨片 Sesquestrum. (羅)

骨瘍參照

腐蹄 Footrot. (英)

療法 乾燥藥ヲ給シ濕氣ヲ避ケ蹄角裂及其崩解部ハ消毒洗滌シ排膿ヲ流利ス此目的ニハ崩解角質ヲ除去シ清潔ニシ患部表面ニ存スレハ「タール」・石炭酸・「グリセリン」(五—一〇%)ヲ塗布或ハ「ヨードフォルム」ノ創面撒布・贅生肉芽ハ收斂藥(硫酸銅・明礬・過「クロール」鐵)ヲ用ヒ深部ノ疾患ニハ防腐收斂藥ノ應用ノ外繃帶ニヨリ蹄角保定ヲナス之カ爲メ木片副木ヲ角裂孔ニ抵シ糸ニテ保定シ繃帶ヲ施ス

燕蹄 Punctured foot. (英)

療法 姑息療法ト根治療法トアリ甲ハ裝蹄ニヨリ一時畸形ヲ矯メ乙ハ手術ニヨリ異常ヲ治スルモノナルモ到底常形ニ快復セシムル能ハス姑息療法ノ主旨ハ蹄底ヲ保護スル爲メ蹄鐵ヲ充分廣ク且厚クシ蹄底ヲシテ直接ニ地面ニ觸レサラシメ蹄側及蹄踵ヲシテ負重セシム即チ先ツ凸蹄底ノ死角ヲ除去シ上彎蹄尖ノ角質ヲ鑷削シ適度ノ方向ヲ與ヘ蹄踵蹄叉ヲ短切ス蹄鐵ハ側壁鐵蹄ヲ有スル鑷鐵ヲ裝シ上彎ヲ設ケ蹄尖部ト鐵トノ間ニ假角質ヲ抵ス鑷鐵ノ鐵橋ト蹄叉トハ密接スルヲ要ス燕蹄ハ蹄質脆弱ナルカ故ニ下釘法ニ注意シテ脫鐵ヲ防キ屢々蹄軟膏ヲ塗布シ蹄ヲ軟和スヘシ根治療法ハグロース氏ハ蹄ノ前壁ニ於テ蹄冠部ノ直下ヲ鑷削シ菲薄ナラシメ肉冠ハ僅ニ菲薄ナル角質ニヨリテ被ハルヲ度トシ其鑷削陷部ニハ蠟或ハ類似ノ物質ヲ充填シ蹄冠部ニ刺戟摩擦劑ヲ塗シテ角質ノ發生ヲ促カ

シ治ニ至ラシメジンド氏ハ蹄冠下二指ヲ隔テテ前壁ニ於テ四指ノ幅ヲ鑷削シ負線ニ至リテ止ム其深サハ角質葉狀層ノ露出スルヲ度トス其鑷削部ニ昇汞石炭酸及明礬ノ合劑ヲ塗リ翌日之ヲ除去シ酒精・蘆薈丁幾・「ミルラ」丁幾ノ合劑ヲ以テ洗滌シ樹脂軟膏ヲ塗布シ繃帶ス繃帶ハ四十八時間毎ニ變換ス三ヶ月ニテ治スヘングスト氏ハ蹄尖部ヨリ二條ノ穿孔ヲ作り其下端ハ蹄側ニ達セシメ蹄鐵ハ蹄ノ前壁ヲ圍繞スル圈狀突起ヲ有シ其中央ニ螺旋ニヨリテ装着セラレタル小突起アリ蹄前壁ヲ壓下スルノ要ヲナス此蹄鐵ヲ用フレハ十二ヶ月ニシテ治スト云フ初メ四乃至六週間ハ韃布ニテ蹄ヲ軟化セシム近年ボイゼ氏ハ之ヲ改良シ蹄冠ノ直下ニ於テ一條ノ穿溝ヲ作り前壁ヨリ側壁ニ達セシメ溝ノ深サハ角質葉狀層ニ達スルヲ度トシ前同様ノ鐵ヲ裝スドミニツク氏ハ燕蹄ニ次ノ療法ヲ施セリ先ツ肥厚シタル角壁ノ瘤狀部ヲ平坦ニスルヲ以テ壓迫ヲ除去シ鑷ヲ以テ變狀部ヲ削除シタル後殘留シタル健全ナル蹄角ヲ再ヒ人工蹄角ヲ以テ補フ此施術ヲ述ヘンニ肥厚部ハ鑷ヲ施シテ鑷切シ若ハ角壁畸形部ハ全ク除去シテ可ナリ而シテ鑷去シタル後前壁角度ハ蹄骨角度ト可成的平行直走スヘク又步履ヲシテ可成的平坦ナラシムル爲メ踵壁ヲ剪削シテ低クシ蹄叉ハ踵壁ノ負線ト平等ニスヘシ之ニ裝スル蹄鐵ハ踵壁鐵唇ヲ有スル鑷鐵ニシテ其接合法ハ此場合ニ於テハ平常ノ如ク蹄尖ヨリ後方ニ及ホスニ非スシテ却テ踵壁ヨリ前方ニ及ホスヘシ何トナレハ此方法ニヨリテ綿密ニ踵壁鐵唇ヲ適合セシムルヲ得レハナリ故ニ蹄尖部ニ於テハ豫メ蹄鐵ノ長キニ失セサル様注意セサルヘカラス蹄尖部及蹄鐵ノ間ニ生スル空隙ニハ獸革蹄角若ハ人工蹄角ヲ以テ填塞スヘシ而シテ角壁畸形部ヲ全ク削除シ之ヲ補フニ死角壁片ヲ以テシ施術ヲ行フニハ其法先ツ肥厚部ヲ平ニナシタル後更ニ可成的角壁ノ健全ナル局部ニ至ル迄削除シ殘留シタル健全角壁ノ下緣ハ可成的平面ヲナス様ニナシ然ル後除去シタル部分ニ補

燕蹄

入スル死角壁片ハ残留シタル健全蹄角ト平直ニ接續スルヲ要シ且其負縁ハ蹄底ノ外縁ニ接着スル様豫メ肥厚シタル白線ニ鑢ヲ施シ平直ニスルモノトス而シテ膠ヲ以テ附着シ及ヒ鉸釘ヲ以テ縫合シタル死角壁片ハ白線再ヒ肥厚シタル爲メ偏倚セサル時ハ蹄鐵改装ノ際モ放置シテ健全ナル角壁部ト同視シ手ヲ觸ルルヲ要セス鉸釘及鐵唇宜キヲ得ル時ハ偏倚スルコト極メテ稀ナリ之ヲ要スルニ上文ニ記述シタル療法ハ頗ル容易ナラサレトモ之ヲ以テ達シタル結果ハ果メテ佳良ナリ又近時假蹄膠ト稱スルモノヲ供用スルモノアリ其方法モ亦鑢去シ及ヒ削除スルニアリ此場合ニ於テモ假蹄膠ト殘留シタル健全角壁トハ接續シテ平直ナラシムル様施術スルナリ尙ホ假蹄膠ノ優レル點ヲ擧クレハ角壁ニ固着シテ共ニ結合シ分離スルハ罕ニシテ此點ハ死角壁片ノ能ク達シ得ヘカラサル所トス以上ノ施術ヲ行タル蹄ヲ裝鐵スルニハ鎖鐵ヲ用ヒ踵壁鐵唇ヲ施スモノアリ

浮腫 水腫 Oldema. Hydrops. (羅)

療法 外科的療法トシテ (一)局所ノ浮腫性腫脹ニ對シ亂刺ヲ行フ例之脫出及翻轉ノ場合ニ於テハ緊張甚タシク或ハ腫脹ノ爲メ整復困難ナルトキハ多數ノ亂刺ヲナシテ滲漏液ヲ排除ス液體徐々ニ排出スレハ脫出器官ハ收縮シ整復ヲナスヲ得炎症性浮腫ニ於テモ亦亂刺ヲナシ液體ヲ排除シ緊張ヲ免シ壞疽ヲ豫防ス (二)浮腫部ニ於ケル壓力ノ應用ハ滲漏液ノ吸收ヲ幫助スルヲ以テ繃帶其他ノ裝置ニ依リテ患部ニ一様平等ノ壓迫ヲ與フヘシ四肢下端ニ於テハ繃帶ヲ緊縛(壓迫繃帶)スルヲ便トス (三)滲漏液ノ吸收ヲ促進スル爲メ患部ヲ温包シ或ハ皮膚ヲ摩擦シ或ハ皮膚刺戟藥ヲ塗布シ規則的運動ヲナサシム (四)其ノ他下劑・利尿劑・發汗劑等ニテ滲漏液ノ排泄吸收ヲ促スヘシ (五)衰弱稀血症ニ起因

スルモノニ滋養強壯劑(鐵劑)ヲ與ヘ攝生ニ注意シ腎炎其他急性炎ニ起因スルモノハ消炎療法ヲ行ヒ心臟病ニ起因スルモノハ強心藥(「ヂギタリス」)ヲ與フルカ如シ

石鹼精	二五〇・〇	カリ石鹼	各三〇〇・〇
エーテル精	七五・〇	バラフィン軟膏	一〇〇・〇
右混和塗擦料トス		樟腦	

右混和爲軟膏塗擦料トス

鼓脹症 (急性) Tympanitis acuta. (羅)

療法 胃内ノ瓦斯ヲ排除スルニハ食道ヨリスルト穿胃術ヲ施シテ其開口ヨリスルトノ二種アリ乙ハ甲法ノ無効ナルトキ又ハ危篤ノ場合ノミニ限リ瀝ニ行フヘカラス、食道ヨリ瓦斯ヲ排除スルニ種々ノ法アリ即チ或ハ前軀ヲ高舉シテ臍部ヲ按摩シ或ハ索ヲ以テ肚腹ヲ緊約シ或ハ患畜ヲ丘ニ追上ケ或ハ臍部ニ冷水ヲ灌キ若ハ河中ニ追込ミ(羊)或ハ患畜ノ口ヲ開キ舌ヲ口外ニ出シテ屈撓性ノ鈍桿ヲ以テ咽頭部ヲ刺戟シ或ハ藥繩ニ「タール」ヲ塗布シテ口角ニ通シ暖氣ヲ催發セシムル法アリ此等ノ諸法ヲ行フモ効ナクシテ病症増悪シ又ハ窒息ノ危険ヲ現ハシ患畜横臥シ他ノ療法ヲ施ス能ハサルトキハ穿胃術ヲ施ス此法最モ確實ナルモ稀ニ腹膜炎ヲ起シ然ラサルモ第一胃ト腹壁トノ癒着ヲ遺ス其他胃「カテーテル」ヲ挿入スル法アルモ毎時俾効ヲ奏セス

藥用療法ハ充分ノ効果ヲ奏セス通常用フル中和藥(「アムモニア」・石灰水)ハ胃中ニアル瓦斯ノ容積ヲ減セス、第一胃ノ運動ヲ促ス藥物ノ皮下注射ハ場合ニ依リテ用フヘシ又胃中ニ於ケル醱酵ヲ防止スル藥物例之次亞硫酸曹達(牛一〇〇—二〇〇・〇、羊二五—三〇・〇)・レゾルチン(牛二五—二〇〇・〇、

羊五—八・〇〇・鹽酸(一〇—三〇・〇〇)ノ如シ以上ノ藥物ハ少量ノ水ニ溶解シテ内服セシムヘキモ鼓脹重劇ナルトキハ之ヲ服用セシムルコト能ハス却テ誤嚥肺炎ヲ來スノ虞アリ此場合ニハ食道「カテ」ヲ挿入シ又穿胃術ヲ施シタル創口ヨリ藥液ヲ注入スヘシ斯ノ如ク治療ヲ施シ急性ノ危險症狀去リタル後ハ特ニ飼養法ニ注意シ且芒硝ヲ與ヘテ速ニ胃ノ内容物ヲ腸ニ下ラシムヘシ、食道梗塞ニ繼發スル鼓脹ニシテ急ニ食道疏通セサル場合ニハ速カニ穿胃術ヲ行フニ如カス

- 稀鹽酸 一五〇・〇
- 右二日間ニ五回ニ分與ス毎回一
- 「リートル」ノ薄荷浸ニ混ス
- 白藜蘆根・吐酒石 各一五〇・〇
- 硫酸マグネチウム 一五〇・〇
- 泥菖根 七五〇・〇
- 右混和三分シ十二時間ニ亞麻仁
- 粘汁ニ混シ分服(牛)
- 芒硝 七五〇・〇
- 食鹽 一〇〇・〇
- 右煙草煎汁ニ混シ二回分服
- 次亞硫酸曹達 二五〇・〇
- 蘆薈越幾斯 二〇〇・〇
- アルテア根末 二〇〇・〇
- 右微溫湯ニ混シ二回分服(牛)
- 吐酒石 二—四・〇
- 食鹽 五〇—一〇〇・〇
- 右混和飲水ニ混シ頓服
- 白藜蘆根 一〇〇・〇
- 芒硝 一五〇・〇
- 右一瓶ノ薄荷浸ニ混シ屢々與フ
- (牛)羊ニハ白藜蘆丁幾二—三・
- 〇積ニハ一—二・〇ヲ同様ニシ
- テ與フ)
- 苛性アムモニア水 一五・〇
- 右「リートル」ノ石鹼水ニ混シ
- テ與フ(牛)
- テレピン油 五〇・〇
- 芒硝 三〇〇・〇
- 亞麻仁油 七五〇・〇
- 右微溫湯ニ和シ二回分服(牛)
- 酸化マグネチア 三〇〇・〇
- カミルレ浸 二五〇・〇・二五〇・〇
- 右爲振盪合劑每一時一食匙宛與
- フ(積)
- テレピン油 二五〇・〇
- 石灰水 一〇〇〇・〇
- 右十頭ノ牛ニ頓服
- 酸化マグネチア 各二〇・〇
- 白藜蘆根末 各二〇・〇
- 右混和一瓶ノ「ブランデー」ニ加
- ヘ爲振盪合劑與フ(牛)

アムモニア水 二〇〇・〇
右一瓶ノ冷水ニ能ク混和シテ與

フ(牛)
慢性鼓脹症參照

鼓脹症 (慢性) Tympantitis chronica. (羅)

療法 先ツ胃ノ醗酵性食物ヲ腸ニ向テ驅逐スルノ目的ヲ以テ下劑ヲ投ス殊ニ芒硝(牛二〇〇—三〇〇・〇・羊二〇—三〇・〇)・吐酒石(牛二—三・〇・羊〇・二—一・〇)・蘆薈(牛二〇—三〇・〇・羊二—三・〇)・白藜蘆根末(同量)又ハ吐根末(牛四—六・〇)ヲ與フ其他制酵劑(「クロール酸カリウム」・「レゾルチン」・稀鹽酸)ハ必要ナリ、原因タル疾病若シ不治ノ症ナルコトヲ確メタルトキハ速ニ屠殺スルヲ利トス

- 硫酸マグネチウム 一五〇・〇
- アルセン 四〇〇・〇
- 稀鹽酸 一〇〇・〇
- 右一瓶ノ微溫湯ニ混シ與フ(牛)
- 稀鹽酸 四〇〇・〇
- 酒精 二〇〇・〇
- 右一瓶ノ苦蓮煎ニ混シテ二回分
- 服(牛)
- 芒硝 一五〇・〇
- 蘆薈末 四〇〇・〇
- 葛縷子 一〇〇・〇
- 右爲散劑一日二回小握手宛飲水
- ニ混與(牛)
- 蘆薈末・白藜蘆根末 各一〇〇・〇
- 右爲散劑一瓶ノ亞麻仁煎ヲ以テ
- 振盪合劑トナス(牛)
- カミルレ浸 五〇〇・〇・一〇〇・〇
- 鹽酸 五〇・〇
- 右二回分服(積)
- 次亞硫酸曹達 各三五〇・〇
- 硫酸マグネチア 各三五〇・〇
- 右一日三回亞麻仁煎ニ混シ振盪
- 合劑トシテ與フ
- テレピン油 五〇・〇
- 亞麻仁冷浸 七〇〇・〇
- 右混和一回ニ與フ(牛)
- テレピン油 一五〇・〇
- 右一罐ノ亞麻仁煎汁ニ和シ食道
- 探子ヲ用ヒテ一回ニ與フ(牛)
- 但シ屠肉用動物ニハ注意
- テレピン油 五〇・〇
- 芒硝 三五〇・〇
- 亞麻仁 七〇・〇